は

は (羽) 【名詞】 世間に対する勢力。羽振り。顔。[会話] ハヤなあ (だ) 言うて、しんしょ (身代) な (が) ハブリん (に) になって来て ええなあ (よいですね) 言うん (の) なら ええけど (よいが)、下火ん (に) になった 言うの (のは) わり (悪い) けど (が)。今し (今) ハで、絶頂で 梶 横ん (に) 差しとでも (て居ても) 通られ (通る) 言うやんかい (言います)。梶横に さいとでも (差して居ても) 言うな (のは) とんとん拍子に 金が儲かる 言う事やわい (です)。舟な (が) 梶 横になると 何処い (へ) でも にえ込んでくやんない (走り来って行くでしょう)。そやけど (しかし) ハブリのおりや (時は) なつとしても (どのようにしても) それ やり通す 言う意味やるなあ (でしょう)。

はあ (端) 【名詞】 1) 端数、半端、はんばである事。(度、南、熊) 2) つり銭 (北、南) [会話] 1) ハア 言うて、半端や (だ) 言うて、ふたりいつ (二人ずつ) 組しても こや (此れは) 一人 ハアやなあ (だ)、ハアン (に) なつたれ (なつた) 言うて、2) お金 なんかでも ハアナ (が) 有る 言う (言います)。分けて残ると ハアナ (が) 出来たら お前しとけえ (しておきなさい) 言うて。

はあ (派) 【名詞】 派閥、仲間。(志 (布施田)) [会話] あれのハア これの派 言うのな (のです)。ハア な (が) 有って、老人会いても (行っても) ハアナ 有って、こつちや (こちら) 組な (が) 有る、あつちや (あちら) 組な 有る。いなさ (東南) へ 行くもん (者) あや (あれば) 北い (へ) 行くもん (者) 有る。皆 あや (あれば) しゃあ (舎、仲間) な (が) 違うんどよ (違うのだ)、ハアナ (が) ちがうんどよ 言うて 一塊りいつん (一塊りづつに) なんねてや (なるのです)。

はあ (歯) 【名詞】 歯。鳥類を除く脊椎動物口の中に、上下二列に並んで生えて居る骨の様な白い突起物。(志、桑市、桑郡、員、三、鈴市、鈴郡、亀、津、久、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、南、熊) [会話] にげ (人間) のハア。下駄のハア 木のハア (葉) 剃刀のハア (刃) 鋸のハア (歯)。ハアは、よけ (沢山) あんなあ (有ります)。きれもん (切れ物) のハア (刃)。ハア (刃) こぼしたれ (た) 言うて、かい たらと (欠いてやると) かつたいもん (堅い物) 切っ

て ハア こぼした 言うて。鋸のハア へしよつた たれ (折ってしまった) 言うて、めえ (目) へしよつ たたれ とか。鋸は めえやよつて (だから)。きい (木) やなんや 皆 ハア (葉)。秋になって ハアナ (が) 皆 落ちた 言うて 秋は あきば (秋葉) で皆 落ちたれ (落ちていった) 言うて。

はあ (葉) 【名詞】 繊維束植物の基本器官の一。枝や茎につき、主として同化。呼吸作用を行う。前項 はあ 参照 (志、桑市、桑郡、員、三、鈴市、鈴郡、亀、津、久、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、南、熊)

はあ (刃) 【名詞】 物を切る道具の切るために薄く鋭くなっている部分。前々項 はあ 参照 (志、桑市、桑郡、員、三、鈴市、鈴郡、亀、津、久、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、南、熊)

ばあ (場) 【名詞】 1) 席、場所。(阿、張、名、北) 2) 場合、機会。[会話] 1) バア 言うな (のは)、此のバア (場) も有るし。博打のバア。なんやかやする時でも バア。むかう (座る) とこ (所) でも バア 取つといてくれえ (取っておいて下さい) 言うて。座る場所を おらな (俺の) バア 取つといてくれえ言うて。バア 取る 言う時ん (に) のさばつとる (大きく振る舞って居る) 時に、バア 取って おおた (おゝ) バアとんのん (とるのに) ひっそまり (遠慮して) むかえ (座れ) とか、体のおつきい (大きい) 人も おつきいて、バア 取って、ちつそお (小さく) なれまあ (なりなさい) 言うて。こや (此れは) 場所言うんなし (言うのです)、2) そのバア (場) で 言うて その時ん (に) そのバア で 言うて 其のバア で すぐん (に) 渡した 言うて、其処で すぐん やったり 取つたり すると そのバア で すぐんやつた やんない (すぐにやつたでしょう) とか、取つたやん ない (でしょう) とか言うて。場所と時間。

ばあ 【名詞】 1) 赤ん坊 2) 祖母 (志 (甲賀)、鳥、浦村、石鏡、答志)、三、上、阿、張、度、一、北、南) [会話] 2) 婆さん も バア 言うやんかい (言います)。俺家の バアナ (が) 言うやんかい。婆さん さん付けんと (付けずに) 俺家の バアナ 言うて。1) 赤ん坊も バア 言うて 赤んぼ (坊) あやす 時に バア 言うね (言うのです)。ばんこ (赤ん坊) 抱かして くれえ (下さい) 言うて 赤ちゃん を。あのう ちや (家

は) ばんこ、もおけとんねてわれ (産んで居るのだそ
うだ) ばんこ見せてもらいん (に) 行こやんか (行き
ましょう) 言うて、ばんこ抱かしてくれえ (下さい)
とか 言うて、わしらな (私達の) ちっちゃい時分
(頃) にゃ (には) ばんこや (と) 言よおったなあ
(言っていました)。

ばあ【名詞】【形容詞】 1) 馬鹿 2) 何も無い 3) 失敗 [会話] 1) ペアよ、あつぼけや (阿呆) 言うてな
あ。あんごし (馬鹿) のおをなあ (のを) あや (彼
は) まあ ばあすけやれ (だ) 言うてなあ ちよいと
(少し) 抜けとる (ている) 様な事言うと、³⁾ 仕事な
(が) ととのわん (出来ない) 時でも 用事が ペア
やったよお (だった) 言うしなあ (言います)。漁な
(が) 無い時でも、今日は、ペアやったよお言うしな
あ。ペア言う時は 阿呆 言う時と、失敗して なん
も (全く) 間に合わんよん (ように) したた (してし
まった) 言うのを 言うし、²⁾ 漁も なんも (少し
も) 無いと ペアやったよお言うてなあ そして、な
んやかや (いろいろ) 損しても まあ ペアしたよお
言うてなあ。

ばあい (場合) (ばあひ)【名詞】 場合は其の場に行き合
わせた時 [用例] 泣いとる (て居る) バアイやねえ
(でない)。

はあうるおい【名詞】 野菜、木の葉がぬれる程度の少量
の雨 [用例] もお ちよいと (少し) 降るやか (か
と) おもや (思ったら) ハアウルオイだけやれ (だけ
だ)。

はあがやめる 歯が痛い (志 (片田、越賀、国府、布施
田)、鳥 (坂手、桃取、国崎、相差)) [用例] 虫歯で
ハアガヤメル。

ばあさん【名詞】 1) お婆さん、祖母 (志、鳥、松、阿、
度、伊、南) 2) 年上の女性一般 (志) [会話] 1) バ
アサンなら ええけど (よいが)、ばばあ 糞婆 言う
て、ばばや (だ) 言うて べつんも (特別に) はこ
(大便) みたよんなあ (のよように)。

ばあす【名詞】 頭部に出来る化膿性疾患。膿包疹。毛囊
炎。はす、蓮、蓮根のあちこちから葉の出るのに似て
いる所から頭に来る腫れ物。[会話] バアスな
(が) 出来た 言うて、出来もん (物) な (が) 丸く
たあい (丸い) のおな (のが) きんがり (きいんと)
光って。バアスや (だ) 言うて、かぼ (膿痂疹) とも
又違うね (違うのです)。きいんと光って ねぶと と
も又違うね。頭い (へ) 出来るだけで ほかいは (他
の所には) 出来やせんなあ (出来ません) 額に 生え

際のほおい よお (よく) 出来おったなあ (出来て居
ました) 体い (へ) 出来んの (出来るのは) みやへん
なあ (見ません)。ひぶくれ 言うな (のは) 水ぶくれ
で すね (脛、膝) から下や (です)。ねぶとは 出来
もん (物) はれもん (腫物) 所嫌わず 言うて どこ
い (へ) でも 出来おったけど (て居たが)、バアスは
ここらへん (頭部) より ほかいは (へ) は 出来るよ
おん (ように) なかったなあ。

ばあすけ【名詞】 馬鹿 阿呆 [会話] あや (彼は)
まあ バアスケやれ (だ) 言うてなあ、ちよいと (少
し) 抜けとる (ている) 様な事 言うと、あや (彼
は) ばあやれ、バアスケやよって (だから) まあ 言
うしなあ (言います)。

はあでつむ 歯で噛みつぶす。つむ参照 [会話] しら
め (虱) ツム、蚕ツム しらめな (が) よけ (沢山)
おると 取って口い (に) 入れて ツミおったの (居
たのです)。殺すのに、ツムの (のです)。ぶつん 言
うてなあ、蚕でも取るやんない (でしょう) 跳ばした
ると (してやると) はざん (いけない) もんで (の
で) ひよっと 口い (へ) 入れて すんのなあ (する
のです)。ぶつんと ツムのな (が) はりやいな (気持
ちが) ええね (よいのだ) 言うて、ハアデ 噛み潰す
のを ツム言うの (のです)。

ばあとる 場所を塞ぐ、広い場所を占領する、のさばる。
ばあ (場) 参照

はあとんどる 手業練を引いて居る。待ちかまえて居る。
(志 (布施田)) [会話] まあ のお (お前) な (が)
来たら こげんも (こんなにも) 言お (言おう) おも
て (思って) ハアトンドンネ (でいるのだ) 言うて。
かんまえとる (待ち構えている) 言うのをなあ、来た
ら 言お おもて ハアトンデ かんまえとんね (て
いるのだ) 言うて。あんで (あれで) 物凄いやい
事やろなあ (でしょう)。待ち構えとる (ている) 待
ちかねとんのをなあ (ているのを) 来たらまあ あげ
んも (あんなにも) 言うたらん (言つてやろう)、こげ
んも 言うたらんおもて、勢い込んで ハアトンドル
言うて。

はあなちごとる 仲間が違っている [会話] あれと
これと ハアナチゴトルよってん (のだから) 言うて
なあ。皆 しゃあ (仲間) な (が) 有るやんかい (有
ります)。友達な (が) 違うのな (が) 有る。わしや
(私は) また あいら (彼等) ハアナ チゴトルよっ
て (のだから) 言うてなあ、つきよとる (交際してい
る) にげ (人間) な (が) 違うとなあ、ハアナ チガ

ウ言うてなあ、仲間な (が) ちごとる (違っている) 言う事やなあ (です)。同じよおん (に) 仲よお (仲好く) は しとんねけど (しているのだが)、年寄りで年寄りで寄って、若いもん (者) は あっちゃ (あちら) べた (側) で 喋って、ハアナチガウねよって (のだから) 言うて、そげな (そんな) 時んなあ (に) わかいしゅ (若い衆) と としよや (年寄り) は はあな合わせん (ない) 言うて。

はあないたい 歯が痛い (志 (国府 布施田)、鳥 (坂手、桃取、国崎、相差) [用例] 虫歯で ハアナタイ。

はあなやめる 歯が痛い。[会話] ハアナヤメル。わしら ありだけ (有るだけ) ハアナヤメタ、はあやめで。人ら (他の人は) 抜けてても (行っても) なんも (少しも) 病ませんけど (痛めないが) わしら (私は) いっぼ (一本) ごつと (たびに) 歯よおで (痛めて) 歯医者ばっか (ばかり) かよて (通って)。がりがり言うて 皆 欠いたるもんで (欠いてやるので) こんじすい (根治水) で 家で焼いたり するもんで (するので) はあ 皆 ぼろぼろ、ねえ (根) だけ残って (て居て) 入れ歯ん (に) しよお言うても そのねえ 抜かな (なければ) はざんで (いけなくて) 弱った (困った)。歯な (が) 病む言うのを はあよおで言うて、病んで 言わんと (言わずに) はあよおで とか、てえ (手) い (へ) さかばり (棘) 立てたや (たら) 膿んで来て いび (指) よおで 微菌入れたんのなあ (入れてやるのです)。ちよいと (少し) 傷したのおえ (のへ) 手よおで かかえて てえやみやなあ (だ) 言うて。手やみや (は) 肥える 足やめや (は) やせる言うて。てえやみや (は) どこい (へ) でも 行きたいとこ (所) 行かれるよって (から) ええけど (よいが)、ひよおやく (冗談) 言うておられるし 足やみや (は) 家より 他い よお行かんし (行けないので)。

はあのねえ【名詞】歯の根 歯根 歯茎 [用例] 入れ歯すんのん (スルノニ) ハアノネエ抜くのん (の)に よわった (困った)。

はあはあ【副詞】心配するさま はらはら [用例] こららな (子供が) 屋根 登って (て居て) ハアハア しいもて (しながら) 見とたね (見て居たのです)。

ばあばあ【副詞】落ち着きなく動き廻る 乱暴に行動する [用例] よけ (あまり) バアバアすんな (するな) ほこりなすられ (がする)。

ばあばあ【名詞】1) 波しぶき (志 (布施田) 航跡2) 縮まりがない 寛大である (志 (布施田)) 3) 派手に金銭を使う 4) 乱暴に動き廻る [会話] 2) バアバ

アで まあ 言うて 物でも 誰ん (に) でも、なん でも くれたると (くれてやると)、あや (彼は) まあ、バアバアよって (だから) 言うて。喋ん (る) のでも あや (彼は) バアバアで あけすけん (隠さずに) なんでも (なにでも) 喋ってまあ 言うしなあ。しまりも無いし さっぱりもしとる (している) 言う 訳やわいなあ (です)。1) 船な (が) 通ってた後で、バアバアな (が) 立って言うて しまき (航跡) な (が) 立つのをなあ。4) 立ったり、座ったりすんのでも (するのでも) バアバアすんなまあ (するな) 言うて、食べるもん (物) な (が) 置いて有るとこ (所) しゅつと立ったりするやんない (でしょう)、バアバア すんなまあ、ほこりな (が) すんのん (するの)に そつとせえまあ (しなさい) 言うてなあ。

はあはあ、おもとる 心配している [用例] 梯子から 落ちやせんか (落ちないか) ハアハアオモトンネ。

ばあばあする 1) 金使いが荒い、浪費する 2) 落ち着きなく、動き廻る ばあばあ参照

はあはあゆう 息を切らす (志 (布施田)) [用例] ハアハアユウて走って来た。

はあばい【形容詞】大胆である 肝が太い。[会話] ハアバイねよってん (のだから) 言うてなあ、おなご (女) ななあ (が) 男を、あれもしい これもしいするやんない (でしょう)。あや (彼女は) まあ ハアバイねよって 誰とでも言うてなあ。仕事すんのも (するもの)、えらい人を あや (彼は) まあ ハポオテ言うて。じょおし (漁師) でも、あや (彼は) まあ ハアバイよって、しよおしや (少しは) 風な (が) 吹いて、人らまあ 今日は どおや (どうだ) 言うとも (言っていない)、まあ ぱつと出てく (出て行く) 人、あやまあ (彼は) ハアバイねよってん言うやんかい (言うのです)。肝な (が) 太い言うのを なんしても (なにしても) あや (彼は) まあ、ハアバイねよってん言うて 人のせんよおな (しないような) 事するとなあ。

ばあばん【名詞】祖母。お婆さん。ばあやんに同じ。幼児語 (志 (布施田)、北、尾) [会話] お婆さん 言うのをなあ ちっさい (小さい) 子供らなあ (が) 婆さん よお言わんと (言えないと) バアバン言うなあ そや (それ) バアバンな (が) 来たれ 言うしなあ (言います)。

はあみせる 大口をあけて笑う。嗜みの無いのを言う。[用例] おなごさいで (女でありながら) ハアミセテ わるたらはざん (笑っては駄目だ)。

はあやめ【名詞】 歯が痛むこと。また、その人。はあなやめる参照(志(布施田)、鳥)

はあやん【名詞】 お婆さん。親しみを含む。(志(浜島)、三、鈴市、久、多、上、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] お婆さんの事を バアヤン 言うてなあ、婆さん言わんと(言わずに)、バアヤン言うて。バアヤン、かあやん(お母さん) 爺やんや(だ) とか 皆 やんづけや(です)。

はあよおで 歯を病んで 歯を痛める [会話] よおで、言うのなあ(です)。病んで言わんと(言わずに) ハアヨオデとか、てえ(手) え さかばり(棘) 立てて膿んできて いびよおで(指病んで) 言うて。

はあよお はあよおお【感動詞】 競走の時の声援

はあり【名詞】 白蟻(鈴市、津、南)

パール【名詞】 樽。特に真珠笄を浮かすための樽。たんぼ参照 [会話] 貝掃除に行くと たんぼ(筏) 一つも(少しも) よお歩かんねやんかい(歩けないのです) パールの有るとこ(所)は よお(よく) 歩くねけど(歩くのですが)。

パール【名詞】 棒状の釘抜き 金てこ 英語 corwbar の略

ばあんこ【名詞】 赤子 乳児 ばあ(赤ん坊) 参照

はい(はひ はへ)【名詞】 はえ、蠅の転。(志(磯部 浜島)、鳥(鳥羽)、員、三、四、鈴郡、鈴市、一、久、飯、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南) [会話] ほおパイ(朋輩) あくパイ(悪輩) せんちゃパイ(便所蠅)。せんちゃパイ 言うのも有るし、あおパイ(青蠅) 言うのも有るし(有ります)。朋輩言うのは 友達、あくパイ 言うなだ(のは) アオパイやとか(だとか) 物い(へ) たかる(集まる) ハイ(蠅)を アクパイや(だ) 言うて、にげ(人間)でも あやまあ(彼は) アクパイやどお(だ) 言うて、わり(悪い) にげ(人)を。アクパイやれ(だ) あや(彼は) なんえでも(何にでも) 首突つ込んで わり事ばつか(ばかり) たくんで(たくらんで) 言うて。センチャパイ言うな(のは) 青いおな(のが) 有るやんかい(有ります)。せえな(背が) きんきん 光つとる(て居る) アオパイな(が) たけつとる(沢山いる) 言うやんかい(言います)。

ばい【名詞】 こま、独楽、玩具の一種。平安時代以前、中国から高麗(こま)を経て伝えられたと思われる。ばいごま(海産の螺の頭を砕きこまとしたもの)の転略か(志(布施田、片田、立神、浜島、志島、甲賀、船越、御座、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥(鳥

羽、坂手) 津、一、松、多、北、尾、南、熊) [会話] パイ まあす(廻す)、独楽の事を パイや(と) 言うて。櫻のきい(木) 削って 皆 しよおったやんかい(して居たではありませんか)。ウツケパイ(打ちつけばい)。ウツケパイ 言うて、うつつける(打ちつける) やんない(でしよう)。うつつけて びゆとするもんで(するので) ウツケパイや(だ) 言うて。サンタロパイ 言うな(のは) 櫻の木ですんのを(するのを) サンタロパイ。

はいおとし(はひおとし) 煙草の灰などを落とし入れる器具。灰皿。(南) [会話] 煙管の、灰を入れる。灰叩くのおに(のに) ハイオトシ もて来い(持って来い)。

はいかき(はひかき) (灰播) 灰を掻き出す道具(南) [会話] くどの(かまどの) のおを(のを)、鉄のぼお(棒)で はんがた(半円) こさえて(作って) 曲げて、鍛冶屋で こさえて(作って) もろとて(もらって) 貯った 灰を くちど(入口)へ 掻いて くんな(来るのが) ハイカキ。

はいかぼ【名詞】 腫物。いつも出来物を作って居る人。梅毒に依る湿疹。どくぶつ参照(志(布施田)) [会話] 梅毒持ち 仙台から毒(病気) もてきたのおは(持って来たのは) 毒物言わせん(言いません)。仙台かぼ(出来物) や(とか)、ハイカボや(だ) 言うて あや(彼は) 仙台かぼ もおて(貰って) ハイカボや(だ)。

はいから【名詞】 海女(舟人)の使用する金属性のおもり、約10kg。(志(甲賀、国府、安乗)、鳥、鈴市) [会話] 磯人(海女) な(が) すんのも(するの)も 分銅を ハイカラや(と) 言うて。昔 石で しよおったの(して居たのです) 鉄の分銅な(が) はやって来たもんで(ので) あんで(それで) ハイカラ言うたんやろなあ(言ったのでしよう)。ハイカラカズキや(だ) 言うて、ふねど(舟人、夫婦で海女作業をする海女) な(が) あれ持って とごつてくもんで(海底へもぐって行くので) ハイカラカズキや(だ) 言うて。そしてそれを あげぼん(上げる役目の人)は ハイカラアゲや 言うて、とごらしたたの(沈めてやったのを) あげんのおん(あげるのに) 雇て来よおった(来ました)。とまえ(舟の主) な どお(樽) 漕んで(漕いで) すんな(するのは) えらいもんで(大変なので) ハイカラアゲん(るのに)。昔や おほかづき(採集) ん(に) なると、ふつかい(深い) もんで(ので) はたひろ(二十尋、約三十米)も 行く程

行きおったの(行って居たのです) おぼかずくよおん(ように) なる。おぼは どいらい(大変) ふつかいとこ(深い所) い(に) 有りおったやんかい(有ったのです)。そすと(すると) はたひろもすと とまえな(が) えらいやんない(大変でしょう) にげ(人間) も ひいて(引きあげて) ハイカラも あげて。そすと ハイカラアゲ 言うのなあ(のを) 若い人 たのできおったわい(頼んで行きました)。ハイカラアゲ 言うのは ハイカラだけ あげん(の揚げるのです)、にげ(人) は とおさん(主人) な(が) あげて、そして そんな(それが) 揚がると こんだ(今度は) ハイカラアゲな(が) それ揚げおったわい(揚げて居ました)。ハイカラ使う前の石は 今し(今) の御影石言うんかい(言うのですか) いしぐら(石垣) い(へ) 積むあれを こんこんとこついて(突いて) 綱 通すよおん(に) 穴あけて 三角みたよおな(のような) そいなのおを(そんなのを) しよおったね(して居たのです)。ハイカラな(が) はやって来る迄や(は)。そして 徒人(舟で行かず自力で採る海女) でも ふつかいとこ(深い所) かづくよおん(に) なる。石 落しといて(ておいて) くり錨や(だ) 言うて、くって(手繰って) 行きおったの(行ったのです)。それ、くって 行くと 早いもんで(ので)。

はいからあげ【名詞】 海女が潜水の時使用したおもりを引き上げること。またそれを行う人。はいから参照 [会話] ふねど(海女) な(が) はいから(おもり) 持って とごつてもんで(潜っていくので) それを あげばん(上げる役) は ハイカラアゲや(だ) 言うて。とごらしたたの(沈めてやったのを) あげんのん(上げるのに) 雇とてきおった(雇とっていきました)。

はいからかざき【名詞】 錘を持って深い所迄潜る海女。はいから参照(志) [会話] はいから(錘) 持って とごつてもんで(潜って行くので) ハイカラカズキや(だ) 言うて。

はいからさん【名詞】 流行を追っている人、美しく着飾っている人。ハイカラは英語 high collar から(志、鳥) [会話] ハイカラサン やよって(だから) 言うてなあ、立派ん(に) して 伊達こく人を、あや(彼は) ハイカラサン やよって、するふうな(格好が) ちがわれ(違います) 言うてなあ。流行 走ん(走るのを) ハイカラサンや(だ) 言うてなあ 昔、なんも(なにも)、歌は無いしなあ “はいから頭い(に) しらめ(風) が 登る 二百三高地と言うて登る” 言うてなあ。たっかい(高い) とこへ(所へ) のぼん

を(登るのを) 二百三高地へ登ったよお 言うてなあ 旅順落とした おりんなあ(時に) 頭もこげな(こんな、頂) とこい(所に) 結うてなあ 二百三高地や(だ) 言うて。嫌だ、嫌だよ ハイカラサンは 嫌だ 頭の真ん中に 栄螺の壺焼き 言うて 歌いおったけど(歌って居たが) その前んなあ(に) はいから頭い(に) しらめ(風) が登る 二百三高地と ゆて(言うて) 登る 言うて 歌いおったの(歌って居たのです)。

はいからづな【名詞】 海女のはいからに付いている綱(志)

はいぎわ(はえぎわ、はえぎは)【名詞】 生え際(志) [用例] 額のハイギワな よおて(よくて)。

はいけん【名詞】 権力。権力を振りまわす。悪い意味を含む。[会話] バイケン振って言うて、此れも おんなもんや(俺の物だ)、あれも おんなもんや言うて、なんもかも(何も彼も) 皆 わが(自分の) もんに(物に) しよおとすと バイケン振って 言うて。バイケンフツテ なんもかも言うて、権利をわがもんにしよお言うて バイケンフツテ言うて、よお(よく) 言うやんかい(言います)。バイケンフル 言うな(のは) あんまり(あまり) ええ(よい) 意味で 使わせん(使いません)。バイケンフル 言うな、わりわいなあ(悪いです)。なんもかもわが(自分の) 懐い(へ) 入れる算段(考え) するもんで(ので)、バイケンフル 言うて。子供等でも おもちゃ(玩具) 借せ言うて 取りやい(取り合い) するやんない(でしょう)。わがと(自分が) 皆寄せてすると わがとばっか(ばかり) バイケン振って言うて 子供らん(に) でも 言うやんない(言うでしょう)、わがと(自分が) おもちゃを 借さんと(借さずに) 一人じめすると わがとばっか、バイケンフツテ 言うて、子供らを わるいおったやんかい(叱って居たで有りませんか)。大人でも わが(自分の) ぼっぼ(懐) い(へ) 入れ こもと(込もうと) すると、なんもかも バイケンフツテ わがと(自分が) 皆 抱き込んで 言うてなあ(言います)。

はいけんふる 偉そうにする 権力をふるう はいけん参照

はいざん 1) 他の人に相談する事(志(甲賀)) 2) 対診 [会話] 2) 今日はまだ いしやどん(医者) な、よけ(沢山) 寄って あのひた(人は) なんざん(大病) で ハイザンした、先生な(を) あっちゃ(あちら) も呼び、こっちゃ(こちら) も呼び、今日は ハ

イザンや(だ)言うて、病氣な おもおて(重くて)ハイザンやったね言うて、よお言うやんかい(よく言うて有りませんか)。いしゃどんを あっちゃんも頼み、こっちゃんも頼み、みんな(皆)のせんしええ(先生)を たので(頼んで)ハイザン したんでない(したそうだ)言うて 一人づつ 呼ぶんやなしん(呼ぶのでなくて)、あの医者も、此の医者も、寄って来いすんのを(来るのを)ハイザンやてわれ(だそうだ)言うて、大病な(が) えらい(大変な)病氣で ハイザンやったんでわい(だったそうです)言うてなあ。

ばいすけ 土、石などを運ぶ、竹製の畚 バスケットの転(志(甲賀)、鳥(管島)、四、上、阿、伊、熊)[会話] パイスケ 竹で編んで有るの(のを)パイスケ。土方な(が)砂を とりん(取りに)行く。此処らパイスケ 言うな(のを)朝鮮じゃん(人は)ばかり籠や(だ)言うて、鮑をむくと みな ばかり籠い(へ)入れといて(ておいて)しよおった(して居ました)。わしら(私達) みい(身)を入れんの(入れるのに)パイスケカゴイ 入れんね(入れるのです)。パイスケは どかた(土方) な(が) よお(よく) つこて(使って)砂持つん(のに)。ふご(藁製の器)は じつきん(じきに、すぐに) いたんでくやんない(壊れるでしょう)、そやもんで(それで)丸くたい(丸い)籠い(へ)ひぼ(紐)付けといて(ておいて)担いおったけど(担っていましたが)。汽船へ乗ると あれい(へ)みんな(皆) 石炭入れといて(ておいて)だんべ(舟)い(へ)だまけん(ぶちまけて)石炭入れとて(て居て)、紀州航路でも着けた事なら それい(それへ)石炭積むので 手送りすんの(するの)の 早いおな(のが)めえん(目に)見せやせんね(見せないのです)。みんな(皆)が 船い(へ)迄なるどいて(並んでおいて)びゅっびゅっと 手送りん(に)はしけから 船い(へ)積むの(のを)てがりやかんして(手軽くして)めえん見せんよおん(目に見せないように)して。ぱっぱっと 入れてすんの(するのです)。

はいずりまわす(はひずりまはす) 匍い廻す 匍い廻す(志(布施田))[用例] よばん(夜這)しん来て(しんに来て) 其処ら此処ら ハイズリマアス。

ばいた(売女)[名詞] 女性をののしって言う語。遊女 売太 太はまるた ごうた と同類(大言海)[会話] バイタ 言うの(のは)淫売の事 言うねやろ(言うのでしょうか)。そこいらの角で 菰 抱いて したると(して居ると)バイタや(と)言うて。

はいだあら[名詞] 灰を入れる俵 だあら たわらの訛[会話] 昔や(は) 灰を皆 たあら(俵)い(へ)入れおってなあ(入れて居て)一年中、風呂焚いたり 麦藁焚いたりすんの(するのを)入れといて(ておいて)十月、麦、播く時んなあ(に)それと たるごえ(項参照)まめんだり(混ぜたり)してなあ。たあらい(へ)入れて縛ると 灰な(が)皆 立って来るやんない(でしょう)。たあら(俵)縛ん(る)のを、結う言うの(のです)。そやよって(だから)ゆうて覆るは ハイダアラ 言うて 灰のたあら(俵)を縛ると、皆 わがと(自分で)覆るもんでなあ(ので)なんでもなあ(なにでも)いなん事言うてすると あいな(あんな)いなん(要らぬ)事 喋って言うて かずかる(かこつけられる)時な(が)有るやんない(でしょう)。そすと わがと(自分が)言うて したんよって(したのだから)ゆうて(結うて、言うて)かぶるは ハイダアラ言うて、それやあれ(それだ)言うて そいな(そんな)時の例え言葉んなあ(に)。

はいたたき(はひたたき)[名詞] 甲の字を言う [用例] 通信簿 ハイタタキな(が)のおて(無くて)あひる(乙)な よれや(沢山だ)。

はいたたき(はひたたき)(蠅叩)[名詞] 完全にやつつける事。やつつけられる事。叩きのめされる。ハイはハエ(蠅)の訛(広辞苑)[会話] ハイタタキん(に)おおたよお(逢った)言うて ちゃちゃむちやくちゃん(に)言われるとなあ、おおた、まあ あれげん(彼の家)に 行たら(行ったら)ハイタタキん(に)おおて(逢って)来たよお言うて よお(よく)言うんなあ(言うのです)。口な(が)えらい(達者な)人な(の)とこ(所)行くなあ わがと(自分が)言うこた(事は)一つも(少しも)聞いて貰えんと(えずに)、その人ばっか(ばかり)頭 押さえつけるよん(ように)言うて、あの人な(の)とこい行たや(所へ行ったら)ハイタタキん(に)おおて来たよお言うて、完全に 言い曲げられん(負かされる)のをなあ ハイタタキん(に)おおて 来たよお言う時な(が)有るんなあ(有ります)。

はいたたきんあう 徹底的にやり込められる はいたたき参照(志(布施田))

はいたたよおん 綺麗さっぱり 何も無い事を表す(志(布施田))[用例] あのよけのもの(沢山の物)ハイタタヨオン くだたない(食べてしまった)。

はいちよ(蠅帳)[名詞] 1) 蠅などが入るのを防ぎ、風通しをよくするため金網や紗などを張って、食物を入

れる戸棚。はえちやうの転はいちやうの訛、転(南) 2) 食品を保存する器具 [会話] 2) ハイチョ言うな(のは) 今し(今)の 冷蔵庫の代わりみたよな(のような) もん(物) やわい(です)。あれの中い(へ) 入れよおったわい(入れて居ました)。ハイチョオ言うて 立てといて(ておいて) それい(それに) 紙を 皆 貼り付けてなあ 網 張ったり、なんやかや(いろいろ) 紙な(が) 有ると それい(に) 糊付けて ぺたぺた張ると はんぼ みたよん(のように) なって、夏は、それい(へ) 入れて。冬ん(に) なると なあ それい 火鉢の こいなのおえ(小さいの)に ひい(火) 入れといて(ておいて) ぬくとめると(温めると) 紙な(が) 張って有る もんで(ので) ぬくとお(温かく) なんねてや(なるのです)。今し(今)の冷房、暖房 言うな(のは) あれやろなあ(でしょう)。夏ん(に) なると はい(蠅) な(が) 入いらんよん(ように) びちんと 入れるやんない(でしょう)。あんど(行燈) みたよん(のように) しといてなあ(しておいて) 蝶番つけて 閉めるよん(ように) して、はんぼ みたよん貼り付けんねてや(るのです)。そやもんで(それで) 空気もなんも(少しも) 入いらんよん(ように) して 夏は はい(蠅) な(が) 入いらせんし(ないし) 冬ん(に) なると それい(へ) ひい(火) 入れて しとる(している) 家も 有よおったね(有ったのです)。下い(に) ひい(火) 入れとくと(ておくと) ぬくとまつて(温まって) さめやせん(冷めない) 言う事やなあ(です)。

はいつくばる(はひつくばる)はいつくばる(這踏)【自ラ五】 平伏する。かしこまる。手をついて這うようにしてうずくまる。(上、阿、鈴市) [会話] ハイツクボル 言うて、頭 下げてしとんねやろなあ(しているのでしょうか) わり(悪い) 事 したて(してしまつて) その家い(へ) 行て 謝んのんなあ(謝るのに) ハイツクボル 言うんやろなあ(言うのでしょうか)。

はいてふてるほど【形容詞】 沢山

はいてふてるほどある 沢山ある 掃いて捨てる程有る [用例] 俺家ん(に) そいなもな ハイテフテルホド アラレ(有る)。

はいと【名詞】 切れ物を研いだ時 裏側に反った刃 **はいとひく**参照

はいとお(はいとう はいたう)【配当】【名詞】 給与。労働に対する自分に配り当てられた金額。[会話] ハイトオな(が) 有つて。仲間仕事しといて(しておい

て) 今度 それ割り付けん(る) のなあ(です)。まあ おらげも(俺の家も) ハイトオ 当たつたよお言うて、何軒え 分けんねどい(分けるのですか) 言うて、十軒も 言うて、おおた 十軒も 割んのかい(割るのですか)。おらげ(俺の家) も ハイトオ当たるのかい(当たりますか) 言うて な 分けん(る) の ハイトオ当たつた 言うて。

はいとひく 切れ物を研ぐ時、最後に裏側を少し研ぐこと。[会話] ハイトヒク 言うのなあ(です)。ハイトヒクタレ 言うてなあ 研ぐやんない(でしょう) 表から、そすと(すると) 裏をなあ ハイトひかんと(ずに) すると、なんも(少しも) 切れやせんの(切れないので)。裏返つとるもんで(ているので) それ、そおつと(ゆるく) こお すんのなあ(するのを) ハイトヒク言うて ハイトヒクタレト(てやると) よお(よく) 切れんど(切れるぞ) 言うて。

はいとりがみ(はひとりがみ)【蠅取紙】【名詞】 蠅をとまらせて捕まえるように粘りのある薬品を塗ってある紙。[会話] ハイトリガミ言うて 膳の上い(へ) 据えとくとなあ(置いておくと) それい(に) 眞っ黒ん(に) 座りおつたやんかい(座って居ました)。わがとらな(自分達が) ひつついたて(てしまつて) 知らんと(知らずに)。ハイトリガミい(に) かかつたよお言うて。

はいとりぐも(はひとりぐも)【名詞】 体長1cm前後、色は灰色または灰褐色、頭胸部が大きく足は比較的短く太い。単眼は八個で三列に並ぶ、網は張らず蠅や小昆虫めがけ跳躍して捕食する。[会話] ハイトリグモ 言うな(のは) はい(蠅) な(が) 来ると、まあ その跳ぶ勢いな(が) びゅつと 跳んで、そのつかめる(掴まえる) わざ(技術) の早いのなあ ハイトリグモは ちつちやあいて(小さくて) おつてなあ(居て) その身軽い のおななあ(のが)。

はいとりむし【名詞】 かまきり

はいねこ(はひねこ)【灰猫】【名詞】 1) 意気地のない者を罵つて言う。(志(立神、志島、甲賀)) 2) 猫かぶり、おとなしうにしている。[用例] 1) あや(彼は) ハイネコで、じつきん(すぐに) 泣いて来る。

はいのこ【名詞】 蛆(志(布施田)) [用例] 夏あ(は) ハイノコな(が) じつきん(すぐに) わいて(群れて)。

はいのちからもなし 力の無い事。粘りの無い事。無能者を言う。はいは灰が蠅か不明。

はいはい(はひはひ)【這道】【名詞】 這う事を言う幼児語。(阿、張、名) [会話] ほおて(這つて) くんのを

(来るのを)、ハイハイして来たなあ言うて。はよ (早く) ハイハイしええ (しなさい) 言うて、這えば立て立てば歩めの親心言うてなあ。

ばいばい【感動詞】別れの挨拶 byebye 英語

はいはいがっこ【名詞】集団睡眠商法 その場 [用例] 年寄りねつろて (ねらつて) ハイハイガッコへ 連れて てて (連れて行って)。

はいびよお (はいびやう)【名詞】肺結核 (阿、張、名) [会話] 昔で言うて 労咳や (です)。今し (今) で言うて 肺結核、昔や (は) ハイビョオん (に) かかると めったん (絶対に) 助かられんでなあ (助からなくて)。

はいふき (はひふき) (灰吹)【名詞】刻み煙草の吹殻を吹き入れる筒 後に灰皿も言う

はいまある (はいまわる はひまはる) あちらこちらを這い歩く。[会話] よお (よく) ほおて (這つて) 来て 其処ら ハイマアシトラレ (ている) 言うて。男の人らでも よばい しいん (しに) 行くとなあ ハイマアして 蛸でまあ ひつつけまあして言うて よお (よく) 言うやんかい (言います)。

はいまぶれ (はひまぶれ)。はいまめぐり【形容詞】灰だらけ。灰が一面にくっついていること。まめぐる参照 (志 (志島)) [会話] ハイマメグリん (に) なって、そやれ (それ) 言うて。ひい (火) 焚いとて も (て居ても) 風な (が) 吹いて 火の粉な (が) ふけると ハイマメグリんなつたよお 言うて。昔の家は 囲炉裏な (が) 有りおつた (有りました)。それで皆 ひい (火) 焚いて 子供らな (が) そんちい (へ) 入って、灰つこで (掴んで) 喰うたりすると ハイマメグリんなつたられ (なつて居る) 言うて。まめぐる 言うな (のは) どころかも 灰つけて来ると てえ (手) や、足や (とか) 体い (へ) つけて来るや んない (でしょう)、そすと ハイマメグリやなあ (だ) そやれ (それ) 言うて。泥まめぐりも、泥も一緒や (です)。土まめぐりや (と) 言うて どころかも 一杯つけて来ると 土まめぐりや (とか) 泥まめぐりや (だ) 言うて、うなし (同じ) よおな意味や (です)。習字すると 墨まめぐりん (に) なって。そしといて (そうして) 御飯食べても 昔や (は) 味噌で食べおつたもんで (食べて居たので) 味噌まめぐりん (に) して言うて、味噌 まめぐって食べて言うて。味噌を御飯でこねて するやんない (するでしょう)。そやもんで (それで) 味噌まめぐりん (に) して 喰うて 言よおつた (言っていました)。まめぐる 言うな (の

は) まぜあわす 言ううなあ (のです)。

はいもおち【名詞】植物 もちの木の種類

はいりぐち (はひりぐち) (入口)【名詞】勝手口、入口。(南、熊) [会話] ハイリグチ。いりぐち。小庭の ハイリグチとか、ちっちゃい (小さい) とか (所は) 小庭や (と) 言うう (のです)。そして おっかい (大きい) とか 大戸口。どっから (何処から) でも 入って来るとこを 入るとこ (所) を ハイリグチや (だ) 言うて。もてたけど (持って行ったが) あけたや (ら) おらせんもんで (居ないので) ハイリグチい (へ) 置いて来たれ (来ました) 言うて。

はいる (はひる)【自ラ五】海女が海に行き潜水するを言う いるとも (志)

はいれえ 入りなさい はよ (早く) ハイレエ

はう (はふ) (道)【自ワ五】1) 海女が海底で獲物を探して移動する事。(志) 2) 女の寝所に忍び込むこと (上、阿) [会話] 1) 海女さんな (が) 海の底、ハウ 言うて 海いて (行つて) 底 ホオトルト (ている) と) 波で 底こかして (動かして) 今日は時化な (が) してくんのかして (して来るのか) ハワレヤセン (ない) 言うてなあ 時化な (が) して来る前ん (に) になると、ほおとても (ていても) ハワレヤセン (ないのです)。底 いごかして (動かして) でんぐりかえして。まあ こや (これは) 波な (が) おこつてくんのかして 底こかしてはざんよお (駄目だ) 言うて。海女さんな (が) 獲物、探して あつちや (あちら) こつちや (こちら) 動くのおを (のを) ハウ 言うう (のです)。

はえ【名詞】1) 梅雨。五月の此にはハエと云ふは、梅雨なり。梅の昔を音にて云い来るなり (伊勢の浜荻)。(志 (鶴方、浜島、布施田、甲賀)、鳥 (鳥羽)、桑市、度、伊 2) 南風 (桑市、北 (海山)、熊) [会話] ハエ。シロハエや (とか)、クロハエや (だ) 言うて。雨な (が) よけ (沢山) 降ると クロハエや (と) 言うて。雨な (が) 降らんでも 曇って まぜ (南風) な (が) 吹いたりすると シロハエや言うし (と言います)、そして (そうして) 五月頃ん (に) 波な (が) おこると (大きくなる) ソコバエや (だ) 言うて、海な (が) 五月ん (に) になると でござしてくんねてや (来るのです)。ソコバエな (が) おこつて来たなあ 言うて。五月の梅雨ん (に) になると ハエイ (に) 入った 言うやんない (言うでしょう)。ハエン (に) 入ったんなあ (入ったのだなあ) 言うて、ひより (天候) な (が) ぐずついとるよつてん (て居るか

ら)言うて。五月ん(に) になると ぐずついた ひい
(日) な (が) よけ (多く) するわい (します)。まぜ
な (が) 吹いて 雨な (が) 降ったり、やんだり するよおな 日な (が) すると、ハエん (に) 入ったな
あ 言うて、そして 天気なしても (晴れて居ても)
波な (が) たったり (大きくなったり) まぜな (が)
吹いたりすると シロハエやなあ (だ) 言うの (ので
す)。クロハエ みたよん (のように) なって来た こんだ
(今度は) やまぜがえしで 風ぐと 雨な (が)
降ってくんね (来るのです)。なぎだれな (が) 来とい
て (来ておいて) こんだ やまぜがやし。

はえ (映) 【名詞】 1) 見た目によいこと。2) 名誉、手柄。
[会話] ② あれん (彼に) ハエ させな (させな
ければ) 言うて。手柄さすのん (させるのに) 言うて、
ハエ さそ (させよう) 思うとなあ そのにげ (人
間) の事を よお (よく) 言うて ほめんの (誉める
のを)、あれん (彼に) ハエ さそ (させよう) おもて
(思つて) 言う時な (が) 有るんなあ (有るのです)。
あんだの (貴方) お陰で はれしたよお (しました)
言う時な (が) 有るやんかい (有ります)。なんやかや
(いろいろ) 言うて もろてなあ (貰つて)。① 見た
めえ (目) で 立派なのおも (のもの) ハエとるなあ
(ている) 言うてなあ。あの人 よお (よく) ハエと
るなあ (ている) 言うて、賢い人も 言うしなあ (言
います)。

はえぎわ (はえぎは) (生際) 【名詞】 額の髪の生える境
[用例] ハエギワ 富士額で立派で。

はえさがす 散らかす。広げる。乱雑にする。[会話]
着さがして そこらじゅう 皆 ハエサガス 言うて
あれも着い 此れも着いして 片付けんと (ずに) 其
処らへ ぶらさげたりしとると (して居ると)。

はえたて 【名詞】 生えてすぐ、芽を出してすぐ。[会話]
なんやかや (いろいろ) 播いてもなあ めえ (芽) 出
して来ると、おおた 今し (今) ハエタテやよお
(だ) 言うて、麦でも播くと、じゃんじゃん 錐、通
して来ると おおた 今し、麦な ハエタテで 見事
なよおな (ようだ) 言うて。なんでも (何でも) 出
て来たおりんなあ (時に) 見事やよお (だ) まあ ハエ
タテで 言うてなあ。男の人な髭 そつた (剃つた)
後も ハエタテな (が) 青々しとるやんかいなあ (し
ています)。

はえなあ (はえなわ、はへなは) 【名詞】 延縄 一本の幹
糸に間隔を置いて、釣をつけた枝糸をつけ、幹糸を述
べてする魚法 のべなわ ながの。

はえぬき 【名詞】 生粋に土地の人 旧家 (志 (鶴方)、
阿)

はえのいり 【名詞】 入梅、梅雨の始まり (志)

はえのかぜ 【名詞】 梅雨時に吹く南風 (北、度) [会話]
まぜ (南) の風な (が) 吹くと、はえ (梅雨) やよつ
てん (だから) 言うて。まぜ (南風) を ハエノカゼ
言うて。ハエノカゼな (が) 吹いて したたりわれ
(湿っぽいです) 言うて。

はえまぜ 【名詞】 梅雨時の南風 (尾、北)

はえもん 【名詞】 1) 海草類が海中で繁殖して居る状態
2) 雑草 [会話] ② 物な (が) 生える事 なんやか
や (色々) 種 播いても 生えて来やせん (来ない)
とか ① 海では 荒布な (が) 生えとらせんと (生え
て居ないと) ことしや (今年は) ハエモンな (が) な
んも (少しも) のおて (無くて) 言うて。海の中では
もお (藻) や (とか) なんや 言うし、② おか (陸)
の上では 草やとか (草だとか) 雑草を ハエモンや
わい (です) おかの ハエモンは 雑草なあ (です)。

はえる (はへる) (延) 【他ハ一】 延べ縄の延べ縄を
入れる。長く引き伸ばして張る。(志 (布施田)) [会
話] 糸を広げもて (ながら) 餌 付けたのお (のを)
放りこみもて (ながら) なあごお (長く) 延ばしてく
の (ていくのを) ながの (延べ縄) ハエル。

はえる (映) 【自ア一】 映える 立派に見える

はおこじ 【名詞】 はおこぜ、魚。ハオコゼ科の海魚。体
長10cm、長楕円形で頭部に棘があり背びれには1
4個の大きな棘條が連なり、これに棘されるとひどく
痛む。体色は淡赤褐色で濃褐色と白色の斑がある。[会
話] めえ (目) ん (に) も 見えんとおつて (見えな
くて居て) ハオコジン (に) 刺された言うなあ。ちっ
ちやい (小さい) どぼ (はぜ) みたいなあ (のよう
な) ちつちよおおて (小さくて) おつて 棘な (が)
有つて それん (に) 刺されると えらいねてや (大
変なのです) 毒な (が) よくも (よくよく) 有んねな
あ (有るのです)。やめて (痛くて) ほんどん (本当
に) 親の死に目も あいとおも (逢いたくも) 無いわ
言う程 やめるもんや (痛いものです)。

はか (計、量、抄) 【名詞】 仕事などの進み具合。工程。
(桑郡、員) [会話] 今日は 仕事な (が) ハカな
(が) いかんで (いかなくて) 言うて しのくい (し
ぬくい) 時ん (に)、此の仕事 しのくうて (難しく
て) ハカな (が) 行かせんわれ (行かない) 言うて。
抄らせん (ない) 言う事を ハカな (が) 行かせん
(ない) 言うて。

…**ばか (ばっか) 【副助詞】** 1) 程度を表す。ばかり、少しの量の時に用いる事が多い。2) 物事を限定する意を表す。物事の程度を表す。(志 (波切、神明、立神、甲賀)、鳥、桑市、三、鈴市、亀、津、一、松、度、伊北、尾、南、熊) [会話] 1) ちょおいと (少し) 呉れた バカや (だけだ)、しじめ (しじみ) 貝 一杯程くれた。2) あれバカ しとんね (して居るのだ) 言うて。芋バッカ 喰とんね (食べて居るのだ) てやら (とか)、麦バカ 喰とんね てやら 言うて。芋飯バカ 喰とんね よお (食べているのです) 麦飯バッカ 喰とる (食べて居る)、しる (味噌汁) バカ 喰とんね てやら 言うて。仕事しとる (して居る) 時でも 一つの事バカ しとると (して居ると) あれバカ しとんね ない (して居るのだ) 言うて。そして (そうして) 言うた事 いくくら (幾度) も 言うて あげな (あんな) 事バッカ言うて あいな (あんな) 事バッカ 言うとんね (言うて居る) 言うしな あ (言います)。それだけそれ一つの事を しとると (して居ると) それバカ言うて。

はがあわん 派が合わん、考えが合わない。仲間になれない。

はがひ (はがひ) 【羽交】 鳥の左右の羽を打交へた所 転じて 鳥の翼、転じて両手で抱えること。両腕で抱き包む事。はがひじめのはがひもこの語 (志、鳥) [会話] 鳥の羽根。鳥な (が) 抱くやんかな (抱きます)。わたこ (綿入れの着物) や きもん を なあ こして (両方から抱く) すんのを (するのを) ハガイ。ハガイ え (へ) 入ったよおななあ 言よ おった (言っていました)。例えになあ 鳥のハガイへ 入ったよおななあ (だ) 言うて。そやまあ (それ) これへ (此処へ) すくめ (隠れなさい) 言うて。風な (が) 吹いて来ると子、抱いてなあ。子、抱いてまあ。子ら (は) 寒いよ って (から) ぼっぼ (懐) い (へ) 入れたろ (入れてやる) 言うて。帯解いて 懐い 裸で こらら (子供) 抱いてなあ ぬくとめて (暖かくして) くれ よ お った ね な (呉れて居ました)。早よ だれ (どれ) ぼっ ぼい (へ) 入れたろん (入れてやりましょう) 言うて。こごえて来て あそで 来ると (遊んでくると) 早よ して (早く) 帯解いて 裸い (へ) 抱いて 呉れてなあ しよ お った ね な あ (して居たのです)。

はがひ (歯痒) 【形容詞】 歯がゆい、いらだたしい、歯痒い、思い通りならずじれったい。もどかしい。ハガユイの転 (広辞苑) (志 (甲賀)、鳥 (答志)、上、阿、張、名、伊、南、熊) [会話] ややくし (面倒だ) なって

来るよおな (ようだ) 言うのを ハガイよおな 言うやん かい (言います)。人の はあ (歯) ぎちぎち 言う ると (言うて居ると) わがと (自分) 歯な (が) こし よ ぼ な つて (くすぐったくなって) 来る やん ない (でしよう)。なんでも 人な (が) しとん のお を (して居るのを) 見とると (見て居ると) ハガイよおな (だ) 言うて。もそもそ、もそもそ しとると (している) えらい (上手な) 人な (が) 見ると ハガイな て くん ね (来るのです)。ハガイよおな なあ、しよ お して (笑止で) 言うて。

はかい いく 進捗する。はかどる。(阿、張、名) [会話] ハカイク言うのは 仕事な (が) 進む事を、調子よお (よく) 行くの なあ (のを) 今日 は 仕事 な (が) ハカイタ 言う し (言います)。はかど ら せん なあ (捗らない) 言うて、出来 や せん と (出来ない)と、だち (ら) ち な (が) あか せん (あかない) 言うて。

はかいし (墓石) 【名詞】 墓のしるしの石。死者の戒名、俗名、死亡年月日などを刻んで墓に立てる石。

はかい た 仕事が能率好く進んだ はかい く 参照

はかおち 【名詞】 土葬のため、埋葬後 数年を経て棺が腐り、その場が崩れ落ちる事 [用例] 雨な (が) よ け (沢山) 降った よ つて (から) ハカオチ しと らん か (して居ないか) 見て来い。

ばかし 【名詞】 擬似餌 (北、尾)

ばかしもん 【名詞】 偽物 [用例] バカシモン つか ま された (買わされた)。

はかす (捌) 【他サ五】 1) 物をさばく。残り物の出ないようにする。(志 (甲賀)) 2) 水などを流す [会話] 1) 物を ひと ばか (少し) ハカサナ (なければ) よ け (多く) たまって来たなあ 言う し (言います)、2) 水でも よ け たあ (田) い (へ) たまって来た、ち よ いと、ハカサナ (なければ) 多い われ (です) 言うて。みな くち (水の取入孔) を ち よ いと (少し) あけたりしめたり すんの を なあ (するのを)。たあ (田) で あん まり (あまり) 水な (が) おい よ つて (多いから) ハカシ ト カナ (ておこなければ) は ざん われ (いけない) 言うて、ち よ いと (少し) 口あけて出した る (てやる) 事を ハカス 言う の (のです)。1) あ き ない (商売) したり すん の な あ (するの)に ひと ばか (少し) ハカスとか 物を へ ず める (減らす) 事を ハカス 言う なあ (言います)。ひと ばか ハカシ タ ラ ナ (てやらなければ) あん まり (あまり) お い な あ (多い) 言うて。売りさばく 言う時も ハカス 言う。

ばかず (場数) 【名詞】 ある物事を経験する数。多くの経験。[用例] バカズ 踏まな (なければ) 上手んなる かれ (にならない)。

はがため (歯固) 【名詞】 元旦に鏡餅に向い見る儀。転じて固くなった鏡餅。転じて固い鏡餅を嚙む事。はがため。歯固め。歯は齡の意。昔長寿を願って正月三ケ日に大根、瓜、押し鮎、猪肉などを食べた行事。室町時代以降、鏡餅も用いられ近世以降は正月の鏡餅を保存しておいて、六月一日に食べる事も言う。ヨワヒカタメ (歯固) を、ハと讀んだ (大言海) (志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乘)、張) [会話] ハガタメ 昔や (は) 正月に 佛さんの餅を ハガタメや (だ) 言うて 喰いおったやんかい (食べて居ました)。 かつたい (堅い) のおを (のを) はつか (二十日) の正月迄 供えといて (ておいて) ひびり (割れ目) な (が) 割れて かんかん しとるのおを (して居るのを)。 歯な (が) ええ (よい) ときや (時は) うまかりおったもんなあ (美味でした) あれ かりかり嚙むと、 今しゃ (今は) あいな (あんなのを) 喰うたら 蝶番 (下顎関節) うちやったる (壊してしまう) よおな 気持ち な (が) するけど (します) が。 昔や (は) かつたいもん (堅い物) 喰いつけた よつてん (て居たから) あいな (あんな) かつたいもん 喰うと うもおて (旨くて)。 こやまあ (これは) ハガタメや なあ (だ) 言うて。正月のはつか (二十日) 過ぎて それ迄 佛さんに 供えとりおったやん かな (て居ました)。二十日正月 な (が) 過ぎる迄 えべすこ (恵比須講) な (が) 過ぎると、 なんもかも (何も彼も) 下げて しよおったけど (して居たが)、それ迄は 賑やかに しとりおった (して居ました)。二十日 ハガタメ言うて 二十日 ん (に) になると 佛さんのかび な (が) わいて ひばり (割れ目) な (が) 割れて ぼろぼろと 折れやあるいとんのおを (折れて居るのを) 焼いて嚙むと おいしんでやなあ (うまいのです) それを ハガタメ 言うんやんかい (言うのです)。

はがち 【名詞】 寒くて歯がちがち鳴らすこと。北風。あきのはがち参照 (志 (畔名、甲賀)、鳥 (石鏡、国崎))

はかどる (捗) 【自ラ五】 仕事が早く仕上がる

はかないかん 仕事などが進まない。能率が悪い。(志 (布施田))

はかないく はかどる 仕事などが進む はかいく参照

はがねならず (刃金) 有名になる。威勢よくする。元気

がある。(志 (布施田)) [会話] 若い時 や (は) ハガネラシタ もんや (ものです)。

はかば 【名詞】 墓地 (志、多、上、阿、張、名) [会話] ハカバ い (へ) 迄、送って け (て行け) 言うて、墓の事を。石碑の よけ (沢山) 建つと る (ている) とこ (所) を ハカバ 言うの なあ (です)。墓地の事を 言うんやろなあ (言うのでしょうか) まあ 石塔石も いきならして (行き渡って) ハカバも せぼ (狭く) なって来たなあ 言う時も 有るけどなあ (有ります)。

はがはが 【形容詞】 1) 仲が悪い。2) 正確に一致しない。余りがある。(志 (布施田、神明、立神、志島、甲賀、国府、鳥、度) [会話] 1) 仲 な (が) わりいしとると (悪くしていると)、ハガハガ やよつてん (だから) 言うて。2) 合わせん (合わない) ことを ハガハガ。

はかばな (墓花) 【名詞】 1) 彼岸花 (志 (磯部)、一、上) 2) 櫛 [会話] 2) 墓 い (へ) 挿す花や よつて (だから) しきび (櫛) を 言うんかいなあ (言うのでしょうか)。1) そして草花の墓 い (へ) 植え ん (るのを) こや (これは) ハカバナ やれ (だ) 言うんかい (言います)。墓 い (に) よお (よく) 生えとる (ている) もんで (ので) 普通の家 ん (に) 生えとると (ていると) こや (これは) ハカバナ やんかあ (でないか) 言うて。 どいらい (大変) ええ (よい) 花で、長持ちする花や けど (だが) 何処 い (へ) でも 生える花や わい (です)。色は、牡丹色で ええ色 で どいらい 発育の ええ花 であ あ よつけ (沢山) ふえて (ふえて) 来る もんで (ので) よお (よく) 墓 い (に) 植えとる わい (ています)。

はかほり 【名詞】 墓の穴を掘る人。(志 (神明、志島、鶴方、立神、甲賀、国府)、南) [会話] つぼ堀り、ハカホリ。今 しゃ (今は) 隣の人 な (が) 掘ってくれる けど (が)、昔 や (は) つぼ堀りする人 な (が) 有りおつた (有りました)。棺 入れる ぼら (穴) ほんのを (掘るのを)。

はかま (袴) 【名詞】 植物の節に有る茎をおおいまとう皮苞。[会話] ハカマ 言うて はあ (葉) な (が) 枯れて 下る のを (のを) 千切つた んの (てやるのです)。

はがま (羽釜) 【名詞】 鏝のついた釜。中腹周囲に鏝のついた釜。釜。(志 (志島、浜島、鶴方、神明、立神、甲賀)、鳥 (鳥羽)、伊、度、三、四、津、多、上、阿、張、名、北、尾) [会話] 飯炊く釜 ハガマ言う。

ばかまん 【名詞】 馬鹿者 ばかまん参照

はがみ (歯嚙) 【名詞】 歯ざしり。歯と歯をこすりあわせ

て音を立てること。歯齧の義(大言海)[会話] 歯軋りして、好かんなあ(嫌だなあ)言うて。寝とでも(寝ていても)、かりかり かりかり 言うてなあ はあ(歯) 嚙むのを ハガミして言うて、はあ(歯) な(が) いたむ(悪くなる) のん(のに) あんげん(あんなに)して言うて、疍の強い人な(が) あんげん(あんなに) すんのかいなあ(するのでしょうか) はあ嚙んでまあ言うて 子供らな(が) はあ嚙むとまあ はあ(歯) しもたられ(悪くする)言うて。

ばかもな。ばかもん【名詞】馬鹿者(三、鈴市、伊)[会話] バカマン(馬鹿者) バカモナ(馬鹿者は)言うてなあ 阿呆言う事を バカモン上(奴)言うて。

…**ばかや** ばかりだ、だけです [会話] ほん(本当に)今し、来た バカヤ。

ばかやろ【名詞】馬鹿野郎の訛

はからい(はからひ)【名詞】配慮。考え。処置 [会話] ハカライ 言うんかい(言うのですか)。あんたな(貴方の) ハカライで こげん(こんなに) してもろた(貰った)言うて。あんたな こげん(こんなに) せえ(しなさい) 言うたもんで(言ったので) こげん(こんなに)して した(しました)言うのを、あんたな ハカライで こげんしてした(しました)言うて。先生ん(に) とたや(問うたら、尋ねたら) そんなら(それなら) こげんしときゃ(こんなにしておけば) ええや、ねえんかい(よいのでないですか)言うて 先生な(が) ハカライで こげんして言うてくれたもんで(ので)言うて。たいがい めはかるて(見はからって) しとかんかれ(しておきなさい)とか わがとら(自分達) な(が) 決める時は わがとら(自分達) な(の) みハカライで しとかんかれ言うて、ハカロテ ええよん(よいように) しときゃ(しておけば) ええやんか(よろしい)言うて。

はからう(はからふ)【計】【他ワ五】適切に処置する。取りしきる。[会話] こや(これは) なとしよおかいのお(どうしましょうか)言うて、相談するやんない(でしょう)。まあ そやなあ(それは) のお(お前) な(が) ハカライん(に) しとかんかれ(しておきなさい)言うてなあ、どげん(どんなに) しええ(しなさい) 言われやせんし(言えないし)、のな(お前の) ハカライん(に) どんだけ(どれだけでも)でも しとかんかれ言うて。わがとな(自分の)胸でなあ 考えて おもた(思った) 通りん(に) しええ言う事をなあ、まあ のなハカロテ しとかんかれ言うて、あんた(貴方) な(が) 思うよおん(に) しえんかい

(しなさい)言うのをなあ。

ばかりし【形容詞】馬鹿らしい。馬鹿げて居る。

ばかりうり(量売) 買う人の希望するだけの分量を、枀、秤などではかって売る事 [会話] さと(砂糖)でも 団子すんのん(するのに) さと一斤 こおて(買って)来い言うて、一斤も多いわれ(です)、半斤 こおて こおか(買って来ましょうか)言うて。そすと(すると)一斤やどけ(位)入れたてて(ても) なんも(少しも) 甘かるかれ(甘くない)もお 半斤 こおて来い言うて 計ってなあ さとも、皿秤で計って買いおった(買って居た) もんで(ので)。一つの袋い入いとんねやなしん(ているのでなくて)、自分の好きなだけ、どんだけ(どれだけ) くれ(下さい)言うてなあ わがと(自分が) ほしだけ(欲しいだけ) 貰うの(のを) ハカリウリや(だ)言うてなあ。まあす(枀)でもなあ ごご(五合) くれえ(下さい)言う家も有るし、いっしょ(一升) くれえ言う人も有るし、米、買いん(に) いても(行っても) ハカリウリや(だ)言うてなあ。

ばかりこむ【他マ五】分量より多く計量する [用例] ハカリコムと 損ないく(をする)。

ばかりとり【名詞】秤を持って計量する人。[会話] ハカリトリ、一貫也、二貫也 言うて 二貫ひよおりよお(秤量) 三貫ひよおりよお 言うてなあ なのん(名のるのを)。あいな(あんな) どいらい(大きい)声で おめかんでも(叫ばなくても) ええのん(よいのに)言うて。ハカリトリ言うて、計る人を。秤を掛ける(計量する)人をなあ ハカリトリ言うの(のです)。昔や(は) 磯人(海女)でも 一番よお(よく) 獲る人な(が) ハカリトリしよおったわい(して居ました)。そすと(そうすると) ハカリトリな(が) 無いと とまいどんななあ(が) かけてくれんねけど(計って呉れるのだが)とまいどんな(が) 用事な(が) あつて出来ん(出来ない)時は 一番よけ(多く)物を獲るにげな(人が) ハカリトリしよおったん(して居たのです)。

ばかりとる 計量する。[会話] ハカリトルと ふうたいごち(容器とも)いくら言うて。

ばかりめ(秤目)【名詞】はかった量。はかりだか、はかる分量。[会話] ハカリメ せせてなあ(争って)、おつきい(大きい) はかや(秤は)一つ寄せたや(てやれば) 百メ(百匁) ちごて(違って) くんな(来るのは) なんのこた無い(簡単です) おやいび(親指) きゅつと 捻つたや(てやれば) やんない(でしょう)。

一貫や二貫の秤なら ええんけど (よいが) 十貫も十五貫もやよってなあ (だから) 星一つ、指いごかしたや (動かしてやれば) 百メ (匁) や 二百メ (二百匁) や (が) 出てくねやんかい (来るのです)。ハカリメ 言う と 量った目方、ハカリメで 分けよや (ましょう) 言うしなあ、そすと (すると) おらん (俺の) なあ (のは) すけなかつた (少なかった) 言う と、ハカリメ せせってまあ (争って) 言うて。

はかりめし【名詞】 盛り切りの飯。[会話] 沖で飯をハカリメシ 貰うと その喰うた (食べた) 残りを握って 焼いてくんのを (来るのを) 沖のもち言うて。

はかりめせせる 少しの量の多い少ないを文句言う。少しの利益を得るため、あくせくする。[会話] ハカリメセセル おんなの (俺の物が) おい (多い) てやら (とか)、人のお (人ののが) どいらい (大変) おい かつた (多かった) 言うて、おらんのおも (俺のもの) ちよいとすけなかつたよおな (ようだ) 言うて そげな時ん (そんな時に) ハカリメセセル言うのなあ (のです) ハカリメセセッテ あんだけのものを (あれだけの物を) おいてやら、すけないてやら 言うて。わがとな (自分の) のおな (のが) ちよいとすけない と、人のおな (のが) おい おもて (思つて) 見とて (見て居て) あの人のお (のが) おい かつた とか、おらん (俺ののは) あの人 (の) のお (の) から見たら どいらいすけなかつた 言うて ハカリメセセル 言うのなあ (のです)。

はがれた 1) 暴利を取られた (志 (布施田)) 2) 剥げた 3) 剥ぎとられた [会話] 1) こや (これは) まあ 三円で買われんのん (れるのに) 言うたや (言ったら) 五円でこおて (買って) 来た言うて、おおたハガレタなあ (のだ) 言うて。たっこお (高く) 売って おこすとなあ ハガレタなあ 言うて。3) 着とる (着ている) もん (物) ハガレタ。きもん (着物) も、なんもかも (なにもかも) 皆 ハガレタ。ぜん (銭) つこたて (使つてしまつて) きもん も ハガレテキタ言うてなあ 羽織のんどいてけ (脱いでおいて行け)、今度 ぜん (銭) もて (持って) 来る迄言うてなあ 羽織 取られて来る人も有るし、着とる (着ている) きもんのんどいてけ (着物、脱いで行け) 言うて、禪一つん (に) ハガレテ くんのも (来るのも) 有るし。2) ひつといとんのおな (ているのが) 剥げて来た 言うのも ハガレタ言うし。

はがれる (剥)【自ラ下一】 1) はがした状態になる。はげ落ちる。2) 暴利をとられる。3) ひどく叩かれる。

叱られる。文句を言われる。

ばかん 1) 馬鹿に (志) 2) 大変に

ばかん 1) ので、のに 2) ばかりに [用例] あいな事 言うたバカン 撲られた

はぎ【名詞】 柴、火付け用の小枝。葉木。(志 (甲賀)) [会話] ハギ 言うな (のは) はあ の ついとる (付いて居る) きい (木) を ハギ 言うね (言うのです)。ぼく を ふつとい (太い) とこ (所) 割木 (割つて薪にしたもの) に するとこ (所) を 抜いた後を ハギ。かい やま (薪にする木を買う事) い (へ) 行くと、ぼく (丸太) は、ぼく で、割木 (に) する ふつとい のおは (のは) 皆 抜いて そして (そうして) その はあ (葉、小枝) だけ ゆわえて (束ねて) ハギ な (が) なんば (幾束) 出来た 言うて。

はぎ (接)【名詞】 補修、つぎはぎ。

はぎあわす (はぎあわす)。 **はぎあわせる (はぎあはせる)【他サ下一】** 布や板などを継ぎ合わせる。[会話] つぎ (つなぎ) 合わすのを ハギアワス言うの。ハギツギ した言うて、きもん (着物) やなんや (とかいろいろ) 破れとんのおを (ているのを) ふたあつ (二つ) 合わせてすんのを (するのを) ハギツギや言うてなあ。

はきくだし (吐下)【名詞】 嘔吐と下痢、胃腸障碍。[会話] 吐いたり 下したり (下痢したり)。あたりもな (が) して 食中毒に当つて ハキクダシして 言うて。中毒にあつと あたりもん や (だ) 言うて あたりもんで ハキクダシ しとんねてわれ (して居るそうだ) 言うて。

はきけ (吐気)【名詞】 胃の中の物を吐き出したくなる気持ち。胸がむかかむすること。[会話] ハキケな (が) して来た。なんやら (なにか) 当たつたかして (のか) むなぐるし (胸苦しく) なつて来た言うてなあ。吐きたい気持な (が) して来た ハキケな して来た言うのなあ (です)。

はきだし (掃出)【名詞】 室内のごみを掃き出すために作った畳や床に接した部分。[会話] ハキダシ こしや えとか な (作つておかなければ) はざんなあ (いけない) 言うてなあ、掃いて すぐん (に) 出したる (てやる) とこ な (所が) 無けななあ (無ければ) 一つごと と (その度ごとに) 塵取りで取らな (なければ) はざんやんない (いけないでしょう)。そんで (それで) すぐん (に) ハキダシしとか な (しておかなければ) はざんなあ、部屋は言うて。ちよいと (少し) たつかい と (高いと) 掃き出されんで (出されなくて) 取ら

な(なければ) はざんやんない。そすと(すると) ひつくい(低い)と すぐん(に)掃き出してやられる やんない。それやよって(それだから) ハキダシしとかなはざんわれ(駄目だ) ひととこおつ(一カ所づつ)部屋は言うて。

はきだす【他サ五】全部出す

はきだすほどある 沢山有る。[用例] ぜんな(金が) ハキダスホドアル。

はきだすほどいる 箒で、掃く程 金が要る(志(布施田)) [用例] あにんこな(兄が) 嫁もらい あねんこな(娘が) 嫁入りして ぜんな(金が) ハキダスホドイル。

はきたて【名詞】廊下 縁側

はきだめ【名詞】ごみ捨て場 [用例] ハキダメイ(に) 鶴やれ(だ)。

はきついとる はっきりして居る、躊躇する所が無い(志(布施田))

はぎつぎ(接継)【名詞】はぎ合わせたり、継ぎ合わせたりすること、又そのもの。衣類などの破れているものを補い縫い合わせること。[会話] つぎ(布)当てる時は ツギハギ 言うて ハギツギん(に)して言うて よけ(多く) つんでであると(ついで有ると)。ハギツギ 言うて 大工でも ハギツギ 言うの(のを) すんねんなあ(するのです)。木 じっばん(立派に)切り口を切つてといて(切っておいて) 合わして(合わせて) ハギツギにして言うて。

はきつく【自力五】はっきりしている(志(鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、松) 2) 活発である(鳥(鳥羽)、員)

はぎった かつきりと晴れた はぎる参照(志(浜島))

はぎどり【名詞】暴利をむさぼる事 [会話] なんやかや(いろいろ) たっこお(高く) 売っておこすのをなあ ハギドリん(に) おおて(遭って) 言うて。 なんでも(なにでも) たっこお 売るもんで(ので) はがれんねどお(るのだ) あれん(彼に) こおたら(買った)ら 言うて。今日は七夜 すんねよって(するのだから) 魚な(が) いんねよって(要るのだから) これ売ってくれえ(下さい) 言うて、まあ みかけあきない(足許を見て売る)で これやったら(だったら) 幾ら言うても 出す 言うのでなあ。つね(いつもは) 三円で 売るもん(物)なら 五円も 言うて はがれた よお ハギドリん(に) おおたよお(遭った) 言うて。

はぎとる【他ラ五】 1) 暴利をむさぼる 2) 身につけて居る物を無理に奪う

はきもん【名詞】履物。草履、下駄、靴など、足に履く物の総称。はきもの(履物)の訛(桑市、員、鈴市、伊、張) [会話] こつから(此処から) 入って来たのん(に) ハキモンな(が) 無いない言うて、靴とか下駄とか無いの言うのなあ(です)。

はきもんや【名詞】履物を売る店

はぎる【他ラ五】 かつきり晴れる。映ゆる。映える。(志(布施田)) [会話] ハギル。西の方な(が)、山な(が) ハギッテキタよって(から) こや(此れは) 風ん(に) なつて くんねなあ(来るのだなあ)とか、東な(が) ハギッテキタレ(来た) 言うて。東の明いのおと(のと)、かか(妻)の賢いな(のは) なんもならせん(何んにもならない) 言うて。東な(が) あかるうても(明るくても) 天気ん(に) ならん言う事やわい(です)。西な(が) 明るなつて来ると 天気ん(に) なんねけど(なるのだが)、東な(が) 明るうても 天気にならせんもんで(ならないので)。晴れて来る事を、ハギル言うて。山な(が) ハギッタよって(から) ひより(天気) ん(に) なんねど(なるのだ) 言うて。

はぎれ(端布)【名詞】布の小片 着物を作るときに出る布の残り

はぎれ(歯切)【名詞】歯で咬んだ時の感じ 又、物言いの状態 [用例] さくさくと ハギレなよおて(がよくて) うまい。

はく(白)【名詞】 1) けがれのない事。2) 人を疑う事を知らない事。(志(布施田)) [会話] 心な(が) ええ(よい) 人を ハクやなあ(だ) 言うて。心なよおて(がよくて) 人な、なん(何) 言うてもなあ がいん(あまり) ごおわかさせん(腹立てない) 人。あの ひた(人は) 白米やなあ(だ) 言うて、あの ひた ハクやれ(だ) こころ(心は) 言うてなあ。汚れな(が) 無い言うんか(のか) なんも(少しも) 悪心な(が) 無い人を。

はく(箔)【名詞】青魚の表面につき 表皮の上に有る薄い膜 ハク(薄)の意か [会話] 鰹のハク 取つたら な(てやらなければ) はざん(駄目だ) 言うて 体の上ん(に) うつつうう(薄く) 付いとる(ている) かあ(皮)を はんだる(はいでやる) 言うのを。

はぐ(剥)【他ガ五】 1) 皮をむく。2) 人の身につけている物を奪いとる。3) 暴利を得る。(志(布施田)、度) 4) つなぎあわせる(志(布施田)) [会話] 1) 鰹でも かあ(皮)を、出刀で すんのより(するのより)、てえ(手)で ハグと 楽な(だ) 言うて 上から

ハグけど (が)、そやけど (しかし) みい (身) な (が) 付いて来る時な (が) 有るわい (有ります)。

3) ハンデオコシテ言うて たっこお (高く) 売っておこすのを (よこすのを)、はぎどりん (に) おおた (遭った)、はがれて 来たよお (来ました) 言うてなあ。

はくしょん 【名詞】 はくしょん参照

はくしょんべ 【名詞】 嘘をして小便 尿を漏らす はくしょんべ参照

はくそ。はぐそ (歯糞) 【名詞】 1) 歯の表面に付着したかす。食べかすや微生物などの付着物。(南) 2) 少量の意を表す [会話] 2) ハクソ程、もろて (貰って) 言うてなあ。ちよいと (少し) くれるとなあ、なんやかや (いろいろ) ちよいと 貰うと、くたると (食べると)、こや (これは) ハクソん (に) なつてかれ (なつて行く)。口い (へ) 入れたら なんも (少しも) 無い よん (ように) なつてたない (なつて行つた)。ハクソやなあ (だ) 言うて 少しの事を。

はくそんもならん 極く少量の食べ物

はぐでくる 膨れる。弛む。[会話] ハグデクル 膨れて来る だるん (弛るん) で来る だるんで来んのを (来るのを)。

ばくつく 【他カ五】 食べる [用例] 飯 パクツク

ばくはん (麦飯) 【名詞】 米に麦を入れて炊いた飯。麦めし。[会話] 麦飯 パクハンや (だ) 言うやんかいな あ (言います)。パクハンやけど (だが) やつかんかい (食べませんか)。

はぐむ 皺がよる。膨れる だるむ参照 [会話] 皺な (が) 寄って来ると ハグム 言うて、あの人ん (に) きもん (着物) こしやえてもおたや (作ってもらつたら) 皺な (が) 寄って ハグンデキテ みとみのおて (見苦しくて)。

はくやらくだすやら 嘔吐し、下痢もする (志 (布施田)) [用例] あたりもんなして (食中毒で) ハクヤラクダスヤラ 大騒動や (だ)。

はくらい (舶来)。はくらいもん (舶来物) 【名詞】 上等の物。外国製品が、国産品より品質がよかつた事から [会話] ハクライ 言うな (のは)、上等のもん (物) を ハクライモン。こや (これは) 上等のハクライや れ (だ) 言うて。ちんむるいここんとつびん (珍無類古今特品) や (だ) 言うて。

はぐらかす 【他サ五】 1) 失う 2) 誤魔かす

はくらんかい 【名詞】 上等の物、事について言う上等舶来から来た語。

ぱくりかご 【名詞】 物を運ぶのに用いる大きな竹製の籠。

ばいすけ参照 [会話] パクリカゴ 言うて、尻のけつに よお (よく) 似とるもんで (似ているので)、朝鮮の人な (が) 尻の事を パクリ言うねやんかい (言うのです)、その籠な パクリに よお似とるもんで パクリカゴ。

ぱくる 【他ラ五】 貧り食べる (上、阿)

ぱくる 盗む [用例] 何処やらで (か)で パクッテ 来た。

はぐれる 【自ラ下一】 人からはなれる。はずれる。人と一緒に行動をしない。(鳥 (鳥羽)) [会話] もの言いでも する事でも、人より ハグレタ事 するとさいご (その時)、あや (彼は) しよおしよのものやないね やれ (一筋縄でいかない者だ)。

はぐんできた ゆるんできた はぐむ参照 [会話] きもん (着物) 裕ん (に) すると、裏と表と合わんで (なくて) だるんで (あまって) くん (来る) のを ハグンデキタ 言うのなあ (です)。裏と表と合わして 縫うてなあ 撫でると 波な (が) 打つて来ると こや (これは) ハグンデキタない (来た) 言うて。

ばけ 【名詞】 擬似餌 (度、北、尾)

はげあたま 【名詞】 禿頭 髪が無くなった頭 (志、鳥、員、四、鈴市、亀、安、津、一、松、多、上、阿、名、度、伊、北、尾、熊)

はげきんか 【名詞】 禿頭 (志 (布施田))

はげくち (捌口) 【名詞】 1) 商品などの売りさばき先。はける参照 2) 娘の嫁先 縁談 [会話] 1) あきない (商売) すんの (するの) でも、ハケクちな (が) わり (悪い)、売れ口 (売れ行き) な (が) わりと ハケクちな (が) わりな あ (悪いです)。

はげし (激) 【形容詞】 勢いが強い。はげしい。はなはだしい。[会話] 今日は風な (が) ハゲシ な 言うて、よお (よく) 吹いて来た言うのをなあ。ハゲシ な つて 来た なあ 言うて、なんでも (なにでも) えろ な つて (きつくなつて) 来ると ハゲシ な つて 来た なあ 言うてなあ。こんじよ (根性) のわり (悪い) 人でも あの人、ハゲシ ねん なあ (のだ) 言うて、こんじよ な (が) ど いら い (大変) わり 人 を なあ。おた ハゲシ 怒られたよお言うて、どぎ つく (はげしく) 怒られる時をなあ あんな (彼が) 怒つて来たら ハゲシ ね ど お (のだ) 言うて。

はげち 【名詞】 不毛の土地 樹木の無い土地 (志 (片田、浜島)、阿、張)

はげちやつびん。はげちやびん (禿茶瓶) 【名詞】 禿頭。禿げ茶瓶。禿げた頭を茶瓶に見たてて言う。(志 (布施

田、員、鈴木、安、津、松、南) [会話] 禿げちゃんや (だ)、ハゲチャピン 言うやんかい (言います)。ハゲチャピンやなあ (だ) あのひた (人は) 言うて禿げとる (て居る) 人 見ると。

はげちゃん 【名詞】 頭の禿げて居る人

はげちよろ 【名詞】 【形容詞】 所々、退色したりして、斑になっていること。(志 (鶴方)) [会話] 頭な (が) 禿とんの (ているのを) 禿た。ちよいと (少し) 禿とんの、ハゲチヨロや (だ) 言うてなあ、よけ (沢山) 禿とると (ていると)、きんからこやれ (だ)、きんからかんや (だ) 言うやんかい (言います)。そして ちよろちよろ 禿とると ハゲチヨロやなあ (だ) あや (彼は) 言うてなあ。

はげみ (勵) 【名詞】 1) 努力する事。精を出すこと
2) 努力する原因

はげみち (捌道) 【名詞】 1) 水などの流れ出る所 2) 品物の売り捌き先

はげもん 【名詞】 1) 化物。(志 (志島 安乗 国府)、鳥 (国崎 答志)、桑郡、員、鈴木、張、伊) 2) 変わった格好をして居る事。[会話] 2) バケモンな (か) 出たよおな (ようだ) 言うて。何か変わったふう (格好) したると (して居ると)。1) 狸な (が) 化けると だんだらすじの 棒縞着てくんの (来るのが) えてこいやてや (得意です)。狸な (が) 化けると 笹のはあ (葉) や (とか)、よし (葦) の葉を 休い (へ) ひつつけて来ると、そんな (それが) だんだらすじん (に) めえんの (見えるのです)。化かされると だんだらすじの坊主な (が) 出て来て言うて。

はげやま 【名詞】 樹木のない山 (志、鳥 (神島))

はける (捌) 【自カ下一】 1) 捌ける。水などがたまらず流れる。2) 物が売れたり、貰われたりして他所へ移る。[会話] 1) よお (よく) ハケタナア 言うて、水も あの畑な (が) 言うて、かたぎ (傾斜) な (が) ええと (よいと) よおハケンナア (はける) 言うて。水な (が) はけくち (捌口) よお かたげて (斜に) したくと (しておくと) 水な (が) よおハケルシ 真っすぐん (に) したくと はけくちな (が) わり (悪い) 言うし。2) あきない (商売) すんのでも (するのでも) 売れ口な (が) わりと はけくちな (が) わりなあ (悪い) 言うて。なんやかや (いろいろ) よお売れた時も よお ハケル言うし (言います)。

はげる (剥) 【自ガ下一】 色が薄くなる。退色する。あせる。[会話] 色な (が) ハゲル。色な (が) かけた (退色した) 言うてなあ 色な (が) ハゲルの、色な

(が) かけて (退色していつて) 言うんなあ (言うのです)。ほけてて (ほけていつて) 言うたりなあ。

ばける (化) 【自カ下一】 全く違ったものになる。物を交換する。変る。[会話] これ もてたら (持ていつたら) あれん (に) バケテ返って来たよお 言うて、替え事するとなあ 別のもん (物) に 変えて戻って来る言うのを。

はこ (箱) 【名詞】 大便。口より摂取された飲食物が、消化管で吸収された残渣と消化管上皮の脱落物。腸内細菌の混合物で肛門より排泄された物、くそ、糞、米が異なるものになる。箱、函、筥、匣、篋、物を入れて置く器。多くは直方体で蓋がつく。廁において大便を受けるもの。しのはこ、尿の箱。小児の糞を婦女の俗諺にババと云は、即ち糞の音を和らげ云ふなり。亦ハコと言うことは貴人の雪隠は、箱の出し引きにて取る故に終に糞を呼びて箱と言うなり (伊勢の浜萩)。(志 (片田、畔名 浜島 布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (国崎、相差)、松、度、伊) [会話] ハコ 猫のハコ。いん (犬) のハコ。大便の事を。爺やん ハコ (大便) 踏んだ 言うたや (言ったら) 箱なら かまへんわ (かまわない) 言うて。

はご 【名詞】 豆穀等。牛馬の飼料にする。牝牛をはごと言う地方 (島根県出雲) あり関係の有るか (志 (片田、浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府)) [会話] ハゴ。豆のハゴ、豆のかすを ハゴ。ハゴダアラや (だ) 言うて、なんでも (何でも) ほばり込むと (食べると) ハゴダアラやよって (だから) 言うて。鶴方の人らな (が) ハゴ 変えん (に) 来ると、なんもかも (何も彼も) わりもな (悪い物は) 皆 こやし (肥料) や (とか) 牛のえさ (餌) ん (に) すんのん (するのに) 入れ込んでくもんで (で行くので) ハゴダアラや (と) 言うて。なんでも入れ込むと。そやもんで (それで) 御飯よけ (沢山) 食べるやんない (でしょう)、なんでも食べるやんない、ハゴダアラやよって (だから) なんでも食べるね (食べるのだ) 言うて。ハゴ 言うのは こやし (肥料) にしたり、牛の餌に 一番ええんやんかい (よいのです)。此処らは牛な (が) 無いよって (から) こやしん (に) たるごえい (に) まめんだり (混ぜたり) そんなり (そのまゝ) 振ったりして こやしにするけど (が)、あしこら (鶴方の方は) 牛な (が) 好物やよって (だから) 牛の餌ん (に) 皆すんの (するのです)。

はごお (はがう) 【名詞】 浜島の女兒の産声 [会話] 生

まれて来ると 浜島のこお(子)は、おぎゃあ おぎゃあ 言うの、ハゴオ ハゴオ言うて。浜島は おやまさん(女郎) な(が) 有りおってだ(有って) おやまさんやもんで(なので)、浜島は おなご(女)の子 な(が) 生まれると ハゴオ ハゴオ 言うて 泣く んてわれ(泣くそうだ) 言うて、男らな(が) いて(行って) はがれて来るもんで(ので)。

はごがい【名詞】幼児が庭にした大便を掻き寄せる大きな鮑の貝殻。[会話] 子供な(が) たれた(した) はこ(大便) い(へ)、灰ふつ いて(ふりかけて) ハコガイで掻くと はこな(が) 残らせん ねてや(残らないのです)。ハコガイ 言うのは 鮑の おっきいのお を(大きいのを)。

はごがえ【名詞】豆殻を蓆などと物々交換する。[会話] きい(薪) や(とか) 蓆 持って ハゴと 換えん く ん ねてや(換えに来るのです) 鶴方から。わしら(私は)一俵も二俵も 豆 採るもんで(ので) はご な(豆殻が) もの す ご お(大変) 有ん ね やん かい(有るのです)。此のはご な(が) な と と(なんと) する かい な あ(しようか) 思う程あ ん ね。 そ す と(すると) 鶴方の人らな(が) 来ると むしろ が ます(蓆吠) のどいらい(大きい)の 持 て 来 と い て(持って来て) 踏んで踏んで ばた ふ ご(大きな器) ん(に) なん杯有っても い っ び よ い(一俵へ) 入 れ 込 ん で く の(行くのです)。あ げ ん(あんなに) よ け(沢山) あ ん の ん(有るのに) 皆 入 れ 込 ん で て(行って) 蓆一枚置いといてた(て行った) ば か や(ばかりだ) 言うて、か え こ と(交換) に。そして 蓆一枚置いといて(ておいて) 蓆 お い た ん な あ(置きましたよ) 言うて 行くと、なん枚 置 い て あ ん ね(有るのか) 言うて一枚。あ の よ け(沢山) の は ご み ん な(皆) 入 れ 込 ん で、あ げ ん つ め た 事 や(だ) 言う程 詰めて く ね(行くのです)。い び(指) も 通 ら ん よ お ん(通らないように) 詰めて。ば た ふ ご ん(に) なん杯有っても い っ び よ い(一俵へ)、皆 詰めて く ん や ん か い(詰めて行くのです)。そ や よ っ て(それだから) はごだあら 言うて、よ け(多く) 入 れ 込 ん で く も ん で(行くので) 飯でも よ け 食 べ る も ん(者) を はごだあらや(と) 言うね(言うのです)。

はこする 大便をする(志(浜島、御座、志島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥(国崎)、度)[会話] 大便するのを ハコスル言うてなあ、今 し や(今は) 便所い行く言うてなあ。昔や(は) は こ た れ て こ お(来ます)、は こ た れ て 来 い 言う て なあ。赤ちゃんで

も 便すると あ や ま こ の か(子は) は こ た れ と ら れ(ている) は よ(早く) 尻(おむつ) 変 え て く れ な い(くれなければ) 言うてなあ。

はごぜん(箱膳)【名詞】一人前の食器を入れておく箱。その蓋を膳の代用にもする容器。(志(布施田))[会話] 喰うた茶碗と箸と 入 れ と き お つ た の(入れて置いたのです) ハコゼンへ。お か ず(副食)の残りを ほ つ た ん の(放ってやるのが) 勿体ない時は 入 れ た り し と り お つ た(して居ました)。味噌を て ざ ら(手皿) い(へ)、て し ょ お ざ ら(小皿) い(へ) こ び つ か し て(こびりつかして) 入 れ と る(て居る) 人も 有 り お つ た や ん か い(有ったで有りませんか)。一人一人 こ げ な の お え(四角で一辺約35cm) 此の位 ふ つ か い(深い20cm位) 塗って 有 ん の へ(るのに) 皆重ねて 家 内(家族)の多い う ち や(家は) 積 ん ど り お つ た わ い(積んで居ました)。

はこだ 運んだ

はごだ あら。は ご だ て。は ご だ ら【名詞】1) 大豆殻などを入れる大きな俵。荒筵二枚の端を止めて作って有る。はご参照 2) 大食漢。はご参照 [会話] 大豆の殻を 買 い に 来 よ つ た ん や ん か い(来て居たのです)。粗筵で ど い ら い(大変) お っ き い た あ ら(大きい俵) こ さ え て(作って) ね じ 込 ん で(入れ込んで) な ん で も(なにでも) 入 っ て く ん や ん か い(入って行くのです)。お っ き い(大きい) も ん で(ので)、そ や も ん で(それで) それを ハゴダアラ。ハゴダアラ な ん で も(何でも) 入 れ 込 ん だ ん の(入れてしまおうのです)。²⁾ な ん で も(何でも) 食べる事を ハゴダアラ 言うの(のです)。

はこたれ【名詞】人をのしって言う語。糞たれ [会話] ハコタレも 糞たれも 一 緒 や(だ)。

はこだれ 1) 運んでやれ 2) 運びました

はこたれる 大便をする(志(国府、片田、鶴方、神明、立神)、鳥(相差)度)[会話] ハコタレル 言うのも は こ す る 言うのも、一 緒 の 事 便 所 し と る(している)。

はこちようちん(はこちやうちん)(箱提燈)【名詞】携帯用の灯提 [会話] ハコジョオチン 言うのは、ま げ も ん み た よ な(のような) も ん(物)へ 提灯 畳んで入れたるの(てやるのを)。提灯 た と だ(畳んだ) よ お な 顔 や な あ(だなあ) 言うて黴でなあ。

はこなつまる 便秘する [用例] ハコナツマツテ 出 や ん(出なくて) ええ苦しみや(です)。

はこぶぐ(箱河豚)【名詞】河豚の一種、ハコフグ科の海

魚、全長約四十糎に達する。体は箱状で体の横断面は、ほぼ四角形 尾柄部以外は堅い甲で覆われる。棘は無い。体色は黄、または黄褐色で 青または青緑色の円紋があり、各ひれは黄褐色。無毒で食用になる。

(志) [会話] 箱みたまん (のように) なっとるもん で (なっているの) 言うんやかなあ (言うの) でしょうか。食われやせん (食べられないの) やんない (でしょう)。かつとおて (堅くて) 出刃も通らせんの なあ (ないので) 入箱みたまん (のように) 四角に しとるもん で (しているの) ハコフグ。

はこぼく 【名詞】 白墨、チョーク (上、阿、張、南)

はこぼこ 【名詞】 白墨、チョーク (志、鳥)

はこぼれ 【名詞】 切れ物の刃の欠ける事

はこまめぐり 体中大便にまみれること。大便をあちこちにつけていること。はいまめぐり参照 [会話] まめぐる 言うな (のは) まぜあわす 言うのなあ (のです)。子供らな (が) ハコマメグリん (に) しとんな い (している)。

はこめがね 【名詞】 海底を覗くため四角な木枠の底にガラスをはめた道具 (熊)

はさ 【名詞】 海底の岩礁の裂目 ハサ (挟) に関係あるか (志)

はさ 【名詞】 魚網をかけて作業する丸太を組んだ作業場。網干場。物干場。(大言海) ハタキ (機木) の 転 ハツキの訛 ハサ (挟) に関係あるか。(志 (布施田)、鳥) 次項 はさ 参照

はさ 【名詞】 稲架。刈り取った稲をかけて乾す設備。(志 (鶴方、神明、立神、甲賀、国府)、鳥 (加茂)、桑市、四、安、津、一、飯、上、阿、張、名、度) [会話] たあ (田) 刈らんならんよって (から) ハサも組んで えごと (十分に) かんまえな (構えなければ) 言うたり 田の時や (は)。めえ (若布) の 口な (が) あくねよって (あくのだから) ハサ 組まな (なければ) はざんなあ (いけない) 言うて、杭打って。網の口な (伊勢海老漁が) 開くので ハサも 組んで かんまえた (構えた) 言うて。ハサを こしらえる 言うの (のを)、組む言うのなあ (のです)。干し場を こさえんの (作るのを) ハサ組む。丸太渡して 杭打って なあ (縄) で しばって すんの (するのを) ハサ組んで かんまえとかな (溝えておかなければ) 言うて。

はざあざった。**はざあらった** 駄目だった。いけないかった。[会話] 魚な (が) 釣れらった (釣れなかった) とか、今日は かいむ (皆無) やなあ (だ) 言うて、

何んにも 無いことなあ (です) かいむ、ハザアラッタヨオ 言うて。

はざあん 駄目だ いけない (鳥)

はざおかい。**はざおかな** (女性語)。**はざおかれ** 駄目だ [会話] めえのとと (瞳孔) な (が) 開いとるもん (ているから) ハザオカイ 言うて、尻の穴な (が) 開いとるもん、ハザオカレ 言うて。

はさかまる はさまる、はさかるに同じ ハサ (挟) に、関係有るか (志 (鶴方)、鳥、伊) [会話] こいなとこい (こんな所へ) ハサカマル言うて、せばあいとこい (狭い所へ) 行くのを ハサカマル言うて、そして此処へ はさけとけ (ておけ) 言うて。自分が はさけるのおを (のを) はさける。ハサカマル 言うな (のは) 狭いとこい (所へ) 入ると、へし込む (押し込) のおを (のを) はさかる 言うの (のです)。はさける 言うのは 自分で あらけといて (広げておいて) 一つやどけや (一つ位は) はさけとけ (ておけ) 言うて。ずっと 並んどる (で居る) とこい (所へ)、無理に入ると ハサカマリん来た。おらのとこい (俺の所へ) おっそおから (遅くから) 来ておって (来て居て) ハサカマッテ来て言うて。無理矢理入って来ると、あとからきておって真ん中い (へ) ハサカマル。そすと (そうすると) 来る人は はさけてくれえ。わし (私) も 此処い (へ) はさけてくれえ言う人も有るし、なっとも (何も) 言わんと (言わずに) おしわって来ると おしわって ハサカマッテ来たんよお 言うて。おしわって 言うと 人な (か) おるとこ おしわけて来る事やわい (です)。真ん中い (へ) 入り込んでくと (で行くと) おしわって来た 言うて。

はさかる (挟) 【自ラ五】 はさまる。挟まる。物と物との間の狭い所に入る。はさかまる参照 (志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、国府)、鳥 (神島)、員、三、鈴郡、鈴市、安、津、一、松、上、阿、度)

はさくら 【名詞】 隙間。間。ハサ (挟) を活用した語クラは股クラのクラと同じか (志 (布施田)) [会話] 島と島との あい (間) な (が) ハサクラ。ハサクラ 言うのは あわい (隙間) な (が) せえ (瀬) の あい (間) な (を)。

はさける 【他カ下一】 はさむ。入れる。物を両側から押さえつける。ある物の間や隙間に物を入れる。(志 (浜島、鶴方、神明、甲賀、国府、安乗)、鳥 (答志)、桑市、鈴市、安、津) [会話] 指の股い (に) ハサケル 言うて、其処らい (に) ハサケトケ、そや (それ) 此

の紙切れも まあ うしのたられ (失ってしまう) 言うて。 なんえ (なにに) でも はさけおつたやんないなあ (居たでしょう)。物と物との間い (に) 入れとくのをなあ (ておくのです)。 あんまり (あまり) こや (これは) よけ (沢山) あいとんない (開いている) 紙 ハサケトケ 言うてなあ、 しきめ (数目・畳の間) な (が) よけあいとると (ていると) 新聞紙 折ってハサケオツたやんない (挟けて居たでしょう)。

はさこ。はざこ【名詞】 畝と畝との間。はさま、迫間。狭間からか、物と物との間の狭くなった処。谷あい、谷間。(志(布施田)) [会話] 畝のハサコ。畝と畝との間を へっこんどる (で居る) とこ (所) をなあ ハサコや (と) 言うの (のです)。山と山との 谷底ん (に) なつとる (なつて居る)。ハサマ 言うて 磯辺のハザマも たにやいや (谷間です)、五ヶ所のハサマも あれも谷間や (です)。ハサコ 言うな (のは) 畝と畝との間も 狭いし、両方 たっかい (高い) とこの谷。

ばさつく【自力五】 水分が乏しくて、ばさばさとした感じがする。[会話] 麦飯な (が) こおおて (硬くて) バサツイテ ほん (本当に) 旨ないわれ (です) 言うて、麦飯な (が) 麦な (が) よまり (水を含む) な (が) 前な のおはなあ (のは) バサツイテ 口から飛び出して来てなあ。 バサバサして 今日の 飯や (は) 旨ないなあ 言うて 水気な (が) すけない (少ない) 事をなあ、バサツク。

はさば【名詞】 物を干す場所。はさ参照 (志(船越、志島、甲賀、国府)、鳥(国崎)、度、伊) [会話] 網のハサバ、めえ (若布) のハサバ 稲のハサバ。皆 なるい (長い丸太に) 干すのを ハサバや (だ) 言うて。なるで 干すとこ つくんの (作るのを) ハサバ。ハサバも こさえな (作らなければ) はざんわれ (いけない) 言うて 抗 打ったり さぎつちよ (三叉) やったり (組んだり) して ハサバ組んで 言うてなあ。

ばさばさ【形容詞】【副詞】 よく乾燥した状態 水分が乏しい ばさつく参照

ばさばさがみ【名詞】 1) 乱れた髪 (名、南) 2) 油気の無い髪

ばさま【名詞】 婆様。やゝ尊敬の念あり。(南、三) [会話] バサマや (とか)、じさま (爺様) や言うて、爺さん 婆さん 言うのを。爺さん 婆さん 言うのより じさま バサマ 言うて ちよいと (少し) 丁重に 言う事やわい (です)。

はさみ(狭)【名詞】 舟の部分の名称。胴の間と艫との間。

(志(布施田)、鳥(菅島)、四、鈴市、度、北、尾、南、熊) [会話] 胴の間と 艫との間に ハサミ 言うて とこ (所) な (が) 有つて。

はさみとぎ【名詞】 狡い人 密通する男

はさみとぐ 奸通する [会話] すつてのこと 言うな

(のは) 研ぎ屋な (が) 鉢 研ぐ人な (が) 回つてきおつて (来て居て)、とおさん (主人) は、留守やし (だし)、母さんは一人おるもんで (居るので)、母さんな (の) とこいて (所にいて)、ふたんな (二人が) なんしょごと (内緒事) を、研ぎ屋と、不倫しとたや (していたら)、終わつた時に、とおさんな (が) おおい 言うて やつて (帰つて) 来て、ああ、すつての事に見つけられんねやつた (見つけられる所だった)、もおちよいと (少しで) 見つけられんねやつたなあ (見つけられるのだった) 言うた。そやもんで (それだから) 研ぎ屋な (が) 逃げん (るのに) すつての事、すつての事 言うて 逃げた 言うて、そんで (それで) すつての事や (だ) 言うて 昔の人な (が) 言よおつた (言っていました)。研ぐ道具な (が) 違とん なあ (違っています)、研ぎ道具な (が) 違とる (違っている)、そやよつて (それだから) それ ハサミトグ 言うて 言うやんかい。あや (彼は) ハサミトギやよつて (だから) 言うて、ずるい人を言うやんかい (不倫する人を言います)。男の人でも あやまあ (彼はもう) ハサミ トグ ン (のに) 上手なよつてん (だから) 言うて。

はさみのどお【名詞】 八丁櫓の漁舟で、前後の間に入る櫓。[会話] 年寄り は かい る 漕んで (漕いで)、若い 血気のもんら (者は) 艫櫓や (とか) ハサミノド オ 漕んで (漕いで)。

はさむ(剪)【他マ五】 切る 爪ハサム 髪ハサム (志)

はざよかれ 駄目だ。[会話] そいな (そんな) 事したら ハザヨカレ、はざおかれ 言うねなあ (言うのです) ハザヨカレ 言う人も おるわいなあ (居ます)。はざんか (いけないか) 言うとなあ、返事や (は) ハザヨカレ 言うてなあ。間違 ごた (がった) 事 しとる と (していると) そんな (それが) ハザヨカレ 言うね (言うのです) いかん 言う事をなあ。

はざわせん 駄目だ (志)

はざわせんわい。はざわせんわな (女性語)。**はざわせん** **わら。はざわせんわれ** いけません 駄目だ (志、鳥(石鏡)) [用例] そいな (そんな) 事したら ハザワ センワレ。

はざわり(はざはり) (歯触) **【名詞】** 歯に当たった感じ。

噛んだ時の歯の感触。歯ごたえ。[会話] とさか (海藻) 干しといて (ておいて) 又 戻して 刻んで 三杯酢で 喰うと どいらい (大変) 美味しい (の) です。かちかち かちかち 言うて、ハザワリな (が) よお て (よくて)。

はざわん。はざわんわい。はざわんわな (女性語)。はざわんわれ いけない、駄目だ、悪い はざん参照 (志 (鶴方、神明、志島)、度、伊、鳥)

はざん【名詞】 祖母 (志、鳥、三、鈴市、一、松、多、度、伊)

はざん。はざんわい。はざんわな (女性語)。はざんわれ いけない。悪い。駄目だ。はずあわぬーはざわんーはざん。はずがあわぬ。管弭が合わぬ。予想や見込みが外れる。はず：管弭。弓の両端の弦をかける所。弓弦から矢が離れないよう矢の末端につける物。矢筈。矢筈は当然弓の弦にあっていなければいけない事から当然そうなる事を表す。(志 (名田、畔名、片田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (国崎 坂手 浦村)、度、伊) [会話] ハザワンワレ (だ) そげな (そんな) 事したら 言うて、いかん 言う事を ハザン。ハザワンワレ 言うて、昔の婆らな (が) 言うなあ (言います)。まあ そげな (そんな) 事したら ハザワンワレ 言うて 言よおった (言っていました)。ハザン 言うのも ハザワン 言うのも 一緒やけど (ですが)、わしら (私達) ハザン。ハザン 言うけど (言うが)、ハザワン 言うて 年寄りは 言よおった (言って居ました)。

はざんかった 1) 駄目だった 2) 不漁だった [用例] ② 沖 いたけど (行ったが) なんも (何も) ハザン カック。

はざんてや。はざんねてや 駄目です [用例] そいな (そんな) 事したら ハザン テヤ。

はざんねけど 駄目だが [用例] 行かな (なければ) ハザン ネケド よう 行かざった (行かなかった)。

はざんの 駄目なのです いけないのです

はざんのお 駄目ですなあ

はざんやんか。はざんやんかあ。はざんやんかな (女性語)。はざんやんかれ。はざんわい。はざんわれ 駄目だ。

はじ【名詞】 端

はじいと【名詞】 着物の縫上げをしてある糸。糸の切れたもの。[会話] のやげ (縫上) も 落したて (落してしまつて) 言うて、ハジイト 糸 はじいたると (切つてやると) みつともない (見苦しい)。

はしか (芭)【名詞】 1) 稲、麦などの花の外殻にある針のような物。のぎ。(志 (片田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、津) 2) 麻疹 (志摩市全域鳥) [会話] ① 麦のハシカ、② 病気のハシカも有るし。① なんやかや ちゃきちゃきするもん (もの) を ハシカイ 言うて、ちゃきちゃきすると なんやら (何か) どいらい (大変) ハシカイなあ 言うて。あのひた (人は) どいらい てばしこいなあ とか 気な (が) ハシカイとかも。麦のほお (穂) のハシカとか、稲のハシカ。鋸みたよん (のように) なつとて (なつて居て) のおだても (飲んでしまつても) 口ど (入口) い (へ) 出て来んと (来ずに) さかぼり (棘) な (が) 有るもんで (ので) 奥向いて 入つてくんでわい (入つて行くそうです)。ハシカ 飲おだり (飲んだり) すると 若布ん (の) 中い (へ) ハシカナ (か) 入つてくので (行くので) 若布 喰わなははざんわれ (食べなければいけない) 言よおったの (言つて居たのです)。しんがつ 麦する時 若布 喰わな (なければ) はざんわれ 言うて。そして それが ちゃきちゃきすんの (するのが) ハシカイ 言うて、しんがつ (四月) の ハシカイのおな (のが) 言うて、麦かつと (刈ると) ハシコオテ ハシコオテ (はしかくて)、そして こいて (穂を取つて) とおみ やどけ (など) すると ハシコオテ、コバシカ (粉ばしか) な (が) 入つて来て 麦 臼すつても はしかいし。コバシカ 言うな (のは) こまかあい (小さい) こおん (粉に) ほこりん (に) なつて、すんねけど (するのだが)、穂の さかもげな (が) こまこお (小さく) なつとんねもんで (なつて居るので) 体い (へ) ひつとくと はしかいんやんかな (はしかいのです)。麦すつて貰うと 機械ですつて 貰うもんで (ので) こまこお (小さく) なつてく (なつて行く) もんで、コバシカやもんで ハシカイの (のです)。汗 かいとると (かいて居ると) ここらい 皆 吹けてくんなあ (来ます)。そんな (それが) ちゃきちゃきと その えらいのおな (大変なのが) よさりん (夜に) なんの (なるのを) 待ちかねんね (かねるのです)。風呂 はよ (早く) 入りたいおもて (入りたいと思つて) ハシコオテ。汗い (に) その ほこりな (が) 皆 付くやんない (でしょう) そすと (そうすると) ハシコオテ いごかす (動かす) たびん (に) ものすごお (大変) ハシカイ ねてや (のです)。麦すつたり 稲すつたりすると。昔の人は あんで (あれで) 考えとんねえ (て居るのです) ハシカでも 棘な (が) 有るもんで、め

え (若布) やどけ (など) 喰うと ひつついてく (て行く) 言うし、針やどけ (など) のおだると (飲んでやると) 蕪を 塩で揉んどいて (でにおいて) そんなり (そのまま) のおだると それい (それへ) 巻き着くねてわい (のださうです)。針のおだら (飲んだら) 蕪の葉を 塩でもおどいて (揉んでにおいて) 飲ませ 言うて、食当り (食中毒) すると 南天の葉を 塩でもおどいて そすと (すると) てき面や (だ) 言うて、テバシカイ てえ (手) な (が) 早い にげ (人) を見とると (見て居ると) てがりやかや (手軽やか) なあ (だ) テバシコオテ (てばしかくて) 言うて、手な (が) 早い にげ (人間) を テバシカイ。刃物の焼きが かつたい (堅い) と 焼きな (が) あんまり (あまり) 焼き過ぎとて (て居て) はあな (刃が) こぼれて言うて、焼きな めるいと (不足して居ると) なめとこで なんも (少しも) 切れやせん (切れない) 言うて、あんまり (あまり) 焼き過ぎると ハシコオテ (はしかくて) 刃な (が) じっきん (すぐに) こぼれてくね (て行くのです) ぼろぼろと。人間な (が) ねんばり (粘) と なめとと したるやんない (して居るでしょう)。あや (彼は) なめとこで 胸苦しなつて くんなあ (来る) 言うて。

はしかい【形容詞】 はしかの形容詞化。ちくちくと痛痒い。稲こきや麦打ちの時など、のぎ等の混じったほこりを 覆って気持ちが悪い。はしか参照 (志 (片田、浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、桑市、員、鈴市、阿、張、名、北、南)

はしかい (捷)【形容詞】 はしかい。動作がすばやい。機敏で有る。敏捷である。はしかい。ハシカ (芒) の形容詞形 はしか参照 (志 (立神、甲賀、国府)、桑市、員、三、四、鈴市、安、上、阿、張、名、北、南、熊)

はしかい【形容詞】 刃物の焼き入れが強く、刃がよくこぼれること、又そのもの。壊れやすい。もろい はしか参照 (志 (浜島、南))

はじかかず 相手をいやしめる。(志 (国府)) [会話] ハジカカス言うて、人のおとこで (居る所で) おまや (お前は) どげん (どんな) 事して 言うて、ハジカカス 言うて。人のとこ (所で) で 取らせんのん (取らないのに) お前は 人のもん (物) 取ったとか どげん 人のわりぐち (悪口) 言うたとか、言わせん (言わない) 事や、せん (しない) 事をして おおた (ああ) あのひた (人は) おとなしよおな (おとなしいような) 人やけど (人だが) そいな (そんな)

事 すんのかい (するのですか) 言うて、はずかしめる事を ハジカカス 言うて。自慢し次第 恥掻き次第 言うて 自慢を せんぎり (充分) しても 自慢するだけの事を 自分が よおせんとおつて (出来なくて居て) 価値な (が) のおておつて (無いのに) 自慢するもんで (ので)、そんで (それで) 自慢し次第 恥掻き次第。

はじかく いやしめられる。(志)

はじかみや【名詞】 すぐ恥ずかしがる人 [会話] ハジカミヤ。恥ずかしがり屋。恥ずかしがんなあ (がるのです)。ちよいと (少し) しても 恥ずかし 言うて すっこんでく (て行く) にげな (人間が) 有るもんなあ (有ります)。

はじかむ (はぢかむ)【自マ五】 手足が凍えて居る。かじかむ。悴む。手足が凍えて思うように動かなくなる。(志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、鈴市、安、津、多、上、阿、張、名、伊、北) [会話] てえな (手が) つめとおて (冷たくて) ハジコデ (はじかんで) 来ると おぼえな (感覚が) のおて (無くて) ハジコンデ 出来やせんねよお (出来ないのです) 言うて。かじかむも ハジカムモ よお似た (よく似た) 事やなあ (です)。わごむ のおも (のも) ハジコンデク (て行くので)、ハジコデテ (はじかんで行って) 手に おぼえな (が) 無いんよお (有りません) 言うて。

はじかる (はぢかる)【自ラ五】 股を広げる 両足をひろげる (志、一、多、上、阿、張、尾) [会話] 股 ひっちゃけて (広げて) ふんばちやかった 言うな (言います) あやれ (あれ) ふんばちやかつとられ (ている) 言うのを ハジカル。

はじかんどる 寒さで指などが動かない (志 (立神))

はしきれ (端切)【名詞】 半端になった布や紙。切り残ったもの。[会話] きれ (布) の ハシキレ。ハシキレも とつとかな (取っておかなければ) 言うやんかい (言います)。ほつたらんと (捨てずに) とつとけまあ (しまっておけ) 言うて。きれ (布) とか、紙とかの切れっぱしを、なあ (縄) の ハシキレも ほんなよお (捨てるな) 言うて、はしを ハシキレや 言うて、こいな (こんな) もん (物) も 取つとくと (ておくと) 又 用に 立つぞ 言うて。災も三年 経ちや (経てば) 用に立つ 言うてなあ。三年も経つ あいにや (間には) 要る事な (が) 出来て くんねてや (来るのです) またなあ。

はじく (弾)【他カ五】 1) しぶきが飛ぶ。飛ばす。泥な

どをはねる。(多) 2) 仲間外れにする 3) 弾ねて割れる [会話] 2) 爪弾きん(に) おおて(遭って) 言うてなあ、のけもん(除け者)に 遭うのなあ(です)。ハジカレタヨオ 言うてなあ。友達と はぶかれん(る)のもなあ。ハジカレタヨオ 言うて。てえ(手)を こして(こうして) 弾いておこすと(よこすと) いとおてなあ(痛くて) はじき やったんどお(やってやるぞ) 言うて、指でびんと ハジクのおを(のを)。1) 雨垂れや 飛沫な(が) 跳んでくんのも(来るのも) ハジイテ 来た 言うのなあ(です)。

はしくた。はしくれ【名詞】 端、はじ、ぎりぎり一杯の所。きわ参照 [会話] ハシクレ。こんな きわ(端) のおとけ(縫っておけ) 言うて、ハシクタの事きわ 言うて。ハシクレ言う時は、もお一つ 数にも 入れとらん(入れていない)、ハシクレんも ならんわれ(にもならない) 言うて、ちよいと(少し) ものんならんのおを(にならないのを) ハシクたほつたれ(放つやれ)。

はしけ【解】【名詞】 渡し船 大船と小船、又は陸との間を連絡する船 端より少しずつ運ぶ舟の意(熊) [会話] ハシケブネ 渡し舟なあ(です)。お客さん積んでたり(で行ったり) 荷物積んで来たり 船いなあ(へです)

はしけられ 破れる、一杯になって破れるぞ はじける 参照

はじける【弾】【自カ下一】 弾け飛ぶ 破れて開く。[会話] ハジケル程 乗とられ(ている) 言うてなあ。なん(なに)でも 一杯すると ハジケル程 つんどんない(つまっている) 言うてなあ。袋でも 一杯入れるとなあ、ハジケラレ(る) 言うて、ハジケテ来て まけたてなあ(こぼして) 米やどけでもなあ(などでも)。

はしこい【形容詞】 1) はしかに同じ。敏捷である。すばしこい。(桑市、上、阿、張、名) 2) ちくちくと肌を刺す(上、阿) 3) 堅い 固くてもろい [会話] 2) 今日 は 麦から(麦の脱穀) したや(したら) ハシコオテ まあ 言うてなあ。ちやきちやきと 体な(が) すんの(するのです) ハシコイのなあ(のです)。汗い(に) はしかな(穂の先が) ひつつくと ハシコオテ 命な(が) もてんわい(持てない) 言うてなあ。たあ(田) 刈って 稲こきしても ハシコイのな(のが) ほんどん(本当に)。1) にげな(人間が) ハシコイのも 有るし、かせかせと ハシコオテ まあ あれも(彼も) せせかして(せわしくて) あんな(彼

が) 来ると 言うてなあ。せせかしすんのを(するのを) ハシコイ言うてなあ。3) 刃物な(が) ハシコオテ、はあな(刃が) こぼれてくのなあ(て行くのです)、ハシコオテ 此の出刃 ちよいと(少し)したら はあなこぼれてたれ(ていった) 言うてなあ。鎌でも どいらい(大変) ハシコイのな(が) 有って、ぼろぼろん(に) なって 鋸鎌みたよん(のように) なってきおつたなあ(なって行きました)。そんたい(その代わり) よお(よく) 切れるけどなあ(が)、ちよいと(少し) なまい(鈍い)のはなあ はあなこぼれん 代わりん(に) 切れやせんのなあ(ないのです) なまくらや(です)

はしごき【名詞】 片足飛び。あしこんぎ。今片足にてありくをハシゴキといふも、はしりごくらひの転ぜし也。らひ、反りこくりなり。くり反き、よてこき也。はしりごくらひ はしりくらべに同じ。コクラは接尾語。ハシリゴクラ ハシリコグラとも。よてこき(倭訓栞) (志(甲賀、船越、鶴方)、鳥、一、度) [会話] ハシゴキ。かたつぽおで(片一方向) 足上げて 飛ぶの。ハシゴキ 言うのな(のは) 足 かたつぽ(片一方) 曲げといて(ておいて) かたつぽ跳ぶの ハシゴキ しよおか 言うて。石げりする時ん(に) ハシゴキ 足けつといて(けておいて) ハシゴキ するやんかい(します)。

はしごきする 片足飛びをする(志、鳥、一)

はしごだん【名詞】 階段(志(鶴方)、上、阿、張、南) [会話] 階段 ハシゴダン 滑って 転んで おまんこ丸出し。

はじこでた 疲れて、又 冷たくて動かなくなる 萎縮してしまった [会話] てえ(手)も はじこで すぼげられやせん(縮られない) 言うて 冷たいと ハジコデタ 言うて。

はじこどる 縮んで居る 萎縮している [会話] ひとなかい(大勢の中) 行くと ハジコドル にげ(人間) な有るなあ

はじこむ 手足が動かなくなる。かじかむ。(多)

はじこんできた 手足が動かなくなって来た [会話] てえ(手) な ハジコンデキタ 言うて、てえな(手が) すぼがる(すぼむ) やんない(でしょう) はじこでくと(で行くと) こんな(これが) めつたん(絶対に) すぼがらせんのなあ(すぼみません)。てえなはじこでたよお言うて、てえなこごえて(冷えて) 来ると ふうふう 言うて 吹いても なかなか すぼがらせんね(すぼまないのです) はじこでて(でいて) まあ

言うて。はじかんどてとか、はじかむとか言うの ハジコンデキタ言うて。

はじこんでた 手足が動かなくなった [会話] ハジコンデタ 言うのも はじかんでた 言うのも 一緒にの事や (です) はじかんだ 言うのも ハジコンデタ 言うのもなあ。

はじさらし (はぢさらし) (恥曝) 【名詞】 恥を広く世間に知られる事 又、その人 [用例] ハジサラシやよって (だから) あいな (あんな) 事すんねやれ (するのだ)。

はじしらず (はぢしらず) (恥不知) 【名詞】 恥を恥と思わないこと その人 [用例] ハジシラズで 何処い (に) でも 出しやばって。

はした (端) 【名詞】 【形容詞】 1) 数の揃ろわない事数がある単位 あるまとまった数より余って居ること、又余った数量 余分 2) とるに足らないもの [会話] 1) ハシタもん (物) やれ (だ) こや (これは) まあ 言うて まとまらんのをなあ (まとまらない物を) 数な (が) 揃わせん 言うのを。ハシタもんやけど (だが) 此れ 食べて くれるかい (くれますか) 言う時も 有るなあ。ちよいと (少し) やる (あげる) 時ん (に) ハシタもんや言うて、2) そして (そおして) 仕事でも ハシタ事で こや (これは) 出来やせんわ (出来ない) 言うのなあ。

はしたがね。はしたぜん (端銭) 【名詞】 わずかな金銭。ある金額に達しないはんば金。[会話] ハシタゼン 言うてなあ ハシタガネ。こんだけや (これだけ) ところの ぜん (銭) ななあ (が) ハシタゼンでなあ 言うて ちよおいと (少し) どげやなあ (位) ハシタガネやれ (だ) そいなもん (そんなもの) 言うてなあ。そいな (そんな) ハシタガネ 何処い (に) もてかれんねてど (持って行かれるのだ) 言うてなあ、ハシタゼンも ハシタガネも 一緒や (です)。

はしたな 【形容詞】 1) 慎しみがなく、見苦しい。下品だ。無作法である。2) 簡単な、程度がはなはだしくない。3) 珍しい。[会話] 3) ハシタもん (少ない物) を こげん (こんなに) よけ (沢山) もろて (貰って)、ハシタナ 珍し (珍しい) 言う事やなあ (です)。

はしたない 【形容詞】 礼儀に外れて居る。下品だ。上品でない。[会話] ハシタナイ事言うて 言うやんかい (言います)。なんか (何か) 言うて最後 (その時) ハシタナイ事 そげん (そんなに) 言う 言うて、そげな (そんな) 事言うて 言う事やるなあ (でしょう)。

ハシタナイ事言うて 年寄りの人ら (は) ハシタナイ事言う 言うて 行儀な (が) わり (悪い) とか。

はしたなことやない 並の事では無い。一通りの事では無い。[会話] そや (それは) まあなあ ハシタナコトヤネエワレ (無い) 言うて、よけ (多く) 物 もろた (貰った) 時ん (に)。どいらい (大変) よけ有る事を 言うよおななあ (です)。ハシタナコトヤナイワレ (有りません) そや言うな (のは) よけ有る事を 言うんやろ思うね (言うのだろうと思います)。ハシタナコトヤナイワレ そや 言うんよって (言うのだから)、仰山 (沢山) ある事を 言う意味や (です)。ハシタナコトヤナイわれ (です) ハシタナコトヤネエワレ言うて、すけない (少ない) 事を はしたもん (物) やけど (だが) 言うて 言うやんない (言うでしょう) すけないと。仰山に有る時は こやなあ (これは) ハシタナコトヤナイヤンカア (無いです) はしたな事で 出来よかれ (出来ない) 言うねよって (言うのだから)、ちよつとや そつとで 出来やせん (出来ない) 言う事を。

はしたもん (端物) 【名詞】 僅かな物。珍しい物。はしたなことやない参照 (志 (布施田))

はしたやない 容易で無い 簡単に出来ない

はしづかい 【名詞】 箸の使い方。握り方。食事の仕方 [会話] ハシヅカイな (が) 早いなあ 言うて なんやかや 喰うのを (食べるのを) てばしこお (手早く) 喰うと (食べると)。

はしつくれ 【名詞】 切れ端 (員)

はしっこ 【名詞】 端 末端 (桑市)

はじっこ 【名詞】 端 末端

はしっこい 【形容詞】 1) 機敏である (張) 2) 固くて もろい

はしってた 走って行った

はしっとた 走って居た

はしっとる 走っている。[会話] おわえやい 言うな (のは) 先い (に) ハシットル人ん (の) とこん (所へ) 追わえてくのも (て行くのも) おわえやい。

はしつぽ (端) 【名詞】 先端。末端。(員、三、鈴市、鈴郡、上、伊、北、尾、南、熊) [会話] ハシッポ さわ (竿) の、ハシッポやとか (だとか)、まいかけ (前掛け) の、ハシッポい (へ) つけたた (付けてしまった) とか、ハシッポい つつで (包んで) くれ 言うて 一番端の事。一番 先の事を ハシッポ。

はじつぽ 【名詞】 先端

はしないつぽなつても 【俚諺】 箸が一本鳴つても。少し

の事でも。[会話] ハシナ (が) イッポ (一本) ナツ
テモ、子らら (子供達) も 連れて来いよお 爺やん
も、婆やんも 連れて来いよお (来なさい) 言うて。

はしぬい (はしぬひ) (端縫) 【名詞】 布の端を細く折り
返して縫う事 はぬい

はしまめ (箸豆) 【名詞】 1) よく物を食べる人。手早く
食べる事。2) 多情な男。多くの女性と接触する男。
[会話] 1) ハシマメ な (が) ええよお (よろしい) 見
よまあ (見なさい) 言うやんかい (言います)。箸使い
の事。箸まめ 言うんや (言うのです)。箸使いな
(が) 早い 言う事を ハシマメ 言う (言います)。
箸使いな (が) 早い なあ 言うて なんやかや
(色々) 喰うのを てばしこお喰うと。それを、ハシ
マメ やなあ (だ) 言うねやわ (言うのです)。手ばよ
お (手早く) 喰うと 箸使いな (が) はよおて (早く
て) おらな (俺) 一口喰うとる (食べて居る) うち
に (間に) 二つ三つ 喰うねない (食べてしまう
のだ) 言うて。それを ハシマメ や (だ) 言うんてや
(言うのです)。まめ 言うのは 早いとか 上手とか

はじまり (始) 【名詞】 始め。最初。(北、南) [会話]
今日 な (が) ハジマリ や (だ) 言うて、仕事 すん のも
(するの) 言うたり、今日 な (が) 初めて 来たん
よお (来ました) 言うたり。始め 言うの なあ (ので
す)。

はじめたる 始めてやる し始める

はしやるく 走る 走り廻る

はしやぎ 【名詞】 よく喋ったり、騒いだりする人。お調
子者。ちゃあちゃあする参照 (名) [会話] よけ (あ
まり) さおぐ (騒ぐ) 喋ったり 笑ろ たり にぎよた
り (騒いだり) あや (あれ) はしやいで言うのを お
ちゃちゃやと とか (だとか) ハシヤギ や (だ) 言うて。

はしやぐ (燥) 【自ガ五】 1) 乾燥する。桶などが乾燥し
て水が漏れる。(志 (浜島、甲賀)、上、阿、度) 2)
浮かれてさわぐ。調子に乗ってさわぐ。(志 (浜島、甲
賀)、上、阿、南) [会話] 2) ハシヤグ で まあ 言
うて、たけ つて (猛つて) よけ (沢山) が ちゃが ちゃ
言うて 嬉 こん で さおぐ (喧ぐ) となあ、あや (彼
は) ハシヤ ドテ (でいて) 言うて。1) たあ ご な
(が) ハシヤ ンデ テ (で行つて) 漏 つて 言うて、昔
の人ら いた だ いて く の になあ (頭に乗せて行くの
に) 宵 から 湿 し と くと (ておくと) ええ ん けど (よ
いのだが) 湿 さん と (ずに) お つて (居て) 頭 いた
だ くと ハシヤ ン ドル も んで (でいるので) 覆 つて。
そ や よ つて (だから) たあ ご (担桶) はなあ 宵 から

せ せ な げ (下水) 入 れて ハシヤ グ を な お し と き お
つ た (なおしておきました)。

はしやげる 乾燥させる

はしやすめ (箸休) 【名詞】 食事の途中で味覚を新鮮にす
るため、つまむ ちよつとしたおかず。副食。[会話]
漬 け も ん (物) でも なん でも なあ (なにでも)、ちよ
い ちよ い (少しづつ) した も ん (物) ハシヤ ス メ ん
(に) なん など (何でも) そ や (それ) 言うてなあ。
味増漬け や (だ) と かなあ、ちよ いと (少し) ハシヤ
ス メ も 無 け な なあ (れば) 言うて。酒飲みも 肴 な
ちよ い ちよ い 出 て ハシヤ ス メ も 無 け な なあ、酒 ば
つ か (ばかり) ち ゆう ち ゆう 吸 う と る も ん な あ (て
います)。酒飲みや (は) こ じ きた ろ (乞食) や ど な あ
(だ) 言うて、な し て え (何故) 言 う た や (言つた
ら) 旨 い も ん な (物が) 有ると こ や (これは) 一杯
の肴や (だ) 言うて

はしやんどる 1) 乾燥している。2) 浮かれている。
[会話] 2) ハシヤ ン ドル ま あ 嬉 こ び さ が し て、し と
る と な あ (していると) あ や (彼は) ハシヤ ン デ ま
あ 言うてなあ。浮かれて 踊 つ たり 跳 ん だ り し
と る と な あ (していると) あ や (彼は) ハシヤ ン デ ま
あ 嬉 び ま あ つ と ら れ (まわっている) ハシヤ ギ 過
ぎ や あれ (だ) 言うてなあ

はじやんばん 【名詞】 炊事番。かしき参照 [会話] ハ
ジヤ ン バ ン 言うのは 朝鮮 語 や けど (だが)、朝鮮は
喰う事 すん の (するのを) ハジヤ ン バ ン や (だ) 言
うて、朝鮮 行 て 来 た 人 な (が) 言 い か け て (言い始
めて) そん な (それが) は や つ た ん や ろ (流行したの
でしょう)。

ばしよ (場所) 【名詞】 所、場、位置、居る場所

ばしよお (ばしよ ばせう) 【名詞】 魚 ばしよおかじ
き マカジキ科の海魚 体長2mに達し、体は細長く、
やや側扁する。第一背鰭が巨大で、バシヨオの葉を思
わせるので、此の名が有る。上顎は長く突き出して光
る 体色は背が濃黒青色で淡色の斑点が十七條並び腹
は灰白色 背鰭は濃青色 (北)

ばしよとる。ばしよどる 広く位置を占めて他のを妨害
する

はしよる 【他ラ五】 1) はぶいて短くする。省略する。
2) 着物の裾などを折り曲げる。[会話] 2) 着物ハシ
ヨル、つ ぼ る 事 か い (ですか)。雨な (が) 降ると き
も ん (着物) な あ ご お (長く) 着 と る と (着ている
と) 濡 れ る や ん ない (でしょう)。そすと つ ぼ つ と け
(ておけ)、つ ぼ ら ん か れ (りなさい) 言 よ お つ た わ い

(言っていました)。はぼつてかな (ていかなければ) とぼしすんど (はねあげる) 言うて、尻 ハシヨットケ言うたり 裾 捲くって 腰い はさけてなあ (挟んで) はぼるも つぼるも ハシヨルも 一緒の事や けどなあ (です)。1) まあ あすこの家や (は) 薄すなつたよつて (から) 呼ぶねけどなあ (のだが)、昔や (は) おやこ (親類) でしたけど (が)、はぼつとけ、ハシヨットケ言うてなあ。

はしら【**名詞**】貝柱 特にあこや貝の貝柱

はしらかず (走)【**他サ五**】 1) 走らす (松、北) 2) 空気の入る居る物を破裂させる。3) 割れ目を作る ひび割れさせる [会話] 1) ハシラカス 走つてく (て行く) のを あやまあ ハシラカシテタ (て行った) 言うて そして 人な (が) なんやかや 言うても 返事しやせんと (しないと) おらな (俺が) なんやかや (何彼) 言うたてて (言つても)、おらな 言うこた (事は) 聞かんと 耳の空 ハシラカシトシネ (て居るのだ)。2) 風船やなんや (とか) 割つた時ん (に) ハシラカス 言うて、物な (が) はじけてくと (て行くと) ハシラカス言うて。3) 畑で 豆やなんや (とか) 実な (みが) 入り過ぎて 豆な (が) ハシツテタ (て行った) 言うて。あかろおで (熟して) 豆、皆 ハシラカシタタ (てしまった)、赤らみ過ぎて 豆を 皆 ハシラカス 言うて。

はしらぐ 乾く (志 (鶴方)、鳥)

はしらす (走)【**他サ五**】 1) 急いでいかせる。2) 器物に割れ目を入れる。3) 豆などが熟し過ぎて殻から実が飛び出す

はしらみず【**名詞**】海女が潜る時、耳に入って来る水。[会話] 海の底 いってくと (潜つて行くと) ハシラミズな (が) はいんねてや (入るのです)。それ 止めんの (止めるのに) 粘土を 耳い (に) こめんねてや (詰めるのです)。

はしらよかい、**はしらよかれ**、**はしらりよかい**、**はしらりよかれ** 走れません [会話] 足な (が) いとおて (痛くて) ハシラヨカイ、おら (俺は) まあ よお走らんわい (走しられません) 言うて。ハシラヨカイ こんげん (こんなに) 足な (が) 痛いのん (に) 言うてなあ。ハシラヨカイ 言う時は 走れません 言う事を ハシラヨカレ言うね (言うのです)。

はしり (走)【**名詞**】季節にさきが出て出る野菜、果物や魚鳥など、初物。(志 (浜島、布施田、甲賀)、尾) [会話] はな (始め) に出ん (る) のをなあ ハシリやな あ (だ) 言うて。一番始めん (に) 獲れん (る) のを

なあ こや (これは) まだ ハシリ や (だ) よつて (から) ねえな (値が) ええわれ (よるしい) 言うてなあ。

はしりあるく (走歩)【**自カ五**】 あちらこちらと奔走する。走りまわる。[会話] あつちやい (あちらへ) 歩いて こつちやい (こちらへ) 歩いて ハシリアルイテ よけ (あまり) どたばた すんなまあ (するな) 言うて、まあ ぜんな (銭が) のおて (無くて) 借りん (に) ハシリアルク 言うたりなあ。あつちやや こつちやい 行くのを ハシリアルク。あつちやいて借してくれ (下さい) 言うても、まあ 無いわれ (です) 言うて、こつちやいて 借してくれ言うても まあ 無いわれ言うて、あつちやや、こつちや ハシリアルイタ けど (が) よお 借らざつたよお (なかつた) 言うて。

はしりがね (走金)【**名詞**】船員を相手にする女郎。(志、鳥、度) [会話] ハシリガネ 浜島の ハシリガネや (だ) 言うて おやまさん (女郎) の事を ハシリガネ 言いおつたなあ (言っていました)。安乗ん (に) 昔や (は) ハシリガネな (が) 有りおつたんてわい (有つたそうです)。昔や (は) 女郎の事を おやまさん 言いおつた (言っていました)。女郎と ハシリガネと おやまと 芸者と ばいた。ばいたも それやんかい (それです)。芸者はだ (は) 芸は売つても 身は売らん言う 芸者も有るし。こつぼり 下駄履いて 芸者な (が) 歩いとると (て居ると) ころぶころぶ 言うて、こつぼり 下駄は 音な (が) するやんかい (します) そやもんで (それで) 芸者の下駄は 転ぶ転ぶと音がする。浜島の ハシリガネ 買いん (に) いたんてな (行つたそうだ) 言うて。

はしりくらしい、**はしりぐらしい**、**はしりくらべ** (走競)

【**名詞**】二人以上の者が同じ距離を走って早さを競うこと。はしりやい。(志 (鶴方、神明、国府)、鳥 (鳥羽、加茂、南、熊) [会話] ハシリクラベ 言うのは はしりやい (走りくらべ) すんのなあ (するのです)。競走すんのを (するのを)、駈けっこ しよおや (しましよう) 言うのを はしりやい しよおか (しましようか) 言うてなあ。

はしりこむ (走込)【**自マ五**】 勢いよく走つて来る。走つて中に入る。飛び込む。(志) [会話] ハシリコングダオ 言うて、ハシリコミするとこな (所が) のおて (無くて) 言うてなあ。きゅうしゃくがり (急借借り) 言うて、急に ぜんな (銭が) 要つて来たおりん (時に) 借りん (に) 行くのんなあ (に)、ハシリコミ な (だ) 効かんで (なくて) 言うて。ぜんな 何時も

有るとこな(所)が有って まあ こおこおで 金な(が) いんね(要るのです) どんだけ(それだけ)でも 借してくれえ(下さい) 言うて、はい もてけえ(持って行きなさい) 言うて 早速なあ(すぐに) 借られる とこ(所)を ハシリコミな(が) 効くとこな有って 言うて。ハシリコミや(だ) 言うて、急に ほし(欲しい) 時に ハシリコンデテ(で行って) 借してくれ(下さい) 言うて すとこなのおて(無くて) 言うてなあ そいな(そんな) とこな有ると ええけど(よいが) 無いと 難儀する(困る) 言うてなあ

はしりさんぐ【名詞】 その用件だけを済ませて帰る事とんぼがえり

はしりづかい(はしりづかひ) (走使)【名詞】 走って早く伝える事 又その人

はしりどおし 走り続けること

はしりばしり 忙しくてあちらこちら走り回る(志(布施田)) [用例] 忙して ハシリバシリやよお(です)。

はしりまくる 一生懸命に走る 早く走る [会話] はよ(早く) ハシリマクツテ言うて。

はしりやあるく 走る 走り回る [用例] 廊下 ハシリヤアルイテ どたばたすんな(するな)。

はしりやい(走り合い)【名詞】 走って早さをくらべる事。徒歩競走。(志(浜島)、一、上、阿、張、名、南) [会話] 運動会で ハシリヤイすると よお走らんで(早く走れなくて) 負けた勝った 言うて 言うやんかい(言います)。としりやい 言いおったねんなあ(言っていたのです)。ハシリヤイ 言わんと(言わずに) としりやい。 なんも(なんにも) 持たんと(持たずに) ただ走るのおを としりやい。とちくらかしてたな(だ) あやあれ(あれ) 言うて、とちくらかす言うのは いっしょけんめ(一生懸命)に走る、走りきってく事やなあ(です)。

はしる(走)【自ラ五】 1) 炭火がはねる。はじける。弾ける。中味が膨張して割れる。勢いよく飛び散る。はざる。(志(甲賀)、鳥) 2) 乾燥や衝撃などで物に割れ目が生ずる。(忌言葉)(上、阿) [会話] ② 豆、煎つとても(て居ても) 豆な ばちばち 言うて来ると 豆な(が) ハシル 言うて。豆 ハシラカシタタ(はしらしてしまった) 言うて 豆な(が) はらしててこな(来なければ) 出やせんねど(出ないのだ) はらしてこな 言うて。ほおろくで 煎って ばちばちと割れて来ると はらな(が) ばんと割れると、はじけて来たよってん(から) いでたどお(完成したぞ) 言

うて。はらして来る 言うのは、皮が ばんと 割れると はらしてきた 言うて。 みい(実) な(が) なつとんのおな(なつて居るのが) 皮が はじけんのと(はじけるのと)、実な(が) ばんと割れんのを(るのを)、はらしてきた よってん(から) まあ いでたどお 言うて、あらくさ(節分の豆まき) うつのも ばんと 真ん中割れる やんない(でしょう)、あげんせな(あんなにしなければ) 生臭い 生ゆですると 生臭いどお 言うて。① 炭な(が) 火な(が) ついて ぱちぱちぱちぱちと はじける、ハシル言うて。杉の木焚くと 火の粉な(が) ぱちぱちハシッテくんね(来るのです)。そすと やげずって(火傷して) 火ぶくれ(水泡) になったり、磯ジョッキ(磯着) もぼら(穴) あけて 焼いたたり(てしまったり) すんね(するのです)。 そやもんで(それで) 杉の木焚くと 杉の木の孫や(だ) 言うて くべる時ん(焚くのを、追加する時に) そげん(そんなに) 言うて くべると、火な(が) 跳んで 来やせんね(来ないのだ) 言うて 杉の木の孫やど(だ) おら(俺は) 言うて 焚きおつたね(居ました)。

はしれてく 割れて行く。割れ目を生じてくる。豆などのさやがはじけて行く。[会話] 小豆 あんまり(あまり) あかるましたと(熟させてしまうと) ハシレテクやんかい(のです)。 そやもんで(それで) はしらかしたらん(はじけてしまわない) うちん(間に) もじいて(もいで) くんのや(来るのです)。

はしれる【動詞】 1) 乾いて割れ目を生ずる。割れる。豆などのさやがはじける。(志(志島)) 2) 跳ねる。[会話] ① ハシレル みんな(皆) ハシレタレ(で行った) 言うてなあ。まあ はっしやんで(乾燥して) ハシレタレ 言うて 弾けてくのをなあ(て行くのを) 一莢はしれば 皆走る言うて 一莢弾けてくと(て行く)と 皆 弾けてくね(て行くのだ) はじき豆でなあ 日な(が) 照って来ると ばんばん言うて 弾けてくの(て行くのです)

はしわたし(橋渡)【名詞】 1) 実質的に力を入れて世話をしてくれる人。(度、阿) 2) 下仲人(阿) [会話] ① ② 恋の ハシワタシ。結婚申し込む時んなあ あしこい 行てくれやせんかい(くれませんか) 言うて、ないぎき(内聞き・下聞き) して 貰うのをなあ ハシワタシ してもろて(貰って) 言うてなあ。仲人する迄ん(に) 下役や(です) 下働き すんのを(するのを) ハシワタシや(だ) 言うて。

はしんな 走るな(南) [用例] よけ(あまり) ハシン

ナ 喧しわれ (喧い)。
はしんもぼおんもかからん 扱い様が無い (志 (布施田))

はず 【**名詞**】斜 (志 (浜島、甲賀)) [会話] ハスンなつとる (なっている)。こや (これは) ハスやんかあ (でないか) 言うて、斜ん (に) なつとる 言うのなあ (です)。こやまあ (これは) ハスン (に) なつとて (なつていて) なつとも (なんととも) 出来やへんやんかあ (出来ないでないか) 真っ直ぐん (に) せんかれ (しなさい) 言うてなあ。

はず 【**名詞**】蓮根 ハチス (蜂巢) の略 (広辞苑) 花托の形が蜂の巣に似る (津、上、阿)

ばす 【**名詞**】赤く腫れた出来物。ハス (腫) の訛か **はず** (蓮根) は、あちらこちらから根を出すのに似ている所から [会話] できもん (出来物) **ばあす** パス 言うね (言うのです)。ぴかぴか 光つとて (ていて) あつこお (赤く) なつて すもも みたよんなあ (のように) 夏ん (に) なると よお (よく) できよおつたやんかい (出来て居たで有りませんか、押しても痛ないのなあ (です) パスは。

はずう (端数) 【**名詞**】はんばの数 残った数 充分にならない数

はずかい (はずかひ) (斜交) 【**名詞**】斜 (志 (布施田)、張、阿、員、安、伊、北、南、尾) [会話] ハスカイ 言うな (のは)、斜めになつとる (て居る) 事を ハスカイ 言うなあ (言います)。ハスカイに切つて 言うて、でえこん (蓮根) や、ごんぼ (牛蒡) 切る時ん (に) ハスカイに切るやんない (でしょう)。斜めに切る 言うのを ハスカイに切る 言うの (のです)。

はずかし (はずかし) 【**形容詞**】はずかしい。相手に比較して自分が劣つて居ることを意識する場合に抱く心情。[会話] ウレハズカシ (嬉しく、又恥ずかしい)、彼氏な (が) 立派な人な (が) 来ると わがと (自分が) その人ん (に) 惚れたて (てしまつて) ハズカシてまあ。

はずかしがりや (はずかしがりや) (恥屋) 【**名詞**】人見知りをする人。すぐ恥かしく思う人。[会話] ひとめする 言うて、ハズカシガリやなあ (です) 人見ると べつんも (特別に) 恥かしそおん (そうに) してくのなあ (して行くのです)。

はずかしがる (はずかしがる) 【**自動五**】恥かしく思う 含羞む (志 (御座、布施田、片田、志島、浜島)、鳥 (相差、国崎、坂手、答志)) [会話] **はずかしがりや** なあ (だ) 言うて、ちよいと (少し) しても ハズカ

シガル にげな (人間が) 有つて、人ちい (に) 行く と はじこどる (小さくなつている) にげな有るんなあ (有ります)。

はずぎり (斜切) 【**名詞**】斜めに切ること。[会話] だい こ漬け (大根漬け) を 普通みたよん (のように) 四つに割つて せんと (せずに) ハスギリん (に) すんのを (するのを) 百姓切りとか だめな切り。

はずず (はずず) (外) 【**他サ五**】1) 除く 2) 仲間外れにする

はずまかす (はずまかす) (弾) 【**他サ五**】はずます。浮き浮きとする。動悸がうつ。呼吸が激しくなる。[会話] 息ハズマカス。出て来ると (海の底から) 息ハズマカシテ わああ 言うて おめいたる (叫んでやる) 時な (が) 有るんなあ (有るのです)。まあ 息一杯 いって (潜つて) 来てなあ びゅつと 飛び出すと わああ 言うて うなつたる (うなつてやる) 時な (が) あんね (有るのです)。胸ハズマカシテ 言うて 嬉しのおで (ので) 動悸な (が) 打つのおを (のを)、あの人な (が) 来たや (ら) あげんも (あんなにも) 言おん (言おう) こげんも (こんなにも) 言おん おもて (思つて) 胸 ハズマシトタけど (ていたが)、来たや (ら) はずかして (恥ずかしくて) なんも (少しも) よお 言わざつた (言えなかつた)。

はずみ (はずみ) (弾) 【**名詞**】調子 勢 拍子。[会話] こおした ハズミに 喋つた (てしまつた) とか、ちよいとした (少しの) ハズミに 言うた たよお (言つてしまつた) 言う時も 有るし。ちよいとした ハズミに うちゃつた (壊してしまつた) とか、よお (よく) 言うやんか (言います)。ちよいとした ハズミん (に) 言うな なあ (言うのは) ちよつとした 拍子ん (に) 言う事なあ (です)。

はずむ (はずむ) (弾) 【**他マ五**】1) 浮き浮きと喜ぶ。(度) 2) おごる。振舞う。気前よく金を出す。(志 (甲賀)、鳥、南、一、上、阿、名、熊) 3) 品物の値を大きくまける。(上、阿) [会話] 1) 座敷な (宴席が) すんで来ると 歌な (が) ハズンデ 来てまあ 言うて、酒 呑んで、酒な (が) まわて来ると 座敷な (が) ハズム 言うて 賑やかになつて来た 言う事や (です)。2) 今日は あれな (彼が) ハズンデ くれん ねてわい (くれるそうだ) 言うて、おごつて呉れる 言うの (のを)、振舞う 事を、ハズンデ もろて (貰つて) 今日は まあ 言うて。親方な (が) みぎれ なよお て 給金 ハズンデ もろて 言う事を。みぎれ なよお て (よくて) 言うて、さっぱり しとる 言う事を みぎ

れなええ (よい) 言うの (のです)。なんでも さばさばと 人 (に) くれたり おごったりする人を あのひた (人は) みぎれなよおて言うて。³⁾ ハズム 言うと 品物をまけて貰う時 今日³⁾はまあ ハズンドイテくれえ (でおいで下さい) 値よお (よく) こおて (買って) くれえ (下さい) 言う時ん (に)、値よお買おてくれ 言うのを、ハズム 言うのなあ (のです)。

はずむかい (斜向) 【名詞】 斜め前 正面の隣

はずらかされた 除け者にされた 仲間に入れて貰えなかった はずれ参照

はずらかす (はずらかす) (外) 【他サ五】 1) その場から離れる。席を退く。2) 取りそこなう。3) 失敗する。4) 仲間外れにする。[会話] ²⁾ ハズラカシタ ヨオ (てしまった) 言うて、行きそこのた (そこなった) 言うのを、ハズラカス 言う時も 有るなあ (有ります)。あすこい (に) いて (行って) たのも (頼もう) おもて (思って) 行こ (行こう) おもとたのん (思っていたのに) 忘れたたり (てしまったり)、用事な (が) 有つたりして、行からつたり (なかつたり) するとなあ ハズラカス 言うの (のです)。

はずれ (はずれ) (外) 【名詞】 1) 取り除いた物。規格に合わない物。2) 仲間に入れてもらえない者。除けもの (物、者)。[会話] ¹⁾ ハズレやなあ (だ) こや (これは) 言うて、はあ (端数) になると ハズレや (だ) 言う時も 有るやんかい (有ります) こやまあ (これは) ハズレやなあ 言うてなあ。²⁾ 仲間に入れて 貰われんと (われずに) まあ ハズレた ハズラカサレた 言うてなあ、のけもん (除け者) に おおた (遭った) わけや (わけです)。¹⁾ ええもん (よい物) の中から わりもん (悪い物) 取つたんのも (てやるのも) ハズレやなあ (だ) こや (これは) 言うて規格外のもん (物) を 選外品やてや (です)。

はずれどし 【名詞】 凶作の年

はずれる (はずれる) (外) 【自ラ五】 1) 加わる事が出来なくなる。除かれる。2) 金品を手に入れることが出来ない。3) 定まった位置からずれる [会話] ³⁾ とおな (戸が) ハズレる言うて、とおな、しき (敷居) から 落つてくと (落ちて行くと)、とおな ハズレタレ (ていった) そやれ (それ) 言うて。¹⁾ 時間な (が) おそなつたのも ハズレる まあ ハズレテ 行かれざつたよお (行けなかつた) 言うなあ、²⁾ 給料 ハズレる 言うて 貰らい損なうのも まあ よけ (沢山) やすんだて (休んでしまつて) 給料も ハズレタヨオ 言う時んなあ (に)

はぜえる。はぜる (爆ぜる) 【自ザ下一】 満ちて勢いよく裂ける。割れて飛び散る。破裂する。はしる参照 (志 (布施田)、上、阿) [会話] みいな (実が) 入り過ぎて ハゼる言うと ばんばんと はしれてくのを なあ (割れて行くのを) 割れてく (て行く) 事 ハゼル 言うの (のです)

ばぞ。ばぞお 【名詞】 野心、虚偽、ほらふき。ばんぞう (伴蔵) 売買の仲介人から出た語か。[会話] バゾオ 言うて、よけ (多く) に言う事を 倍に言うのを あのひた (人は) バゾオ 言うとんねど (言つて居るのだ)、あや (あれは) こんだけやのん (此れだけなのに) 言うて 多い目に言うのを バゾオ 言うて言うて。たいがい (大体) 定価な (が) 此の位や (だ) 言うの (のか) 判つとんのんなあ (て居るのに)、それオーバーん (に) 言うやんな (でしょう)。そすと、あや (彼は) バゾオ 言うとんね (言つて居るのだ) 言うて。ほら吹き ほら吹くよおなもんや (ものです)。うそいい (嘘つき) とは 違うねけど (のだが) バゾオ 言うて。物 を おおげさに 言うのを ほら吹きやなあ (です)。だぼらふき 言うの (のです)。バゾユイ 言うのは それを言う人の事を 言うわけや (です)。

ばぞい 【名詞】 法螺吹き、ばぞ ばぞい参照

はそだ 1) 挟んだ 2) 鋏で切った [会話] ¹⁾ 早緒のたるみ (弛み) で しゃね (女陰) ハソダ。ハソダレ (挟んでやれ) 言うてなあ。²⁾ 頭の髪も なあがい (長い) われ (です) ひとばか (少し) ハソダレ 切つたれ 言うのを。なあご (長く) なつて来たのん (に)、鋏で ちよいと (少し) ハソダレまあ 言うて、どこやかやい (何処かで) てえ (手) 挟まれると てえ (手) ハソダヨオ 言うて、まあ とお (戸) とめんのん (閉じるのに) てえハソダテ 血を出して 言うて。

はそだる 1) 挟んでやる 2) 切ってやる

はそだれ はそだ参照 1) 切ってやれ 挟んでやれ 2) 切りました 挟みました

はそで 1) 挟んで 2) 切って [会話] ¹⁾ さぶうて (寒くて) 子供らな (が) かわいそげな (可哀そうに) おもて (思つて) わがとな (自分の) 肌のぬくたい (暖かい) のおえ (のへ) ハソデ ぬくとめて (暖つためて) くれよおつた (くれました)。

はそむ (挟) 【他マ五】 1) はさむ。物の間に入れる。間に置く。2) 鋏で切る。(志、鳥 (加茂)、一、久、松、上、阿、張、名、度、伊、熊)

ばぞい 【名詞】 ほらを吹く人。[会話] あの人 バゾ

ユイやどお(だ)言うて ちょおいと(少しの)の事でも おつきい 言うのを。はんぶより(半分以上)のおても(無くても)倍に言うのを あや(彼は)バゾオやどお言うて

はた【名詞】 または スズキ科の海魚 体はスズキ形で、全長 90cm ぐらいになる。尾鰭の後縁は丸い。若魚は淡褐色で7条の黒褐色の横縞が有るが成魚では不明瞭になる。鰓蓋に少量の棘を持つ(三重県)

はた(傍、側、端)【名詞】 物の縁 へり 周囲 わきそば かたわら。(志(布施田)、度、桑郡、三、四、鈴市、久、松、阿、張、伊、北、尾、南) [会話] ハタのもの(者)を 迷惑さして(させて) 近くにおんのおも(居るもの) ハタ 言うし(言います)。私のハタン(に) あんたなおって(貴方が居て)とか。それは 近くにおって。そして 自分の近くも ハタ。ハタのものな(者)は こげん(こんなに) 言うどて(言っておって)とか、ねき(近く、周囲) ん(に) おった人な(居た人が) ハタのものは こげん言うて 言うどた(言って居た)とか、ハタのものな(者が) こげんしたとか 言うて、ねきんおる人を ハタや(だ)言うて。端 はしでも ハタ言う時や(は)有るし あのハタに 付いとたやんかあ(です)とか、ハタへ付けとけ(ておけ)とか 端の事を。あすこの大将は ええんけど(よいか) ハタに付いとる(て居る) ものな(者が) わりいて(悪くて)、周囲に おるもの(居る者)を ハタのものな、いろいろ 言うてなあ(言うので) 言うて、周囲のもの(者)を。

はた【名詞】 二十を言う ハタち(二十歳) ハタひろ(二十尋)

はだ(肌)【名詞】 1) 皮膚(志、鳥(鳥羽)) 2) 魚の鱗(志(浜島、片田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、松、度、伊、北、尾、南、熊) 3) 体温 体力 海女について言う 4) 気質、性格 [会話] 1) 皮膚 ヒトハダや 2) 魚のハダや(だ)とか。魚のハダは 鱗の事やし(です)。1) ハダな(が) 汚い言うのは 鮫肌 じゃらじゃら しとると(して居ると) サメハダや(と) 言う。モチハダやたら(とか) ハブタエハダ。すべすべつと^{しとると} 羽二重肌 やなあ(だ)。すべすべ 言うな(のは) すべつと(滑らかに) しとんのおを(して居るのを)。4) あれた(彼とは) ハダな(が) 合わせんねよって(合わないのだから) 言うて、ハダな すれすれやよってん(だから) 言う時も、気な(が) 合わへん(ない) 言う時も ハダな(が) 合わん 言うて、使う時も 有るな

あ(有ります)。仲な(が) わりいしとると(悪くして居ると) はがはがやよってん(だから) 言うて。はがはが 言うな(のは) 気が合わん事。

はだ【名詞】 腹(志)

ばた【名詞】 オートバイ 単車(多、上、阿)

はたあげ【名詞】 行動を開始する事

ばだい(場代)【名詞】 場所を使用した料金。[会話] バダイ 取られて 言うて、祭りやどけでも(などでも) 店屋出すのん(に) バダイな(が) いんね(要るのだ) 言うて。かんのんさん(観音様) え いて(行つて) 踊り さして(させて) もろたり(貰ったり)、茶話会 さしてもおたり(貰ったり) すんの(するの)に バダイな(が) いんね。

はだいて 抱いて

はだがある 海女が潜るときに寒さに強い事を言う。はだなある(志) [会話] 磯(海女) いて(行つて) ハダガアル、わしや(私は) はだな(が) のおて(無く) て さぶごらえ(寒さに耐える) よおせんで(出来なくて)、じっきん(すぐに) 乗り上つて(船に乗つて) くんね(来るのです)。海の中い 入いっどて(ていて) さぶなつて(寒くなつて) くんの(来るのです) さぶごらえ よおせんね(出来ません)。

ばたがい【名詞】 ひおうぎ貝、ばたばた参照(志(鶴方、神明、立神、国府)、度)

ばたかく【名詞】 角材、四角柱にした木材(南)

はたかす 1) 海女が潜水中に息が切れる。2) 全部使う、使いきる。

はだがない 海女が作業中、体温が低下し普通の人と同程度の作業が続けられない。はだがない。いきなねえ。いきななんかい。[会話] ハダガノオテ(無く)て。磯人な(海女が) じっきん、さぶくなつてくんの(寒くなつて来るのを)。おら(俺は) ハダガノオテ、じっきん さぶくなつて(寒くなつて) 来て、ハダナ(が) ナイ えよってん(無いのだから) じっきん さぶくなつて 来て 言うて、さぶくなつてくんのを ハダナ ナイ 言うの(のです)。体な(が) 冷となつて(冷たく) 来る 言う事を ハダナ ナイ 言うの。冷とおなつて来て さぶなつて 来て がちがち 言うやんない(でしょう)、おら ハダナ ノオテ がちがち 震とんねない(震えて居るのだ) 言う。此の時は 息が続かん 言うんやなしん(言うのでなくて) ただ寒い 言うだけ、体温が 無い 言う事や(です)。

はだかぬぎ(裸抜)【名詞】 着物の上部を脱ぐこと。[会話] はんぶ(半分) きもん(着物)を、着とんのおを

(着ているのを) 帯 解かんと (解かず) そおで (袖) だけ 抜くの ハダヌギカケル 言うね (言います)。ハダヌギカケテ ハダカヌギや (だ) 言うて、帯 解いて したると おびとりひろげ 言うけどな あ (言います)。

はだかぬ (裸寝) 【名詞】 裸で寝ること。着衣なしで寝ること。[会話] ハダカネして 言うて、裸で 寝る人 な (が) あんなあ (有ります)。朝迄 ハダカネ しと たよお (していました) 言うなあ (言います)。そやけど (しかし) 裸で 寝とると (ていると) 夜中ん (に) になると さぶ (寒く) なって くんのなあ (来る) のです。

はだかのぎ 【名詞】 上半身 裸の事 はだかぬぎに同じ [会話] ハダカノギ。はだのぎかけて言うてなあ、どお (樽) 漕ぐのん (に) はだのぎかけて おら (俺は) 漕んだね (のだ) 言うて。それやもんで (それで) 昔や (は) 広袖ん (に) しよおったの (して居た) のです)、ハダカノギ な (が) かけよいよん (しやす) いように)、どお (樽) 漕いどても (でいても) きゅつ と かたつぽ (片一方) のんで (脱いで) 又 かたつ ぽのぎ (脱ぎ) すんので (するので) 広袖ん (に) しよおったね

はだかる (開) 【自ラ五】 1) 開く。広げる。(足や着物の襟など) 2) 妨げる。大きく場所を占める。 3) 大きく手足を開けて立ちふさがる [会話] 3) たちハダカル 言うたり ふんばちやかって 言うたりなあ。たちハダカッテ しよんべ (小便) たれとる (している) 言うてな。立っどて (ていて) 男の人らな (が) すや (すれば)、おなご (女) でも そげん (そんなに) する人 な (が) 有ると、おおた おなございで (女でありながら) 立ちちやかって しよんべしと んね (しているのだ) 言うてなあ。

はだかんぼお 【名詞】 裸 (桑市、三、四)

はたき (叩) 【名詞】 室内又は道具類の塵をはたき拂う道具。羽毛、布片を束ねて柄をつけたもの。[会話] 棧 拂い、ハタキ 掛けとかな (ておかなければ) ほこり な (が) えらいわれ (大変だ) 言うてなあ。

はだぎ (肌着) 【名詞】 直接 肌につけて着る衣 襦袢 (北) [会話] 中い (へ) きんの (着るのを) 昔の人ら 垢取りや (だ) とか、汗取り 言うてなあ。肌い (へ) 一枚 中いなあ (へ) うつつい (薄いのを) 着る やんない (でしょう) 垢取りや (だ) てやら (とか) 汗取り 汗取りも きやんと すぐん (に) シャツ 着て 言うてなあ それを ハダギ言うの (のです)。

ハダギ 一枚着ると 一日位や (は) 上衣 そんなり (そのまま) 着やれるけど (着られるが) ハダギ 着やんと (着ずに) すると びちよびちよ したたり して (しめっぽくて) こんだ (今度は) 着やれやせん (着れません)。

はたく (叩) 【他カ五】 1) 全部出す 使い盡す 財布は たいた (志 (布施田)) 2) 海女が息を使いきる (志 (布施田)) 3) 叩く (志)

はだくう 【名詞】 下痢。はらくうの変化した語。[会話] よけ (沢山) 食うて (食べて) はらくう やったよお (だった) 言うて。きんな (昨日は) まあ ごっつお (御馳走) よけ 食うて ハダクウ やった (だった) 言うて。よけ 食うて 下痢する 言うのを ハダクウ やった 言うて。

ばたくさ 【副詞】 あわただしく事を行うさま。[会話] ほこりな (が) すんのん (するの)に よけ (沢山) バタクサ すんなまあ (するな) とか、どたんばたん すんなまあ 言うたり。くうもん (食べ物) 広げて しとる (している) 時ん、ばたばた すると よけ バタクサ すんなまあ、バタクサ バタクサ として ほこりな (が) すられ (する) 言うてなあ。

ばたくた 【副詞】 急いで事を行う様 忙しい様子 ばたくさ

はたくら 【名詞】 1) 隙間 2) 傍 [会話] 2) からす のせえ (かめので、貝) 殻のしろい (白い) かっど お (かたく) しとる (している)、島の峠ん (に) ハタクラん (に) 立っどるやんない (立っているでしょう)。筍な (が) 出たよおん (ように) して こいなか た (こんな形、三角形) どいらい (大変) 美味いね (のです)。

ばたくる 忙しそうにする。ばたばたする。(北、尾、南 (新鹿)、熊) [会話] ばたばたすんな (するな) 言うけど (言います)。あんまり (あまり) いそいそ と 忙しそお にすると ばたばたすんなまあ (するな) 言うて、バタク 言う な (のは) 言うけどなあ (言います)。よけ (あまり) バタク ナマア 言うて、よけ いらいら とする事を よけ バタク ナマア 言うて、あれもせんならん (しなければいけない)、此れもせんならん 言うて いらいら と 気 を揉んで しとる (して居る) 時ん (に) バタク 言うて。

はたけ (鳥) 【名詞】 女、女の腹、母胎、子宮。[会話] 母親を おなご (女) を ハタケや (だ) 言うて。男を 種や (だ) 言うてなあ。ハタケな (が) わりねよ つ てんだ (悪いのだからだ) 言うて、こおな (子が) た

ちな (性質が) わり (悪い) のおな (のが) 出来ると、母親な (の) 血統な (が) わりと。そして 男な (が) わりと 種な (が) わりよってんなあ言うし。

はたけ (疥) 【名詞】 皮膚病の一つ。顔や首に乾燥してかさかさになった白い斑紋が出来る。(張) [会話] 顔い (へ) ハタケな (が) 出来て 言うて。しろだむしをなあ。顔や頭も 出来おったやんかい (出来て居たではありませんか)。しらたな (白斑が) 出来んの (るのを)、ハタケな (が) 出来て言うて。うつんねどお (うつるのだ) その ハタケな (は) 言よおった (言うていました)。頭い (に) ぜんみたよん (銭のように) しいるお (白く) なったり、頭い (に) も しらたな出来てなあ

はたけあらし (畑荒) 【名詞】 畑の作物を盗むこと、又その人。[会話] ハタケアラシ、のあらし言うて。畑のもん (物) とんのをなあ (盗るのを) ハタケアラシ。畑のもん (物) 盗るもん (者) いっち (一番) 罪な (が) 重いんどお (のだ) 言うて、番な (見張り) が おらせん (居ない) もん (物) を とんねよってなあ (盗るのだか) のあらしや (は) 言うて

はたけぎ。はたけぎもん 【名詞】 畝仕事をする時に着る衣類、野良着 (志、鳥 (坂手)) [会話] ハタケギ。畑い (へ) 行く きもん (着物) は 別に しいおったなあ (していました)。ハタケギモン言うてなあ、畑から来ると 着替えてなあ ハタケギモンで まだ おんねない (居るのだ) 言うてなあ、畑から くや (来れば) 今しなら (今なら) 風呂 入って きもん着替えるん (の) けどなあ (だが)、風呂な (が) 有る家や (は) よけ (あまり) 無いし、畑から来て 水で体拭いて ハタケギモン 着替えん (の) なあ (るのです) ハタケギマン (着物は) まあ 表の さわい (竿に) 掛けとけ 言うて、掛けといて (ておいて) 毎日 洗わせんね (洗わないのです)。畑い (に) だけ いて仕事する きもんを ハタケギモン。

はたけし 【名詞】 1) 百姓 2) 畑仕事の手伝い人 [会話] 12) ハタケド。ハタケシ 頼む 言うの (のです)。まあ おれぎや (俺家は) 追われて しとんね (しているのだ) あんた (貴方) 一日 めえくさんで (目つむって) 俺家の 芋堀りん (に) 来てくれ (下さい) 言うて、一日 やりくりして 来てくれ言うのをなあ、一日 めえくさんで来てくれまあ (下さい) 言うてなあ。

はたけちがい (はたけちがひ) (畑違) 【名詞】 1) 兄弟姉妹の仲で、父が同じで母が違うこと 2) 自分の専門

分野に属しない事。自分の思っ居る事と違う事 [会話] 2) ハタケチガイやなあ (だ) あや (あれは) 言うなあ、間違うとなあ そやなあ (それは) ハタケチガイ やれ (だ) 言うてなあ。わがと (自分が) おもとる (思っている) 事と 人な (が) おもとる事と 違うとなあ あんた (貴方) こおこおや (だ) 言うて、そや (それは) ハタケチガイやわい (です) 言うてなあ。1) 兄弟の中で 母親な (が) ちごとると (違っていると) ハタケナ (が) チガウネヨッテン (のだから) 言うてなあ

はたけづち 【名詞】 畑の作物を作るに適した土。[会話] ちどこ (岩磐) の 上のくろぼく (黒い土)。くろぼく 言うて ハタケづち 畑のつくりもん (作物を作る) する土なあ。

はたけど 【名詞】 1) 畑で働く人。2) 畑の仕事を手伝う人 [会話] 2) ハタケド。畑い (へ) てったいん (手伝いに) 行くと、ハタケドや (だ) 言うて。ハタケド 今日来てくれて言うて。ハタケドな (が) 今日 来てくれとるもんで (て居るから) なんなど (なんでも) ゆうめし (夕飯) のしたく (用意・準備) せな (しなければ) 言うて。自分の家の畑で 働くんやなしん (働くのでなくて)、人の家の畑い (へ) てったいに 行く時な (が) 有るわい (有ります)。遅れとて (て居て) 親戚の家な (が) てったいに行かな (なければ) はざんなあ (いけない) 言うて、麦刈りや (とか) 芋堀り てえな (手が) のおて (なくて) 遅れとる (て居る) 家 まあ わがうちや (自分の家は) すると (終ると) その家 てったいに行くのを ハタケドな (が) 来てくれて言うて、てったいど (手伝い人) が 来てくれて 言うのを ハタケドや (と) 言うし (言います)。畑の てったいに来てくれる人を ハタケド。たあ (田) の てったいん来てくれると、たあどな (が) 来てくれて 言うて。たあど たのどて (頼んで居て) 言うて。家で 煤掃き (大掃除) する時や (は) てったいどな (が) 来てくれて 言うし (言います)。てつとて (手伝って) くれる人でも 畑のてったい (手伝い) してくれる人は ハタケドやし (ですし)、田のてったい (手伝い) してくれる人は たあど、掃除やなんや (など) してくれる人は てったいど。

はたけのあし 【名詞】 畑の斜面になって居る処の下の部分。[会話] ハタケノ アシん (に) なつとる (なっている) とこ (所) だて。

はたけのもん 【名詞】 農作物 [用例] ハタケノモン

盗て来るのを のあらし。

はたけぶしん【名詞】 畑を耕作しやすいように手入れすること。[会話] ハタケブシン 言うな (のは)、家普請すんのも (するの) 一緒に、土を皆まくって (掘り返して) 床打ちしたり かたんどる (かたいでいる) 時や (は) 土やって (入れて) 地盤なおしたり そんげんして (そんなに) じっばん (立派に) 作りやすいよおん (ように) すんのを (するの)。

はたけみち【名詞】 畑道。畑と畑とにある細い道。間道。抜け道。[会話] おとおさんと (主人) ふたんな (二人で) ハタケミチ通って こおい (国府へ) 迄行た (行った)。

はだける【開】【他カ下一】 広げる。開いて表す。取り散らす。(志(布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)) [会話] 前も えごと (完全に) 合わさんと (さずに) ハダケトルヤンかあ (ているでない) 言うやんかい (言います) ひつちやけて (広げて) あやれ (あれ) 前も ひろげさがして (ていて) 言う時も 有るしなあ (有ります)

はたご【名詞】 旅館。[会話] 木賃宿や (だ) 言うて、乞食やとか (だとか)、へんど (遍路) さんや、貧しいのおな (のが) 木賃宿い (へ) 泊まりおったの (泊って居たのです)。ハタゴや (と) 言うな (のは) 宿屋やし (ですし)、木賃宿言うな、乞食や へんどさんや、廻りもん (者) な (が) 銭な (が) 安い とこい (所へ) 泊りおったの、木賃宿い (へ) 泊まるか 言うて。

はたごせん。はたごちん【名詞】 宿屋の宿泊料と食費。[会話] 宿屋を はたごや (だ) 言うて、木賃宿 みたよな (のような) もん (もの) やわいなあ (です)。小間物屋 どきな (などが) 泊まりおったね (泊まりました) ハタゴセン ハタゴチン言うて その泊まり賃 宿賃の事。

はたごや(旅館屋)【名詞】 旅館。宿屋。はたごに同じ。

はだささんとある 新しい着物 作って 一度も着てない衣類 [会話] 肌ささん 一遍も てえ (手) 通さんと (通さずに) あんのを (有るのを) ハダササントアル 言う。 一遍 (一度) も着てないのを、こしやえたや (作ったら) そのまんま (儘) ん (の) のおを (のを) ハダササントアル。

はださびし【形容詞】 はださびしい、なんとなく寂しい
はださべし参照

はださぶい【形容詞】 肌に冷たく感じる。少し寒い感じがする 肌さむい [会話] ハダサブイのをなあ すうすうとまあ えらい (大変) さぶいわれ (寒いで

す) 言うて。

はださべし【形容詞】 はださびしい。異性と肌を接しなため寂しい感じがする。なんとなく寂しい。

はださわり(はださはり)(肌触)【名詞】 皮膚に触れた時の感触、物の表面の感触

はたさん 完成しない しない (志(布施田))

はだしか【名詞】 履物を履いて居ない事。裸足。(志(浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、国府、安乗)、桑市、員、鈴市、安、一、多、上、阿、張、名、度、北、南) [会話] なんも (なんにも) 履かんと (履かずに) おると、ハダシカ 言うて。ハダシカマイリや (だ) 言うて、草履も履かんと、足袋も履かんと (ずに)。神さんへ 百度参りすると、ハダシカマイリする 言うやんない (でしょう)。そのときや (時は) 足袋も履かんと ハダシカで 百度参り行て (行つて) ひとつぼおつ (一粒づつ) 参るたびに 置いてすんの (するのを) 百度参り、ハダシカマイリ言うて。そして (そうして) 子供らな (が) ハダシカで歩いて 又家の中入つて来る 言うて よお (よく) わるいおつたやんかい (叱つて居ました)。ハダシカマイリして ちい (血) な (が) 出る程も なんやかや (何彼) 言うて。あしのひら (足の裏) な (が) 血な (が) 出て来て もみじ (紅葉) ちらして 言うて よお言うやんか (よく言います)。ハダシカマイリ 紅葉 散つとる (て居る) 言うて、血な (が) 付いて そこらな (付近が) 紅葉の葉 みたいん (のように) なつとん ねやるなあ (なつて居るでしょう)。石の上を やいこい (柔い) 足で ハダシカで 百度も 行たり来たりするもんで (ので) むけてくんやるなあ (行くので) しょう)。

はだしかまいり【名詞】 神佛に祈願をかけて、跣で参詣すること。はだしか参照

はだじばん【名詞】 肌に直接着る襦袢。肌じゅばんの訛

はたしやい(はたしあい、はたしあひ)【名詞】 果合 はたしあいの訛 喧嘩 殺し合い

はたじろ。はたじろます【名詞】 はた科の魚、体は美しい朱紅色で、四〜五條の濃赤色の横帯があり、背鰭のとげの部の外線が 濃褐色をして居る。若魚には体側に七ヶの横帯が有る。(志、鳥) [会話] ハタジロ 言う魚や。

はたす(果)【他サ五】 1) 完成する 仕上げる 2) 使いはたす

はだすかれた 激しく叱られた [会話] ハダスカレタ

言うてなあ。わり (悪い) 事して 怒られて まあ
ハダスカレタヨオ 言うてなあ、仰山 (沢山) に
怒られんのをなあ (られるのを)、魚のはだ (鱗) すい
た (除いた) よおな もんやわい (ものです)。まあ
今日は わるわれて (叱られて) ハダスカレタ 言う
てなあ。

はだすかれる 激しく叱られる

はだすく 1) 叱る 怒る 2) 魚の鱗を取り除く

はたち【名詞】 二十歳

はたつく 空腹を訴える。空腹のため急いで食べる。[会
話] いくら 食べやしてもなあ (させても) 食べんと
(ずに) おるよん (ように) いやあして (卑しくて)、
食べるとこ (所) ばっか (ばかり) まあって (廻っ
て) 来て 掴み食い (つまみ食い) したりすんのなあ
(するのです)、ハタツイテマア言うてなあ。卑し事ば
っか (ばかり) すんのを (するのを) ハタツク あれ
見い これ見いして 食いたそおん (に) しとんの
(しているのを) をなあ、びんぼにん (貧乏人) の子
ら ハタツク 言うて

ばたつく【自力五】 忙しそうにする。ばたばたする。ば
たくる参照 (志 (布施田))

はたつら【名詞】 側面 横近く (北)

はだてる【他タ下一】 1) 初める。催す・場立てる。旗
たてる。企てる。(志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立
神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)) 2) 仕事
を拡大する。[会話] 1) ハダテル 言うな (のは) 始
める 言う事。ごっつお (御馳走) ハダテンナ (てる
のは) えらい (大変) 言うて、なんやかや (いろい
ろ) 入れたり 出したり 支度すんのを (するのを)
ハダテル 言うの (のです)。ハダテンナえらいよって
(大変から) 宿屋でしてもらおか (貰おうか) 言うて、
今しゃ (今は) 皆 してもらやんない (して貰うで
しょう)。昔や (は) そいな (そんな) ごっつおや言う
と 一週間も前から たので (人を頼んで) 初午や
(とか) 結婚式やると (すると)。一週間も てとて
(手伝って) 家のもな (者は) とおからず (以前か
ら) 用意して 一週間ぐらいいつ (位) しいおったわ
い (して居ました)。まな板洗いや (だ) こえ持ちや
(だ) 言うて。一番初めは たるぐちあけ (樽口開
け) や (だ) 言うて、一番しまいは まな板洗い迄
よばれて (御馳走になって) 言うて こえ持ちして
まな板もあると (洗って) なんもかも (すべて) する
迄 よばれると 一週間もかかちおったの (かかち
居たのです)。ひろげて 支度すんのを (するのを) ハ

ダテル 言うのなあ (のです)。

はだなあ 長時間海女作業が出来る。海の中で寒くな
らない。はだがある。海に潜っても体温の低下が少な
く長く海で作業して居ることが出来る [会話] ○○
言うな (のは) ハダナアンケド (有るのだが) なん
も (何も・少しも) よおとて来んで (取って来なくて)。

はだなあわん 気が合わない。心が合わない。しっくり
しない。肌参照 [会話] ハダナ (が) アワセンワレ
(合わない) 言うて、気なあわせん (が合わない)、し
よおん (性格に) あわんとなあ (合わない)、ハダナ
アワンヨッテナア (から) 言うてなあ。

はだなすれすれや 気が合わない。[会話] あれた (彼
とは) 肌な (が) 合わせんねよって (合わないのだから)
言うて、ハダナ ストレスやよってん (だから)
言うて、気な (が) 合わん (合わない) 言う時ん (に)。

はだない 寒くて長く潜れない、はだがない

はだなみ【名詞】 風になって波頭が白くなり 飛沫が飛
んでいる状態 [会話] ハダナミ言うのは かざなぐ
れの事を 言うのなあ。うねりん (に) ならんと 風
のあばけ (力) で ちょいと しゃしゃとなあ しぶ
きな するぐらいを かざなぐれ 言うの。

はだなながい 海女が長時間海で作業出来る。

はだのぎ【名詞】 肌脱ぎ。上半身裸のこと。はだぬぎの
訛 (北) [会話] かと舟は (鯉舟は) 舟な (が) おっ
きい (大きい) よって (から) 早よ (早く) いかな
(行かなければ) はざんやんない (いけないでしょう)、
そやよって (だから) ハダノギかけて 押せ押せ (漕
げ漕げ) 言うて。

はだのぐ (肌脱) 【自力五】 努力する 協力する

はだのび【名詞】 肌の帯。襷。(北、尾、北)

はたのもん【名詞】 1) 周囲の者 取り巻いて居る人
はた参照 2) 近くに有る物

はだはだ【名詞】【形容詞】 仲が悪い (志 (鶴方、神明、
立神、安乗)、阿、張、名)

ばたばた【名詞】 オートバイ。(南、熊) [会話] にげな
(人間が) バタバタ すんのも (するのを)、慌てて
ばたばたすんのを (するのを) バタバタと 慌ててま
あ。はよ (早く) 行かな (なければ) はざんのん (い
けないのに) おもて (思って) バタバタととして、泡
くうて (食って) なんもかも (なにもかも) 皆 ほっ
といて (捨てておいて) 来たれ (来ました) 言うてな
あ。貝も、バタバタ 言う貝も有るし、バタバタン
(に) 乗って来た 言うて、舟を 発動機つけとん
の (ているのを) ぼんぼんせんや (だ) とか バタバ

タぶねや(だ)とか 言うてなあ そして オートバイでも あや(あれ) バタバタン(に) 乗って そらかして(走って) 来たれ言うてなあ。

ばたばた【名詞】 桧扇貝。イタヤ貝科の二枚貝。潮間帯の岩礁に糸足で付着する。殻長約12.5、殻高約13、殻幅約3.5cmの扇形の貝で、殻頂の左右に耳状突起がある。殻表には24本内外の放射肋があり、肋上に多数の鱗状突起がある。ふつう褐色だが、黄・橙・紫などを帯びる美しいものもある。肉は食用、殻は観賞用。(志(鶴方、神明、立神、国府)鳥、津、度、伊)

ばたばた【副詞】 慌てふためく どたばた 乱暴に動くさま 前々項 ばたばた参照

ばたばたがい【名詞】 桧扇貝 ばたばた参照(志(浜島))

ばたばたじょおり【名詞】 足に合わない大きな草履。歩くとばたばたと音のする事から [会話] 子供な(が) どいらい(大きい)の履いて、じょおり(草履) てんま(伝馬船)履いて そやれ言うて、大人のお(ののを)履くと 尻な(が) 余つとる(て居る) やんない(でしよう)。伝馬い(へ) 乗ったよおん(に) しとるやんない、てんまじょおり履いてあやれ。バタバタジョオリ履いて。伝馬い(へ)一人な(が) 乗つとると最後(乗って居る時)それに よお(よく) 似とるもんで(似て居るので) てんまや(だ) 言うね(言うのです)。てんまじょおり履いてあやれ 言うて、そして歩くと ばたばたしとるもんで(して居るので) バタバタジョオリや(だ) 言うね(言うのです)。草履やなしん(でなくて) じょおり、じょおり言うの(のです) 草履の事を。

ばたばたぶね【名詞】 発動機船 発動機エンジンを推進力とする舟 ばたばた参照

はたび【旗日】【名詞】 1) 国民の祝日 2) 婦人の月経期間 下着が赤く染まる事から [会話] 1) ハタビ、祭日の事を ハタビや(だ) 言うてなあ。2) ハタビ女のなあ 赤玉ポートワインや 今日、赤玉やよお(だ) 言うて、磯(海女) いてもなあ(行っても) 用意 せんと(せずに) 行くと なあ 磯なかね(腰巻き) 日の丸に すんねてや(するのです)。まあなあ 用意 せんと(せずに) 行くと 途中で なるやんない(でしよう) そすと(すると) やあい 日の丸 揚げたよお 言うてなあ。

はたひろ【名詞】 二十尋 約三十米

ばたふご【名詞】 1) 大きな底の深い藁製の畚。2) 下

手な大工 [会話] 1) バタフゴ 言うな(のは)、どいらい(大変) 麦 入れるふご(藁製の畚)を バタフゴ 言うの。麦を干して それ踏み込むの(のを) バタフゴや(だ) 言うて。2) 大工 下手なのを ふご大工や(だ) バタフゴや(だ) 言うやんかい(言います)。ふご大工やよってん(だから) 下手な 大工は あやまあ(彼は) ふごやよってん言うて、下手な事を 言うやんかい。ふごもふごやけど(だが) バタフゴや(だ) 言う。1) さらふご 言うな(のは) 皿みたいん(のように) ひらくたい(平な)のを さらふご 言うの(のです)。バタフゴは 桶みたよおん(のように)。バタフゴで 芋にのて(担って) 言うて、おつきい(大きい) ふご 持つとると(持って居ると)。

はたぶら【名詞】 椿の果実。(椿を畑の廻り植える事からか) はたあぶら。(志(御座、越賀 布施田)) [会話] 椿のみに(実) ハタブラ 言うて、伊豆の大島の方は 今し(今)でも 絞つとんなあ(絞って居ます)。にあけ(三宅) みくだ(御蔵)に 式根島 言うて なんや(なにか) しちとお(七島) あんねやんかい(有るのです)。で その島へ 行くと 椿の名所やもんで(なので) 椿油を よつけ(沢山) もおて(貰って) きいおった(来て居ました)。おばらな(小母が) 歌いおったやんかい(歌って居ました)。あれは すうきいねえの(式根の) やらそら ほおけお船だよ(棒受け船だよ) 言うて。ほけ舟 言うと ほけ網 引く船を。椿油は 頭につける。天麩羅したら ものすごおええね(大変よいのです)。天麩羅も すやええけど(すればよいが) 天麩羅する よおん(ように) なんなあるか(量が有りません)。そやけど(しかし) 伊豆の方行くと そんで(それで) 天麩羅揚げんねやろ(るのでしよう) よけ(沢山) 取れるもんで(ので)。此処から 行くと 土産に ビール瓶に 一杯つ もおて(貰って) きいおった(来ました)。和具でも 絞りおった(絞って居ました)。絞る機械な(が) 有りおった(有りました)。たまのきい(木)で、たまの木やなけな(でなければ) 油な(が) 死んでく(行く) 言うて、たまの木を ほじえて(ほぜる、穴をあける) 芯へも たまの木で こさえんねやんか(作るのです)。そして まめじゃっき(小さな圧迫器) こおて(はさんで) 絞るよおん(に) なつとたね(なつて居たのです)。あの油つけると 髪もくろうろ(黒く) なつて そやけど(しかし)、わしや(私は) 頭な(が) やめんね(痛むのです) 効き過ぎて、ねえ(根・毛根) な(が) 指な(が) 掘えられん(置けない) よお

ん(に) なってくんね(来るのです)。ひなて(日の当る所で) ぬくたいとこん(温い所に) おるやんない(居るでしょう)。すすと(すると) 頭のねえな病んで(痛んで) ねえな ずきずき 言うて やめて、な つちやらしてくよおな(なんとかなって行くようだ) 言うて、いび(指) 五本しとして(しておいて) 押えとらな はざん(ていなければ駄目なのです)。夏ん(に) になると わしやわしやする おもたら(思った) ら 蟻な(が) わやわやと あれ つけとると(つけて居ると)。

はたふり(旗振)【名詞】 集団で行動する時、先立って企てたり、指図したりすること、又その人。[会話] ハタフリ言うて、先に立って あれせえ(しなさい) これせえ言うて みんな(皆)の 大將ん(に) なって指揮する おやろなあ(のでしょう)。

はたまあし【名詞】 付近 近く(安) [会話] ハタマアシ 言うのは、そこらあたし(あたり)、近いとこ(所) なあ(です)。あの家 ハタマアシの方に 言うて、隣近所や(とか) そこらへん なんか(なにか) 近くに置いとると(て居ると) そや ハタマアシ 探して 見よまあ(見なさい) 言うて。周囲の事を ハタマアシ。

はたまあり。はたまわり(はたまはり)【名詞】 そのあたり。その近く。周囲。はた、端、側、傍、その周囲、まあし、まあり、廻り、周囲、ぐるり、付近、近辺あたり。(上、阿)

はため(傍目)【名詞】 他人の見る感じ。当事者以外の人を見る目。[会話] はたの見るめえ(目) かい(ですか)。ハタメから見ても あの人ぎや(人の家は) 金持ちや 言うの(だ) わかっとられ(判っている)とか、ハタメから 見ても あの家や(は) 惨めや なあ(だ) 言うたりなあ。

はたもち(旗持)【名詞】 部下。家来。おべっか使い。自分の主を他人に偉く言う者。[会話] 葬式の ハタモチ。家来言うのも、あや(彼は) あんな(彼の) ハタモチ やてや(だ) 言うやんかい なあ(言います) 家来ん(に) なっとんのなあ(なっているのです)

はたらかす(働)【他サ五】 働かせる。活動させる。[会話] よけ(沢山) ハタラクシテ、あの家や(は) きぶ うて(きびしくて)、人使い な(が) ある おて(荒くて) 働きな(が) えらい ねてや(大変なのです) 言うてなあ。

はたらき(働)【名詞】 1) 仕事。労働。労働の質量
2) 子供の運動や遊び [会話] 1) わか が か(若嫁

は) ら(は) ハタラクヤ せん ならん し(しなければならん) し、こお(子)に 乳 くれん ならん(くれなければならん) よつて(から)、腹 な(が) へる やんかい(へります)。

はたらきぎ【名詞】 仕事着(志、鳥(桃取、神鳥)) [会話] 仕事着をなあ ハタラクギ や(だ) 言うて。はたけき もん(畑着物) や(だ) 言うのを 仕事 着 や(だ) 言うね(言うのです)。

はたらきて(働手)【名詞】 1) 一家の中心となって生計を支える人。2) よく働く人。(北) [会話] 2) あの ひた(人は) よお(よく) 働く、はたらき ど や(だ)、ハタラク キテ や な 言うて。

はたらきで 働いた効果 で は、それに対して効果を表す。喰いで な ない。

はたらきど(働人)【名詞】 1) よく働く人。2) 手伝い人(上、張、熊) [会話] 1) よお(よく) 働く。ハタラク キド た の で(頼んで) あの ひた(人は) よお 働く ハタラク キド や(だ) 働 き 人 や な あ(だ) とか、働 き 手 や な あ と か、働 き 手 た の で(頼んで) 言うて、よお 言う やんかい(言います)。ハタラク キド 言うのは よお 働く 人 と、お 手 伝 い さ ん。2) お 手 伝 い も、ハタラク キド や よつて ん(だから)、ハタラク キド 頼 ん ど ん ね(で居るのだ) 言うて、よお 言 う やんかい。はた け ど(畑仕事の手伝い人) や、た あ ど(田の手伝い人) 言うのも はた け ど た の ど る(頼んで居る)、た あ ど た の ど る 言 う な(のは) 皆 働 い て も ろ と る(貰って居る) よつて ん(から) ハタラク キド。

はたらきびと(働人)【名詞】 よく働く人。はたらきど、はたらきて参照

はたらきもん【名詞】 働き者。よく働く人。[会話] よお(よく) 働く 人 を な ハタラク キ モ ン や よつて(だから) 言うて な、なん も(なにも) とり え(よい所) 無 い し 働 く の な(が) とり え て 働 く の や(のだ)。

はたらめ【名詞】 他人の見た目。他人のする評判。[会話] あの お な が(女は) ま め(よく) に 働 い て 言 う て、ハタラ メ な(が) 言う。

はたり【名詞】 多数の鶏を飼育するための小屋。とりびや参照 [会話] 鶏 本 格 的 に 飼 う 家 や(は) バタ リ 言うて、針 金 で こ し や え て(作って) あ ん の を(あるのを) 組 み 立 て る よ お ん(ように) し て 有 つ て、糞 は 下 い(へ) 落 ち て 卵 は こ ろ こ ろ と ト タ ン で 下 い(へ) 落 ち て 来 る よ お ん し て(ようにして)。

はだわり【名詞】 腹が悪い。性格が悪い、またその人。

ら と だの訛 [会話] ずくな(が)わり(悪い) 言うど、こんじよ(根性) な(が)わり、心な(が)わり人を、ずくわりや(だ)とか、ハダワリやとか言うて。

はだをすく 1) 鱗を取り除く 2) 完膚なき迄にやっつける はだ 人体の表面。物の表面。性質、気質。すく 剥く。薄く切り取る。そぐ、鋤く、たがやす、取り除く。[会話] 2) ハダスク 言うな(のは)、ハダスカレタよお 言うて。ものすごお(物すごく) 怒られたのを ハダスカレタよお 言うて、1) そして魚の鱗 とんのも(取るのも) ハダスク 言うて。2) よけ(強く) 怒られると ハダスカレタよお 言うて、今日は こげんして(こんなにして) したや(したら) あれん(彼に) ハダスカレテ まあ言うて ひどく怒られんのお(怒られるのを) ハダスカレタ。

はだん いけない 駄目だ(志、鳥)

はたんきよお(はたんきやう)(巴旦杏)【名詞】 スモモの一品種。果実は球形で先がとがり、果皮は白粉を帯び、始め深緑色で後深紅色になる。果肉は黄色で甘い。パタンキョウ、シヤバ島の Bantan から(大言海)(三重県全域) [会話] ハタンキョオ 言うな(のは) すももの事やねえんかい(でないのですか)。はらんきよお 言うな すももん(に) よお(よく) 似とるけどなあ(似ています)。

はち(鉢)【名詞】 頭蓋骨。頭。形が似て居るので [会話] 頭のハチ、はちちあしな(が) よおて(よくて) 言うやんかいなあ(言います)。頭の ええ(よい) もん(者) を。頭の皿やたら(だとか) ハチやたら(だとか) 言うて。

はち【名詞】 お転婆。はち、おはち。はねかえりより、若い娘や女兒が男のように活発にとび廻って、女らしい慎みの無い事、又そのさま、そのような人。十の性格の内、八が男の様だとの意味か(志(浜島))

はち【名詞】 井(南、熊)

はち【名詞】 馬鹿 十のものが八よりない意。(張)

ばち(罰)【名詞】 神、仏が人間の悪い行いを罰してそのこらしめ、つぐないとして苦しみを与えること、又その苦しみ。(三) [会話] パチな(が) 当たったんやれ(たのだ) 言うやんかい(言います)。のお(お前) みたよな(ような) もん(者) パチな(が) 当んど(当たたるぞ) そいな(そんな) わり(悪い) 事 したら 言うて、わり事ばっか(ばかり) しとると(していると) パチアタリの はてなしや(果て無しは) 言うて わるいてなあ(叱って) 子ららを(子供達を)。

ばち【名詞】 海魚 めばち サハ科の海魚 マグロの一種。全長約2mに達す。体はよく肥え、目が大きく、ビンナガに似て胸鰭が長い。背方は黒青色で、腹方は白色。肉は淡紅色。

ばちあたり(罰当)【名詞】 罰があたること。多く悪い行いをした人をののしって言う。(志(布施田)) [会話] パチアタリも ごおさらしも 一緒や(です)。あや(彼は) わり(悪い) 事 しとんねよつて(しているのだから) ばちな(が) あたったんやれ(当たったのだ) 言うのを ごおさらし。

ばちがい(ばちがひ) 場違【名詞】 居るべき場所でない所に居る事

はちかつとる 開いている。着物の前、股などを広げている。はちかる参照 [会話] ハチカトル 言うて 踏ん張つとんの、はちやけとるやら ハチカトルてやら 言うて。

はちかる。はちかる 1) 股を開く。足などを大きく開く。(志(片田、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)員、度) 2) 着物の襟や裾などが広く開く。[会話] 1) ハチカトル 言うて 踏ん張つとんの(て居るのを) ハチカルやら(とか)、はちかつとる てやら(とか) 言うて。そして 此処らの人は ひっちゃけとる(広げている) 言うの(ののです)。ほやあれ(それ) 足 ひっちゃけて(開いて) あのさま(様子) 見よまあ(見なさい) 言うて。はちちやけても 言うなあ(言います)、ひっちゃけとんのおを(て居るのを) はちちやけて 言うね(言うのです)。広げとると(て居ると) ひっちゃけて 言う人も有るし、はちちやけとられ(ている) 言う人も 有るし。2) きもん(着物) も はちちやけとられ 言うて 前をなあ(です)。帯とり広げて(着物をだらしなく着て居るさま) そやあれ 言うて 帯解け広げ 言わんと(ずに) 帯とり広げ 言うて、胸 ひっちゃけとると(ていると) あやあれ(あれ) 胸 ハチケテ 帯とり広げ みた いん(のように) しとんない(して居る) 言うて。なんでも 口な(を) 縛つとるもん(縛つてある物) 広げると ハチケテ まあ そやあれ(それ) 言うて、口な(が) せばい(狭い) のおを(のを) 広げん(るのを) ひっちゃけまあ(広げなさい)、広げる事を、ひっちゃけるとか ハチケル 言うて、口も ひっちゃけとられ(て居る) 言うて 大口開くと 口もひっちゃけて あやあれ(あれ) 言うて。

はちくた。ばちくた【名詞】 よく喋る人。(志(片田 浜島)) [会話] よお(よく) 喋る にげ(人間) を ハ

チクタヤとか (だとか) ハチナイヤとか。

はちける【自力下】 1) 広げる。はちかると同義。
(鳥) 2) 破れて開く。はじけると同義。[会話]
1) ひっちゃけとられ (ている)、股も ひっちゃけて
言うて、ハチケトル (ている) 言うのをなあ

はちじょう (はちぢやう) (八丈)【名詞】 八丈縞の略。
黄八丈の類、八丈島で作られる絹の縞織物。[会話]
ハチジョオの縞 黄八丈言うて。だんだらすじん
(に) なつとんのおなあ (なっているのです)、ハチジ
ョオの きもん (着物) や (だ) 言うて、どいらい
(大変) たつとびおつた (珍重しました) ハチジョオ
のきもん着て言うて。

はちない【名詞】 よく喋る人。おとこはち、はちくた参
照

はちなつられる 蜂がとまる。[会話] 蜂な ツラレテ
くや (くれば) 拂うやんない (でしょう)。

はちのすう【名詞】 蜂の巣に穴の多い事から 1) 口ば
かり 言行不一致の事またその人 2) よく喋る人
[会話] 2) 口のか (皮) ハチノスウやれ (だ) 言うて
なあ、口な (が) えらいとなあ (大変だと)。ハチノス
ウにや (には) 口な (が) よつけ (沢山) 有るやんない
(有るでしょう) そやもんで (それで) 口なえらい
もな (よく喋る者は) あや (彼は) まあ 口のか
(皮) ハチノスウやなあ (だ) 言うて、よけ (沢山)
喋る人を。1) 口ばっか (ばかり) で 言うとして (言っ
ていて) 一つも (なにも) しやせんのも (しないの
も) あや (彼は) ハチノスウで、口 ばかやれ (ばか
りだ) 言うて。しごた (仕事は) なんも (少しも) せ
んと (せずに)。

はちのすうかつたたぐらいや【俚諺】 大騒ぎしている
(志 (布施田))

ばちばち【名詞】 珊瑚の一種 [会話] パチパチな
(が) よけ (沢山) 網い (に) 掛けて だち (埒) な
(が) 行かんで 捌くのん (に) 言うて、海の 一番
わりもん (悪い物) やなあ (です)。食われやせんし
(食べられない) 畑のこえんも (肥料にも) ならせん
もんなあ (ならないから)、パチパチ してて (してい
て)。

はちばらい (はちばらひ)【名詞】 両手を振って激しく拒
否する 蜂拂いか。

はちはらうよおん 激しく拒否する [会話] 蜂なつら
れて (連られる、くつついて) くや (来れば)、こんに
(此のように) 拂うやんない (でしょう)。そやよつて
(だから) そげな意味やわい (です)。人の言う事をま

あ、幾ら人が言うても 言う事聞かへん (聞かない)
言うのを、ハチハラウ。こげん (こんなに) 蜂な
(を) 拂うてばか (拂ってばかり) おるやんな (居
るでしょう)、そやつて人な (が) なつと (なんと) 言
うても 聞かんと (聞かずに) したんのを (して居る
のを) ハチハラウ言うの (のです)。まあ (もう) どお
あつても (どうしても) いなん (いらぬ) 言う事
ハチハラウヨオンに言うのなあ (言うのです)。

はちぶ (八分)【名詞】 少し足りない人。一人前の能力の
ない人。(志 (浜島)) [会話] あんごしのお (のを)
を あや (彼は) ハチブや (だ) 言うて。寸足らずも、
もやしな (が) 足らんねやれ (足らないのだ) あや
(彼は) 言うて。一銭につませんやとか (だとか)、ま
るきんやとか 言うて、あんごし (馬鹿) のを そげ
ん (そんなに) 言うわい (言います)。まるきん 言う
な (のは) あんごしのおをだ まるくとおて (丸く
て) 人の言う事 真受けん (正直に) するもんで (の
で) 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。ハチブも は
ちもんも 一緒の意味やけど、そやけど (それだか)
ハチブ 言うな (のは) 言いよいんかして (言いやす
いのか) あや、ハチブやよつてん (だから) 言うて
ちよいと (少し) もやしな (が) 足らんと たいがい
(大体) ハチブや (と) 言うわい。

はちぼく (八木)【名詞】 米寿 (尾、度) [会話] 八十八
言うのを ハチボク 言うて。

はちぼくいわい (八木祝)【名詞】 八十八の十八を合わせ
て、木としたもの。八十八才の祝。(度)

はちも。はちもん (八文)【名詞】 少し足りない人。薄馬
鹿。(上、阿) [会話] あや (彼は) ハチモやれ (だ)
言うてなあ。ちよいと (少し) 足らんのをなあ 八分
や (だ) 言うのも 有るしなあ、ハチモやれ (だ) あ
や (彼は) いっしえん (一銭) に 詰ませんわれ (な
い) 言うてなあ。

ばちや 罰だ、ざま見ろ ばちやれ参照

はちやかる 開がる (志 (神明、立神))

はちやけとる 開けて居る。広げて居る。はちかる参照
[会話] きもん (着物) も ハチヤケトル言うて 前
を ひっちゃけとると (開けていると)。

はちやける 開げる。広げる。(志 (神明、立神)) [会
話] ハチヤケトラレ (ている) あやれ (あれ) 言うて、
ハチヤケン (る) のも、ひっちゃけんのも 一緒やわ
いなあ (です)。ひっちゃけとられ言うの (のを) ハチ
ヤケトラレ言うてなあ。

ばちやれ 悪事の報いだ、悪い事をしたから当然だ [会

話] バチャレ おら (俺) ばっか (ばかり) 苛めて わり (悪い事) 事 ばっかするよつて (から) バチャレ 言うてなあ、わり事 しとると (している)。

はちろ 一生懸命でしている。[会話] ハチロん (に) なつとる (なっている)。いっしょけんめ (一生懸命) で、あつちや (あちら) 見い、こつちや (こちら) 見いして 探しとるやんない (探しているでしょう) めえ (目) ひつちやけて (開いて) ハチロん (に) なつとる (なっている) 言うて。

はつ【名詞】初 最初 最初の物 その年の収穫の初めての物 (多)

はついとる 食物に対して卑しい がつがつかつと食べている [会話] ハツイトンナ (ているのが)、くとる (食べている) 言うて。いつ迄 くとんねない (食べているのだ) 言うて。ハツイテ いやして (卑しくて) 言うて、食うもん (物) をなあ いつ迄くると、ハツイテ いやしねよつてん (卑しいのだから) 言うて。ただ いやし (卑しい) だけやなしん (でなくて) がさがさと よけ (沢山) 食うので ハツイトル。

はつうま はつんま (初午)【名詞】厄年。厄難のおこる年令として忌み慎むべき一定の年令。男子二十五才、四十二才、女子十九才、三十三才は全国的。(志、桑市) [会話] ハツンマ 厄の事を ハツウマ。ハツウマ祝うとこ (所) も有るし、二の馬祝う とこも有るし。此処らは ハツンマ 言うねよつて (言うのだから) 初の午を。やくどし (厄年) やんかい (です) ハツンマは、四十二とか二十五とか三十三とか 厄年のもん (者) を ハツンマ。昔は四十二と二十五と、三十三と十九と祝いおつたん (居ました)。今しや (今は) 六十が祝いするやんない (でしょう)、七十になると 古稀の祝いするやんない、今しや 小癩ん (に) なつて来て よけ (多く) すんね (するので) こつて来て (生意気になって)。こつて来て 小癩な事 なるてきて (習って来て) ひねこしなつて来て。本 読んだり、テレビ見たりするもんで (ので)。昔や (は) そんだけ (それだけ) で よかつたんけど (よかつたが) やんない、今しや 祝いやてやら (だとか) 古稀の祝いやてやら、色々まだよつけ (沢山) 祝う事な (が) 有るやんかい (有ります)。

ばっか (ばかり) (幕下)【名詞】手下 (志 (布施田)) [会話] バッカ 言うな (のは) 家来の事を 言うやんない (言うでしょう)。あや (あれ) バッカ 連れて来て 言うて。

…**ばっか**【副詞】ばかし ばっかしの訛 1) ばかり、

だけ。副助。ばかりの転。近世江戸以降の語、物事を限定する意を表す。(志 (浜島、布施田、鶴方、神明、志島、国府)、鳥、桑郡、桑市、員、四、鈴市、津、一、久、多、上、張、度、伊、北、南、熊、尾) 2) ばかりの形で動作が完了し、まだ間のない事を表す。[会話] 1) それバッカ 言うのは、それを ひととおり (一辺倒) の事を しとる (して居る) 事を それバッカ 言うて。飯でも、芋飯バッカ喰とると (食べて居ると) 芋飯バッカ 言うやんない (言うでしょう)。米の飯バッカ 喰とんのおを (食べて居るのを) 米の飯 バッカ 喰とると たんの (堪能、あきて来て) して来て 言うて。米の飯で たんのして来て、こんだ (今度)は 麦飯も喰いたいわれ (食べたいです)、米バッカ喰とると わりわれ (悪い) 体も言うて。芋バッカ 喰とや (食べておれば) たんのするしなあ (する) 言うて。

はつかいも【名詞】薩摩芋の一種 (伊、南) [会話] ハツカイモ 器量なよおて (表面が滑らかで) 剥きよおて (剥きやすく) て こお (粉) な (が) ふいて しよおつて (して居ました)。そして おつそお (遅く) 迄 すうなたんで (鬆が入らなくて) よかよおつて (よかつて)、そんで (それで) ハツカイモや (だ) ハツカイモや (だ) 言うて。上は あつかい (赤い) 色しとる (している)、あや (あれ)は アカハツカ、ハツカイモは しいろおて (白くて) 皮な (が)。アカハツカ や (と) 言うな (のは) あつかい色で アカハツカも うまいてや (美味しいので) いもんにやげ (炊いた芋) して食うと。

はつかけ (八掛)【名詞】女のあわせや綿入れの着物の裾の裏につける布。すまわし、身ごろの裾に四布、おくみに二布、襟さきに二布合わせて八つに裁つて用いたところから言う。(志 (志島、甲賀)) [会話] ハツカケ こおろ しゃあり しゃり 言うて、きもん (着物) のハツカケ。裏を、腰から下い (に) 付けんねやんかな (付けるのです) 胴より違う きれ (布) をなあ。胴は、ふるうても (古くても) 晒でも なんでも (なにでも) しといてなあ (しておいて) ハツカケは ええ (よい) のを 絹を 付けえおつた (付けました)、モス付けたり 縮緬をつけえおつた。裾さばきな (が) ええよおん (よいように)。

ばっかし【副助詞】ばかり、のみ …ばっか参照 (志 桑市、員、三、鈴市、安、松、多、上、阿、張、伊、尾、南、熊)

はつがつお (はつがつを) (初經)【名詞】其の年 初め

て市場に表れる鯉 現在は南方海上の物が一月中にもとれるので、四月頃黒潮に乗って来る物を言う。

はつかやみ【名詞】 陰暦二十日の夜、月も細くなり暗くなる

はつから 最初から

はつかり【副助詞】 ばつか参照 1) ばかりの訛、のみ(員、鈴市、鈴郡、安、一、多、阿、張、名、伊、南) 2) 動作の完了して間のない事

はつく 勢いよく食べるさま。空腹で食欲を訴えるさま。(志(布施田)) [会話] ハツク 言うな(のは、いやし(卑しい)の(のです)。なんでも しよずみ食い(つまみ喰い)して。そして(そうして) よけ(あまり)ハツクなまあ 言うて、なんやかや(何彼)喰うと、いやし(いやしい)事 あれも喰い 此れも 喰いすると よけハツクなまあ 言うて。

はつくしよん【名詞】 噓(志(鶴方)) [会話] ハックシヨンは くしよめへええくしよん 言うて。

はつくしよんべ【名詞】 噓と共に、小便を漏らす事 [会話] ハックシヨンベ言うて、はつくしよん(噓)すると、どいらい(大きい)のすると、おしっこ(小便)ちびる(もらす) やんない(でしょう) そやもんで(それで)ハックシヨンベ 言うて。

はづけ(葉漬)【名詞】 1) なっぱの漬物。(南) 2) 野菜の葉を漬けたもの。[会話] ② とんがらし(唐辛子)の ハツケ、なんやかや(いろいろ)匂いのする もん(物)ハツケもんすると 旨いのなあ ちそ(紫蘇)でもなあ。

はっけみ(八卦見)【名詞】 占いを業とするもの。易者。(志(国府、布施田、鶴方、的矢)、鳥(相差)、桑市、員、上、阿、張、名、南) [会話] 運勢 八卦 占い師 ハッケミな(が)来た 言うて、嘘も八卦 ほんと(本当)も 八卦 言うて。嘘も 言うたり、ほんとも 言うたり、ハッケミな(が)来とんねてわい(来ているのだそうだ) 行こやんか(行きましょう) 言うて。

はつご(初子)【名詞】 最初に生まれた子。初めての子。[会話] 初めの子、ういこ(初子)言うのなあ(です)。ういこでも ハツゴでも 一緒や(だ) けどなあ(が)、ういこで まあ 大事のこお(子) やよってん(だから) 言うてなあ。

はっざおかい。はっざおかれ。はっざよかい。はっざよかな(女性語)。 **はっざよかれ** 駄目だ [会話] そいな(そんな)事したら ハツザオカレ 言うてなあ。そいな(そんな)事したら いけません 言うのを、

はっざよかれ だけやなしん(でなくて) ハツザオカレ 言うて ものすごお(大変) わり(悪い) 時な(が) 有るやんな(でしょう) そいな(そんな) 時んなあ(に)、ハツザオカレ 言うて 力 入れて 言うんやんかい(言うのです)。軽い時は はっざよかれ そんな(それが) 言うて。ハツザオカレ 言うな(のは) ほんとん(本当に) わり(悪い) 時ん(に) 力 入れて 言うね(言うのです)。

はっざさり【副詞】 1) 刀などで勢いよく切るさま。思いきって切りすてるさま。素早く決断するさま。2) 完全に、全部。[会話] ② ハツザリやられた。しんしよ(身上、身代) しもて(失って)、しんしよも ハツザリ いたんてない(行ったそうだ。失ったそうだ)あの家や(は) 言うて。なんでも 倒れると ハツザリ いた(行った) 言うて、きい(木)も どいらい(大きい)のおな(が) ハツザリ 倒れとられ(て居る)とか。

はっざん 駄目だ(志)

はっしやぐ【自ガ五】 1) 乾いてからからになる。乾燥する。乾いて壊れる。(志(立神、志島、甲賀、国府、安乗)、名、阿、度) 2) 騒ぐ。調子ずいて騒ぐ。はしやぐ。(志(立神、志島、甲賀、国府、安乗)、上、阿、張、名) [会話] ② ハツシヤグ 言うんかい(言うのですか) よけ(あまり) たける(やかましく言う)と ハツシヤギ過ぎて 言うて 言うやんかい(言います)。① 桶のわあ(輪) な(が) がさがさしとると(して居ると) ハツシヤンで 桶の輪な 取れてたれ(行った) てやら(とか)。物、干しても はよ(早く) ハツシヤンドル(で居る) うちん(間に) 入れな(なければ) は はざんわれ(いけない) 言うなあ(言います)。よお(よく) 乾いとる(て居る) 言うの(のです)。ハツシヤンドルうちに 入れな 言うて、日中は ハツシヤンドル(で居る) やんな(でしょう) よお乾いとる(て居る) やんかい(て居ます)。そやよって(だから) よお乾いとる(で居る) 事を ハツシヤグ 言うのなあ(のです)。② そして にげ(人間)も、よけ(多く) 嬉しがったり たけると ハツシヤギ過ぎて まあ 言うて。① 桶でも 日な(が) 照ると がさがさに なつてくやんない(なつて行くでしょう)、そすと(そうすると) ハツシヤンドルなあ そや(それ) しめしとかな(ておあなければ) はざんわれ(いけない) 言うて、しめすと わあ(輪) な(が) 締って来る もんで(ので) ハツシヤン ドン(でいるのを) しめしとかな 底な(が) 抜けてかれ(行く) 言うて。

はっしゃげもん【名詞】 乾燥させる物、特に穀類について言う [会話] ハッシャゲモンはその ぬくみな (温さが) 有る うちん (間に) 取り込んで、穀物干してもなあ 取り込みじきな (時が) 遅れると、しと って (湿って) くんの (来るのです)。

はっしゃげる 乾燥させる (上、阿、張、名)

はっしゃんどる 1) 乾燥している 2) 騒いでいる [会話] 1) たあごな (担桶が) ハッシャンドル、2) にげ (人間) も あんまり (あんまり) たけるとなあ (喧ぐと) ハッシャンドル 言うてなあ。はしゃぐ言うのを ハッシャグ 言うて、ハッシャンデ だだぬけ (大抜け) やあれ (だ) 言うて。乾燥して 乾き過ぎて 口な (が) あき過ぎてくのを (て行くのを) ハッシャンドル 言うて。昔や (は) 桶 ばっかやよつてなあ (ばかりだから) 磯樋でも 水 汲む にないでも 米 かすのおでも (のでも) 皆 桶やよつてなあ (だから) ハッシャンデ 水な (が) もつてて (もれていって) いかんもんで (いけないのです)。

はっしょまき【名詞】 八升の種 (粃) を播ける広さの田畑、約六畝 (伊)

ばっす【名詞】 膿疱疹。ばあす参照 [会話] できもん (出来物)、なつむしのより (集まり) やなあ (だ) あんでなあ (あれで、びかびか光って) こんだけ (これだけ) ばかんなつて (程になって) 痛ないねてわいなあ (痛くないそうです) あ の バッスは。

はっせん【名詞】 競争 オヨギヤイ [会話] ハッセン すんのなあ (するのです) およぎやいや (だ) 言うて。

はったあされた 平手で叩かれた [会話] 頭ハッタアサレタ 言うて、てえ (手) を、ひらくとお (平に) すんな (するのは) 張る言うて

はったあす 平手で叩く

はったい (糎)【名詞】 大麦を煎り粉にした物 麦粉 こがし参照 (志 (志島)、北) [会話] こがしとか ハッタイとか 麦粉の事なあ (です)。

はったいこ【名詞】 大麦を煎って粉にしたもの。こがし。麦粉。はったい参照 (鈴市、鈴郡、上、張、南)

はったいのやまい【名詞】 したい事がつること、したい、したい、(4+4=8 洒落たもの) [会話] したいを二つ、したい言うて 二つ重ねると はったいん (に) なるやんない (なるでしょう) そして ハッタイノヤマイ。

はったおす (はったふす) (張倒)【他サ五】 なぐり倒す。(鳥、一) [会話] 頭ハッタオサレタ あれん (彼に)。はったると (叩いてやると) 倒れてくんで (て行くの

で) ハッタオス 言うんかんなあ (言うのでしょうか)。

はったけ (初茸)【名詞】 担子類ベニタケ科のキノコ。夏から秋にかけて赤松林内、地上に発生する。全体は淡赤褐色、傷をつけると青藍色に変わるため、普通はどこどころしみになって居る事が多い。傘は経3~15cmで濃色の環状紋がある、初め偏平、のち縁はやや下に巻くが中央はくぼみ、漏斗状になる。柄は中空で太いがもろい。食用になる。秋の早い時期に採れるところから。(桑市、阿、度) [会話] ハツタケ 言うのな (が) 有るやんない (有るでしょう) 秋ん (に) なるとなあ なんの もとい (へ) でも あや (あれは) 生えるけどなあ (生えます) 何処いでも 出んな (出るのは) 毒茸。

はったされた 張り倒おされた 平手で叩かれた

はったしたれ 張り倒してやれ 平手で叩いてやれ

はったす【動詞】 なぐり倒す。強くなぐる。はりたおす。

(志 (浜島、神明、立神、国府、安乗)、度、伊、南)

[会話] 張り倒す。ハツタシタンドオ (てやるぞ)、はったおしたるん (てやる) 言うて、はったおされたよお 言うて。ハツタス 言うのは 平手で、拳固すん (するのは) 拳固むくる 言うて、拳固むかれたよお 言うて 言うんなあ (言うのです)。てえ (手) 広げといて (ておいて) すんな (するのは) ハツタス 言うのやし (のですし)、こして (こうして拳固で強く殴る) 殴ん (る) のを どばされた どばされたよお 言うて どづかれたとか どぐらされたとか おら (俺は) 親父に どぐらされて とか言うて、殴られる事 どぐらされたよお 言うて。親でも ごおなわいて (腹が立って) どぐらしたんど (てやる) 言うて 怒るしやんない (怒ります)。

はったり【名詞】 相手を、おどすように、おおげさに言ったり、行動したりすること。実際以上に見せようとしておおげさに振る舞うこと、又そのふるまい。[用例] ハツタリばっか (ばかり) ゆうとる (言っている)。

はったり【副詞】 全く、すっかり、うっかり。(志 (布施田)) [用例] ハツタリ 忘れとた (忘れて居た)。

ばったり 完全に、バッタリいた (完全に駄目だった)。

はったりかます 大げさに言う、誇調してものを言う

はったりや【名詞】 大げさな行動をする人。ほら吹き。

はったりをきかせる人。

はったりわすれる 完全に忘れる。うっかり忘れる。

はったんぼら【名詞】 つのぼら 八反の田と代えても食べたい程、美味しいと言う。

はっち【**名詞**】1) 蜂。(志(志島、浜島)、鳥(国崎)、桑郡、三、四、鈴市、松、度、伊) 2) 鉢。(志(鳥、石鏡 浦村)、度、伊) [会話] 2) すりバチ (播鉢) シロオバッチ。昔や(は) かぶとや(と) 言いおったなあ(言いました) シロオバッチを。1) 飛んどる (で居る) ハッチ ハッチに刺された 蜂 言うのを ハッチ 言うの(のです)。よお(よく) 刺されて、お医者さんのとこ(所) い(へ) 足うったね (通ったのです)。めえ(目) も見えんよおになって来て、ちゃえん (茶の木) の もと (根本) 行くと せんざり (多く) 刺されて来て。

ばっち(パッチ)【**名詞**】股引(志、鳥、鈴郡、安、津、松、多、上、阿、張、名、度、伊、尾、南、熊) [会話] 昔や(は) ズボンを 今しは (今は) ズボン言うけど(が)、昔や(は) パッチ言うな(のは) 大工や職人な(が) 履くの (のです) ほっそい (細い) のおなあ (のです) 紺で ほっそお (細い) 足い (へ) きちちと喰いついてすんの (するのを)。くろくわな(が) 穿くの (のを) パッチや (で) 言うて、土方の事 くろくわ。ズボンとも又違うねてや (違います)。股い(へ) はらも入れて 下いも (へも) はらも (三角の布) 入れて パッチは又こさえかた (作り方) な(が) 違うねてや (違うのです) ズボンより。今しや(今は) 私らな(が) 下い 穿いとるのを パッチ言うの(のです) 下ばきを パッチや (だ) 言うて。

ばっち。ばっちい【**形容詞**】汚い。汚い物を言う幼児語。ばばっちの略訛

はちのすう【**名詞**】1) 蜂の巣、口ばかりで働かない人 2) よく喋る人 はちのすう参照 [会話] 1) あれもしたるわい(してあげます)、それもしたるわい言うて、なんも (少しも) してくれやせん (くれない) ハッチノスウで 口ばっかやれ (ばかりだ) 言うて。2) あのひた (人は) まあ ほん (本当に) ハッチノスウやなあ (だ) 言うて 喋って ばっか (ばかり) おって(居て) あや(彼は) ハッチノスウで 口だけやれ (だ) 口ばっかやれ言うてな。

はちまあしなよおて 頭が良くて 賢くて

はちちやる 広がる(志(立神))

はちちやる【**自カ下一**】広げる はだけの ひちちやる(志(布施田、立神))

はちちよ【**名詞**】八丁 [会話] てえ (手) ハッチョ、口ハッチョやれ (だ)。口な(が) えらいもな (よく喋る者は) てえ (手) も えらいし (よく働く) あやな あ(彼は) てえハッチョ 口ハッチョやれ言うてなあ。

ハッチョオ みたいん (のように) よお (よく) 喋って 大声で 賑ぎやうと (あうと) あや(彼は) さおぎ (さわぐ人) やよってん (だから)。

はちちよお【**名詞**】よく喋ること、その人 よく騒ぐ事 その人 はちちよ参照

はつつく 貧り食べる はつつ参照

はつつけられた 平手で叩かれた [会話] ハツケラ レタ 言うて よこびんづら (頬) びしゃんとやんの を (するのを)

はつつける 打つ。撲る。叱りつける。はりまわす参照(志(鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥) [会話] はつつけたる (てやる)、ハツケル、はつたおしたん どお (てやるぞ) 言うて、はつつけられた言うて、叩かれたもん (者) は、叩いたのおは (のは) はつつけたんどお (てやるぞ) 言うやんかい(言います)。

はつと(法度)【**名詞**】禁止されて居る事柄。おきて、法律。字の音ハフトの音便(大言海) [会話] なんも (なにも) すんな (するな)、やめやてわれ (止めたそうだ) 言うのを ハットや (だ) 言うて、決めた事を ハットや言うて。初午 今年は祝うな (のは) ハットや言うて。するな言う 禁止。決めにした事を ハットや言うて。祝儀な(が) ハットやてない (だそうだ) 祝儀せん(しない) 事に 決めたんてない (決めたそうだ)。ハットなつたんてない (になったそうだ) 言うて 決めると。

はつと【**名詞**】鳩。はとの訛(志、三、鈴市、度) [会話] 鳩の事を ハット 言うの(のです)。ハット 追いん (に) 行け 言うて ハットの番 (見張り) せえ (しなさい、せよ) 言うて。わしら (私) が つこ (学校) 行かんならんのん (行かなければいけないの)に 豆を植えると それ 皆 ほじえられたる(ほじられてしまう) もんで(ので)、朝はよ (早く) 起きて ハットを が つこ 行く迄 追いん (に) 行け 言うて、畑じゅう 露ん (に) 濡れて 三月から四月 そいな頃ん (そんな頃に)。朝露な(が) えらいのん (大変なのに) が つこ 行く迄 畑じゅう 追いまわして ほおほお言うて おおといて(追っ払って)、が つこ 遅なんのん (なるのに) おもて(思って) 畑じゅう かきまわし歩いて そげんして(そんなにして) が つこ 行く迄 追いん (に) 行きおったの(居たのです)、朝。ハット 追いん (に) 行け 言うて たたき起されて 寝とんのおを(て居るのを) 三月の末から四月頃 うえもん(植え物) する時期(頃) なると 小豆植えといて来た(植えておいて来た) はよ追いん(に) 行か

な (行かなければ) 皆 ほじえられたられ 言うて。
朝ごつと (のたびに) そげんして (そんなにして) 追
いに行きおったの。あんな (あれが、鳩が) 入ると
ことごとく (すべて) 喰たんねてや (食べてしまうの
です)。まあ (もう) 一つもなあ ひとつおこ (一粒) も
無いよおん (に) あげん (あんなに) よお (よく) こ
ごとにした事やわい (です) ごおなわいて 来て (腹が
立って来て)。豆植えても ハットな (が) 見つけた事
なら 皆 喰われたりおったのお (食べられてしまっ
たのです)。植えもん (物) して、やれやれおもて (思
って) あしため (翌日) 行た時 一つも無いよおん
(に) ほじえつとて (掘って居て) ごおなわいて (腹
が立って)、ごおなわく やら 情けないやら 忙がしし
(忙がしいのに)。あの 入りにくいのを (麦畑の間に
植えるので入りにくいのを) いっしょけんめ (一生
懸命) で植えて、ひとつおつ (一つも) も無いよおん
ほじえつたの。畑じゅう めんしよな程 ほんどん
(本当に) なんも (なんにも) 無いよおん (に) なっ
てくの (行くのです)。そやもんで (それで) こんだ
(今度は、しゃじ (匙) 投げて まあこや (此れは)
はざん (駄目だ) おもて (思って) 苗におろしといて
(ておいて) 苗で植えんのなら (るのなら) 一番完全
やけど (だが) そや (それは) 又 世話な (面倒) や
んない (でしょう) 苗で植えんのは (植えるのは)。粒
で植えん (る) のは きつつう (強く) 掻いといて
(掘って) 埋めときや (ておけば) ええけど (よい
が) 苗で植えるよおん (に) になると 世話なもんで
(ので) すんねけど (するが) 完全に植わんねけど
(植わるのだが) 粒で植えたら 運わりい (悪く) い
たら (行ったら) ふたくら (二度) 植えても みいく
ら (三度) 植えても ほじえられたの、あじろ (よ
い場所) ん (に) しとて (して居て)。なたかずいて来
ると (芽を出して来ると) ほじえつてくねもななあ
(ほぜって行くのです)。なたかずいて来て それ見
つけられたら ほん (本当に) おおじよおや (大変です)。
今しゃ (今は) 皆 カッパ覆せたり 網かぶせたりす
るもんで (ので) ええけど (よいが) 今しゃ、しよお
しよお (少し) やよつてん (だから) そんで (それ
で) ええけど、昔や (は) しよおしよや無いもん (か
ら) 畑中みな なんどまき (何斗播き) それ 植えん
ねよつて (植えるのだから) やんない (でしょう)、そ
れの垣しよお 言うたら。“四反、五反の豆のかきや
(垣は) 出来る 娘一人の かきや出来ん” 言うて
昔の人ら (は) 言いおつたけど (言ったが)、四反 五

反のも 豆の垣な (が) 出来やせんのん (出来ないの
に) それ 皆 ほじえられたると弱んの (弱るのです)。
はつと 【名詞】 魚名。せなすじべら、いろぶだい、あお
ぶだい。アオブダイ スズキ目 ブダイ科、類鱗は3
列 両顎歯板は露出し、色は青緑色で、尾鱗は丸味を
帯び、その両端は僅かに類鱗伸びて居る 成長につれ
前頭部は肥大する。[会話] 魚にも ハット言う魚な
(が) あんなあ (有ります)。ハット言うな (のは) な
んも (少しも) 旨ないんやけど (旨くないのです)。
はつとむね 【名詞】 鳩胸。人の胸部が丸みを帯び、前方
へ張り出したもの。[会話] 出尻 ハットムネ あん
こ (鮫鮓) 腹言うて。尻な (が) 出とんのを (ている
のを) 出尻 胸な (が) 張って ハットムネ 腹は
あんこ腹。
はつどおき (はつどうき) (発動機) 【名詞】 発動機 (エ
ンジン) をつけた舟。[会話] 発動機 言うのは 機
械船 (エンジンをつけた船)。
ぱつとせん はつきりしない、目立たない
はつとばす 張りとはす 撲る (鳥、上、阿、北、尾)
はづな 【名詞】 舟を繋ぐ綱 もやい綱
はつなり (初生) 【名詞】 その年、始めて採れた野菜や果
物。始めて収穫したものにも言う。[会話] 始めてき
い (木) ん (に) なる ハツナリ、南瓜でも なすび
(茄子) でもなあ、一番に なんのをななあ (なるの
を) ハツナリ。
はつこの。はつこのお 【名詞】 初めての子供 (四)
はつぱ 【名詞】 1) 大ばらを吹く事。2) はつぱ、発破
爆薬の爆発力を利用して岩石や鉱石を破碎する事、又
それに用いる爆薬。[会話] 1) ハツパかけてまあ 言
うて、ちっさあい (小さい) 事でも おっきい (大き
く) 言うにげ (人間)、あや (彼は) ハツパや (だ) よ
つてん (から) 言うてなあ。あんな (彼の) 言う事な
なあ (が) 蟻みたよな (のような) 事でも、立曰 み
たよん (のように) 言うんよつてん言うてなあ、おっ
きい事 言うて。2) がら (土) ぐわすのん (崩すの
に) ハツパかける 言うやんない (でしょう) そやな
あ (それは) ものすごい (大変) おっきい (大きい)
よつてなあ (から) ちっさあい事を おっきい言う人
をなあ ハツパや (だ) 言うの (のです)。昔や おお
ぐわゆいや (だ) 言うて、おおぐわ ばつか (ばかり)
言うて 言うてなあ。あやまあ (彼は) おおぐわ
(大鍛) で あんな (彼の) 言う事 ちつちよお (小
さく) 聞いときや (ておけば) ええんどお (よろし
い) 言うて。

ぱっぱ【名詞】 煙草を言う幼児語。すばすばの約（大言海）（眞、上、阿、張、名）[会話] 煙草を 爺やんな（の）パッパ もて（持って）来い 言うど、煙草 もてきいおったやんかい（持ってきて居ました）パッパ吸うととられ（ている）あやれ（あれ）爺やんな（が）言うてなあ。

ぱっぱ【名詞】 1) 物がなくなり終る事を言う幼児語。（志（布施田））2) 仕舞っておきなさい。3) 終りにしなさい。[会話] 1) まあ 無いパッパ 言うて。なんも（何も）無いよん（ように）なるとなあ。2) まあ パッパ せんかれ（しなさい）言うて、飯 くどて（食べていて）御馳走さん せんかれ言うのを、3) そして しまとけ（しまっておけ）言うのでも まあ パッパ しとけ（しなさい）言うてなあ。

はっぱいい。はっぱゆい【名詞】 大ぼらふき。[会話] ハッピー 言うのはなあ、ちっさあい（小さい）事でも 大きい言う 大風呂敷 広げん（る）のを、ハッピー言うね（言うのです）、自慢する人は 又 自慢師で そや（それは）ちごとるしなあ（違っています）。

はっぱかける 厳しい言葉をかけたりして振いたせる。[会話] 人に なんやかや頼んで しのくい（しにくい）事をしてくれ（下さい）言うて 頼む時も あの人に ハッパカケトイテ（ておいて）来たよって（から）あの人な（が）してくれられ（して呉れるだろう）言うて 言う時も有るけど（有ります）。相手をおだてあげる時。おだてるよおな時ん（に）ハッパカケル 言うやんかい（言うのです）。

はっぱこき【名詞】 大法螺吹き。

ぱっぱしとけ 片付けなさい。ぱっぱ参照

はっぱり【名詞】 つつかえ。支え。[会話] といたごぼち 言うて 入れ箱い（へ）上い（へ）土もって ハッピー こおといて（しておいて）下ん（に）バネん（に）してあって、それい（それへ）鼠な（が）登ると そのバネな（が）ばたつとおちて 戸板で びしやける（潰れる）。

はっぴ【法被】【名詞】 はんてん。はっふい参照（度）[会話] ハッピーと一緒にの事。

はっぴやくだいげん（八百代言）【名詞】 嘘つき。議員。弁護士。

はっふい【名詞】 法被。はっぴ。半被。長着の上に着る膝丈又は腰丈の衣服。（志（浜島、磯部、志島、鶴方、神明、甲賀、国府、安楽）、度、三、鈴市、鈴郡、一、久、松、多、伊）[会話] ハッピー 言うな（のは）

筒袖の襟な（が）真っ直ぐに付いて 首い（に）つけんと（付けずに）上へ付けん（るのです）。うわっぱじ（うわっぱり）の事、ハッピーや（と）言うて。ハッピーも こしやえて（作って）言うて、今し（今）で言うど 羽織やコートみたいな（のような）もんやわい（物です）。それを 共襟にして 若い子ら（は）そんな（それが）いっちょろ（一張羅）位 さんちよろ（三張羅）やなあ（です）普段着ん（に）。冬ん（に）なると 長いきもん（着物）へ その ハッピー着て そんな（それが）一番 おんばれやなあ（です）わかいしゅ（若い衆）な（の）。ハッピー着ると 言うど（言えば）一人前の若い衆になるわけやんかい（です）。そやもんで（それで）嬉して（嬉しくて）嬉して。それ こさえんのな（作るのが）どいらい（大変）嬉しかりおったね（嬉しかったのです）。そして ハッピーな（が）何枚有る言うて 楽しんで。男は ハッピーバオリや（だ）言うて 羽織にして 着いおったやんかい（着て居たで有りませんか）。あきゅうど（商人）の人らな（人達が）ハッピーにして 黒い襟かけて 着とりおったやんかい（着て居たで有りませんか）。男の人らハッピーバオリや（と）言うの。昔は あいなのおな（あんなのか）晴れ着やったなあ（でした）ちよいちよいの晴れ着やなあ（です）。此れは えごつと（完全）うち合せ（襟を重ねる）せんと（せずに）合して（せて）帯 しとる（している）人らも有るけど（が）おかた（大体は）ハッピーやもんで（なので）離しとるもんで（で居るので）。おんばれ 言うな（のは）晴れ着の事 いっちょろぎ（一張羅着）の事を おんばれやなあ（だ）言うて じっぱ（立派）なのを こしらえると、うた（ああ）おんばれやなあ（だ）言いおったの（言っていました）。

はっふいばおり【名詞】 法被に黒襟をつけたもの。はっふい参照 [会話] 男の人ら ハッピーバオリや（だ）言うて、羽織にして 着いおったやんかい（着て居たで有りませんか）、黒い襟かけて。昔や（は）あいなのおな（あんなのが）晴れ着やったんなあ（でした）。

はっふいみtainakaお【名詞】 膨れ面。[会話] ごおわかして（腹立てて）ハッピーミタイナカオしとられ（している）言うて、ふくれとると（していると）はっふい（法被）着ると、風な（が）ふけて（吹いて）びゅうびゅうすると、ふくらむ（膨れる）やんない（でしょう）、そと（すると）怒ってこげんして（頬膨らして）しとるもんで（しているの）言うんかいなあ

(言うのでしょうか)。

はつふんどし【**初禪**】**【名詞】** 十四、五才になって初めて付ける禪。父方の叔父が買って呉れる赤禪。(志) [会話] ハツフンドシ 言うて、始めて禪かく時(する時)、赤禪を ててかた (父方)の叔父ごな (が) こおて (買って) 呉れるもんや (ものです)。

はつほ【**初穂**】**【名詞】** その年になって初めて実った稲の穂。その年始めて獲れた米。[会話] ハツホマイ 言うて、新米をなあ。お伊勢さん あげん (の供えるのを)、ハツホマイ あげんね (供えるのだ) 言うてなあ。新米な (が) 出来た時んなあ (に) ハツホマイ あげんと (供えずに) おんね (居るのだ) 言うて。

はつほまい【**名詞**】 その年最初に獲れた米。[会話] ハツホマイ 言うのは、はつまい (初米)。始めての米やもんで (なので) 新米のことなあ (です)。何処でも言う ハツホマイ言うんなあ (のは)。神さんへ (に) あげんのは (供えるのは) ハツホマイ言うて、ハツホマイ言う時は、初米だけやなしに (でなくて) 神さんへ (に) あげんのを (供えるのを) ハツホマイ言うな (言います)。昔は必ず 八雲神社 (氏神) へ (に) あげよおったもんなあ (供えて居たものです) もちね (餅米) を ハツホマイや (だ) 言うて。

はつぼん【**名詞**】 初めて盆を迎える人。昨年の盆から今年の盆までに亡くなった人の盂蘭盆。[会話] たかとおろお 言うな (のは) ハツボンの家や (は) 門につけるやんない。(つけるでしょう)

はつまい【**初米**】**【名詞】** その年初めて獲れた米 [会話] 初穂も ハツマイも 一緒や (です) 新米の事を ハツマイ 言うのなあ (です)。初めて とんのを (取るのを) ハツマイや (だ) 言うてなあ。米や (で) なしんなあ (なくて)、芋でも なりもん (なり物) でも はつもん (初物) 言うてなあ 米は ハツマイ言うて、くだもん (果物) は はつもん (初物) 言うて おおた はつもんもろて (貰って) おおきん (有難う) 言うてなあ 初めてのもん (物) 貰うと。

はつまいり【**初参**】**【名詞】** 赤ん坊を初めて宮詣りにつれて行く事これにより氏子となる。百日詣り。(志、上)

はつみみ【**初耳**】**【名詞】** 始めて聞く事。[用例] そいな 事 (そんな事) ハツミミや (です)。

はつめえ【**名詞**】 利口な事。利発なこと。[会話] ハツメイな、なん (何) さしても (させても) 利口なにげ (人間)をなあ、さいちななあ (だ) あや (彼は) 言うて、ハツメエ言うのも、利口や (だ) 言うのも一緒や (です) 賢い言うの (のです)。

はつもん【**名詞**】 初物。その季節になって初めて出来た穀物、果物、野菜など、あるいは盛りの季節に先がけてとれた、はしりの魚類など、又一般にその年初めて食べるものをさしても言う。はつまい参照 (志 (浜島布施田))

はつより【**初寄**】**【名詞】** 1) その年に初めて集まる事。
2) 特に新亡の人が盆の行事を相談する時に七月二十日に集まる事。[会話] 2) 初めて よんのなあ (寄るのを) 盆のハツヨリを、はつか (二十日)になると七月の。ハツヨリや (だ) 言うて 初盆の人らな (が) 寄るやんない (でしょう)。なんでも 初めてよんのを (寄るのを) ハツヨリ 言や (言えば) ええんやろなあ (よいでしょう)。初めて よんねやよってんなあ (寄るのだから) 盆ばかやなしん (ばかりでなくて)。1) 船い (へ) 乗る人ら 顔あわせとか かこよせ (水夫寄せ) とか 言うけど (けれど) それもハツヨリも一緒やわい (です)。初めて寄る時の事は言いよな (方が) 違うけど、かこよせとか 乗り込み祝いとか言うけど 皆 それ初めての寄りやよって(だから) それもなあ (それものです)。乗り込む時も乗り込み祝いや (だ) 言うて、みんな (皆)が こんだけの (これだけ) かこ (水夫) な (が) 夏中働くね (のだ) 言う。そんな (それが) しるし (証) やよってん (だから) 乗り込み祝い言うな (のは)、それも一緒やわい (です) ハツヨリも。ハツヨリ言うと 盆の事みたいん (に) 取つたるもんで (思ってしまうので、縁起かつんで (かついで) 船や なんやの時は (とか他の時は) 言いよお (言い方) 違えて 乗り込みみまちとか 出船祝いとか 言うて 縁起のええ (よい) とりかたするよってんなあ (から)。朝鮮行く時でも かこ寄せや (だ) 言うて、とまい (船頭) な (が) かこな (が) そろた言うと最後 (揃った時) こんだ (今度は) かこ寄せや (だ) 言うて するよおなもんで (もので) 初顔合せ かこ寄せや (だ) 言うて。そして しまい (終)になると のきわや (だ) 言うて ごつお (御馳走) して 宿屋で 喰いおつたね (食べて居たのです)。仕事な (が) 終った時に のきわや (だ) 言うて 朝鮮から 夏中働いて来て 勘定 (手当・報酬) もろて (貰って) 家い (へ) 来て みんな (皆) 別れてかん (別れて行かない) うちん (間に) のきわしよおや (しましよう) 言うて。のきわとげこ祝い (参宮から帰った時の祝い)。げこ祝い 言うのと 一緒やわい (です)。げこ祝いも のきわも。そやけど (それだが) げこいわや (げこ祝いは)、旅行や

なんやの時に よお (よく) 使うけど (が) のきわ言うのは 仕事から帰って来て その仲間が別れる時、のきわなあ (です)。一緒の意味やけど (だか) 無事に済んだ 言うのの祝い。祝いがてらん (祝いながら) みんな (の) 別れの太鼓や (です)。

はっよお (はっよう) 早く。随分以前。[用例] ま あ (もう) ハッヨオ 行たれ (行きました)。

はつる 【他ラ五】 1) 削る。金属、木材などの表面を薄く削り採る。削りとる。(志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安樂)、鳥、員、津、多、上、阿、張、名、度、南、熊) 2) 上前をはねる。3) 減らす。取り除く。(上、阿、南、北) [会話] 1) 畑のさいめん (境界) を ハツルとか、削るとか。あのうちや (家は) ハツイテキテ おらげ (俺家) のさいめんを こげんも (こんなにも) して来たてやら (とか)、あげん (あんなに) して来たてやら。削り取ってく (て行く) 言うの (のです) ハツル。3) そやそこら でばつとるとか (張り出して居る所は) ハツツタレ 邪魔なんのん (になるのに) てやら言う時もあるし。ちよいと (少し) 石でも でびつとると (張り出して居ると) まあ それも ハツツタレ 邪魔なるし 危ないわれ (です) とか 言う。大工でも そこ ちよいと (少し) ハツルと (てやると) はいんねやかあ (入るで無いか) とか言うて 合わんとこ (所) な (が) 有ると、ちよいとハツツタレ言うて 鉋でハツル時も有るし、鉋で削る時も有るし、そいな (そんな) 時もハツル。2) 上前はねる 月給でも 三十円や (だ) 言うてしても (言っても) ピンはねて二十五円にして 五円ハツルとか、熊でてえ (手) ねぶつたん てやら言うのなあ (のを)、そげんして (そんなにして) ピンはねる事を、人の上前はねたると (てやると)。

はつれ 【名詞】 はれ物の跡などで、目の縁のひきつったもの。(志 (布施田、志島)) [会話] ハツレ めえ (目) のハツレ、言うて、目びり (麦粒腫、めぼ) が出来ると ハツレン (に) なる 言うたけど (言ったが)、今し (今) のにげ (人間) は ハツレな (が) あんの (有るのを) 見たこた (事は) 無いなあ (有りません)。目ぶたな (眼瞼が) ひらひらん (に) なって吊とる (て居る) 人な (が) 有りおったわい (有りました)。目ぶたな 疔みたい (のような) もんが (物) ぴらびらと吊とる人な (が) あいなのな (あんなのが) ハツレや (です)。やけど (火傷) やなんやの ひきつとるよおな そいなのは (そんなのは)

ひきつりや (です)。やけずると (火傷すると) ひきつりも 出来んで (出来ずに) 治った (て行った) 言うて。

はつれる ほつれる。破れる。[会話] まつつけ (かがつつけ)、はたの (端の) ハツレテ こんよん (来ないように)。

はつんま (初午) 【名詞】 はつんまに同じ。うまの発音はんまになる。かたんま (肩車 肩馬) (阿) [会話] 厄年 四十二 二十五 三十三 十九 はつんま言わんと (言わずに) ハツンマ 初の午を祝うもんでなあ (ので) ハツンマ言うて。

はでしゃ (派手者) 【名詞】 派手に振る舞う人。見栄を張る人 (名、北、南) [会話] ハデシャで 困るぬ (のです)、なんでも (何でも) 派手で ばあばあと 食べるもん (物) によらず、着るもんによらず、せえたく (贅沢) する人を。食うもんで らざや (人の家は) 芋 くともなあ (食べていても) 米の飯食うたり ごつお (御馳走) 食うたり、着るもんで 新しもんばかばか こおて (買って) 着て、あの家や (は) かかな (主婦が) ハデシャやもんなあ (だから) 言うてなあ、見栄張ったり しとる (している) 人を、びんぼ (貧乏) で おって (有るのに) 人の見ためえ (目) 金の入って来る道も無いのに あんげん (あんなに) ばあばあして かかな ハデシャやよって なあ (だから) 言うてなあ

はでずき 【名詞】 見栄を張る人。人目に立ちたがる人。

はてない 際限がない。いつ迄も終わらない (志) [会話] あんごさく (馬鹿者) の ハテナシ言うて、ハテナシよ (奴) 言うて、阿呆のハテナシ 言うて、あんごしもん (馬鹿な者) を 言う時なあ (に)。ハテナシ 言うて、きりが無い 言う事や (です) 果てしない 言う事をなあ。

はてなし 【名詞】 際限のないさま、又その人。はて、果後。名詞、代名詞、形容詞につく。(志 (布施田)) [会話] うまづらのハテナシ やてやら (だとか)、ぬすつとねこ (泥棒猫) のハテナシ やたら 言うて。ハテナシ 言うて 口汚い事の寄りや (集まりです) ぞぶくろ猫のハテナシや (だ) とか、ぬすつと猫のハテナシや (だ) とか言うの (のです) 口汚いの 言いよな (方が) 無い程 口汚い事を重ねて言うの (のです)。なつと (なんと) 言うて ええねやら (よいか) 判らんよおな言い方や (です)。終りな (が) 無い なつともかつとも (どうにもこうにも) 掴めどこな (掴まえ所が) 無い ハテナシや。ええ (よい) 時や

(は) 言わへんなあ (言いません) ハテナシや (と) 言うこたなあ (事は)。相手のをのしる 言うんか (言うのか)、わり (悪く) 言うんか そいな (そんな) 時に 言う言葉やなあ (です)。ほんとしん (本当に) すかざるのハテナシや (だ) 言うて、ハテナシ 言うこた (事は) せんぎり (充分に) 仕事をしても 幾くらしても (何度しても) 仕事な (が) 有るやんない (でしょう)。ほとまあ (すると) 果てな (が) 無いわれ (有りません) 幾くらしても 言うて、そいな (そんな) 時も使う (使います)。いくら (どれ程) 仕事しても 果てな (が) あるかれ (無い) 言うて、次から次へ仕事な (が) 出来てくるやんない (でしょう) そいな 時も 果てな (が) 無いなあ 言うて。はて 言うのは 終り。終りが無い 言う事や (だ)。いくら 仕事しても 次から次へと 仕事もて来て (持って来て) ハテナ (が) ナイ 言うの (のです) 終らせん (終らない) 言う事やなあ (です)

はてなしや【名詞】 はてなしは。はてなしに同じ。

はてる【果】【自下一】 1) 死亡する。2) 終る。[会話] 1) ハテル まあ (もう) ハテタンテワレ (はてたそうだ、死んでた (で行っ) 時も まあ ハテタンテワレ 言うなあ (言います)。こんなり (このまま) ハテンネヤレ (はてるのだ)、なんも (なにも) てえ (手) の、つけよおな (が) 無いよってん (から) こんなり ハテンネヤレ まあ言うやんかい (言います)、はざん (駄目) 事を。まあ こんなりのもん (物) で 死んでくんやれ (死んで行くのだ) 言う事を まあ こんなり ハテンネナア (はてるのだ) 言うて。おおた (ああ) こんげん (こんなに) わり (悪く) なって来たのん (のに) こんなりのもん (もの) やなあ (です)、こんなり ハテンネナア 言うて、はて (果、終り) や (だ) 言うのなあ (のを)。終いの事を はてや (と) 言うたり (言ったり) 終りの無い事も はてな (が) あるかれ (有りません) 言うて。終る事やなあ (です) こんで (これで) しまいやれ (だ) 言うて。死んで行く (で行く) 時も ハテル 言うし、2) 仕事な (が) 終って (て行く) のも ハテル 言うて。

はてる【自下一】 疲れ果てる。ハテル【果】の転(広辞苑) (志(鶴方、神明、立神、志島、国府)) [会話] ハテル 言うのは くたばる (疲れる) 言う事やけど なあ (ですが) 疲れる まあ 仕事して 仕事して くたばったよお (疲れしました) 言うて ハテル 言うのはなあ。

はと【名詞】 あおぶだい はっと参照

はとこ【再従兄弟】【名詞】 従兄弟の子供同志。(志(布施田、立神)、阿、張、名) [会話] 従兄も、ハトコも (にも) なつてくと (なつて行くと) 遠縁や (だ) 言うて、従兄はまだ濃い (のです)。

はどめ【名詞】 ホック

はどめがかからん 行きつく所迄行く。際限なく行なう。きりが無い。

はどる【動詞】 手に負えない。仕事の量が多すぎる。困る。もてあます。手を焼く。(志(布施田、立神)、三、員、鈴市、多、北) [会話] あれ (彼) には ハドレ (る) 言うて、てえ (手) やく 言う事やろなあ (でしょう)。あれ (彼) には まあ どもならん (どうにもならなくて) ハドレ レマア 言うて よお言うけど (よく言います)。あれ (彼) なつと (なんと) 言うたてて (言つても) あれに ハドツタ 言うて、手やいた 言う事やわな (です)。あれに、ハドレ (る) ハドツタ なあ 言うて。弱つたなあ (弱つた) 言う意味もあんね (有るのです)。仕事な (が) 多過ぎて その時も まあ 弱つたなあ 言う時ん (に) ハドツタ なあ 言うて、よけ (沢山) 仕事な (が) 有ってえらかつた (大変だった) えらおて (大変で) ハドツタ よお 言うて。

はな【花】【名詞】 1) 糺かび。味噌のハナ。(志、多、度、熊) 2) 催し物や祭りなどに与える投銭。当座の与へ物。昔は贈り物に草木の花枝をつけた事から。(志(布施田)) 3) 最盛期、花ざかり。あの娘も今がハナだ。(北) 4) 手柄をさせる。ハナ持たせる。5) 神佛に供える花木。(志(布施田)、鳥、伊) [会話] 2) なんやかや 投銭 する時も ハナ 言うし (言います)。3) 娘らな (達か) さかりの時も 今し (今) ハナやれ (だ) 言うて。4) ハナ 持たして (せて) 言うて 人によおする (よくする) 言う時も あれん (彼に) ハナ 持たしとかな (持たさなければ) 言う時も 有るやんかい (有ります)。手柄 さしとかな (させなければ) 言うのを ハナ 持たす 言うのなあ (のです)。4) あれん (彼に) ハナ 持たして、はれ (晴、手柄) させとかな (ておかなければ) 言う時も ハナや (だ) 言うし (言います) 3) ハナ 盛り にげ (人間) の 今し (今) ハナ 盛り やれ (だ)、さかり (盛) やれ 言うて、一番ええ時(よい時) や (だ) 言うの (のを) 今し な (今が) ハナ やなあ (だ) 言うて。1) 味噌 コオジバナ (糺花) 言うし (言います) 寝やしても (寝させても) ハナ な (が) 付いた 言うし (言います)。5) 佛さんや神さんも あのハナ もなあ ハナ 替え な (な

ければ はざん (駄目だ) とか、詣いらな (なければ) はざんとか 言うて。そのハナも大事のハナやわい (です)。榊やとか (だとか) 墓い (へ) さすのをハナ言うて 榊や、しきびや、つぶつぶや そいなのおを (そんなのを) ハナや (だ) 言うて、ハナ替えん (に) 行かな (なければ) 墓へ。

はな (端) 【名詞】 1) 最初。鼻と同源。物事をやり始めた時。(志 (浜島 布施田)) 2) 物の突き出た部分。先端。はし。(志 (浜島、布施田、甲賀)、鳥 (答志)、三、多、上、阿、張、北、尾、南、熊) [会話] 1) 潮のハナ 満ちかけて来る時ん (に) ハナな (が) 来た 言う (言います)。それとおんなじ (同じ) で、一番初めの時、ハナ言うて ハナ (始め) のうち (間) 磯 (海女作業) いも (へも) 行かななあ (行かなければ) 人な (が) 採った後、いたてて (行っても) 言うて。磯人 (梅女) のもん (者) ら (達) さぶうても (寒くても) ハナ 行かな (なければ) 言うて、始めを 一番初めの時を。ハナ 行からつたら (行かなかつたら) 行李かずいて (担って) 行きやええわれ (行けばよい) 言うて。ひやれな (曇天が) 続いたあげく (後) やよつてん (だから) 大漁な (が) 出来んどお (出来る) 言うのん (に)、ふさん (病気) したりすると まあ これん (此れに) ふさんしたら 行李かずいて 家 行きやえわれ言うて。仕事する 一番始めの時 仕事始めや (です) 商売始めの時ん (に) ハナや (です)。のつけ (始め) から 休んだたら 縁起な (が) わりわれ (悪い) 言う。ハナ (初め) の事を のつけや (だ) 言う (言います)。2) 崖のハナも 有るし。1) 新米な (が) 出て来たの ハナや (だ) 言うて、ハナな (です) 出だし (出初め) デバナや (と) 言うて。お茶のデバナ 美味い、番茶もデバナ 言うて。鬼も十八、番茶もデバナ。水のデバナ 言うのも 有るし (有ります)。水のデバナに落された言うて、鼻水な (が) よけ (沢山) 出て しよからあい (塩辛い) の、喰たる時な (食べてやる時が) 有るわい (有ります)。ミズバナなあ (を) シオバナた^らして 言う やんな (でしょう) その しよからいの (塩辛いのは) そやもんで (それで) シオバナ言うの (のです)。漁師の人らな (が) 来ると 鼻のともと (庭、鼻の下) い (へ) 塩みたいん (のように) なつとんの (なつて居ます) しいろお (白く) 塩ばして。水バナな (が) 出て来ると そんな (それが) こびついてくと (こびりついて行くと) 塩ん (に) なんね (なるのです) 真っ白ん (に) なつて。塩ばしつとる (て居る)

言うて、おおた (ああ) あの人の鼻 みよまあ (見なさい) 塩ばしつとんない (て居る) 言うて、それをシオバナ 言うんやんかも (言うのです)。そやよつて (それだから) ミズバナは、シオバナやもんで (だから) しよからい (塩辛い) の (のです)。これは こびついてくんなあ (こびりついて行くのです) ハナな (が) 乾いてくと (て行くと) 真っ白ん (に) しとんの (して居るのです)。鼻のともと 鼻の下や (です)。病氣して寝とる (て居る) 事を、ふさん言うの (のです) 今日はふさんしとんね (して居るのです) 言うて。

はな (漬) 【名詞】 鼻水 はなみずの略。鼻の粘膜より分泌される液体。前項 はな参照

…**ば**な **【助詞】** を、をば。(志 (布施田)) [会話] 舟な (が) 来ると 舟バナ 浮けていて (ておいて) すべり おろしんこな (下ろしに来なければ) はざんもんで (いけないので)、忙し目 張りおつた (しました)。

はないけ (花活け。花生け) **【名詞】** 花を入れるための器。花入れ。花立て。花瓶。[会話] ハナイケ言うな (のは) 佛さんの花活ける あれなあ (です)、墓い (へ) 花 活けて有る、あれも ハナイケ 言うね (言うのです)。ハナイケの筒 割つたと (てやると) はざんし (いけないので) 抜いて ひとくらごつと (そのたびに) 替えるもんで (ので) ポリの筒を切つて それい はつち (鉢、花いけ) を 入れんねてや (入るのです)。そと (すると) それ抜いて 水替えんの (るのです)。筒そんなり (そのまま) いけたと (埋めてやると) ひとくらごつと 土あらけやな (取り除かなければ) はざん (いけません)、今し (今) ポリ切つて いけとんねてや (埋めて居るのです) そん中へ (その中へ) はつち (鉢) を 入れて 水替える時や (は) しゅつと抜いて来て 替えて 又 しゅつと。あや (あれは) ええ (よい) 考えや (だ) こおしやや (です)。こおしや (巧者) 言うのは 考えな (が) ええ言う事を こおしやな (だ)。ハナイケ 言うのは 花瓶 みたいな (のような) もんと (物)、佛さんのは 花瓶 言わんと (言わずに) ハナイケや (だ) 言うて、墓の前のおも はなたて。はなたての水も替えな (なければ) はざんわれ (いけない) 言うて。男の人な しよんべ (小便) たれると (すると) はなたての水替えて来い 言うて。しよんべたれん (に) いてこお (行つて来る) 言うの (のを) 花たての水替えてこお 言うて。男の人だけ はなたてや (です)、棒やつてやる (だからでしょう) 男の人ら (は)。

はなおこす 怠ける。[会話] どじもんぐさ (怠け者)

の事なあ(です)。どじもんな(が) くそおて(臭くて) 休むと、あや(彼は) はなやよってん(だから) ハナオコス 言うて、怠けとんのおを(て居るのを)。怠けもん(者)を あや(彼は) じつきん(すぐに、じきに) ハナナ(が) オコツケンネヨツテ(起つて来るのだから) 言うて、ほして(そうして) 休むと、ハナオコシテ 休んどんね(休んで居るのだ) 言うて。くさいのなあ(のです)、怠けもんの事 どじもんぐさ言うもんで(ので) どじもんぐさ 言うのを あやまあ(彼は) 此れやよってん(此れだから) 言うて 鼻を てあひして(手で示して)。あや(彼は) これやよってん じつきん休むんでや(休むのだ) 言うて、臭い言う事やもん(なので) 鼻 掴むんやろなあ(掴むのでしょう)。臭いよって(から) 鼻掴んで それやよって、ハナナ(が) オコッタ 言うて やんない(でしよう)。

はなおこすり【名詞】 藁で作った鼻緒をこすり、滑らかにするもの。木を割って作る。[会話] ハナオコスリ 言うな(のは) じょおり(草履) 作る時ん(に)、なあ(縄) に なうと ぶつぶつかばつとる(高くなっている) やんない(でしよう)。それ 振り やっといてなあ(与えておいて) ハナオコスリで したると(してやると) しゅうと すべよおなんの(滑らかなになるのです)、うつぎ 言うて ぼらな(穴の) あいとる(ている) きいな(木が) あんねわい(有るので) ハナオコスリん(に) すんのは(するのは) うつぎでなあ こんだけ(約5cm) ばか(程) の 長さでなあ、割って有って はさけといて(挟んでおいて) こすったると(てやると) 立派なんねてや(になるのです) うつぎのきい(木) は、としみ(灯芯) のきい(木) みたよん(のように) 中に芯な(が) 有って真ん中な(が) ほっそおお(細く) あんねてや(有るので) 丁度 鼻緒 こすんのええぐらい(こするのによい程)。

はなおずれ(鼻緒擦)【名詞】 鼻緒で擦れて出来た足の傷。新しく履物をおろした時によく出来る。

はなおり。はなおれ(はなをり はなをれ)(花折)【名詞】 死後七日目の墓参。(志(鶴方、浜島、畔名、志島、布施田、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥(国崎)) [会話] なのか(七日) に 墓詣りする 言うのなあ(のを) ハナオリ。今日はハナオリして貰うので言うて、墓詣りする 言うのを。なのかでも、年忌でも 年忌な(が) 廻とて(て居て) ハナオリ ちよいと(少し) して貰うので言うて ちよいと、やうち

(家内) な(が) 詣るだけは ハナオリ。

はなかが 鼻をかむ。(度、南)

はなかくし【名詞】 海女の潜水用の眼鏡 一つ眼鏡(志、鳥)

はなかけ【名詞】 妾、第三夫人。めかけ てかけ ハナカケ [会話] こやいび(小指) 出す時は 家の家内(妻) も言うし 妾も ハナカケでも。

はなかけ(鼻欠)【名詞】 鼻の無い事。又その人。梅毒に依り鼻翼が消失する。

はなかける 花をつける。花を咲かせる。ふける参照 [会話] ハナカケル 花咲く 咲いたとこ(ところ) を、ハナカケル 言うの。

はなかご(花籠)【名詞】 葬式の時、竿の先に籠をつけ、籠の中に小さく切った色紙と銭を入れ先頭に立ち三叉路でこれを振って中の物を撒いて施しをするための籠、籠の上部には飾りがある。佛語 散華を入れる籠からか。(尾、南) [会話] 葬式のハナカゴ出して まあ言うて。あの家の葬式は ハナカゴな(が) 幾つ出た 言うて 昔や(は) 言よおったんなあ(言っていました)。葬式な(が) ええ(よい) 家な(が) しい(に) 赤や青の おおを(のを) 孔雀の羽根みたよん(のように) して それを 紙をちっそお(小さく) 切ったのを 入れて お金も入れて、みつかどい(三叉路に) いて(行って) 振ってなあ。

はながさいた 月経になった [会話] ハナガサイタ 言うのは 月経になった事を。

はなかせ(鼻風邪)【名詞】 鼻汁の多く出る風邪

はながつお(はながつを)【名詞】 初經 その年始めて獲れた鱈 現在は四月頃近海で獲れた物を言う。はつがつお参照 [会話] ハナガツオで こや(これは) 茶漬けて食うと 美味しいねなあ(のだ) 言うて はつがつお言うのは 一番始めに獲れるのおを(のを) ハナガツオで、ちっさあい(小さい) けどなあ(が) 言うて、あらん(新しく) 獲れん(る) のを ハナガツオ 言うけどなあ(言います)。

はなから 始めから。[用例] ハナカラ 相手ん(に) ならん(ならない)。

はなかん【名詞】 いつも青洩を出して居る人。慢性的に鼻の病を持って居る人。

はなくさ【名詞】 はなくそはの訛り 1) 役に立たない人。無能な人。鼻糞。鼻孔中で分泌物とほこりの塊った物。2) 賄賂。3) 少し [会話] ハナクソ 舐らして、あやまあ(彼は) ハナクソで 釣つとかな(ておかなければ) はざんわれ(いけない) 言うて。

ハナクソで鯛釣って 言うて、なんか (何か) まじない (賄路) 貰うと、ハナクソで鯛釣られて 言うて、ハナクソで釣った言うて。なんやかや 賄路や袖下を掴ますと まじないつこた (使った) 言うやんない (でしょう) まいない。まいないを あやまあ (あれは) まじない つことんねどお (使って居るのだ)。ハナクソを言うて、ハナクソで釣られとんねど (て居るのだ) 言うて、そやもんで (それで) なんやかや ちよいとしたもん (少しの物) やると (与える) ハナクソで鯛釣る 言うて。1) あんごし (馬鹿) 事するとハナクソはてなしや (果て無しは) 言うて、男の人な (が) ハナクサ (鼻糞は) 言うて。ハナクサ 言うて、ちよいとした (少しの事、へま事) 事すると ハナクソのはてなしや 言うて。子供らな (が) わり (悪い) 事しても めくそよ (目糞め) たら (とか)、ハナクサ たら言うて。

はなぐさい 味噌が完全に熟さず糲の匂がする。(南)

はなぐさり 【名詞】 磯にある小さな貝。食用にする。[会話] いそもん (磯物) ちっさいな (小さいのは) ハナクサリ 言う。ハナクサリ みたいなのおや (のようなのだ) 言うて、ちっさいと (小さいと)。ハナクサリ言うな (のは) また違うんでや (逢うのです)、ちっそ おても (小さくても) あおした やてやら (だとか) ハナクサリ、やてやら ししくだめ てやらよお (よく) 似た様な もんやわい (ものです)。

はなぐすり 【名詞】 鼻ぐすり 賄路。(員) [会話] ハナグスリ 舐らされて、ハナグスリ もるとる (貰っている) もんで (ので) まあ せんと (せずに) おられ やせんねてや (おれないのです) 言うて、賄路や (とか) 袖の下 もるとるとなあ (貰っている)、ハナグスリ もるとて (貰っていて) まあ 言うて 鼻糞で鯛釣って 言うて ちよおいと (少し) やって なん やかや (いろいろ) よけ (沢山) 貰うと。

はなぐそ (鼻糞) 【名詞】 1) はなぐそ 役に立たない人をののしって言う語。はなぐさに同じ。2) 少量のこと。3) 賄路 [会話] 2) ちよいと (少し) 言う事をハナクソ ほどけ (程) もろた (貰った)。ちよいと貰うのを ハナクソほどき (程) より くれやせん (くれない) 言うてなあ。

はなぐそでたいをつる 【俚諺】 僅かな資本で大きな利益を得る。(上、阿)

はなぐそねぶらされた 【俚諺】 袖の下をつかまされた。賄路を受け取った。[会話] まじない (賈物、賄路) 掴まされて、あや (彼は) しとんねど (しているの

だ) 言うて、ハナクソネブラサレとか。

はなぐそほど 僅か、少し。あざけりの意有り。(阿、上、南) [会話] 物を ちよいと (少し) やったり、もお たり (貰ったり) すんのん (するのに) まあ (もう) ハナクソほどやけど (だか) 言う (言います)。ちよいとの事を。ハナクソほど もて来て (持って来て) 言うて、よお言うわい (よく言います)。ハナクソほど 呉れたばかや (ばかりだ) とか、ハナクソほど もろ た (貰った) 言うて。

はなぐた (鼻腐) 【名詞】 声が鼻声になる人。鼻腐れ。梅毒で鼻が犯され、声が濁って居る事、又その人。(津、尾、北) [会話] 鼻へ吹くの (声が鼻に抜ける)。鼻の孔な (が) いきぬける (行き抜け、通りがよい) と、ハナクタゴエン (に) なんのなあ (なります)。よお (よく) 鼻な (が) もじけた (もげた) 言う。その毒 (梅毒) で、先 (鼻先) 削ったよおん (ように) そして、びしやいたとんね (潰れて居るのです)。

はなぐたごえ 【名詞】 鼻にかかった声。鼻に障碍が有り濁った声 [会話] 声な (が) しゃれごえ (嘎れ声) ん (に) なって来ると、かざごえやなあ (だ) 言うて、ハナクタゴエン (に) なってくるやんかい (来ます)。風邪引くと なんやら (何か) 鼻い (に) 引くよおな風邪声や (です)、どいらい (大変) 声な (が) しゃれ て (嘎れて) 来たわい (来ました) 言うて。

はなぐび 【名詞】 鼻糞、又は鼻の下で涙の乾燥した物。(多)

はなぐさき (鼻先) 【名詞】 鼻のすぐ前。目の前。すぐ前。(北) [会話] ハナサキン (に) 有るやんかあ (有るで無いか)、そや (それは) そのハナノサキン (に) あん (る) のも 判らせん (判らない) ねない (のだ) 言うてなあ、ねきん (近くに) あんのを (有るのを) ハナサキン (に) 有っても よお探さんねない (よく探さないのだ) 言うてなあ。

はなぐせん。はなぐさん 1) 話さない。(安) 2) 放さない。

はなしがいい (はなしがひ) (話甲斐) 【名詞】 話すねうち。話しただけの効果。

はなしがいい (はなしがひ) (放飼) 【名詞】 1) 男性器を隠さずに居る事。男性が下着をつけなくて性器を出している事。2) 動物を囲わず繋がず飼う事。(志(布施田)) 3) 放任。[会話] 1) じよつく (いつも) ちん ぼ (男性器) 放り出しとんねやんかい (出しているのです)、ひとつも (全く) 禪かかんと (せずに) ハナシガイにして、ふりまら (下着をつけず) でおって (居

て) そんな (それが) すっぽ (包茎) やったんよお (でした)。樺 かかんと (せずに) ハナシガイ しと て (して) 汚いわい (です) 言うて。樺 せんと (せずに) なかね (腰巻き) は きいおった (着ていました) んけど (ののだが)。²⁾ 鶏、籠い (に) 入れんと (ずに) ハナシガイ して あの家 行くと とんと (庭) な (が) はこ (便) だらけで言うて、とりな (鶏が) はこたれて (大便して) しとんと (している) と 昔 や (は) ハナシガイ しとよおったわい (してました)

はなしがい【名詞】 仲よく話している事 [会話] ハナシガイ 言うて、ふたんな (二人が) 話 しいやい して (しながら) 仲よお (よく) して くんの (来るのを)、あや (あれ) ハナシガイ に ふたんな ちんちん 言うて 来たよお (来ました) 言うて、二人な (が) 話 しいもて (しながら) くんのなあ (来るのを)。

はなしくい(話食い)【名詞】 1) 食べ物のお話を聞くと、すぐに食べたくなる人。(南、熊) 2) 人の話を聞いてすぐ、その内容にとらわれる人。(尾) [会話] ¹⁾ ハナシクイ なんでも (何でも) あれ美味かったなあ 言うて あんな (あれが) 喰いたいなあ 言うて、こおて 来て (買って来て) 喰うたり すると、あのひた (人は) ハナシクイ やよってん (だから) なんでも はやりもん (流行の物) 喰うたり、こや (此れは) 美味い 言うて すぐん (に) こおて 来て 喰うね (食べるのです) ハナシクイ やど (だぞ) あや (彼は) 言うて。あや (彼は) ハナシクイ で 人な (が) なんか 言うたら それ 喰わな (なければ) はざんね (いけないのだ)。ハナシクイ で なんでも 言うたら すぐん (に) そんな (それが) 喰いたな 来て 言うて 美味いもん (物) 喰いやわい (です)。そいな (そんな) 意味では、孕んどる (妊娠して居る) 時なら しやあないけど (仕方がないが) いやしんやろなあ (いやしいのでしょう) その話し 聞いたまん (人は、者は) いやし 言うな (のは) なんでも 喰いたい のなあ (のです) なんでも 喰うの (のを) いやしんぼや、あのひた (人は) 言うやんか (言います)。

はなして(話手)【名詞】 話をする人。話す側の人。[会話] ハナシテ な (が) 有るやんない (でしょう) 言うて、昔 や (は) はなしかた な 有って なあ はなしかた な (が) 来とて (来ていて) 話 ききんこや (聞きに行きましょう) 言よおったね (言ってるのです)。そいな (そんな) 人 を 言う んなあ (のです) 昔 や

(は) 雨 な (が) 降ると テレビ も ラジオ も 無い やん ない、そすと (すると) じよおり (草履) 作とて ても (ていても) あの人 小説 読むの (のを) 上手 な よ って (だから) 小説 読むの (のを) たので (頼んで) こお や 言うて、じよおり 作とて ても (ていても) 家 へ たので 来て 聞きおった (聞いて居ました) そすと (すると) ええええ べべべ べんけえ がが ぎ なた た ぎ なた り ま あ し り ま あ し 振 り ま あ し 言うて なあ 上手 ん (に) 小説 読む 人 ら な (が) 言 い お った ね (言ってるのです)。まあ なあ 落語 聞 い と る よ お な も ん (もの) で、小説 読むの (のを) た ので こお や 言うて 頼 み お った ね (頼んで居たのです)。

はなしとぎ(話伽)【名詞】 話し相手。話し相手となって人のつれづれを慰めること、またその人。[会話] 夜伽 両方 あんね (有ります) 目 出 度 い 時 と、悲 しい 時 と ど っ ち に し て も 皆 寄 っ て 話 し る、み ん な (皆) な (が) 寄 っ て 話 す る ハナシ ト ギ ヤ (です)。

はなしなない 1) 縁談が無い。2) 噂を聞かない。(志(布施田)) 3) 相談がない。

はなしなにえる 1) 盛んに議論する 2) 結論が出る。3) 立ち消えになる。

はなしなわり 評判が悪い。(志(布施田))

はなしのよおなことや 真実とは思えない。(志(布施田))

はなしはっそおばい 人の話は誇大である。(志(布施田))

はなしはんぶ【名詞】 1) 話しが全部すまない事。話しの途中。2) 人の話しは全部信用せず、半分位にしておけ。(志(布施田)) [会話] ²⁾ ハナシ ハン ブ に 聞 い と き や (ておけば) ええね (よいのだ)、あんな (彼が) 言う こた (事は) 言うて、だぼら (大法螺) 吹 い たり 自 慢 し たり お っ き い (大きい) 事 言う 人、あんな (彼の) 言う 事 はん ぶ (半分) に 聞 い と き や ええね 言うて。¹⁾ 急 に 人 な (が) 来 た 時 ハナシ ハン ブ より 出 来 ざ っ た れ (なかった) ま あ あ の 人 な (が) 来 て 言う 時 ん (に) それ も ハナシ ハン ブ。

はなししゃ 1) 話せば(安) 2) 放せば

はなしやい(話)【名詞】 話合。話し合うこと。互いに相談しあうこと。談合。[会話] ハナシ ヤ い な (が) つ か ん で (つかなくて)、いつ 迄 言う た よ お な 事 ば っ か (ばかり) 言う と て (言っていて)、なん でも (なにでも) 決 ま ら ん (ない) 事 を。ハナシ ヤ い な つ か ん で ま あ 言う て なあ。ハナシ ヤ い 言う と、お 互 い に 相 談 す る 事 な (です)。喋 っ て 相 談 す る 事 を なあ ハ

ナシヤイしょおや (しましよ) 言うて。お互に どおしたら どおや (どおだ)、こおしたら どおや 言うんけど (のだが) なかなか話な (が) つかんで 言うて

はなしやええのん 1) 話せばよいのに。 2) 放せばよいのに。

はなしやせん 1) 放さない。 2) 話さない。

はなしやみせん (鼻三味線) 【名詞】 鼻にかかった低い声で歌をうたったり拍子を取ったりすること はなうた [会話] 今日は ひよや (天気は) ええし (よいし) なんも (なににも) せんで (しなくて) ええし、こや (これは) ハナジャミセンでまあ 言うて。沖いて (行って) くんのん (帰るのに) どお (樽) 漕がんならん (漕がなければいけない) おもとんの (思っているのに)、ほお (帆) まく (揚げる) やんない (でしよう)。ああ 今日は どお (樽) 漕がんで (なくて) ええし (よいので) ハナジャミセンや (だ)、家 行く迄 言うて。なんも (なににも) せんでよおて (しなくてよくて) 楽でええ (よい) のを ハナジャミセンや (だ) 言うね (言うのです)。なんも (なににも) せんで 遊んでおられるもんで (ので) 上気嫌や (だ) 言う事な。鼻歌 うととるよおなもんや 楽で仕事 せんで ええし 鼻歌 うととんのおを ハナジャミセン 言うねやろなあ。

はなしる (鼻汁) 【名詞】 鼻水 洩。[会話] 目しる ハナシル 言うて 目しるたらして あやあれ (あれ) 言うやんかい (言います)。

はなじろ 【名詞】 少し熟して来た時期。[会話] ハナジロ 言うな (のは) ちよいと (少し) 色気持って来た とこなあ (ところす) ハナジロ娘 十六、七。くだもん (果物) でも ちよいと色づいて来ると (熟して来ると) ハナジロん (に) なって来た 言うやんかい (言います)。

はなしんならん 問題にならない、取るに足りない

はなす (放) 【他サ五】 1) 銃砲や弓を射つ 2) 手放す 3) 修行に出す [会話] ③ 子 ハナスたら (とか)、なんやかや (いろいろ) ひつついとんの (ているのを) ハナス 言うたり ① てつぽ (鉄砲) 撃ったり、弓 射ったり すんのも (するのもの) 一発ハナシたれ (てやれ)。へえ (屁) へえんのも (するのでも) 一発 ハナシテおこして (よこして) くそおて (臭くて)。

はなずね 【名詞】 鼻根部 [会話] ハナズネ 打ったよお 言うて。ここの真ん中を ハナズネ、足は むこおずね、かみそりばね 言うしなあ (言います)。

はなずねなやめる 鼻根部に鈍痛が有る。(志 (布施

田))

はなそ 1) 話さない。 2) 話しましょう。

はなそ 1) 放さない。 2) 放します。

はなそかい 1) 話さないであろう。 2) 話しましょうか。 3) 放さないであろう。 4) 放しましょうか。

はなそかれ 1) 話さないでろう。 2) 放さないでろう。

はなたけ 【名詞】 鼻腔内に出来る卵円形の腫物。

はなだし 【名詞】 海女の一つ眼鏡で鼻を出している物 (志、鳥)

はなたて (花立) 【名詞】 1) 墓前、佛壇に供花する時の花器。はないれ参照 (志 (布施田)) 2) 男根 [会話] ① 佛さんのハナタテ、墓のハナタテ。墓の前んの (のの) ハナタテな (が) うちやれて (壊れてしまつて) とか、ハナタテな (が) ちっさい (小さい) とか 言うてなあ。② 男の道具 (陰茎) ハナタテ。ハナタテの水もかえて (小便して) 来いえ (来なさい) 言うて。

はなたてのみずかえる 男が小便すること。はないけ、はなたて参照

はなたらし (洩垂) 【名詞】 1) いつも鼻汁を出して居る人。たらし、垂し、滴し、液体などを少しづつ流し落とす事、又そのもの。そのような人も言う。人をのしつて言うのに用いる。(志 (布施田)) 2) 子供を叱る時に言う語。[会話] ① ハナタレ小僧や。洩垂らしとる (て居る) こお (子) を ハナタラシや (だ) 言うんやわい (言うのです)。年中 (いつも) 洩垂らしとる子を。② そして わるいても (叱っても) ハナタラシヤ (鼻垂らしは) 言うて、怒って わるう (叱る) 時も有る。わるう 言うのは 怒る事 叱る事 わるう わるわれた 言うて。はなたれは よけ (多く) 使わへん (使いません) ハナタラシ 言うて ハナタラシよ (奴) 言うて ちよいと (少し) わり (悪い) 事しとても (して居ても) ハナタラシよ 言う時な (が) 有るやんかい (有ります)、おなご (女) の人ら よけ (多く) 言わへんけど (言わないが) 男の人ら な (が) よお (よく) 言うなあ ハナタラシヤ 言うて。ハナタラシ 言わんと (言わずに) ハナタラシヤ 言うん (言うのです)。あの ハナタラシヤ なつとも (なんとも) しゃあな (仕方が) 無いわれ (無い) 言うて。大人な (が) 子供わるう時ん (に) ハナタラシのはてなしや 言うて ごおなわいとる (腹の立つ) 時ん (に) 使うんでや (使うのです)。

はなたらしや はなたらしはの短くなった語。はなたらしに同じ。

はなたれ【名詞】 はなたらしに同じ。

はなたれのり【名詞】 島の上から長く垂れ下がっている海苔。[会話] あま海苔 採りん (に) いて (行って) あま海苔な (が) 島から垂れとると (て居ると) あま海苔な (が) はな垂らしとる (て居る) 言うて。三月頃ん (に) になると ハナタレノリや (だ) 言うて、島の上から下い なあごお (長く) しとて (して) 取りよおいてや (採りやすいのです)。ひよいひよいして 滑らんで (滑らなくて)。はなたらし もじいて (もいで) 来たよお 言うて 色な (が) わりけど (悪いが)。

はなたれもち【名詞】 水分が多くて柔らかすぎる餅。

はなついでから 間際になって。当面して。

はなつく【鼻衝】【自動五】 1) 飽きる。嫌になる。2) 嗅覚を刺激する。3) 失敗する。[会話] 3) ハナツイテタナイ (突いて行った) まあ言うて、こけるとなあ (転ぶと) 2) へえ (屁) へつても (しても) くそおて (臭くて) ハナツク 言うやんかい (言います)、臭いのをなあ ハナツクよおな かざ (臭い) やなあ (だ) こや (これは) 言うてなあ。1) 芋飯 ぼつか (ばかり) くどて (食べていて) ハナツク 言うて。飽きた、たんの (堪能) した言うのを、ハナツク 言うてなあ。はらみど (妊婦) な (が) なんな (なに) (が) 食いたない、かな食いたない (食べたくない) 言うて ハナツイテマア 言うて。畑 通ると たるごえ (肥料) しとて (して) 腐らしとんの (ているのを) もて (持って) くるやんない (でしょう) そすと ものすごお (大変) ハナツク時な (が) あんね (有るのです)。3) 仕事しとて失敗したると (してやると) ハナツク言うて、わり (悪い) 事やよつてなあ (だから)

はなつける 1) 糶かびをつける。 2) 投銭をする。 3) 花が咲く。

はなづつ【花筒】【名詞】 花を活ける筒状のもの。特に墓前のもの。[会話] はなたでの事かい ハナツツ。今 しゃ (今は) 丸いポリの たてどいの おっきい (大きい) のおお (のの) 中い (に) 入れて すると、土掘らんでも (なくて) すぐん (に) 水な (が) 替えられてなあ 土 埋めて有ると 掘られんで (掘れなくて) てえ (手) 突っ込んで かいてなあ、すると (掻き出してすると) くそおて (臭くて)。

はなづなとられる 人に思う様にされる。鼻網は午の鼻につける綱

はなづなとる 人を自由に使う。

はなづら【鼻面】【名詞】 鼻、鼻の先端

はなつんぼ【鼻翼】【名詞】 嗅覚の鈍いこと、又その人。[会話] 鼻な (が) 詰まっとて (ていて) 鼻な (が) 効かせんのなあ (ないのです)。あや (彼は) ハナツンボや (だ) よつて (から) 言うてなあ。風邪引くと 鼻な (が) 詰まっとて (て居て) なんも (少しも) 匂いも せんでなあ (しなくて)、まあ わしや (私は) ハナな (が) ツンボでなんも (なににも) 判らへんわい (判りません) 言うてなあ

はなでくさい 怠け者。はなおこす参照 [会話] どじもんくさ (怠け者) の事 ハナデクサイ言うの。どじもんくさの ハナビキや (だ) 言うて、あや (彼は) あや (彼は) はなやよつて (だから) じつきん (すぐに) 仕事い (に) いととも (行っていても) はなな (が) おこつて来て まあ 言うてなあ

はなでふいとる みくびつて居る。相手にしない。はなぶき参照

はななおこる 怠ける。怠けたくなる。

はななきく 嗅覚が鋭い。[会話] ハナな (が) キイテ、臭い臭い言うて、ちよいと (少し) したのおでも (のでも) ハナナキク にげな (人間が) 有るわい (有ります)。臭いよお こや (これは) こびとられ (焦げている) 臭いわれ (です) 言うてなあ。ハナナキクにぎや (人間は) 耳と一緒に、ハナな (が) キクね (のです)。匂いで なんな (なにか) 腐つとらせんのか (ていないか) どいらい (大変) 臭いどお (ぞ) 言うて。

はななはる 海女が水中で鼻根部に違和感がある。

はななまがる 嗅いが強臭い、悪臭が甚だしいを言う

[用例] ハナナマガル様な へえ (つて) (放屁して)。

はなにかける 自慢する。[会話] 地位や財産 ハナニカケル人な 有るやんかい (有ります)。おや (俺は) 偉いとか おれぎや (俺家は) 財産な (が) 有るとか言うて、人 軽蔑したり あなずたり (あなどったり) する人な (が) 有るやんかい。ハナニカケル 言うて 自慢するよおなもんや (物です)。自慢する言う事やけど (だか) ハナニカケル 言う事は、わがと (自分) の身の回りの事を ハナニカケル言うて、ふつからかす (自慢する) よおん (ように) 言うて すんのを (するのを) ハナニカケル。わがとな (の) 財産とか 親な (が) 偉いとか 兄弟な (が) 偉い 言うのを ふつからかして、そいなのを (そんなのを) ハナニカケル 言うんなあ (言います)。ふつからかす 言うな (のは) 自慢よ (沢山) する事な (です)。

おっきい (大きい) 事 言うて 自慢すんのを (するのを) ふっからかす 言うの (のです)。

はなぬすつと 【**名詞**】花盗人 ぬすびとの訛 花を盗む人。花泥棒。

はなのあなひろげる 自慢する (上、阿) 【用例】ハナノアナヒロゲて えらっそおん (偉そうに)。

はなのさき 【**名詞**】目の前 (尾) 【会話】ハナノサキい (へ) 置いてなんどお (なんだ)、くさいのん (のに) 言うて、なんでも (何でも) 臭いもん (物が) ねきん (近くに) 有るとなあ、おおた ハナノサキい (へ) そいな (そんな) 臭いもん (物) 置いて まあ 言うてなあ

はなのした (鼻下) 【**名詞**】口 生活 はなのしたなかわい 参照

はなのしたなかわい 食べるのが大切である (上、阿) 【会話】鼻の下 クチ、口な (が) かわいて (可愛いくて) 卑し人を、旨いもん (旨い物) 食い なあ (です)。なんやかや (いろいろ) 甘いもん (物が) 好きで 買い 食い する 人 を なあ あや (彼は) ハナノシタ カワイ ね よ つ て (のだから) かい ぐ らい (買ひ食い) してまあ言うて、卑しだけや (で) 無しん (無くて) 食べる 事 な (が) 大事 や (が) 言う意味もなあ なんや (いろいろ) 言うたててなあ (言っても) 口な (が) 大事 や れ (だ) 言うて 口 可愛がる人も有るしなあ

はなのしたなながい。 **はなのしたなながい** 好色で有る

はなのしたなひあがる 食べ物が無い (上、阿) 【会話】ぜんもおけ (金儲け) な (が) 無いとなあ、ハナノシタ ヒアガル。食べる もん な (物が) 無い言う事。 口な (が) ひあ が つ た よ お 言うて、ぜんもおけ な (が) 無いと、こお て (買って) 食 わ れ や せん し する も ん で (食べられないので) まあ ぜんもおけ な お て (無くて) ハナノシタ ヒアガル よ お 言 う て。

はなのともと 【**名詞**】鼻の下。鼻の下と上口唇との間。ともとは庭 【会話】水ばなは しょ つ か ら い の (塩辛いのです) そ や も ん で (それで) 塩 ば な 言うの (のです)。漁師 の 人 ら な (が) 来ると ハナノ ト モ ト い 塩 み た い ん (のように) な つ と ん の (なっているのです) 塩 ば し っ て (塩をふいて)。

はなのもん 【**名詞**】その季節最初にとれたもの。初物。【会話】米でも出来ると お は つ (初物) な (が) 出来た よ つ て (から) は つ も ん (初物) を ハナノ モ ン を、お は つ や (だ) 言うて。

はなはだし (甚) 【**形容詞**】程度がはげしい。度をこえている。はなはだしい。はだはだしの転 (大言海) 【会話】おおた あ や ま あ (彼は) 嘘 言 う の な (が) ハナ ハ ダ シ ね て や (のだ) 言うて。物凄い嘘、言うの人をなあ。そして なん で も (なにでも) よ お (よく) 食う人 ハナ ハ ダ シ ね て や (のだ) あれ (彼に) ん 食 わ し て (食べさせて) 見 よ ま あ (見なさい) 言うて、程度 な (が) 激 し い 言う事を。

はなばなし (花花) 【**形容詞**】はなばなしい。はなやかである。みごとである。【会話】ハナバナシ 言うな、なん (に) でも 綺麗 な も ん な あ (物です)。花 と か き り も ん (着物) でも、お お た す ば ら し (素晴らしい) き も ん (着物) 着 て ハナ バ ナ シ な あ 言うて、立 派 な (だ) 言 う 事 や わ い な あ (です)。そ し て も の (物) な (が) 出 来 る 人 で も な あ お た あ の 人、ハ ナ バ ナ シ 人 や な あ (だ) 言うなあ、人より勝れた人 お た あ の 人 ハ ナ バ ナ シ 人 や な あ、なん し て も (なにをしても) 言うてなあ。

はなびき 【**名詞**】怠け者。はなでくさい参照

はなびしゃけ 【**名詞**】鼻の低い人。びしゃけ。ひしゃげる様子。押しつぶされて平になる。押しつぶされて、いびつになる。(志 (布施田)) 【会話】鼻のひ つ く い (低い) のを 言 う の (のです) ハ ナ ビ シ ャ ケ 言うて、よ お (よく) わ る う (叱る) や ん か い (です) ハ ナ ビ シ ャ キ ャ 言うて 鼻 び し ャ け と ら ん で も (て居なくとも) ハ ナ ビ シ ャ キ ャ 言うて。

はなぶき (鼻吹) 【**名詞**】鼻でする返事。軽く聞き流すこと。【会話】ふうん言うて ハ ナ ブ キ し と ん な い (している) 言うて、人 な (が) も の 言 う て も (話ししても) ふ ん ふ ん 言うて 聞 い と る (聞いている) や ん な (でしょう)、ハ ナ ブ キ や (だ) 言うて 鼻 で ふ ん。

はなべししゃけ 【**名詞**】鼻の低い人。はなびしゃけ。【会話】ハナベシヤケ。鼻のひ つ く い (低い) の (のを) あ や (彼は) ハ ナ ビ シ ャ ケ で な あ 言うてなあ。 は な び し ャ け 言 わ ん と (言わずに) ハ ナ ベ シ ャ ケ べ し ャ け と る (つぶれている) 言う人も 有 る わ い。(有ります)

はなふるう 果実の花が落ちる事。【会話】花 な (が) 落 ち る 事 な あ (です) ハ ナ フ ル ウ。花 な (が) 時 期 な (が) 来 て 散 っ て く と (ていくと) ハ ナ フ ル タ よ つ て ん (から) こ ん こ ろ ん (に) な っ て 来 た れ (来た) 言うて。ハ ナ フ ル タ ル ト (てやると) 雄 蕊 や 雌 蕊 の 中 か ら こ ろ ん と し て 来 ん の を (来るのを) こ ん こ ろ。

はなぼら 【**名詞**】鼻孔。ぼら、中がうつろな穴。ほらあ

な。洞窟。(志(布施田))[会話] ハナボラ。○○や
ん ハナボラ飴三つ 言うて かまいおったやんかい
(からかって居たでは有りませんか)。○○やんな
(の) ハナボラな (が) おっきい (大きい) もんで
(ので)。鼻の孔 ハナボラ。耳の孔も 耳のぼら 言
うやんかい (言います)。耳の穴や (だ) 言う人も有る
し ぼらや 言うにげ (人間) も 有るんなあ (有る
のです)。ぼら 言うて 穴 言う意味 穴をなあ ぼ
らや (と) 言う (言います)。×子な (が) ちっさいと
きん (小さい時) 四日市の小母さんげ (家) に ひと
ばか (少しの間) 遊びん (に) いとて (行っておっ
て) わしな、はあ (歯) 見よまあえ (見なさい) ぼん
ぼら (穴) あいとるに (て居る) 言うて 虫で穴な
(が) あいとるの (て居るのを) ぼんぼらなあいとる
言うて、ぼんぼらてや (とは) なに 言うて 友達
な (が) 言うた (言っておった) 言うて。

はなぼらひっちゃける 鼻の穴を開けるから 1) 自慢
する。2) 勢い込む。

はなみず(鼻水)【名詞】 水っぱな。[会話] ハナミズな
(が) 出て、風邪引いたら ぼたぼたと 言うて。茶
碗へ 落ちてきて、しょからい (塩辛い) 思うと ハ
ナミズや (だ) 言うて 水洩や言うて

はなむけ(銭)【名詞】 餞別。旅立や門出を祝って金品を
送ったり、送別の宴を開いて見送ったりすること。[会
話] 立ち祝いの時ん (に) 餞別 もおて (貰って) く
んの (来るのを) ハナムケや (だ) 言うて ハナムケ
もせな (しなければ) はざんわい (いけない) 言うて、
餞別を ハナムケ。

はなもげ。はなもげや【名詞】 鼻の無い事、又その人、
ののしりの言葉 [会話] 鼻の もじけてくの (もげ
て行くのを) ハナモゲ。ひえ (梅毒) で ぼったり
鼻な (が) もげてたん (ていった) てわれ (そうだ)
言うねなあ (言うのです)。ひえやとか、かさ (痲) で
なあ、昔は毒な (が) 有ると どこやかや (何処かと
か) 肉の有る とこ (所) は まあ 腐ってくのなあ
(て行くのです) 膿ん (に) なって 取れてくの
(て行くのを) 言うんやろ (言うのでしょうか)。男の子
らな (が) おっちやくすと (乱暴すると)、わるいた
り (叱ったり) する時ん (に) 鼻 もんだんどお (も
いでやると) 言うて。

はなもたす 相手に手柄をさせる。成功を譲る。ほめる。
[会話] 仲人は はつぱ (嘘、法螺) も言うて ハナ
モタシテ、そすと (すると) その人も ほんどや (本
当だ) おもて (思つて) そんなら (それなら) もおて

(貰つて) もらおんなあ (もらいましょう) 言うて。
はなもちならん 鼻持ちならん。嗅気が甚だしくて耐え
られない。転じて言葉や様子が嫌味で、見聞きするに
耐えられない。(志(布施田))[会話] くそおて (臭
くて) ハナモチナラン 言うて。なんやかや臭いと
くそおてくそおて ハナモチナラン。ハナモチナラン
よおな へえ (屁) へつて (して) てやら (とか)。ど
いらい (大変) 臭い事を ハナモチナラン 言うて。
にげ (人間) でも すこい (狡い) 事したり、せす
(狡) かったりするにげを あやまあ (彼はもう) ハ
ナモチナランねてや (のだ) 言う時もあるわい (有り
ます)。嫌味や (です) あやまあ (彼は) ちよいと (全
く) ハナモチナランねてや言うて。あんまり (あま
り) 鼻にかけとる (て居る) 人は ハナモチナラン、
そいな (そんな) よおな事やわい (です)。あんまり
せすい (狡い) 事をして わり (悪い事) 事するにげ
を ハナモチナランねてや 言うて。嫌なもん (物)
に例えんわい (例えるのです)。せすい事言うて な
んでも (なにでも) わがとな (自分が) よけ (沢山)
したり、さいめん (境界) せせつたり しとんねや
わい (して居るのです)。わり (悪い) のやつて わが
と (自分) ええ (よい) のしたり、わがと おっきい
の (大きいのを) したり、物わけの時ん (に) するや
んない (するでしょう)。あや (彼は) せすいねよつて
ん (のだから) 言うて。ほして (そうして) 勘定 (計
算) しても わがと おいめん (多目) したり、
そすと、せすよもやよつてん言うて。狡い 言うよお
な事やわい (です)。

はならかす【他サ五】 離れさせる。別れさせる。(鈴市)
[会話] ハナラカシトケ (ておけ) そや 引つ付いと
る (ている) やんかあ (でないか)。引つ付いとるとな
あ (ていると) そやなあ (それは) もお ちよいと
(少し) ハナラカシトカナ (離しておかなければ) 腐
ってかせんのか (て行かないのか) ハナラカシトケ
言うて。あの おなご (女) と おるけど (居るが)
ハナラカシトカナはざんねどお (いけない) あれん
(彼女に) 掴められたら終いやどお (終りだ) 言うて、
しや (それ) 又 あんな (彼女の) とこい (所に) よ
け (沢山) 通うと あれん (彼女に) まじくらかさ
れる (誤魔かされる) よつてん (から) よけ行かん (行
かない) よん (ように) ハナラカシトカナはざんんどお
(いけない) 言うて。

はなれ(離)【名詞】 母屋から離れてある座敷。[会話]
ハナレ建てたね (のだ) 母屋と別のたてもん (建物)

ばなれ (場慣) 【名詞】 経験が多くて、場面、場所に慣れて居ること。

はなれる (離) 【自ラ下】 1) 死別する 2) 仲間から遠のく。交際を絶つようにする。(志 (畔名)) 3) 離婚する。(上) [会話] 1) みちぎりする 言うて、こお (子) ん (に) ハナレタリ とと (夫) ん (に) ハナレタリする うちゃ (家は) 家へ 巫子頼むの。

はなわ 【名詞】 鼻緒。(熊) [会話] 鼻緒の事。下駄のハナワ縮めて 言うて、わしら (私達) の時や (は) 藁でのおて (編んで) ハナワを 締めえおったの (縮めて居たのです)。竹の皮 巻いて。竹の皮 巻いとんな (て居るのは) 上品な方やわい (です)。あらの (新しい) 下駄こおて来て (買って来て)、ハナワ こおてすや (買ってすれば) じっぱな (立派な) 下駄ん (に) なんのん (なるのに)、その、ハナワ買うのな (のが) もったいのおて (なくて)、藁を みいこんのおて (三つ組にして) 藁ののおを (のを) しいおった (して居ました)。そと (すると) 足 擦って 痛おて (痛くて) あかぼやん (赤く腫れて) きつつう (きつく) すげて貰うと なりおった (なりました)。

はなわこすり 【名詞】 草履の鼻緒を なめらかにする道具 はなおこすり参照

はなわずれ 【名詞】 鼻緒で擦って出来る傷 (熊) [会話] ハナワズレな (が) 痛とおて (痛くて) 言うて、はなわ (鼻緒) な (が) きつついとなあ (きついと) すれて 長道歩くとハナワズレな (が) 出来て。

はなんかける 自慢する、はなにかける参照

はなんつく 飽きる (志 (布施田))

はなんぶらさがとる 如何にも自慢気である。誇示する。

はぬい (はぬい) (端縫) 【名詞】 布端のほつれを防ぐため、細く折り返して縫うこと。[会話] ハヌイ すんな (するのは) えらいもんで (大変なので) わりいもん (悪い事) は 皆 張り板い (へ) かけんの (かけるのです)。

はね 【名詞】 お転婆。

はね (跳、撥) 【名詞】 釣竿 (志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽、国崎、答志)、度、北、南、熊)

はね (跳) 【名詞】 跳ね。泥などを跳ね上げる事、又その泥。(志 (布施田)) [会話] 泥の中、入って 泥な (が) 跳び上る ハネしてまあ 言うて 雨の降る日ん (に)。とばしや (と) 言うたり (言ったり)。とばしして そやあれ (それ) 言うし ハネして 言う人

も有るし。雨の降る日に 下駄の古いの はいとると (履いて居ると) はねて、ハネしたとか とばしたとか 言う (言います)。

はね (撥) 【名詞】 規格に合わず除いたもの (志 (布施田)、南)

ばね 【名詞】 はねの変化した語。はずむ力。反発する力。粘り気。[会話] こや (此れは) バネな (が) 付いとて (ていて) バネつきやなあ (だ) 言うて、入歯でも じよおほおい (両方に) 引つ掛ける よん (ように) しといて (しておいて) 有ると、バネな (が) 付いとる (ている) 言うて。弾む 飛び上がる言うのを バネな (が) 有る 跳ねる 飛び跳ねる とびやげる 言うんなあ

はねあがり (跳上) 【名詞】 人なみより活発なこと、又その人。でしゃばり。お転婆。[会話] ハネアガリや (だ) 言うてなあ。とばしやげや 言う時も 有るしなあ。おっちゃく (横着) な 大胆な事すとなあ、あやまあ (彼女は) ハネアガリやよつてん (だから) あんな (彼女の) するこた (事は) まあ 言うてなあ、お転婆 みたよな (のような) にげ (人間) を 言うんやんかいなあ (言うのです)。

はねかいる (はねかえる はねかへる) 【自ラ五】 はねかえる。物に当ってはねて戻って来る。ある行為を行った影響がもとに戻って来る。はねかえるの訛。[会話] 昔 二重橋の便所の時ん ハネカイツケルと つり (おつり) もろてまあ (貰って) 言うて。

はねかえり (はねかへり) (跳返) 【名詞】 1) お転婆。2) 跳ねてもとへ戻ってくる。反動 反発 [会話] 2) はねあがりも ハネカエリも よお (よく) 似たよおなもんやわいなあ (ものです)。二重橋 (便所の踏抜) の ハネカエリ どぼん 言うとお釣りな (が) 来て はよ (早く) 便所な (が) 溶けるよん (ように) せせなげ (下水) を 入れんねてや (入れるのです)、それを ちよいと (少し) よけ (多く) 入れるとなあ 釣な (が) くんね (来るのです) どぼん 言うとおぼん とぼん 言うて お釣な (が) くんね

はねぎる 【自ラ五】 威張る 羽切 (はばたく) の転義訛か。(津) [会話] ハネギル 言うけどなあ (言います)。あんまり (あまり) えらっそぶつとると (偉らそうにしていると) あの人 威張り屋で言うて。

はねざお (撥竿) 【名詞】 釣り竿。(志 (的矢、鶴方、神明、立神、国府、鳥 (鳥羽)) [会話] ハネザオ 言うな (のは) 釣り行くのをなあ。かと船 (鯉船) の

ハネザワ あがり (古くなった物) 貰るて (貰って) 来い言うてなあ、はねも もてけ (持って行け) 言うてなあ 釣竿 もてくのなあ (持って行くのです) 釣竿の事を ハネザオ。

はねざわ【名詞】 釣り竿 はねざお参照

はねたらす【羽垂】 元気が無くなる。勢いがなく、しょんぼりしている。鳥が病気になるると羽を垂らして居る事から。[会話] 鶏な (が) ぐあい (調子) な (が) わりなつて (悪くなつて) 来ると、羽、たらあんとして来るやんかい (来ます)。にげ (人間) も 元気な (が) 無いと、ハネタラシテ来て なつたら (何か) あんねなあ (有るのだ) 言う。

はねたれ 除いてやれ。取り除け。[会話] こや (これは) もやがとんね (盛り上がっているのだ) ひとばか (少し) ハネタレ、こぼしたられ (てやる) 言うてなあ。そして 不出来なもん (物) のけたんの (除くのも) ハネタレ言うて、仲間ん (に) 出来やせんなあ (出来ないのです)。おおても (多くても) 少のお (少なくても) わりもん (悪い物) でも、そつから (そこから) のけたんのを (てやるのを) はね出したれ (てやれ)、ハネタレ 言うて。にげ (人間) でも 嫌われて するとなあ あんた (貴方) まあ くんなえ (来るな) 言うと わしら (私は) はね出されてまあ 言うの (のです)

はねのける 1) 仲間外れにする。2) 規格外として除く。3) 押し除ける。(南)

はねのばす くつろぐ。ゆっくりする。安心する。

はねまある (はねまわる はねまはる)【自ラ五】 跳回る。跳びはねる。嬉しがつて跳びはねる。[会話] ハネマワル言うな (のは) 其処ら 踊りまあって (まわつて) はっしやぎ (さわぎ) まあつとる (まわっている) のおを (のを) ハネマアツル (ている) 言うて。嬉しのおで (ので) あっちゃい (あちらへ) 走り、こつちやい (こちらへ) 走り まあ 嬉しこんで ハネマアツラレ (ている) 言うてなあ。

はねもん【名詞】 1) 撥ね物。器物などの出来が悪いため、又規格にはずれたり、鮮度が悪くなつたりして、規格外品として取り除かれるもの。2) 仲間から外す事。仲間外れ、のけ者。[会話] 1) なんやかや えりわけんのおな (より分けるのを)、わりなあ (悪いのは) はねとけ (ておけ) とか、ええ (好い) の はねといて (ておいて) わりのと揃えんかれ (揃えなさい) とか のける事を はねとけ言うの (のです)。その 除けたもん (物) な (が) ハネモン。わりい (悪

い) とか 形な (が) 揃わんとか 言うのを。その中で 揃わんな (揃わないのは) はねとけ言うて。そいなな (そんなのは) ハネモンになるわい (なります)。除ける 言う事を のけんのを (除けるのを) はねとけ言うて。2) ほしてまあ 仲間はずれに しやれる時 も (される時も) ハネモンにおおた (逢つた) 言うやんかい (言います)。除けられるもんで (ので)。

はねる【撥、自】【他ナ下一】 1) 除く。よい物と悪い物を区別して除く。よそつた御飯の一部を除く。(南、北) 2) 仲間はずれにする。(志 (甲賀)、鳥) 3) とぶ。はずむ 4) 出来物にメスを入れる (熊) 5) 終る 芝居がハネル

はば【名詞】 海草。若布に似て小さい。羽葉海苔。褐藻綱 ハバモドキ目、フクロノリ属カヤモノリ科、体の長さ25cm位までになる。潮間帯の岩礁上に冬期群生する。葉状体は幅広の被針形で茎部は細く長さ約10cm黄褐色を帯び、胞子囊群によるやや濃い波紋がある。(志 (立神)) [会話] 海藻 食べる海藻 めえ (若布) みたよおん (のように) しとんねけど (して居るが) 潮な (が) 干いてくと (て行くと) 垂れて くんの (来ます) ハバやわい (です)。あま海苔みたよおん (のように) 美味しいなあ (のです)。あれも 焼いて喰うと こんばして (こおぼしくて) あま海苔みたいん 焼いといて (ておいて) 揉んで 茶漬けすると 匂な (が) よおて (よくて) 美味しいの (のです) 御飯へ 振り掛けて。こんばし 言うのは こおぼし (香ばしい) 匂がええ (よい)、匂な (が) よおて (よくて) こんばして 言うて。

はば【巾】【名詞】 物の横の端から端までの距離。

はば【婆】【名詞】 祖母。両親の母親。婆。女性老人。ばばあ。(志 (立神)、鳥 (浦村)、員、三、鈴市、津、一、松、多、上、伊、南、熊) [会話] お婆さんの事を ババ、おれげ (俺家) のババな (が)、ババくさや (です)。昔や (は) ババくさや (とか) じじくさ (爺くそ) や言う (言います)。ごおなわく (腹が立つ) とあの、ババくさ 言うたり。

はば【名詞】 大便、尿、汚い物。(志 (浜島)、鳥、度、桑市、員、鈴郡、津、安、一、多、上、阿、張、名、伊、北) [会話] うんこ (大便) の事も ババや (と) 言うし (言います) ババな (が) 這うのは 今が見始め。亀の背中い (へ) 糞たれられて うろろうと 長の道中するけれど ババの這うのは 今が見始め言うて 亀の背中い 糞へられて ほして 亀な這 おとたや (這って居たら) ババな (が) 這おとる (て

居る)。

ばばあ【名詞】祖母(志、一)

はばい【形容詞】大胆である。無鉄砲だ。遠慮しない。はばからない。(志(浜島、布施田)、度、北、尾、南、熊) [会話] せえ(精力的)な 事なあ(です)。ハバイねよってん(のだから)言うて、なんでも あや(彼は) せえで ハバイねよってん言うて、元気な(が) ええ(よい)のを ハバイ言うの(のです)。ハバシヤや(と)言うて。元気な(が)よおて 仕事も はきはきする人を ハバイ 言うわい(言います)。ハバイ言うな(のは) よお(よく)働くとか、元気な(が)有るとか。それやけど(しかし) おなご(女) な(が)若い時に 男道楽すると あやまあ(彼女は) ハボオテ(大胆で)男に言うて、男 あれしい これしいすると あや ハバイねよってん言うて よお言いおったなあ(よく言っていました)。その時や(は) おっちやく(横着)とか 言う意味やわい(です)。

ばばい 眩しい。あばばい(鳥(鳥羽)、三、鈴市、安、一、久、飯、松、多、上、阿、張、名、南)

はばいろ【名詞】糞色。大便のような色。汚い色。茶褐色。(阿、張、名)

ははおや【名詞】母親(鳥(鳥羽))

ははかた(母方)【名詞】母の血統に係る一族。ててかたに対する。

はばからせん。はばからせんない。はばからせんわい。
はばからせんわな(女性語)。**はばからせんわれ** 入らない。空間が狭くて入れない。容器が小さくて入れない。[会話] ハバカラせんワレ まあ 此処い(に)言うてなあ。入らせん(ない)言う事を ハバカラせんない まあ こや おっきいて(大きくて)言うてなあ、ハバカラせん 言う時は 入らせん言う事、はばかる 言うと 入る 言う事、まあ これい(此処い) はばかるかいなあ 言うて 合して見てなあ まあ はばかつたよお 言うて 丁度ええ(よい)となあ。

はばからん 入らない。入れる物が大きくて空間に入れられない。容器が小さくて入らない はばかる。憚る。恐れつつしむ。さしつかえが有るとして、さしひかえる。遠慮する。恐れ多いものとして敬遠する。気おくれして遠慮する。[会話] 家 ハバカラン、入らせん(入らない)程 言うのな(です)。ロー杯 入れんのも(入れるのも) ロい(に) ハバカラン こや(これは) あんまり(あまり) おっきいて(大きくて)言う

て、大きいのと おおた(ああ) ハバカランワレ 言うて。

はばかり【名詞】便所。憚り。人目をはばかりの所意。[会話] 便所の事も ハバカリやし(です)。

はばかりさん 1) ご苦労さん。恐れ入ります。2) 残念でした。[会話] 遅まきだいこ(大根)で はばかりながら言うて、だいこを遅お(遅く) 播くと、はあ(葉) ばつか(ばかり)で なんも(なにも) 出来んで(出来なくて)、ほんで(それで) 遅まきだいこで ハバカリサン 言うて 葉ばつかりやし(です)。おっそお(遅く)から入って、はばからへん(間に入れない)のを ハバカリサン 言うて。挟けてくれ(間に入れてください)言う意味でも 言うんやろなあ(言うのでしょうか)。遅まきだいこで ハバカリサン 言うて。その間に入れてくれ 言う意味と、葉ばつか(ばかり) 言う意味も あんねやろ思うねてや(有るのだと思います) 両方かけとんねやろなあ(かけて居るので)。葉ばつか よお(よく) 出来て 実な(が) ちつちやあいんてや(小さいのです)、そやもんで(それで) ハバカリサン。

はばかり【自ラ五】【他ラ五】1) 物と物との間に入る事はさまる。はばかりせん参照(志(布施田)) 2) 両足を大きく開げる。

はばかりさ。**はばかりそ**【名詞】祖母や老婆の事をののしつて言う語。(志(布施田)、度) [会話] ババクサ 言うて、あや(あれは) わりい(悪い) 言葉やけど(です)、わるわれて(叱られて) ごおなわいとる(腹が立って居る)時に 仕返しに言う言葉やけど。ババクサや(とか) じじくさ(爺)や 言うて。ババクサや じじくさや ととくさ(父)や、かかくさ(母)や 言う子も 有るんなあ(有るのです)。

はばぐるま【名詞】老人が杖の代わりに押す車。主に老婆の使用するのが多い事から。[会話] 乳母車の事 おんばぐるま 言よおつた(言っていました) 乳母の代わりするもんでやかなあ(のでしょうか) 今しん(今の) なあ(のは) 老人車なあ(です)それを、ババグルマ 婆らばつか(ばかり) 曳いとんねよつてなあ(ているのだから)。

はばご【名詞】婆子。老婆に育てられた子供。甘やかされて育てられたため我儘だと言う。[会話] 婆さん子 婆な(が) 育てるもんで(ので) ババゴ 言うんかいなあ(言うのでしょうか)。昔や(は) かあさん(妻) な(が) 次から次いと もおける(産む) もんで(ので) おっきい(大きい) のは 婆や爺に ゆずらな

(まかさなければ) しょない (仕方がない)。かかな (妻が) 二人も 三人も 寝やされやせんし (寝させる事が出来ない)ので すると 爺さんと寝よ (寝なさい) 婆さんと寝よ 言うて、爺さんや 婆さんな (が) 甘やかす もんで (ので)、あばえる (あまえる) となあ ババゴやよって (だから) まあ こや (これは) 言うてなあ。

ばばざめ【名詞】 おおせ テンジクザメ科の海魚、体長約 60 cm、頭部が丸く、縦扁し多数のひげが周囲に有り尾部は細くなる。体色は黒褐色から赤褐色で形の不明な淡色斑が有る。(おほせ 大瀬) きりのとぶか

はばしや【名詞】 大胆な者。横着者。元気のよい人。はばい参照 [会話] 気な (が) ええ (よい) のを はばい (大胆、横着) 言うの、(のです) ハバシヤや (だ) 言うて。

ばばする 大便する (鳥 (加茂、長田))

ばばぜき【名詞】 百日咳。百日咳菌に依る急性伝染病。特有の咳が有り、発作的に生じ、咳は最後に笛のような吸気と共におさまる。全体的に約九週間の経過をとる。[会話] 百日咳の事を ババゼキや (だ) 言うの (のです)。爺な (が) せいても (咳しても) ババゼキ 言うて。めえ (目) も 真つ赤ん (に) して、めぶた (まぶた、瞼) も 腫らして ババゼキ 咳くと ほんどん (本当に) かわいそげなよおん (可哀そうなように) なりおったん (なって居ました)。そして (そうして) 百日も せいとんねよって (咳きをして居るのだから) 百日咳 言うて。百日咳 ババゼキ 言うのと、うばぜき 言うのも 一緒やねえんかい (ではありませんか)。ババゼキ 言うたり うばぜき 言うたり。

ばばつかむ 運が悪い。悪い事に会おう。

はばひろ【名詞】 幅広帯。普通より巾を広く仕立てた帯。[会話] ハバヒロ、モスのハバヒロ しりこけん (に) 言うて、せだ (布施田) の わかいしゅ (若い衆) や (です)、ハバヒロ の帯 言うて 子供らな (が) すんな (するのは) ほっそお (細く) 並巾 (に) したるしなあ (してやるし) 大人な (が) すんな ハバヒロ を、おはば (大巾) を そんなり (そのまま) ふっとお (太く) して しょおった (して居ました)。

ははばき 盛運。運が良くなる事。

はばむ【他マ五】 こばむ。拒否する。妨害する。

はばやい【形容詞】 眩しい (志、鳥、松、多、度、伊)

はばゆい【形容詞】 眩しい (志、伊)

ばばんば【名詞】 蛾

はびき【万引】【名詞】 切れ物の刃をつぶし切れなくすること。[会話] 切れもん (切れ物) わざ (故意) と なまくらん (きれなく) すんの (するのを) はあ (刃) つぶしたる (てやる) 言うの (のを) ハビキ する。

はびふ【馬脾風】【名詞】 ジフテリア。バヒフウの末尾省略。[会話] ヂフテリア 喉の病気 咳な (が) よお (よく) 出てくんのなあ (来るのです) バヒフ 言うの (のです)。

はふ【名詞】 破風。日本建築で屋根の切妻について居る合掌形の装飾板。(南) [会話] しゃかん屋 (左官) な (が) 瓦置 さん行くと、左袖おこせ (よこせ) 右袖おこせ (よこせ) ハフにそおて (浴って) すんのを (するのを) そで瓦 言うて。

はぶかれとる 仲間外れにされて居る。(志 (布施田))

はぶかれる のけ者にされるハブカルルの訛 (大言海)

はぶき【名詞】 仲間外れの者 (北)

はぶく【他カ五】 除く 仲間外れにする ブク は振るの古言 (大言海) (志 (浜島))

はぶけ【他カ五】 1) 除け 2) 仲間外れにせよ (志、鳥)

はぶたい (ハブタへ)【名詞】 絹織物。はぶたえ (羽二重) の変化した語。(三、鈴郡、伊) [会話] ええ (よい) 人らは ハブタイ か、はったん とかするし、わしら は (私達は) 銘仙 か、モスな (が) いっちょろ (晴れ着) や (です)。

はぶたいのり (はぶたへのり)【名詞】 きめの小さい柔かい海苔。(志) [会話] 海苔 でも ハブタイノリ 言うの な (が) あんねんなあ (有るのです)、ひいろ おて (広くて) やいこい (柔かい) のおを (のを)。

はぶたいはだ (はぶたへはだ)【名詞】 柔らかくて滑らかな皮膚。はだ参照 [会話] もち肌 や (だ) とか、ハブタイハダ すべすべと (滑らかに) したる (している)。

はぶり【羽振】【名詞】 世間における地位。勢力。人望。(志 (布施田)、津) [会話] 家な (が) 繁盛 したる (している) 時や (は)、ぜんせえ (全盛) やよって (だから) 言うし ハブリナ 時を。

ばふんし【馬糞紙】【名詞】 ボール紙の一種。色や繊維が馬糞に似ているところから言う。糞を原料とした黄茶色の厚い紙。(南) [会話] パフンシ の 入箱。あつ い (厚い) 茶色の 手工 したり すんの (するのを)。

はべら【名詞】 雑草名。はこべ。なでしこ科の越年草。

日当りのよい草地、畑などに多い。茎の下部は地をは
い、よく分岐する。はこべらのこの脱落(志(越賀
布施田)、鳥(鳥羽)、安、一、度、伊)[会話] ハベ
ラ。もとくさの事 ハベラ 言うのなあ(のです)。鶏
の餌ん(に) すんのを(するのを) ハベラ、あれを
もとくさや(と) 言うの(のです)。ハベラ やんない
(でしょう) 言うたや(言ったら) なんなええ(なに
が) もとくさやれ(だ) 言うて もとくさやんない、
ハベラやれ言うて 喧嘩しいおったの(して居たので
す)。そやけど(それだが) 今しゃ(今は) ハベラやな
あ(です) 鶏の餌ん(に) すんの(するのは)。

はぼり【名詞】 着物などを長く作って折り曲げるところ。
はぼりところ。[会話] ハバリな(が) 無い きもん
(着物) 着て 言うて ハボリな(が) 無いきもん着
いよおて(着やすくて) ええけど(よいか) ハボリな
(が) 有ると 着のくいわれ(着ぬくいです) 言うて。
はぼりする。 着物の長いのを腰の所で折り曲げて、長さ
を調節する。[会話] ハボリスル 言うのは、きもん
(着物) な(が) なあがい(長い) のおを(のを) の
やげ(縫上) の代りん(に) 細帯しといて(しておい
て) なあがいだけを たぐって(寄せて) ここへ
(腰) だらかす(垂らす) やんない(でしょう) それ
を はぼりや(だ) 言うて。

はぼる 1) はしよる。端折る。裾を折る。簡単にする。
節約する。(志(布施田)) 2) 除く。はぶく。[会話]
1) ハボル。着物をハボルとか、2) よばれ(招待) すん
のん(するの)に あの家や(は) ハボットキャ(はぶ
いておけば) ええわれ(よろしい) 言うたり(言っ
たり)。昔や(は) どいらい(大変な) おやこ(親子・親
類) やったけど(だった) にげ(人間) な(が) 多
いよってん(から) ハボツテ、こぼりもん(配り物)
にしときや(しておけば) ええわれ言うて、ハボル
言うのなあ(のです) のけとこや(除けておきましょ
う) 言うのなあ。昔や(は) おやこやったけど、新米
(新しい) おやこな(が) よけ(多く) 出来て来たよ
ってん(から) あいなな(あんなのは) はぼときや
ええわれ。1) 着物ハボル 言う時や(は) なあがい
(長い) のを みじこお(短く) して、帯 締めて
だぶらかす(だぶらす) の、ハボル 言うのな(ので
す)。のやげ(縫上げ) みたよおん(のように) 細帯で
締めといて(ておいて) なあがいだけ ハボットクノ
(つておきます)。はぼりな(が) 無い着物 着て言う
て。はぼりな無い着物 着いよおて(やすくて) ええ
けどなあ(よいか)、はぼりな有ると 着のくいわれ

(着ぬくい) 言うて。そやけど(しかし) 若いもん
(者) な(が) はぼりな(が) 無いと みとみのおて
(見苦しくて)、昔や(は) 袂 おつきしいおったも
んで(大きくしたので) はぼりな(が) なんも(少し
も) 無かつて はぼりな(が) のおて(無く) 品
(格好) な(が) わりし(悪いし)。なあがいだけを
腰ひぼ(紐) で 締めといて(ておいて) なあがいだ
けを のやげ(縫上げ) したよおん(ように) 見える
よおん(ように) そげん(そんなに) して すんのな
あ(するのです)。そすと 帯しても 格好なええん
ど(よいか) はぼりな(が) 無いと、前の方なすべ
べみたよおん(滑なように) しとて(して居て) 格好
な(が) わりの(悪いのです)。のけとく(除けてお
く) 言う意味で あすこの家 ハボットケ(つてお
け) 言うて きもん(着物) の、はぼりと 親戚の
はぼりと一緒の意味みたいな(のような) もんやけど
(ものだが) なあごおて(長くて) は**ぼん**のと(るの
と)、おいいて(多くて) は**ぼん**のと 一緒やけどなあ
(です)。

はま【名詞】 1) 海(志) 2) 海岸(志、北)

はま【名詞】 下駄の歯(志(鶴方)、鳥(鳥羽)、加茂
松)

はまあげ【名詞】 魚を荷揚げすること。獲物を陸にあげ
ること。

はまいれ【名詞】 下駄の歯を入れること。

はまおけ【名詞】 海女の持つ桶。普通のものより少し大
きい。(志)[会話] 嫁入り道具 二重かがり(籠) と
磯桶と ハマオケ。

はまからん 1) はさまらない 2) 入いらぬ [会
話] 2) 禪ん ハマカラん(ない) のな(のが) 有り
おった(有りました)。

はまかる 1) 間に入る。はさまる。2) 容器に完全
に収まる。

はまき【名詞】 蓬の葉を乾燥させて椿の葉で巻き、煙草
の代用にしたもの。[会話] よごめ(蓬)、椿のはあ
(葉) で巻いて 吸うのを ハマキ。

はまぐり【名詞】 蛤に似ているので女陰(上、阿)

はまこ【名詞】 海岸から近くに泳いで行き、漁をする海
女。見習い中の海女。(志)[会話] 稽古中でハマコ
(浜子) したりする時のそれやる(でしょう) 稽古す
んのを(するのを)、ハマコ。大島の浜へ降ろして貰う
んやんかい(貰うのです)。浜へ降ろしてもおて(もら
って)、浅っさい(浅い) とこ(所) かづくんなあ(潜
るのです)、ハマコや(だ) 言うて。そして 浅見をか

ずいとりおったやんかい (ていたでは有りませんか)。あさりかずき。あさる言う事は 昔の人ら、もぐらんと (潜らずに) 目鏡で顔かくして、あさりおったやんない (て居たのでしょうか)。そやよって (だから) ハマコらは、あっさいとこしか (浅い所より) よお採らんよって (から)、ハマコ、あさりかずき 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。

はまだい【名詞】 はまだい おなが参照

はまち【名詞】 鱒の若魚。もじゃこ、あぶご、いなだ、ぶり。ハリマチの転 (大言海) (志 (鶴方、神明、立神、志島、国府、国府、安乗) 鈴市、阿、張、名、度、北、尾、南、熊) [会話] ハマチな (が) 揚った 言うて魚のハマチなあ (です)。

はまね【名詞】 漁業者から直接買う値。水揚地で取引される値段。

はまのすそ【名詞】 海岸。浜辺。(志 (甲賀)) [会話] 川のじやりとか ハマノスソのじやりとか 言うて、ちよいと (少し) あらくたいおな (粗いのです)。

はまべた【名詞】 浜の近く。はまべ。[会話] ハマベタ 浜辺の事なあ (です)。おらぎゃ (俺家は) ハマベタやもんで (なので) したたりて (湿気が多くて) 言うて、潮風な (が) 吹いて来て したたりわれ (湿っぽいのです) 浜辺は 言うて。奥の方は ええけど (よいか) おらぎゃ ハマベタやもんで 潮風な (が) 吹いて来て したたりてなあ (湿気が多くて) 言うて。冬はええんけど (よいか) 夏ん (に) なって来ると したたれて (湿気多くなって) くんのなあ (来るのです)。海岸に近い方 ハマベタ。海にちっかい (近い) 方をハマベタ。同じ海に ちっこおても 浦海の方は ハマベタ 言わせん (言いません)、浦海はうらべた言うて、前をハマベタ。浜 前の浜 言うて 前浜や 言うさけん (言うのだから)。

はままつり (浜祭り)【名詞】 正月十一日、海女が大漁と安全を願って浜辺で海に祈る行事。[会話] 正月十一日 ハママツりん (に) になると、浜いて (行つて) 餅三つして その上へ 米 三つ供えて ホイツイヤこんこんと 桶 叩いといて (ておいて) まめそくさい (健康で事故なし) で 商売さして (させて) もらうよおん (ように) 押むやんな (でしょう)。

はまもっこ (はまもっこく はまもくこく) 植物 しゃりんばい まるばしゃりんばい おじごろし参照 (熊)

はまゆ (はまゆふ)【名詞】 浜木綿 はまゆうの末尾省略 [会話] 浜木綿 はまゆう 言わんと (言わずに) ハ

マユ言うて。

はまらんがん【俚諺】 歯、男根、眼。男性の身体上のおとろえを示す。[会話] ハマランガン 言うて、はあ (歯) と、めえ (目) と、魔羅 (男根) と三つ。年なよと (年取ると) ハマランガンな (が) 弱ってて (弱って行つて) はざんね (駄目なのです)。年取つて来て、めえも見えんよおん (に) なつて来るし、はあも皆抜けてくし (行きます) 魔羅の方もはざん (いけない) 言う意味やなあ (です)。

はまりなええ 適材適所 納まる所が適当である。(志 (布施田))

はまる【自ラ五】 1) 嵌る。填まる。落ち込む。(志 (浜島、鶴方) 桑市、鈴市、安、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、南、熊) 2) 仲間に入る 3) ぴったり合つて入る 4) 夢中になる [会話] 1) 池にはまつて どぼどぼゆり 言うて、なにかに入る事を ハマル 言うのなあ (のです)。それい (へ) はめとけ (ておけ) 言うて、穴でも有ると そこい (へ) はめとけ 言うて 入れる事を はめとけ言うのなあ。2) わり (悪い) 仲間へハマッタラ はざんどお (駄目だ) 言うやんかい (言います)。わり仲間へ ハマッてまあ 言うて。わり仲間い (へ) 入つて ぐれてくのなあ (て行くのです) わり仲間い (へ) ハマッて ぐれて (て行つて) 言うて。ハマル 言う時 えごつと (完全) に、はまったなあ 言う時ん (に) 指輪もきつつうて (きつくて) はまらせんよお (ない) とか、びたつとハマッタ 言うのは 丁度はまったわい (はまりました)。

はみがっこ【名詞】 歯磨粉。歯を磨く時、歯ブラシにつけて用いる粉。[会話] ハミガッコ 言うと、はあ (歯) 磨くこお (粉)、昔や (は) こおやつてなあ (でして)、今しゃ (今は) 練るけど (が)。わしら (私達) 朝鮮で 水 取りん (汲みに) 行くと 内股な (が) すれんねてや (擦れるのです)、擦れると ハミガッコ 一袋こおて (買つて) 来て それを 内股へ振つてなあ、あれ 振ると ええね (よいのだ) 言うて、そんで (それで) 効かんとなあ (ないと) 茨のねえ (根) 掘つて来て のおだると (飲んでやると) まあ 観面やよお (だ) 股ずれな (が) すんのん (するの)。“おたべの すれんのおは よお いばらのあのねえ (根) をよお煎じて 飲ますうと、すぐなおおる” 言うて 歌うとてなあ (歌つて)

はむいてくる 反抗する。歯刺く 向く (志 (布施田))

はむし (羽虫)【名詞】 1) 鶏のはじらみ。羽虫。(志、

鳥、伊) 2) 稲につく小さな虫。[会話] 2) ハムシな(が) 付いて たあえ (田に) 油引きん (に) 行かな(なければ) 言うてなあ、ちっちゃあい (小さい) すご (蛆) の ちよいと (少し) おっきい (大きい) ぐらいやてや (です)。そんな (それが) 付くと はあ (葉) 皆 ぼんぼら (穴) あけてなあ そすと (すると) 油 ひきんく (に行く) 言うて、石油を ぼとん ぼとん 落しといて (ておいて) 笹でかつてなあ (拂つて) つらましかった (辛かった)。1) 鶏ん (に) 付くのも ハムシなあ (です) ハムシ 移って来てなあ 言うて、かいいて (かゆくて) 鶏のけえ (毛) ん (に) 入とてなあ (ていて)。

はめいた (羽目板) 【名詞】 板壁にする板

はめはめ 【名詞】 女陰 (志、鳥)

はめる 1) 入れる (桑市、津、北) 2) 仲間に入れる (津) 3) 性交する。

ハモニカぐい 【名詞】 長い物を食べる時 横の方から食べること [会話] 玉蜀黍でも よこぐいやんかな (です) ハモニカグイ言うけど (が)。

はもと 【名詞】 鮑を獲る時海女が鑿を入れる所。(志、鳥)

はもん 【名詞】 刃物。切れ物。

はや 【副詞】 急なこと。急ぐこと。早く

ばやい (ばやひ) 【名詞】 場合。その時。バアイの訛 (広辞苑) (志 (鶴方、神明、立神、甲賀、国府)、員、鈴郡、鈴市、松、多、伊、北、尾、南) [会話] 頼む言う事や (です)。そおゆうバヤイヤなあ (です) 人、雇いん (に) いた (行った) 時は。

はやいおり 【名詞】 随分前 (志 (布施田))

はやいとこ 早く。早い間に。(桑市) [会話] ハヤイト コせな (しなければ) ひやしたたら (てしまったら) ひまのかあやど (大変だ)、言うてな はよお (早く) せな 言うのを、ハヤイトコせな言うね (言うのです)。

はやいな。はやいなあ 1) 朝の挨拶。お早よお。(志 (鶴方、神明、立神、甲賀、国府)、鳥、桑市、上) 2) 早い [会話] 1) 挨拶なあ (です)。朝は ハヤイナア 言うし、昼間は どこぞ (どこかへ) 行てきたのかい (行って来たのですか) 今日と言うて、ほすと (すると) あてらあ (はい、返答) 言うて、往来 (路上) の挨拶なあ (です)。朝 おおた時 (逢った時) ハヤイナア言うて、誰ん (に) でも言うやんない (でしよう)。お早よお言う事を ハヤイノオ 言うて。昼間会うと どこぞ行てきたかい (行って来ましたか) 行てきたのかい とか言うし、よさり (夜) 会うと、おしい

よ 言うて。おしいよ言うて、誰ん ても 言いおったなあ。おしいよ言うて、返事すると ええんけど (よいが) 返事しやせんと (しないと) 狐な (が) 化けとる (て居る) 言いおったやんかい (言つて居たで有りませんか)。おしいよ言うて そんな (それが) 挨拶、よさりのなあ。ハヤイナアと 一緒やけど (だが) ハヤイネ 言うて、昔の ひた (人は) ハヤイネ 言うて、あてらあ言うて 行て来たのおこ (のですか) あてらあ言うて。ハヤイノオ言うな (のは) 男の人に言うたり 上の人ん (目上の人に) ハヤイノオ 言う、ほして おなご (女) とか、わがとら (自分達) 同輩のもの (者) にやったら (だったら) ハヤイネ 言うて。

はやいに 1) 早いですよ。待ち合わせの時間などに出かける時早いとまだ早いこ。2) 早やいのです。競争などで早いとあの子はハヤイニ。

はやいね 御早よう、ね。軽い詠嘆を表す。軽く念を押す気持ちを表す。相手の同意を求める気持ちを表す。問いかける気持ちを表す。はやいなあ参照 (志、北)

はやいねえ 1) 朝の挨拶 (志 (神明、立神、国府)) 2) 早い [会話] 1) ハヤイネ 言うて、あてらあ 言よおった (言っていました)。はやいなあ ハヤイネ エも はやいのおも 一緒や (です)、朝の挨拶、お早よ おや (だ)。2) ハヤイ 言うのも あんな (彼の) 走んな (走るのは) どいらい (大変) ハヤイネ まいき つてく ない (まいきつて行く) 言うてなあ あの子な (が) ハヤイネ、あんな (彼が) ハヤイネ ヨオ (のだ) 言うしなあ。

はやいのお 朝の挨拶の言葉。お早よう。のう。終助詞、間投助詞な、から。はやいなあ参照 (志 (神明、立神、国府) 北) [会話] ハヤイノオ 言うと、ああ ハヤイノオ 言うてなあ 朝 行くと ハヤイノオ 言うて朝の挨拶や (です)

はやいもんがち 早くした者が好い結果を得る。(志 (布施田))

はやうまれ (早生) 【名詞】 1) 一月一日から四月一日までに生れたこと、又その人。四月二日以降に生まれた子供が、数え年七才で入学するのに対し、それより早く数え年七才で入学することから。2) 早産児 [会話] 2) やあつきご (八月月児)、ハヤウマレ 言うん なあ (言うのです)。やあつきごは 育つけど (が) このつきご (九月月児) は 育たん (ない) 言うて。1) 一月一日から 四月一日迄、生まれた こおを (子を) ハヤウマレ やよってん (だから) 七つ登りや (だ) 言うてなあ。

はやお (はやを) (早緒) 【名詞】 船の櫓を漕ぐ時使用する力綱。櫓腕の先端にある柄 (つく) につける。
(志 (鶴方、神明、志島、国府)、鳥羽市全域、桑市、北) [会話] どお (櫓) 漕ぐハヤオ、ハヤオのたるみ (弛み) で しゃね (女陰) はそだ (挟んだ) 言うて、どお (櫓) 漕ぐのん (に) ハヤオびんと張ると ええけど (よいが) 下手な力のない人な (が) ハヤオな (が) たるんたるんとしとんね (して居るのです)。どびよおし (櫓拍子) ん (に) “ハヤオもしゃんと ハヤオのたるみで しゃね (陰核) はそだ (挟んだ) それ” 言うて ハヤオたるまし (弛ませ) とると (て居ると) 力な 入らせんもんで (入らないので)。ハヤオ言うて どお (櫓) 漕ぐ ひっかけるやんない (でしよう) 船の底からつけて来て綱な (が)、この位ばか (一米位) ついとる やんない (付いて居るでしょう)。そしといて 櫓へ掛けといて (ておいて) 漕ぐねもんで (ので) そんな (それが) たるどると (弛んで居ると) 櫓へ力な (が) 入らせん (入らない) 言うわけやんかい (です)。そんな (其れが) 張つとると (て居ると) 櫓い (へ) 力な (が) いっとる (入って居る) するしや (です)。

はやおき (早置) 【名詞】 定刻より早く終える事。

はやおけ (はやをけ) (早桶) 【名詞】 棺桶 急に備ふる意 (大言海) (松、多、張、南、熊)

はやかす (生) 【他サ五】 生やす。畑のなり物を収穫出来ず芽を出させてしまう。[会話] ハヤカシタタヨオ (てしまった) 雨な (が) 降って、まあ なんもかも (なにもかも) ハヤカシタタレ (てしまった) 言うてなあ、豆でも あかろ (で) (熟して) もじきん (もぎに) 行くの (のを) まあ もじきん 行かれやせんし (ないので) もじいて 来てても、干されやせんし なあ、皆 めえ (芽) 出して くんのをなあ (来るのを) ハヤカス 言うて。

はやかったなあ。はやかったのお 早く事を済ませた時の言葉 [会話] 仕事な (が) 終わった、がいな (大変) ハヤカッタノオ 言うて。まあ おいて (終つて) 来たんか (のか) 言うて、まあ はよ (早く) きまった (終つた) もんで (ので) 言うて、どいらい (大変) ハヤカッタノオ 言うて、仕事な (が) はよ きま ん (の) も ハヤカッタノオ 言うし、朝の早いのおも (のも) ハヤカッタノオ、朝起きやのお (です) ね 言うて。

はやかったんのお 早やかったのですね。はやかったなあ参照

はやがねうつ 心臓の動悸が激しい。[用例] おどけて (驚いて) ハヤガネウタレ (打ちます)。

はやがる 匍いあがる。[会話] ハヤガッテキタレ (来ました) まあ そやれ (それ) 言うて せんちや (便所) のすご (蛆) でも 糞から 匍い上がる言うのを ハヤガル 言うね (言うのです) 蟻な (が) ハヤガル 言うて 家ん (の) 中い (へ) 来るとなあ。

はやきってく 随分早い。予想以上に早い。(北) [会話] あんまり (あまり) 早いのおを (のを)、ハヤキッテク 言うて。はや過ぎられ (る) 言うのをなあ、走とて も (ていても) あやまあ (彼は) どいらい (大変) ハヤキッテク、あやまあ (彼は) どいらい 早いなあ 早や過ぎる位やなあ (だ)、あんな (彼の) 走んなあ (るのは) ハヤキッテカレまあ 早いよお 見よまあ (見なさい) 言うてなあ。

はやさ (速) 【名詞】 動きの速い事。又その度合

はやしお (はやしほ) (早潮) 【名詞】 流れの早い潮流。

はやじに (早死) 【名詞】 1) 年若くして死ぬ事。2) 急に死ぬ事。

はやじまい (はやじまん) (早仕舞) 【名詞】 定刻より早く仕事を終える事。

はやじゃらく 手早くやつつける。仕事をしあげる。早作略 (志 (布施田)) [会話] ハヤジャラク言うて、越賀の人ら 飯 炊くのも ごんぞ飯 言うて、米 かしといて (ておいて) ハヤジャラク。魚をそんなり (そのまま) こしらえて (調理して) 此処らでは 煮付けといて (ておいて) 骨取って みい (身) だけ身と汁とで味付けする やんない (でしよう) 越賀のごんぞ飯 言うて みい (へ) すぐん (に) 魚をうち込んどいて (ておいて) ごんぼ (牛蒡) や人参も 皆 ひとくら (一度) ん (に) 入れといて (ておいて)、ハヤジャラク するもんで (ので) 越賀のごんぞ飯。 そいなのを (そんなのを) ハヤジャラク言うのなあ (のです)。手間掛けんと (掛けずに) てえ (手) 抜くもんで (ので) ハヤジャラク。手間かけんと 仕事すんのを (するのを) ハヤジャラク。ハヤジャラク まあ早よ (早く) さつとしとけ (しておけ) 言うて。

はやじる 【名詞】 生味噌に熱湯をそそいだ汁 ちゃんちゃ参照 (志 (布施田)) [会話] さい (副食) な (が) 無いと 味噌しといて (しておいて) 茶かけて あたたい (熱い) ちゃんちゃん (煮えたぎっている) しとんのおで (している) しよおったんやろなあ (して居たのでしよう)。そすと おつけ (味噌汁) と 一緒やわい (です) 煮たんねよって (煮てやるのだから)

ら) ハヤジル 乞食汁。

はやす (生) 【他サ五】 切る、煎るの忌み言葉 1) 小さく切る。刻む。(志 (浜島、布施田)、鳥、度、伊、尾、南) 2) 餅を切る。3) 門松にする松を切る。(志 (立神、志島、甲賀)) 4) 節分の豆を煎る (志 (布施田)) [会話] 2) あられハヤスとか 餅 切んのを (切るのを) ハヤス 言うの (のです)。あられも切ん(る)のを あられハヤスとか 餅も 鏡餅切るやんない (でしょう) それ ハヤス言うて。餅、ハヤシト カナ (ておかなければ) はざんわれ (いけません) 言うし (言います)、3) しよんがつ (正月) の門松やど き (など) 切りん (に) 行くのを 門松ハヤサント (はやさずに) おんね (居るのだ) 言うて、ハヤス言う うのなあ (のです)。松ハヤスとか 餅ハヤス言うて 切る事を ハヤス言う (言います)。切る言うと 枝切るとか 松 切る言うと 縁起な (が) わりもんで (悪いので) そんで (それで) ハヤス言うんやろなあ (言うのでしょうか)。4) それから 豆を あらくさな豆 (節分の豆) いんのも (煎るのも) 豆ハヤス言う うの (のです)。豆 煎る 言わんと (言わずに) 豆 ハヤサナ (さなければ) 言うて、それらも 皆 縁起担い言葉や (です)。

はやす (生) 【他サ五】 門松を立てる (志、鳥)

はやす (囃) 【他サ五】 1) 褒め讃える。唄に相の手を入れる 唄うように相の手を入れる 2) さかんに言う。からかう。ひやかす。[会話] 1) 歌 唄とても (て居ても) こりゃこりゃ言うのを ハヤス言うし (言います)。ハヤシもなけななあ (無ければ) はりやい (張り合い) な (が) ねえやんかあ (無いでないか) 言うて。

はやだき 【名詞】 急いで強火で炊くこと [会話] 飯いどらしとけ (蒸さしておけ)、ハヤダキせんと (せずつに) いどらさな (蒸ささなければ) はざんわれ (駄目だ) 言うて、炊いて直ぐわなあ いどつとらんで (蒸さしてないので) 飯は うまいのなあ (まずいのです)

はやて 【名詞】 1) 疾風。ては風の意味。早風。急に激しく吹きおこって数分、内至一時間でやんでしまう風 寒前線通過時に起り、しばしば強い雨、雷を伴う。(志 (布施田、志島、浜島、波切、名田 甲賀)、鳥 (答志)、南、尾) 2) 疫痢のような子供の病気。(員) [会話] マゼバヤテや (とか) ニシバヤテな (が) して来た、風な (が) 急に吹いて来ると ハヤテなして来た。まぜ (南風) びかつと (平らに) しと ても (して居ても) ビューと吹いて来ると マゼバヤ

テなしてきたれ (がして来た)、西から風なビュービュー吹いて来ると ニシバヤテな (が) して来た 言うて。急に吹いて来るのを ハヤテや (です)。ハヤテな (が) 吹いて来ても いつ迄吹いとらんと じっきん (すぐに) 止んでくけど (で行くが) いったん (一度) 吹きまくったると (きってやると) ぱったとしてく (して行く) なあごお (長く) は 吹いとらせんけど (吹いて居ません)。

はやで (早) 早急に いそいで、簡単に (志 (布施田))

はやてかぜ 【名詞】 疾風 (志 (畔名、志島、立神、神明、的矢、磯部、波切)、鳥 (菅島))

はやとりのり 【名詞】 瓜の一種、ウリ科のつる性多年草。アメリカ熱帯地方の原産。暖地で夏野菜として栽培される。莖は長さ十米に達するものが有る。地中にサツマ芋に似た太い塊根がある。葉は胡瓜の葉に似た三角状卵形で、長さ十~二十糎。雌雄同株、夏から秋かけて葉脈に白い単性花が咲く、果実は一株に数百ヶつき洋梨形で長さ八~十七糎。漬物にする (阿)

はやとちり 【名詞】 早合点して間違うこと。[会話] あやま (彼は) とばしやげ (慌ても者) で なんでも (なにでも) 泡食うて ハヤトチリして 人の せん (しない) うちん (間に) わがと (自分が) 先い立ってして そして 失敗くうのなあ (するのです)。

はやどり 【名詞】 早く獲り入れる。完熟を持たないで収穫する。

はやなきかん すぐの間に合わない。(志 (布施田)) [用例] あの男 愚図で、ハヤナキカン男や (だ)。

はやに (早煮) 【名詞】 早く茹であげる事。[会話] そお煮しといて (しておいて) その水 あけたらんかれ (あけてやりなさい) とか、さつとする事なあ (です)、さつとする事 そお煮や (と) 言うなあ (言います) ハヤニの事やよって (だから)。

はやばやと 【副詞】 1) 早速に。すぐに。2) 早くから。(志 (布施田)) [用例] 2) 会に 遅れんようん (遅れないように) ハヤバヤト 家出よや (出ましょう)。

はやびる (早昼) 【名詞】 早目に食べる昼食。(上、阿、張、名) [会話] 今日は ハヤビル喰うて 行かな (なければ) はざん (いけない) 言うて、十時頃ん (に) 喰うのを ハヤビルや (だ) 言うなあ (言います) 今日は 昼からやけど (だが) ちよいと (少し) 早よ (早く) ハヤビル喰うて (食べて) 行こやんかあ (行きましょう) 言うて、ちよいと早いのおを ハヤビルとか、こびるとか 言うて。こびるも一緒や (です)。今日は 昼からやけど ちよいと こばよお (少し

早く) 行こやんかあ、ハヤビル喰うて 言うて、ちよいと、はよ出かける時ん (に)。

はやみそ【名詞】完全に成熟していない味噌。糀の匂が未だ残っている味噌。[会話] ハヤミソ 若味噌 喰わまい (食べまい) 言うて、一つつつ 仕送り (順送り) するわい (します)。

はやみち【早道】【名詞】 1) 近道 2) 急いで道を行く事 3) 早く出来上がる事

はやみみ【名詞】物事を早く聞きつける事。またその人。

はやめ【早】【名詞】【形容詞】早くする事 [用例] 何でも ハヤメンしとくと (しておく) 慌てんでええやれ (慌て無くてよいのです)。

はやめし【早飯】【名詞】 1) 食事をするのに早い事。 2) 定められた時間より早く食べる事

はやもち【名詞】煮た芋の中に、芋の粉を入れて搗いたもの。こもち参照 [会話] 芋を鍋で炊いといて (ておいて) 水ごち (と共に) ぼんと あけといて (あけておいて) 芋のこお (粉) を、茶碗に一杯でも入れて、杓子で捏ねて 白で搗いたると (てやると) ハヤモチ団子餅。

はやもん【名詞】早く出来上がるもの。早生。[会話] たあ (田) でも ハヤモン 作って 晩生と なかてと。

はやらかす。はやらす はやるようにする。流行させる。

[会話] ハヤラカシタレ (てやれ) 言うて、こんなもん (物が) はやって来た 言うて、はやりもん (物) 言うて、着るもん (物) でも 紫な (が) はやって来て 一年なあ (ある年は) なんやらや (なんと) か 言うてな 枕や (とか) 布団や (だ) 言うて、皆紫ん (の) のおを (のを) ハヤラカシタテナア (させて)。 あいな (あんな) のおをなあ (のを) ハヤラカス 言うて、一軒すると まあ それを 皆 ハヤラカシタテ 言うてなあ。年寄りな (が) あつかい (赤い) なかね (腰巻) 着ると たれさがさせんね (ないのだ) 言うて、一年 あつかい ネルのなかね こおた (買った) 事な (が) 有るやんかい (有ります)。 そんで (それで) ハヤラカシタンネテヤ (てしまうのです)、一軒言うとなあ、ハヤラカシタテ (てしまつて) みんな (皆) あつかい (のを) こおて (買って) 着て なあ。

はやり【名詞】流行して居ること [用例] 今年や (は) 赤な (が) ハヤリヤ (です)。

はやりうた【流行唄】【名詞】流行歌。その時代によく唄われる歌。[用例] 今頃のハヤリウタ 訳な判らん。

はやりかぜ【流行風邪】【名詞】冬期に流行する風邪。流感も含まれる。ある時期に沢山の人がかかる風邪。(志

摩市全域、鳥、四、鈴市、安) [会話] ハヤリカゼ 言うななあ (のは) かぜひき (感冒) な (が) よけ (沢山) 有ると、ハヤリカゼやなあ (だ) 言うて ハヤリカゼ ひいてまあ言うて。 流感やなしん (でなくて) 風邪な (が) よけ (沢山) あそこも此処も 風邪ひきや (だ) 言うのを ハヤリカゼ 言うて、ハヤリカゼ じゃ (風邪は) みんな (皆) 所々で 風邪ひきな (が) よけ (沢山) 有る 言うて 風邪な (が) はや つとんねなあ (て居るのだ) 言うて。

はやりこと【流行事】【名詞】流行する事 (遊び、衣服、食事、病気などすべてに) (志 (布施田))

はやりことば【流行言葉】【名詞】その時代に世の中によく使用される言葉。長続きしないものも有れば定着して長く使われるものも有る。

はやりすたり【名詞】流行することと、すたれること。 [会話] ハヤツテキタ おもてな (思ったが) そんな (それが) せんよん (しないように) なつてくと (なつて行く) スタツテ まあ 言うてなあ、まあ こや (これは) スタツタレ (ていった) きよおねん (去年) ハヤツタけど (が)、今年や (は) スタツタ ナア 言うてなあ。 こや まあ (これは) すたれもん (物) やあれ (だ) 言うて、店屋い (へ) いても (行つても) 言うやんかい (言います)。

はやりめ【名詞】流行性の急性結膜炎。角膜炎 [会話] ハヤリメ、とんとめ (角結膜炎) 今しや (今は) とんとめや (は) 無いなあ (有りません)。 とんとめな (が) はやって めくさ (目糞) で、朝ん (に) になると 一杯 付いとて (ていて) まつげ (睫毛) あかせんね (あかないのです)。 まつげ、皆 もじいたて なあ (もいでしまつて)。 めえな (目が) 真つ赤ん (に) なつて、夕方ん (に) なる ころころ して そのまた えらいのおな (大変なのが)、めえ (目) な (が) 開いて おられやせんね (おられないのです)、そんで (それでも) だらすけ あろたり (洗つたり) 冷水 で 冷やせ 言うて 目医者へ 行かん (と) (行かずに) ハヤリメ や (だ) 言うて、うつんねて やなあ (うつるのです)、手拭やどけ (など) がっこ (学校) で 移つて 来てまあ 家中 とんとめ 移して 言うて、家中 な (が) 皆 とんとめ して。

はやりもん【名詞】流行するもの。 1) 流行病。 2) 流行する物や行動等。 [会話] 1) ひぶくれ (水泡) な (が) ぷくつと 出来て来て そんな (それが) 潰れて 来ると ふさ (蓋) な (が) 付いて、かぼ (膿痂疹) みたいん (のように) なつて、ハヤリモン みたいん

して 来おった (来ました)。

はやりやまい (はやりやまひ) 【名詞】 伝染病。多くの人
が一時に感染する病気。(一) [会話] 赤痢や (とか)
コレラや (だ) 言うのなあ。ハヤリヤマイにかかって
言うて、流感やでやら (だとか) 言うてなあ。はやり
かぜ ひいてまあ 言うて。

はやる 【自ラ五】 1) 流行する。広まる。2) 繁盛する。
賑あう。(志) [会話] 1) そのかわり こんだ (今度
は) エイズな (が) ハヤツケクンネ (くるのです)。

はよ 【名詞】 【副詞】 早く。早い時期。早い時間。ハヨウ
の転 (広辞苑) (志) (浜島、鶴方、神明、立神、国府、
安乗)、鳥、桑市、桑郡、員、三、四、鈴市、鈴郡、安
津、久、一、松、多、上、阿、張、名、度、南、北、
尾、熊) [会話] ハヨ来い言うて。ハヨ来いまあ (来
なさい) まあ (もう) 船な (が) 出てかれ (出て行
く) 言うて、おそなれ (遅くなる) ハヨ来いまあ 言
うて。早く 言うの (のを) ハヨ来いまあ 言うて。
ハヨせんかれ (しなさい) まあ無いよおん (に) なっ
てく (なっていく)、ハヨ喰わんかれ (食べなさい) 無
いよおんなつてくど ((になっていくぞ) 言うたり。早
い時期から 朝ハヨから 言うて、朝ハヨから 騒が
しいのん (のに) 騒おんで (騒いで) とか 言うなあ
(言います)。朝ハヨ行くと 人な (が) 寝とんのん
(て居るのに) 朝ハヨから来て にぎおて (騒いで、
やかましくして) 言うて。此の時は 時間的に早い。
こげん (こんなに) ハヨ 皆な (が) 寝とる (て居
る) うち (間) から来て みんな (皆) 起して、さわ
がして (騒動させて) とか 言うて、ことわり (言い
訳) がてら (しながら) 言うの (のです)。ほして (そ
うして) 道でおおた (会った) 時ん (に)、ハヨから
がいな (大変な) かかり (支度) で 何処行くんどの
い (行くのですか) とか 言うて。

はよお (はよう はやう) 【副詞】 1) 早く (志、鳥、桑
市、三、四、鈴市、亀、津、安、一、久、松、阿、張、
名、度、伊、北、尾) 2) ずっと以前に [会話] 1)
ハヨオ せんかれ (しなさい) 言うて、ハヨオセナ
(しななければ) 何処何処 行かん (いかなければ) な
らん (いけないのに) おそなんど (遅くなるぞ)
言うたりなあ。はよ寝やな (寝なければ) あした (明
日) がっこい (学校へ) 行くの (のに) 又 よお起き
ん (起きられないぞ) 言うて、こらら (子供達) わ
るいおった (叱って居ました)。ハヨオ こんかれ (来
なさい) 言うたりなあ、何処やかや 行こ (行こう)
おもとんのん (思っているのに) 愚図愚図 して (し

ていて) 来やへんと (来ないと)、はよこんかれ、など
しとんねど (なにをしているのだ) 言うてなあ。2) ハ
ヨオから はよっから 用意して あられ (有る) 言
うてなあ、とおおい時から言うのを はよっから、ハ
ヨオから言うの (のです) ずうっと前や (です)。あに
んこ (兄) な (が) 嫁 貰う おで (ので) はよっか
ら、米も こおて (買って) かんまえ (用意) とんね
(ているのだ) 言うて。

はよおて (はやうて) 早くて [用例] あんな歩くのな
(彼の歩くのが) ハヨオテ おらよおつてかん (私
はついて行けません)。

はよおに 早い時に。早くに。はよに参照

はよから 早くから。はよ参照 (上、南)

はよして 早くして、早く。[会話] にい (荷) 置くと
さいご (その時) さとのきな (が) 無いか ハヨシテ
でんぐり (ひっくり) かえして みよおったわい (見
て居ました)。

はよしまえええ 早く終りにしなさいよ。遅くまで働い
て居る人に言う。(南、熊)

はよせそらせ 仕事を急がす時に使う言葉。(志 (布施
田))

はよっから 早くから。[会話] 早よから 言うの (の
を)、ハヨッカ 言うね (言うのです)。ハヨッカ
使いな (使者が) 来とんねない (来ているのだ)。

はよて 早くて (北) [用例] 飯、喰うのな (のが) ハ
ヨテ おらな (私が) 一杯くどるうちん (食べて居る
間に) 三杯も くたんね (食べてしまうのだ)。

はよに 【副詞】 先頃、先に、先だつて。(張) [会話] ハ
ヨニ してあられ (して有ります) まあ そや (それ
は) 言うて。前からして有る。ハヨニ言うときや (て
おけば) ええけど (よいが) 言う時も 有るやんかい
(有ります)。今し (今) そげん (そんなに) すぐに言
うたてて (言っても) できよかれ (出来ません) ハヨ
ニ 言うてくれや (くれれば) ええもん (よいのに)
言うてなあ。

はよやすめやあ 早く寝て下さい。おやすみなさい。

はら (腹) 【名詞】 1) 心の底、本心、気持ち、考え。
2) 物の中央部の広い所。山の頂きと麓との中間部な
ど。3) 物の膨らんでいるところ。4) 決断力、包容
力、胆力。[会話] 4) ハラな (が) おつきい (大き
い) ねよつて (のだから)。商売しても どぎつい (大
きい) 事すると あやまあ (彼は) おおはらもん (大
胆な者) やなあ (だ) 言うて。4) ハラな (が) おつき
い 言うて、大胆に 後も先も 考えんと (ずに) まあ、

やりきる人な (が) 有るやんかい (有ります)。あや (彼は) おおはらもんやどお言うて、失敗するとも なとする (なんとする) と 考えんと (ずに) やり きったんのをな (てするのを)。¹⁾ あんな (彼の) ハラの中 判らせんわれ (ない) ハラな (が) わりいてな (悪くて) あや (彼は) ハラわり やよってん (だから)、なん (何) おもとんねやら (思っているのか) わかるかれ (判らない) 言うて。²⁾ 物の 真ん中 言うのも 舟のハラやたら (だとか) 自動車のドンバラ やりつけて (衝突して) 来て 言うて。まあ ドンバラい (へ) やりこんで (衝突して) 来て、船でも 真ん中へ来るとなあ ドンバラい やりつけて 来てまあ 言うてなあ。

ばら (散) 【名詞】 ばらばらであること。まとまっていな
いこと、又その物。[会話] バラバラ あの家や
(は) 家内中な (が) バラバラん (に) なつたわれ
(なつて行ったそう) 言うたりなあ。仲な (が) わり
りいて (悪くて) したのおを (のを)。菓子やどけでも
(などでも) バラ売りしとる (している) バラで売っ
てくれえ (下さい) 言うてなあ。数せんと (せずに)
バラであけ込んで有ると バラの (ののを) こおて
くわい (買って行きます) 言うてなあ

はらあい (はらあひ) (腹合) 【名詞】 腹の具合。胃や腸
の調子。

はらあて (腹当) 【名詞】 子供などの腹部が冷えるのを防
ぐため、腹に当てる布。(松) [会話] 子らん (子供
達) 裸い (に) きんたる (金太郎、ハラアテ こさえ
て (作って) くれな (なければ) はざんなあ (いけない)
。腹、放り出しとると (ていると) はざんのん (駄
目だから) 言うてなあ。 後ろは裸で、前だけなあ
きんたる 掛けさせてなあ。

はらあみ 【名詞】 畳一丈位の網の両端に、柄の付いて居
るもの。たも。[会話] 網で りよおほおと (両方
ん (に) ええ (柄) な (が) 付いとん のな (ているの
が) 有るわな (有ります)。ハラアミ言うて 畳一丈位
の網ん (に)。

**はらあわす (はらあはす) 共謀する 結託する (志 (甲
賀)、鳥) [会話] ハラアワス 言うて、相談して
なんやかや (いろいろ) こげん (こんなに) しょおか、
あげん (あんなに) しょおか (しましよう) 言うのな
あ (です)。意見な (が) あわしえん (合わない) にげ
(人間) をなあ はらな (が) あわんで (合わなくて)
はざんよお (駄目だ) 言うて、あいらな (彼等
が) ハラアワシテ こいな (こんな) 事して 言うて、**

わり (悪い) 事でも、ええ (よい) 事でも 組んで
しとると (していると) ハラアワしとんねなあ (てい
るのだ) まあ こや (これは) 言うて。

はらあんばい (腹塩梅) 【名詞】 腹の加減。胃腸の調子。
[会話] 腹具合な (が) わりいなあ (悪いのです)、ハ
ラアンバイな (が) わりいて (悪くて) 言うて。腹
下すとなあ、あんばいな (が) わりいて 言うて 具合
な (が) わり (悪いのを)

はらい (はらひ) (拂) 【名詞】 代金を支拂うこと。[会
話] ハラいな (が) わり (悪い)、ハライギタナイ
言うて。なんやかや (いろいろ) かつてなあ (借
りても) 拂いん (に) 行かせんと (行かないと) ハラ
イギタノオテ (なくて) まあ あの家を (は) 借した
ら めったん (絶対) 出させんね (ないのだ) 言うて
ハライ言うて 支拂い

はらい (はらひ) (赦) 【名詞】 神に祈って、罪、けがれ
や災いなどを除き拂うこと、又その儀式。神社でした
り、水辺でみそぎしたりする。はらえ。[会話] ハラ
イで、神さんの オハライ

はらいぎたない (はらひぎたない) (拂汚) 【形容詞】
金ばなれがよくない。支拂いがけちくさい。はらい参
照

はらいさげ (拂下) 【名詞】 1) はらいさげること。おさ
がり。2) 拒否する。[会話] ¹⁾ ハライサゲ もろて
(貰って) 言うてなあ あがり (古い物) を 貰うと
なあ、あにんこ (兄) な (の) あがりやれ 言うて
ハライサゲをなあ おさがり言うたり お古、言うた
り するけど (が)

はらいた (腹痛) 【名詞】 腹が痛むこと。[会話] よお
(よく) 昔 ハライタな (が) 有つてなあ。疝、癩で
もみきつたねえ (のだ) 言うて、あや (あれは) 蛔
虫な (が) わきおつたんやろ (わいて居たのでしょう)。
そして 疝 癩で もみきつた 言うのは 盲腸で
死んでくの (で行くの) あげん (あんなに) 言よ
おつたんやかなあ (言つて居たのでしょうか)。

はらいっぱい (腹一杯) 【名詞】 1) 満腹。腹が十分に満
ちるさま。たらふく。2) 思う存分。(尾) [会話]
¹⁾ ハライッパイ 食うて まあ 言うて。²⁾ おら (俺
は) まあ あれん (彼に) ハラ イッパイ 言うた
(言つてやった) 言うて、思うぞんぶ (存分) 言うた
た 言うのを、ほお (帆) も 風一杯受けとると (てい
ると) ハライッパイ受けとる (ている) ほあしぱり
張つた言うてなあ。

はらいもん 【名詞】 支拂うべき金銭。特に葬式の費用を

張面付けで買った時の支拂い。

はらえ (はらへ) 【名詞】 はらい、祓に同じ。[会話] ハラエ してもろて (貰って) 言うのかい (ですか)。崇られて こやまあ (これは) 彌直さん たので (頼んで) ハラエして もらわな (なければ) はざんわれ (駄目だ)、大漁な (が) なんも (全く) 無いわれ (です) 言う時な (が) 有るわい (有ります)。誰やら (か) 船霊い (へ) わざ (悪業) しといてて (しておいて行って) なんも 網い乗らせんない (ないのだ) 彌直さん頼んで 来て、ハラエ してもらえ 言う時な (が) あんね (有るのです)、船霊い (に) 意地悪る しとる (している) わざする人な (が) 有ってなあ。

はらおおび 【名詞】 石の下に付いて居る鮑 [会話] 砂原で おちいしな (が) 一つつつ (一つずつ) 有るとなあ。その ハラオオビ採ったてやら (とか) 言うてなあ。こなすか (砂) ばっか (ばかりで) おたこいな (こんな) とこ (所) おもて (思つて) してもなあ、それい (に) おちいしな (が) 一つつつ 有るとなあ それん (に) おおび (鮑) な (が) よお (よく) おんねてや (居るのです)。

はらおさえ 【名詞】 一時的に空腹を満たすため食べること、又そのもの。[会話] 一時のハラオサへ、腹のしのぎに (足しに) 夕飯までのしのぎに そこらん (其処らに) 有るもん (物) ちよいと (少し) くおやんかれ (食べましょう) 言うて 喰うのな (が) ハラオサエ。

はらおび (腹帯) 【名詞】 1) 岩田帯。妊婦が腹にまく帯。妊娠五ヶ月目の戌の日にまく帯。(志摩市各地、上、阿) 2) 海女の腰綱 (志) [会話] 1) ハラオビ 岩田帯の事なあ (です)。ハラオビ言うて いつつき (五ヵ月) ん (に) なる ハラオビ締めな (なければ) はざん (いけません)。戌の日 戌と言う字 書いといて (ておいて) 初めてのハラオビ 締めん (縮めます)、今日は戌の日やよつて (だから) ハラオビ締めな (なければ) はざん 言うて、初めて締める時ん (に)、そして (そうして) ハラオビのはしい (端に) 犬は産な (が) やすい (易い、容易) もんで (ので) 戌と言う字 書いて 巻きおった (巻いて居ました)。

はらか 【名詞】 裸 (鳥、度) [会話] 裸 言うのを ハラカ言うの (のです)、マツパラカの事な アカハラカン (に) なる、まあ、あかはだかで おんない (居る) あのか (子は) 言うて

はらがおつきい 腹が大きい。はらなおつきい参照。大胆だ。気前がよい。満腹だ。妊娠している。(張)

はらかげ。はらがけ (腹掛) 【名詞】 1) 子供の腹を冷やさないように腹に当てる布。胸、腹を覆い背中で紐で結ぶもの。2) 職人などが体の前面を被ひ後ろは紐になって結ぶ衣服。[会話] 1) ハラガケ言うな (のは) 胸い (へ) よだれかけ みたい (のよう) ん (に) して こさえんの (作るのを) はらあてとか ハラガケ とか。

はらかげん (腹加減) 【名詞】 胃腸の調子。はらあんばい。はらぐあいに同じ。[会話] ハラカゲンな (が) わりね (悪いのだ)、下して びいびい。なちいさん (那智山) やよお (だ) 言うて。

はらかす (腫) 【他サ五】 腫れている。腫れるようにする。(北) [会話] はれる言う事かい (ですか)。足ん (に) ねぶと (出来物) ハラカシテ よお歩かんねよお (歩けないのです) 言うて、よお (よく) ねぶと ハラカシオッタワイ (居ました)。

ばらかす 人の秘密をあばく 公にする ばらす [会話] わり (悪い) 事しとんの (しているのを) 見つけられると、けえさつ (警察) へ 言うとなあ (言つてやる) まあ それ ばらさん (ずい) おいて くれえ (下さい) 言うて、そいな (そんな) 事 しとると (していると) バラカシタンド (てやるぞ) 言うて、隠し事しとると (していると)。

ばらかす 壊す。

ばらかる 広がる 散り散りになる (鳥) [会話] まあ そや (それ) 皆、バラカッタナイ (て行った)。東ねて あんのなあ (有るのが) 糸な (が) 切れてたり (て行ったり) するとなあ しや (それ) 皆 バラカッタレ (て行った) ばらばらん (に) なつてたれ 言うてなあ。絡げたりしてあんのな (有るのを) 切れてくと なあ (て行く) 皆 バラカル。

はらがわるい 1) 腹の調子が悪い 2) 陰険な人。腹が黒い。心に悪企みがある。根性が悪い。[会話] 2) あんな (彼が) ハラワリやなあ (だ) 言うて、ずくな (が) わり (悪い) 事 こんじよ (根性) なわり 事 言うたり、したりして、人にわり 事 すると あのひた (人は) ハラワリやなあ 言うて、ずくな わり 言うな (のは) こんじよ なわり 事 なあ (です)。こんじよ なわり とか 意地な (が) わり とか 言うのを。1) 胃や腸の調子な (が) わり 時も 腸の具合 (様子) な (が) わり とか、なんか (何か) 喰うたもん (物) な (が) 当たつと 腹のかげん (様子) な (が) わりよお (悪いです) 言うて。なんやら (何か) 当てられたんかい なあ (当てられたのかなあ)、えらい (大変) 腹の調子

な (が) わりんてや (悪いのです)。ハラナワリ 言うのは こんじょや (とか) ずくな (が) わり、こんじょくさりや (だ) 言う事を ハラワリや (と) 言うて。下したり (下痢したり) なんや (なにか) して ハラナワリ時は 腹の具合な (が) わりとか かげんな (が) わりとか。

はらく 【**名詞**】下痢。(志 (鶴方、神明、立神)、鳥、上、阿、張) [会話] ハラク 下痢 腹下し。今日は ハラクで かいだりて (だるくて) いごかれやせんね よお (働けないのです) 言うて。

ばらく 【**自カ下一**】壊す。ばらばらにする。(志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、北) [会話] 積んであんの (あるのを) さばく (ばらばらにする) 時や (は) バラク。

はらぐあい (はらぐあひ) (腹具合) 【名詞】 腹の調子。(三重県全域) [会話] はらかげんも一緒や (です) 腹下すと 今日^は まあ ハラグアイな (が) わりいて (悪くて) 言うてなあ。

はらくう 【**名詞**】はらくだしの略。下痢。(志、鳥) [会話] ハラク 腹下し。腹の調子な (が) わりいて (悪くて) なちいさん (那智山) やよお (だ) 言うて。くだらく (普陀樂) や (です)。那智いさん あや (あれは) くだらくさん 言うんよって (言うから) 今で言うて 下りの特急や (だ) 言うのと 一緒や (です)。

はらぐろい 【**名詞**】意地悪 (志 (布施田))

はらくだし (腹下) 【名詞】 下痢。(志 (布施田、鶴方)、南) [会話] ハラクダシ する時も おなか (腹) と おす ピーピーやよお (だ) 言うて。

はらぐすり 胃腸の調子を整える薬

はらぐる (腹黒) 【名詞】 意地悪 根性の悪い事。その人 (鳥 (答志)) [会話] 腹な (が) わりの (悪いのを) ハラグロ 言うの^な あ (です)。意地^な わり はらわり^で まあ 言うて、ずくなわり (性格が悪い) こんじょなわり (根性が悪い) 言うんやるなあ (言うのでしよう)。

はらけ 【**名詞**】陣痛。[会話] 腹な (が) いとな^{って} (痛くなって) くんのを (来るのを) こわて (こわばって) 来た。ハラケン (に) な^{って}来たのを こわて 来た。

ばらけがみ 【**名詞**】ばらばらに振り乱れた髪。みだれ髪。ざんばら髪。[会話] 頭 しばらんと (くくらずに) おとなあ、そんなり (そのまま) 頭。バラケガミで あやれ (あれ) 言うてなあ

はらけついできた 陣痛が始まった。

はらけついでとる。はらけついでとんね 陣痛が始まって居る [会話] 陣痛や (と) 言う^な (ような) こっぺた (むつかしい) こた (事は) 言おかい (言いません)。はらけ (陣痛) な (が) して来た、ハラケツイトンネ てわれ (そうだ) 言うてな。はらけなして来た、はよ (早く) さんばあ (産婆) たので (頼んで) 来い言うて

ばらけてた ばらばらになった。散らばった。解けて行った。[会話] 結んであんの^な (有るのが) バラケテタ。

はらけなしてきた 陣痛が始まって来た。[会話] はらけん (に) な^{って}来た、産気づいた言うのを ハラケナシテキタ。はよ (早く) ゆう (湯) 沸かせ 言うてなあ。腹な (が) いとな^{って} (痛くなって) 来ると陣痛^な (が) して来たの^おを (のを) はらけん (に) な^{って}来た 言うて。

ばらける (散) 【自カ下一】 ばらばらになる。散乱する。(志 (甲賀)、鳥 (鳥羽、答志、桃取)、安、南、熊) [会話] ばらばらん (に) な^{って}て (な^{って}行^{って}) 言うのを バラケル言うて、字 書いとや (ておれば) 筆の先な (が) バラケテ なつとも (なんとも) しよおない (仕方が無い) とか、人な (が) 寄つと^も (て居ても) まあ (もう) 解散して バラケタヨオ (ばらけました) 言うて。なぶら (魚群) な (が) バラケル言うて、なぶら言う^な (のは) よけ (沢山) まと^まつて^くんの^を (来るのを)。

はらこ 【**名詞**】妊婦、妊娠している女性

はらごしゃえ 【**名詞**】腹拵。物を食べて腹を満たしておくこと。はらごしらえ。仕事の前に食べる事。[会話] ハラゴシャエも しと^かな (しておかなければ) そや^まあ (それ) 忙しな^{って}く^んど (来るぞ) 言うてなあ。昼から、あれもして これもして しと^かな^はざ^んよ^つて (いけないから) ハラゴシャエも しと^け (しておけ)、ちよ^{いと} 昼 早い^けど (が) 飯も ちよ^{いと}と^くと^け (少し食べておけ) 言うのを、昼ん (に) なると 忙しな^{って}来る、今の^内ん (に) ハラゴシャエ しと^けよ^お (しておきなさい) まあ ちよ^{いと}、くと^て (食べて) 言うのをなあ、ハラゴシャエ しと^け言う^の (のです)。

はらごしらえ (はらごしらへ) 【名詞】 仕事の前の食事 はらごしゃえ参照 (上、阿)

はらごなし 【**名詞**】腹熱。食物の消化がよくなるように軽い運動などをすること。(上、阿) [会話] ハラゴナシん (に) 其処^ら歩^{いて}来^い言うて、腹一杯 飯く^と

て(食べて) そげん(そんなに) ごろごろしとらんと
(していないで) 腹へらすのん(に) 運動すると 腹
な(が) すくよってん(から) 其処らいて(行って)
あそで(遊んで) 来い 言うて。

はらした 豆などの皮が割れて中が出た。

はらしてきた 豆などの鞘が割れて来た。はしる、はら
してくる参照

はらしてくる 豆などの皮が割れて中が出る。[会話]
ハラシテクル 言うのは、皮が ばんと割れると ハ
ラシテキタ 言うて。 みい(実) な(が) なつとんの
おな(なっているのが)、上な(が) はじけんと(さ
けるのと) 実な(が) ばんと 割れんのを(割れるの
を)。

はらす(腫)【他サ五】 腫れる様にする。腫れて居る。

ばらす【他サ五】 1) 隠して居る事を明らかにする。
(南) 2) 壊す。ばらばらにする。(多) [会話] 1)
内緒話 言うとのを(言うて居るのを) あんな(彼
が) お喋りもんで(なので) 内緒話バラス言うて。

バラス【名詞】 拳大の石。Ballast (英) から。
[会話] 石のおつきい(大きい) のもバラス。バラス
も混ぜな(なければ) 言うて コンクリする時ん
(に) こなすか(小砂) ばっか(ばかり) せんと(せ
ずに) バラスも混ぜな 言うて。

はらすじ(はらすぢ)【腹筋】【名詞】 腹部の筋肉。[会
話] 横つ腹な(が) 痛い時な(が) 有るわい(有りま
す)。ハラスジな(が) 痛い 言うて、ハラスジな痛いね
(のだ) なしたんかいなあ(どうしたのだろうか) 言
うて。此処ら すじな痛い時ん(に) まあ よけ(沢
山) わろて(笑って) ハラスジな痛いよお(です) 言
うたり。

ばらずし【名詞】 ちらし寿司(志、上、阿、張)

ばらせん(散銭)【名詞】 1) こまかい銭。小銭。はんば
になった銭。2) 撒いて与える金 [会話] 2) 撒くぜ
ん(銭)を バラセンや(だ) 言うけどなあ(言いま
す)。バラセンに こまかい(小さい) ぜん(銭) とつ
とかな(取っておかなければ) はざんわれ(駄目だ)
言うたりなあ、こまかいぜんは 又 要って来るよっ
て(から) とつとかなはざんわれ 言うて、こまかいぜ
んを まとめる時な(が) 有るわい(有ります)。1)
こぜん(小銭)の事を、バラセン言うてなあ バラセ
ンばっかで(ばかりで) まあ 言うてなあ

はらちまざれ【名詞】【形容詞】 腹の立って居るのにま
かせて、腹が立って居るので分別がつかなくなる。
(志(布施田)) [用例] ハラチチマギレン あいな事

して(あんな事して) なんもかもわややれ(何もかも
目茶苦茶だ)。

はらちがい(はらちがひ)【腹違】【名詞】 父が同じで母
が異なる兄弟姉妹。異母兄弟姉妹。

ばらつく【自カ五】 1) 雨や霰などがばらばらと降って
来る。2) 乱れて居る。散らばって居る。3) 粘りが
無い(南) [会話] 1) 今日は まあ 曇つたや(て
いたら) 雨な(が) バラツイテキタてやら(とか)、今
日は まあ 上天気や(だ) おもたや(思ったら) そ
んでも(それでも) 雨な(が) バラツイテキタナイ
(来ました) 言うたり、ぼつぼつと降ってくんのなあ
(来るのを)。3) 麦飯 炊いたらなあ 妻のよましな
(水の含みが) 前 やつたん(だった) かして(の
か) バラツイテ 喰われやせんわれ(食べられない)
言う時も 有って、麦飯ななあ(が) ぷつぷつとしと
ると(していると) ばらばらしてなあ よけ(沢山)
よましといて(ておいて) すると ねんばりと ええ
ねけど、まあ ちょいと(少し) よましな(が) 前な
言うて ばちばちとしとて(していて) バラツイテ
食われやせんわれ言よおつたの(言うて居たのです)。
粘りな(が) 無い 言う事を。2) なんもかも(なにもか
も) 皆 バラツイテ そこら中 皆 ばらまいとんな
い(ている) 言うてなあ、なんやかや 散らばしとる
と(していると) しなもん(品物) でも あっちゃい
(あちらへ) 置き こっちゃい(こちらへ) 置きする
となあ あっちゃい置き こっちゃい置き ばらばら
ん(に) して ひととこい(一ヶ所に) まとめとけま
あ(ておきなさい) 言うてなあ

ばらつく【自カ五】 ばらつくに同じ。1) 雨、霰が少し
降る。2) 粘りが無い。

はらづくらい【名詞】 物を食べて腹を満たすこと。はら
ごしゃえに同じ。[会話] ゆざけ 言うのは、あられ
で ちゃあ(茶) 飲んどく(でおく) とか、餅 焼い
て ちゃあ(茶) 飲むとか、そげん(そんなに) して、
ハラツクライ 夕飯迄なあ、そげんしや(そんなにす
れば) 日な一杯働いとても(ていても) 腹な(が) へ
らせんけど(へりません)。

はらとおす 下痢する。[会話] ハラトオス時、しやあ
言うて 下るやんない(でしょう) しやあしやあ 言
うて。

はらどぼ【名詞】 腹の大きいこと。どぼ参照 [会話]
腹がおつきいて(大きくて)、尻な(が) ちっそおて
(小さい)、たどぼ(おたまじゃくし) みたいなあ
(のようだ)。ハラドボヨ 言うて 腹な(が) おつきい

と (大きいと) ハラドボ。

はらどぼ【名詞】 おたまじゃくし (志)

はらなおっきい 1) 腹が大きい。腹が膨れて居る。満腹である。(伊賀地方、北) 2) 太っ腹である。大胆。度胸がある。3) 妊娠して居る。[会話] 2) ハラナオツキイ。なんやかや 商売しても いくらでも てえ (手) 拵げてすると ハラナオツキイ。あのひた (人は) ハラナオツキイよってん (から) 拵げ次第拵げて言うて、商売おっきいしたり、仕事をおっきいしたり手拵げると ハラナオツキイねよってん (大きいのだから) どこい (へ) も 此処い (へ) も 工場拵げて まあ言うて。肝 (きも) な (が) ふっとい (太い) 言う訳や (です)、度胸な (が) 有るとかなあ ハラナオツキイ言うななあ (のは)。1) 飯 喰って ハラナオツキイ。3) 妊娠して (して居て) あのひた (人は) ハラナオツキイなあ 双子や (で) ねえんかいなあ (ないのだから) 言うたり、1) 酒 飲んでビール腹で あの腹見よまあ (見なさい) 言うたり。3) 妊娠したる時もハラナオツキイ、あのか (あの子は) あや (あれは) はらぼてやなあ (だ) 言うて、ふたあつ (二ケ) も入とる (て居る) よおなおっきい (大きい) 腹やなあ (だ) 言うて。おっきい人を はらぼて やなあ (だ) あや (彼は) 言うて。なんやら、やまいもち (病持ち、慢性疾患にかかって居る人) みたよおん (のように) 体 ほっそおておってん (細いのに) ハラナオツキイテ、きんかんばら (金柑腹) みたいん (のように) しとんのなあ (して居るのです) あれも病気やるなあ (でしょう)。きんかんばら、体な (が) ほっそおておって (細くて居て) 足も手もほっそおておって 腹ばっか (ばかり) おっきいて (大きく) そして (そうして) 臍な (が) 飛び出して 今し (今) テレビで出て来る ソマリアやなんやの子供な (が) 腹ばっかおっきいのなあ (大きいのです) あげんして (あんなにして) 腹ばっかおっきいて おおた (ああ) こやまあ (此れは) ひかんのわずらいやなあ (だ) 言うて。昔や (は) ひかん。あや (彼は) ひかんやなあ (だ) 言うて ほっそおて (細くて) 痩せとんの (て居るのを)。ひかん言うな (のは) 意味は知らんわい (知りません)。痩せて ほっそおしとんのおを (て居るのを) 骨とかあ、みたよんしとんのおを (皮のようにしているのを) ひかんのわずらいみたいななあ (のようだ) 言うて 言いおった (言っていました)。妊娠したる時は はらぼてとは言わへん (言いません) 妊娠したる (して居る) 人達見ると ハラナ

オツキイナア 言うけど (が) はらぼて言わへんけど、つねに (いつも、平素) 妊娠もしとらんとおって (して居なくて) ハラナオツキイのを 腹ぼて言うわい (言います)。あや (彼は) はらぼてやれ (だ) 言うて。ハラナオツキイと はらぼてや言うて 喧嘩しても ハラナオツキイ にげや (人間に) はらぼて 言うて かまう (からかう) のな (のです)。あや (あれは) ぼてん (竹製の大きな生簀) を意味しとんねてなあ (して居るのだそうだ) はらぼて 言うのは、ぼてん みたよおん (のように) しとるもんで (して居るので) はらぼて。きんかんばら 大蛇やあれ (だ) 言うて。

はらなしぶくる。はらなしぶる 腹が痛んで下痢をする。便は少ない。

はらなづつない 1) 満腹している 2) 腹が痛い。重苦しい。

はらなにえくりかえる 腹が立つ [会話] 腹が立つ。ハラナニエクリカエル。腹のわたなでんぐり返る。ごおなわいて (腹が立って) 言うて。

はらなはる 満腹感がある。腹が大きな感じがする。[会話] 今日 は 芋くうたや (食べたら) ハラナ (が) ハッテ しょおなねえ (仕方が無い)。へえな (屁が) 出てくと 腹な すとすんねけどなあ (するのだが)。あんで (あれで) 空気な (が) 出やんと (出ないと) はざんねやるなあ (いけないのでしょうか)。御飯な (が) 食べたない 言うのも ハラナハッテ、飯な (が) くわれせんね (食べられないのです) 言うてなあ。

はらなよれる 1) 腹が立つ 2) 笑いこぼれる。腹がよじれる。[会話] 2) 面白おて (くて) ハラナヨレタヨオ 言う時な (が) あんなあ (有ります)。わろて (笑って) ハラヨッタヨオ、おかして (面白くて) おかして ハラヨッタヨオ (よりました) 言うて、よけ (沢山) わろた (笑った) おりんなあ (時に)。

はらなわり 1) 腹の調子が悪い。2) 陰険な人。腹が黒い。はらがわるい参照 (志 (布施田))

はらにはまる 納得する。理解する。(上、阿) [用例] ハラニハマルまで、えごとと (充分に) 聞いとけ (聞いておけ)。

はらのかあ【名詞】 腹の皮。腹部の皮膚。

はらのしのぎ【名詞】 一時的に空腹を満たすこと。少し食べておくこと。[会話] 一時の腹おさえ。ハラノシノギに、夕飯迄のしのぎに 其処らん (に) 有るもん (物) ちよいと (少し) 喰おやんかれ (食べましよう) 言うのな (が) ゆぎけ。

はらのたし【名詞】 1) 主食の量が少ない時、それを補うために食べるもの。2) 一時しのぎの食べ物。[会話] 1) 2) 飯のたしとも言ふ ハラノタシとも言ふなあ。

はらのたり【名詞】 腹を下につけて寝転んで居る事。腹ばい(志(布施田)、北)[会話] べたんと 腹つけてのたつとんの(転んでいりのを)ハラノタリ。おおたなんも(何も)せんと(せずに)ハラノタリして、昼寝して おんねない(居るのだ)言うて

はらのむし(腹虫)【名詞】 1) 蛔虫など消化管内の寄生虫。2) 感情を腹の中の虫に例える語。

はらのわたなでんぐりかえる 腹が立つ [会話] ハラノワタナ デングリカエル ごおなわいて(腹は立って)

はらはじゃばばら、くちやたるみ【俚語】 格好の悪い事腹が大きくしまりなく口唇が厚く大きい。[会話] 腹な(が) おっきいてなあ(大きくて)ハラハジャボバラ 尻は 出尻で 鳩胸 クチャタルミデ 言うて。

ばらばら【副詞】【形容詞】 1) 纏まりがない 2) 粘りがない 3) 少しのものが点在している 4) 壊す、壊れて居る(志(布施田))[会話] 4) 傘も骨な(が) へしよれて(折れて) バラバラ(に) したたれ(してしまった)言うてなあ。がっこい(学校に)行く時分 唐傘 さいて(さして) しとでも(していても) 破れ傘やもんで(なので) 風な(が) 乗って こんだ(今度は) 骨も バラバラ(に) すんの(するのです)、骨 バラバラに したてまあ(してしまつて) 言うて、傘 こおて(買って) 貰らわな(なければ) はざんのん(いけないのに) 言うて こおて 貰うのん(に) 傘 買う ぜん(銭)も 無いのん(に) 言うて 傘 よこおて貰わんで(買って貰えなくて) 莫慮 こおて もおて 被って行きおったの(行って居たのです)。頭も のおて(縫つて) あんねてや(あるのです) 莫慮な(が)、そして 前合して(合せて) すると がったざん(ばつたに) よお(よく) 似とんなあ(似ている) 言よおったね(言つて居たのです)。2) バラバラ 言うて 粘りな(が) 無いのなあ(です)、バラバラで おとつしや こやまあ(これは) なんも(何も) 粘りな(が) ねえわれ(無いです) 言うてなあ、米でも 旨ない米はなあ バラバラしとて(して) 飯な(が) 旨ないもんなあ(のです)。ええ(よい) 米や(だ) 言うて ねんばり すんねけど。3) あつちや(あちら)や こつちやい(こちらに) ちよいちよいつ(少しづつ) 物、置き散

らしとるとなあ(ていると) バラバラに そこらい(に) なんもかも(なにもかも) 広げさがして そや(それ) 其処らい(に) まとめて片付けとけまあ(ておきなさい) ひとばか(少し) 言うてなあ

ばらばら【副詞】 1) 粘りがない 水分が少ない 乾燥している(南) 2) 少しのものが点存しているさま 3) 少し雨が降る。[会話] 3) 雨やら(が) 霰やら(が) 降つて来たどお(ぞ) 言うたりなあ。バラバラと しば(枯木)のはあな(葉が) おつて来てとか、はあなおちん(る)のものなあ、バラバラ 落ちてとか 言うてなあ。1) 粘りな(が) 無いのも バラバラやれ(だ) なんも(少しも) 粘りな(が) のおて(無く)て 旨ないなあ 言うてなあ。

ばらばらんなる 1) 壊れる(南) 2) 集まったものが散らばる。3) 仲間割れする。

はらはる 1) 満腹である 食欲がない(熊) 2) 腹が膨れて重苦しい。

はらびらき【名詞】 魚などを作る時、腹側を切りはなし、背側をつけておく開き方。[会話] 魚のひらき さんまのひらき 鯔のひらき 背びらき ハラビラキ 言うて せえから開くな(のは) 背びらき 腹から開くな(のは) ハラビラキ。

はらぶう。はらぶう 仰向している事 腹を上に向けて出している事。[会話] ハラブウ しとる(している) 言うて、あおぬいて(仰向いて) 寝とんのおを(寝ているのを) ハラブウ しとんない(している) 言うて、おえぐ(泳ぐ)のおも(のもの) あおぬいて、ハラブウして おえんでなあ(泳いで) 腹を上向けとる(ている)。腹 上ん(に) しとる(している) あおぬいとん(の) (仰向いているのを) ハラブウ しとる言ううの(のです)

はらぶし【名詞】 1) 魚を三枚におろした時 片身を更に背側と腹側に分けた時、腹の方を言う 2) 腹側で作った鰹節(度)

はらへつた 空腹である。はらへり(志)[会話] おなか(腹) がすいた事。おなかがすいたのを ハラヘツタ。ハラヘツタヨオ 言うて、腹な(が) すくと ハラナヘツタ ペコペコやよお(だ) 言う(言います)。じつきん(すぐに) 腹な(が) へつてく(て行く)に げ(人間)を はらへりや(と) 言うやんかい(言います)。昼ん(に) ならん(ならない) うちから(間から) ハラヘツタハラヘツタ言うて おとつしや(感嘆詞) あのにげや(人は) 腹へりやなあ(だ) 言うて、じよおつく(いつも)、たまに(時々) 言うねなしん

(言うのでなくて) たいがいのおりん (いつも) ハラヘッタハラヘッタ 言うの (のを) 聞くと、あや (彼は) 腹へりやなあ (だ) じょおおっくあげん (あんなに) 言うて (言って居る) 言うて。

はらへらし【名詞】 1) 運動する事。(上、阿) 2) よく空腹を訴える人。いつも空腹を訴える人。(志(布施田))

はらへり【名詞】 すぐに空腹を訴える人。はらへったはらへらし参照(志(布施田)) [会話] ハラヘリ言うな (のは) 年中 (いつも) じっくん (すぐに) 腹な (が) へって来るにげやな (人間です)。飯喰うても、じっくん (すぐに) 腹な (が) へったよおん (に) 言うて来る にげ (人間) な (が) 有るもんなあ (有ります)。ハラヘリ 言うな (のは) いっぺんに (一度に) どかぐい (多く食べる) しても へんねやろな (へるのでしょうか)。

はらばて【名詞】 ばてれん はらなおっさい参照 1) 腹の大きい人。ばては、ばてれんの略で腹が膨れて居る事。(志(鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、度、鈴郡、安、上、阿、尾、南、熊) 2) 妊婦(志(布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鈴市、安、一、久、上、阿、張、名、度、南、熊)

ばらまく【他カ五】 散蒔く。乱雑にまき散らす。ばらばらとまき散らす。金銭などを広い範囲の人に分け与える。(鳥(鳥羽)) [会話] 金持ちで かね (金銭) バラマク ねてない (のだから) てやら (とか)、餅 バラマク てやら 言うて。撒きもん (物) する時ん (に) バラマク 言う事 言うなあ (言います)。そこら い (其の辺に) 豆 バラマク とか、米粒 バラマイト ンナイ (て居る) なしたんど (どうしたんだ) そや (それは) とか。なんやかや、つぶもん (粒の物、穀類) こぼれとる (て居る) 時 バラマク。

はらます 妊娠させる

はらみ【名詞】 はら網 網の一種(志)

はらみおなご(はらみをなご) はらみど(孕人)【名詞】 妊婦。はらむ。孕む。胎内に子を宿す。みごもる。(志(鶴方、浜島、国府、越賀、船越、神明、甲賀、安乗)、鳥(神島 加茂)、北) [会話] みもち (身持ち)。妊娠した時 ハラミド。腹なおっさいて (大きくて) ハラミド みたいななあ (のようだ) 言うたや (言ったら)、あや (彼女は) じょおぼら (いつもの腹) な (が) おっさい (大きい) ねよってん (のだから) 言うて。つねに (いつも) 腹な (が) おっさい と、あや

(彼女は) じょおぼら な (が) おっさい ねよってん 言うて。じょおぼら ビール 腹みたよん (のように) つね (平素) ビール 飲む んら 腹おっさい やんない (でしよう)、あいなの (あんなのを) じょおぼら なおっさい 言うの (のです)。つねから 御飯 食べん でも (食わなくても) 腹な (が) おっさい の (のです)。おなご (女) でも 孕む と、じょおぼら な (が) おっさい にげ や (人間は) そこい (へ) めぎんで 来る と (芽を出して来る、始まる) 腹な (が) おっさい な って (大きくなって) くるわい (来ます)。あや まあ (彼女は) 常腹 な (が) おっさい もんで (ので) 言うて。常腹なおっさいと みい月 (三ヶ月) か、よお月 (四ヶ月) ん (に) になると どいろ な って くるわい (大きくなって来ます)。ハラム 言うのは 妊娠する ハラム 言うて はらんだない (妊娠した) はろどん ねない (妊娠して居るのだ) 言うて。わしら (私達) 子供の時分 (頃に) 蜜柑 剥くと あのこお (袋) 持って “はらあめ はらあめ こじ (蜜柑類) のきい (木) のもと (根元) へ 蚊帳 つって 寝やぞ” 言うて 揉む と、ふく れて くんねて や (来ます) そや (それ) はろ で 来た (孕んで来た) 言うて 言 い お た わい (言っていました)。今し (今) みたよおん (のように) がぶ がぶ と 喰 わせん し (食べないし) ほしら め ぐい して (見せびらかして食べる事) 重宝 が って (大事にして) 一つ の お (一つののを) 長い 事 (間) 喰う よおん (食べるように)。

はらむ(孕)【自マ五】 1) 妊娠する。はらみど参照 2) ふくらむ。

はらも【名詞】 1) 鯉などの腹の肉を三角形に切り取ったもの。古語 ホバラ (大言海) (志(布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、南) 2) 三角形のもの。[会話] 1) ハラモ 鯉 の ハラモ や (です)。2) 三角 ん (に) な つ と と (て居ると)、ハラモ み た い な なあ (のようだ) 言うて、やし き (土地) でも 三角 な やし きな (が) 有る やんない (有るでしょう)、菱形 ん (に) な つ た と こな (所が)、あげ なの (あんなのを) ハラモ や (だ) 言うの (のです)。鯉 の ハラモ と 一緒 やん かな (です) 形 な (が) 三角 やし きを あの う ち や (家は) ハラモ な (が) あ つ て (有る) 言うて 三角 ん (に) で び つ と と (出張って居ると)、で び つ と と と こ (所) ハラモ 言うたり。

はらもいれる 三角形の当て布を入れる。三角形の当て布を入れて広くする。[会話] ハラモ イレル 言うのは 一巾ですと、こむら や ふ とも も や (だ) 言う

と ふっといもんで (太いので) そこへ ほっそい (細い) のおを (のを) 入れて 両方から 縫うて すんのを (するのを) ハラモイレル。

はらもち【名詞】 食物の消化状態

はらもちなええ いつ迄も空腹にならない。[用例] 餅はハラモチナエケド うどんはじっきん (直ぐに) 腹な (が) へって ハラモチナワリ。

はらもちなわり すぐ空腹になる。

はらもみのうち【俚諺】 大食をいましめる語 (志 (布施田))

はらやめ (腹痛)【名詞】 腹が痛むこと。腹痛を訴えること、又その病気。[会話] ハラヤメ、腹痛の事かい (ですか)。腹な (が) 痛いのを ハラヤメ 言うんや ろなあ (言うのでしょうか)

はらよった 大笑した。[会話] おかして (面白くて) おかして、ハラヨツタンヨオ言うて、よけ (沢山) わろた時 (笑った時)。

はららかす【他サ五】 腫れる。腫れて居る。

はらわた【名詞】 内臓。特に腹部内臓。腸。[会話] ハラワタな (が) よれられ (捻れる)、ハラワタな (が) 煮えくりかえられ (かえる) 言うて、ごおなわく (腹が立つ) と 言いおったなあ (言っていました)。

はらわたなくさつとる 1) 性格が悪るい。2) 強い臭いの放屁。(志 (布施田)) [用例] 1) こんじよくさり で (性悪で) ハラワタナクサツトル様な にげや (人だ)。

はらわたなでんぐりがえる 腹が立つ。激しい怒りをこらえきれない。[会話] ごおなわいて (腹が立って) ごおなわいて ハラワタナデングリカエル。

はらわたなよれる 大笑いして腹が痛む。

はらわり【名詞】 1) 腹悪い。意地悪、又その人。2) 下痢する。胃腸の調子が悪い。[会話] 1) あや (彼は) 意地くさりて 言うて、腹のわり (悪い) 事言うると、こんじよくさりで、意地くさりや (だ)、ハラワリや言うて。

ばらん【名詞】 葉蘭、はらん、常緑の多年草。ユリ科、根茎は横伏し、所々長柄の有る葉をたてる。葉身は長楕円状、披針型で深緑色、光沢あり、長さ三十~五十糎、両端はとがる。(志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鈴市、津、伊、南、熊) [会話] バラン 言うはあ (葉) な (が) あつたやんか (有ったで有りませんか)。料理すると 昔や (は) かいしき (木を薄く削った物) 使わんと (使わずに) バランの葉 敷きおったわい (敷いて居ました)。遠足ん (に)

行く時も 握り飯を バランの葉え (へ) つつでもお て (包んで貰って) 今し (今) みたよおん (のように) かいしきやとか (だとか)、サランラップや (だ) 言わせんし (言わないで、バランを敷きおったの) (敷いて居たのです)。

はらんあたる 食べ物が悪く 胃腸を害する [会話] ハランアタル 言うて。なんやかや (いろいろ) 食う たもん (物) な 当たって 言うてなあ、そすと 腹下したり 吐いたり してなあ。よお (よく) 当たる にげ (人間) は ちよいとしても (少ししても) 当たてなあ。

はらんあたんど 胃腸を害するぞ [会話] ハランアタンド 言うて、わりもん (悪い物) 食うとだ 腹下す言うの (のを)。

はらんきよお【名詞】 はたんきょう。すもも。(上、阿、張、名) [会話] すもも 言うのな あつかい (赤い) ちっさい (小さい) のおな (のが) ハランキョオヤ すももやてら (とか)。

はらんどる 1) 妊娠している。(多) 2) 膨らんで居る。[会話] 1) 妊娠しとんのを (しているのを) ハランドル。はらみど (妊婦) や (だ) 言うてなあ、ハランドン ネテワレ (そうだ) 言うて

ばらばらん【副詞】 ばらばらを強めた言い方。[会話] うちやれて (壊れて) バランバランに、なつた (ていった)、ばらばらやれ (だ) 言うてなあ。 うちや つて (壊して) バランバランに しといて (しておいて行って) こやれ (これ) このざま (状態) 見よま あ (見なさい) 言うて。

はり (針)【名詞】 1) 棘、細く先端の尖ったもの。(三重県全域) 2) 針、布などを縫うのに用いる道具。普通ごく細い鋼製の棒の一端をとがらせ、他端に糸を通す穴が有る。3) 注射。4) 鍼術の別稱 [会話] 2) アミバリ、ヌイバリ、かぎバリ、1) 山椒のハリ、茨のハリ。棘をハリや (だ) 言うて、茨の ハリで 突いてとか、きこくのきい (木) のハリで突いたり、山椒の木や (は) ハリな (が) よけ (沢山) 有つて 言う やんない (言うでしょう)。棘とは言うけど (けれど) よけ (多く) 使わせんのなあ (使いません)。3) お医者さんのするハリ (注射) も有るし はりふぐも有るし、怒つて仏頂面しとると (して居ると) はりふぐ みたよおな (のようだ) 言うて。2) 裁縫する ハリもあるし 1) 茨の棘、茨の ハリで 突いて いと おて (痛くて) 言うね (言うのです)。“茨の 山えと 押し込まれ 尻の 痛さと 前のよさ” 言う 歌な

(が) あんね (有るのです)。茨山へ 引ん張られてて (ていって) へしこまれて (押さえつけられて) 尻は痛さと 前は ええし (よい) 言うて。裁縫すんのもハリする。昔や (は) つぎする 言よった (言っていました)。

はり 【名詞】裁縫 (志 (船越)) [会話] 裁縫の事 ハリシゴト 言うし (言います)。針子言うて 親方のとこい (所へ) 習いん (に) 行くの、(のを) あのひた (人は) 針子よけ (沢山) 置いとて (て居て) 言うて 稽古すんの (するのを)、習いん (に) 行くの (のを) 針子や (です)。裁縫の事 ハリや。

はり 【名詞】張り合い 希望 緊張感 (多) [会話] ハリな (が) 有るなあ 言うてなあ。なんでも (なにでも) 物な (が) 丈夫なかつたり (だつたり)、ほかのもの (物) より 秀いでた もん (物) な (が) 有ると、ハリな (が) 有るなあ こや (これは) 言うてなあ。ハリな (が) 有って ええなあ (よい) 言うて。気持ちな (が) ええ、元気な (が) 有る言うのを、あの人 今しゃ (今は) ハリな (が) あるなあ 希望な (が) 持てて 言うて。

はりあい (はりあひ) 【名詞】はりあい。張合。努力しようとする気持ちに対し、てごたえのあること。気持ち。
[会話] ハリアイな (が) ええなあ (よい) 言うて 楽しいなあ 言うのを

はりあいぬけ (はりあひぬけ) 【名詞】氣勢の削れる事。気の抜ける事。

はりあう (はりあふ) (張合) 【自ワ五】 争う。競う。[会話] 睨みやい (合い) したり、おや (俺は) 偉いやん かあ (のだ) てや (言えば)、おんな (俺が) 偉い やんかあ 言うて、ふたん (二人) な (が) ハリヤイ すんのなあ (するのです)、競争する よおなもんやなあ (ものです) ハリアウ言うて。喧嘩 みたよな (のような) のおや (のです)。ハリヨトンね (合っているのだ) 言うて、睨み やい して 憎しみやいしとんのなあ (しているのです)。一人の 女ん (に) ふたんな (二人) が 来て、われ (自分が) とろ (取ろう) 言うて ハリヨトンね (合っているのです)。

はりいしゃ 【名詞】鍼灸師 鍼で体の苦痛を除く人。

はりかた (張方) 【名詞】 手竿を繰って舟の位置を決めたり、舟の転覆を防ぐため支えたりする人。[会話] 波 な (が) ちよいと (少し) して来ると (高くなって来ると) 表で張つとる (ている) 人ら (は) えらかって (大変で)、腕の ええ (よい) 人やなけな (でなければ) よお、ハリカタ せらった (しなかった)。ハリカタ

する もな (者は) えつほど (よほど) かいしょ (甲斐性) の有る にげ (人間) やなけな (でなければ)。

ばりき (馬力) 【名詞】 力を出す事。努力する事。

はりぐすり (貼薬) 【名詞】 体の表面に貼る薬。[会話] 湿布薬 昔や (は) ハリグスリ 言うたら あざいなあ (です)。阿呆につける薬。

はりこ (針子) 【名詞】 1) 洋裁店や和裁店にやとわれて、洋服や和服を縫う女。2) 裁縫の稽古に通う娘。[会話] 2) 裁縫 習いん (に) 行くのを ハリコや (だ) 言うてなあ。ハリコ 置いて まあ あの家や (は) 言うてなあ。

はりこ (張子) 【名詞】 毬、紙ふうせん、ゴンバリコ。ゴムで出来た球。(志 (船越、片田、御座、浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (浦村)、一、多、伊) [会話] 毬を ハリコ 言うね (言うのです)。ハリコ こさえて (作って) もろた (貰った) てら (とか)、ハリコ 張った (ついた) とか。ハリコ しよおや (しましよ) 言うて、毬や (と) 言わんと (言わずに) ハリコや (だ) 言うて。”とおにいさん しごろく ひち、はち くんにやく あげて わたあした” 言うて。富山の葉売り な (が) もて 来た (持って来た) あや (あれは) 風船 あや (あれは) “ひいや ふうや みいや よおや” 言うて 空向いて (むかつて) はんのなし (突くのですし)、とおにい わ じべた (地面) で張るし (張ります)。ハリコは 始め きれ (布) や (だ) とか、古綿や (だ) とか 屑をまるけといて (丸めておいて) きれ (布) を ほっそお (細く) 切って 捲いて だんだん (次第に) おっきい (大きく) してくの (して行くのです)。後ん (に) なって ゴムで出来る よおん (に) になると ゴンバリコ。毬 こさえんのん (作るのに) 芯に ふくりんを芯にすると よお (よく) 揚がる 言うて。ふくりん 言うと サアジや (です)。オニサージを昔や (は) ふくりんや (だ) 言うて。ふくりんを、糸を 皆 抜いて それを ハリコン (に) 捲きおった の (捲くのです)。ふくりん貰うと ふくりんもおた (貰った) うれっしゃ (うれしい) 言うて、貰うと糸を いっぽおつ (一本ずつ) 抜いて 繋いで 張り子ん (に) 捲くと よお (よく) あがんね (揚がるのです)。じべた (地面) で張ると あがるのな (のが) ええね (よいのだ) 言うて 喜びおったの (喜んで居ました)。ゴンバリコで おいといしも しいおったもん なあ (して居ました)、おいといしやどけ (など) ハリコでは 出来やせんわい (出来ません)、おいといし 言

うのは いしなご こんだけばかの (これ位の、一種角) かくの (立方体) のおに (のに) 花な (が) 皆書いてあって 切りかけ (途中まで切つて有る事) な (が) して有つて 買うと へしおつて (割つて) 一つばらいて (ばらばらにして) すんねけど (するのですが) そすと (すると) こまかい (小さい) 一番 しよおん (小さい) のおは (のは) こまこおて (小さくて) そのつぎや (次は) おつきいて (大きくて) どいらい (大きい) のおな (のが) 有つて、みつつ (三種類) 有つて。そんな (それか) 色な (が) 赤やピンクや青や言うて 色々ん (に) して あんねやんかい (有るのです)。最初は 花むけ 言うて 花の方を 上むかすわけやんかい (です)、ばらつとすと (散らすと) うつむいとんのも (て居るもの) あや (有れば)、横むいとんのも 有るやんかい (でしょう) そすと 花むけ 言うて 皆 花むけ して 取つて すと (次に) はあなもよこ (花も横) 言うて 最後ん (に) なると言つて そすと こんだ (今度は) 横むけ横むけ 横もずんべら 言うて ずんべらは 一番 裏やんかい (です)。そげんして (そんなにして) しいおつたの (して居たのです)。

はりこ 【名詞】 ひれたかつのざめ ツノザメ科の海魚 (熊)

はりこ 【名詞】 いしがきふぐ ハリセンボン科 体は多数の不動性の棘で覆われる。体長 55 cm

はりこみ (張込) 【名詞】 はりこむと同義。名詞化されたもの。発奮し、大金を投ずること。はりこむ参照。【会話】 今日 おんな (俺が) ハリコンダルウ (はりこんでやる) 言うて、なんやかや こおてくれる (買つてくれる)。磯 (海女) いて (行つて) 大漁 すると ハリコミやなあ (だ) 言うて みんなに (皆に) お菓子こおて (買つて) 接待すんの (するのを) ハリコミ 言うの (のです)。今日は 大漁 したよつてん (から) ハリコミや (だ) 言うて、飴菓子 やてら (とか)、あめがしや (飴菓子は) 昔や (は) 一銭 で 五つも 買われおつたもん (買えましたから) 五十銭 なのおも (も) ハリコム と やうち (一同) な (が) 顎の蝶番 はずしたる程 (てやる程) 喰わなはざん (食べなければまいけません) 蝶番 言うたら 顎の関節。

はりこむ (張り込む) 【他マ下一】 ある事のため、思いきりよく大金を使う、発奮する、おごる。(志 (布施田)、張) 【会話】 ハリコム 言うのは おごつたる (てやる) 事。

はりざいと 【名詞】 竹籠に紙を貼り、渋を塗つたもの。

主に穀類、粉類を入れるのに用いる。せんまいばり参照 【会話】 つぶもん (雑穀) 入れたり、こお (粉) のもん (物) 入れたり、めえ (隙間) もつてく (もれて行く) よおなもん (物) サイトへ入れおつた (入れて居ました)。

はりざいとんおおた 頭を叩かれた。【会話】 頭を叩かれると おら (俺は) ハリザイトン オオタ (逢つた) 言よおつたの (言つて居たのです)。

はりさし (針刺) 【名詞】 綿や毛髪などを布で包んで、裁縫用の針を刺しておくもの。針山。【会話】 ハリサシ 言うて 針を 刺すのな (が) 有るやんかい (有ります)。きれ (布) で 作つたり 編んだのおで (ので) したり、針山の事 ハリサシ 言うて、髪 のけえ (毛) え (に) きれ (布) 被せて なあ。 くけ台な (が) 有つて くけ台え (に) しいおつたけど (していましたが)。

はりざめ 【名詞】 あかざめ

はりざわ 【名詞】 舟を操るための竿 (張) 【会話】 舟の のおは (のは) ハリザワ。竹は なあ 浮いて 来て はざんね (いけないのです)、きい (木) や (で) なけな (なければ) 竹は 浮いて 来て 思うとこ (所) い (へ) 行かせん (行きません)。

はりしごと (針仕事) 【名詞】 裁縫 (鳥 (国崎、答志)) 【会話】 お婆さん 藁仕方 (藁細工) えろおて (上手で)、その代り ハリシゴト よおせんね (出来ないのです)。

はりじり 【名詞】 裁縫の時に用いる指輪、針の尻に当てる物 針尻 (南、熊) 【会話】 ハリジリ 言うの (のは) 指輪 の事を なあ (です)、針の尻な (が) 当るやんない (でしょう) そやもんで (それで) 指輪の事 なあ。指差しを、ハリジリや (だ) 言うて 針の尻な (が) 受けるよん (ように) して 有るもんで なあ (ので)。今し (今) のもん (者) は 指輪 で ええんけど (よいのだが)、昔ん (のは) 掴かんどいて なあ (でいて) 手のひらん (に) そんな (それが) 付いとんね (ています)、皿みたよん (のように) して 長針 使うと、あれや (あれで) なけな (なければ) はざんね (駄目なのです)。

はりする 【自サ変】 1) 裁縫する。2) 鍼をうつ。【会話】 2) 鍼打つ言うの ハリシテモオタラ (貰つたら) ええなあ (よい) 言うて、1) 裁縫する 針仕事すん (する) のを ハリスル 言うて、雨な (が) 降らな (なければ) 針仕事も 出来やせんし (出来ない) 言いおつたけど なあ (言いました)。

はりたおしたた 平手で叩いてやった。はりつける参照

はりつけたた 平手で叩いてやった。

はりつけたる 平手で撲る。(志(布施田))

はりつける【他カ下一】 打つ、なぐる、なぐりつける。

(志(鶴方、神明、立神、甲賀、国府)) [会話] 頭ハ
リツケル、ハツケラレタ言うて。よこびんづら
(頬) ぴしゃんと やったんのをな (してやるのを)
ハリツケル言うて、そして わがと (自分が) したる
と (してやる) ごおなわいて (腹が立って) ハリタ
オシタタ (てやった) あの やら (野郎は) まあ 言
うて。

ぱりっと【副詞】 態度、身なりがこぎれいであるさま。

きちっとしているさま。乾いて張りの有るさま。[会
話] 糊つけて パリットした、糊付けの ぱんぱんを
着て言うて、裱 着たよん (ように) してなあ。パリ
ット言うて 立派ん (に) しとんの (しているのを)、
あの人パリット しとんなあ (している) 言うて、あ
やまあ (彼は) 伊達こきもんで (者で) いつでも ぱ
りぱりしとられ (している) 言うて。

ぱりでしょおや 仲間でしましょう [会話] ぱりで言

うな (のは) 仲間で言う事な (です) パリン (に) シ
ョオヤ (しましょう) 言うてな、仲間ん (に) しょお
や (しましょう) 言うのなあ、わがとら (自分達) な
(が) みんな (皆) な (が) 出しよて (合って) すん
のをまあ (するのを) パリデショオヤ言うて。

はりとはず(張飛)【他サ五】 平手ではげしく撲る。[会

話] はりたおすのも 一緒やわい (です)、撲ったん
のをなあ (てやるのです) ハリトバス言うて。

ぱりにする 共同作業をして、その利益を皆で平等に分

ける事 [会話] パリニスル言うのはなあ、仲間ん
(全部集めて) しといて (しておいて) こんだ (今度
は)、仲間で、うなしよん (同じように) 分けん (る)
のなあ、パリニスル言うて。 みんなな (皆が) 協同
で 仕事しといて、その収入を一緒ん (に) 分けんの
(分けるのを)、そんでまあ (それで) ごっつお (御馳
走) して 食おや (食べましょう) 言う時もあるし
金で分ける時もあるし、しなもん (品物) で 分ける
時もあるしなあ。

はりばこ(針箱)【名詞】 裁縫箱 裁縫の道具を入れる箱

[会話] 裁縫箱の事 ハリバコ。昔や (は) つぎばこ
言うてなあ。じょおし (漁師) な (が) 持つな (の
は) 釣り箱 おなご (女) は、つぎばこ。

はりはり【名詞】 はりはり漬け。囃むと、はりはりと音

のすることから。大根を薄く切って三杯酢につけたも

の。囃む音を名をする(大言海)(志(甲賀)、多、
伊) [会話] ハリハリ言うのは、せんがき (千切り)。
せんがきを切って そして 水い (へ) 戻して 若布
とか それいませて、三杯酢で喰うの (のを) ハリハ
リ言うの (のです)。ハリハリ さいら (秋刀魚) の干
したのおや (のなど) ぜにざりん (ぶつ切りに) して
入れると 美味しいわい (美味しいのです)。せんがき
だいこ (大根) のきぞだ (刻んだ物) の干して とっ
とくと (取っておく、しまっておく)、それ 水で戻し
て 若布の有る時や (は) 若布するし、三つ葉をよお
するわい (よくします) 湯ひいといて (湯をととし
て) そすと (すると) 美味しいなあ。(のです)。

ぱりぱり【名詞】【形容詞】 1) そうそうたるもの。立派

なもの。(上、阿) 2) 新しく上等な事、又そのさま。
3) 乾いて張りの有るさま。[会話] ぱりぱりしと
る (して居る)。洗濯して糊つけたら パリパリしとら
れ (して居る) 言うて、なんでも くろろい (黒い)
もん (物) でも、皆、洗濯すると 糊なあ (糊しまし
た)。糊せんと (せずに) 着て ぐたぐたやなあ (だ)
言うて、糊せんと着ると べつんも (特に) 不精もん
(者) みたよおん (のように) みえおったなあ (見え
て居ました) 糊せんと有ると たらつと しとるやん
ない (して居るでしょう)。糊したなあ (のは) びんと
して、糊つけのパリパリや (だ) 言うて、べつんも
はれ なりおって (なつて)。糊せんと手拭でも被ると
びたんと顔い (へ) ひつつくやんない。糊して びん
としとると (して居ると) ええんけど (よいのだが)
糊せんとすると べつんも しょびたれみたいな (の
ような) 感じが しいおったの (て居たのです)。あの
頓着なし (気に掛けない者、不精者) な (が) 糊もせ
んと言うて。糊すると 今度 洗濯しても さぶさぶ
つとすると 汚れな (が) 落ちよい (やすい) もんで
(ので) 昔の人は 石鹸な (が) 無いやんない (でし
ょう) そやよつて (それだから) じゃじゃぶつと 洗
うねもんで (洗うので) 糊して有ると 糊な (が) 取
れてくと (て行くと) 汚れも取れる そげな (そん
な) 意味やろ (でしょう) 糊せな、洗いばりなしやせ
んわれ (しない) 言うて。海の のりを すんねんな
あ (するのです)。海の のり取って 干して 六月ん
(に) それを洗うと 又 真っ白ん (に) なんねてや
(なるのです)。六月に洗わな (なれば) しいるお
(白く) ならせんね (ならないのです)。それを くざ
けて (水に浸して) 炊いといて (ておいて) てのぐい
(手拭) の袋で つけんねやんかい (つけるのです)

てのぐいの袋でしばって。洗濯してもさぶざぶ洗う。もみ板も使わせんし(ないし)手で揉むぐらいやけど(だが)のりな(が)取れてくと(て行くと)あんで(あれで)汚れも取れてくんやろ(行くのでしよう)。そやよってのりせんとすると洗いはりなしやせん言いおったの(言ったのです)。のりせん、あるた(洗った)時はばけてするし、のりしてあるたのおははつきりとなるもんで(ので)、洗いはり(洗い晴れ)な(が)しやせんよって(しないから)のりせんはざんわれ(いけない)言うて怒られおったの(怒られて居たのです)。くろい(黒い)もん(物)へも皆、のりしいおったの(して居たのです)、そやもんで(それで)天気のええ(よい)日やなけな(でなければ)、洗濯すると、のりな(が)出来んで(出来なくて)のりすると乾きのぬ(ぬ)くいもんで(ので)。²⁾立派な着物もパリパリのもん(物)、新しのおでも(のでも)パリパリや(だ)言うの(のです)。新し着物着ると、ふんきり(封切り)のパリパリや(だ)言うて。ふんきりのパリパリ封切ったばかりで新しのおを(のを)こおて(買って)来ると、ふん(封)な(が)して有るやんない(でしよう)。それをきんのを(切るのを)ふんきり言うの。ふんも切らんと(切らずに)あんの(有るのを)借してくれ(借して下さい)言うて、借したてやら(とか)言いおった(言っていました)。しょびたれ言うな(のは)だらしない事やなあ(です)だらしのおて(なくて)汚いふう(格好)しとるやんない(して居るでしよう)しょびたれや(だ)言うの(のです)。

はりばん (張番) 【名詞】 手竿を持って舟を繰る人。はりかた参照 [会話] 船のみよし(船首)舟 引く時ん(浜辺に引き上げる時に)ハリバンしとる(している)表や(です)。

はりびしゃく 平手で強く叩く。(志(船越)) [会話] 頭はったおされた(張り倒された)。はったると倒れてくので(てやると) はったす(張り倒す)ハリビシャク。ハリビシャイタンドオ(てやるぞ)言う人も有るし(有ります)。

はりふぐ (針河豚) 【名詞】 はりせんぼん。体表の棘が甚だ長大で、此の棘を立てると栗のいがのようになる。歯は融合して歯板となり、上下それぞれ一枚ずつ、日本では全く無毒で食用となる。全身四十種位。(志(志島、甲賀、安乗)、鳥、度、尾、南、熊) [会話] ハリフグ言うて河豚い(へ)針な(が) たつとんの(立って居るのを)ハリフグ。針な(が)立っ

とる(て居る)河豚な(が) あんねやんかい(有るのです) そんな(それが)膨れて来て、まるくとお(丸く)なって、そやもんで(それで)怒ると、顔 膨るます(膨れさせる) やんない(でしよう)、そやもんでハリフグよ(奴)言いおったやんかい(言っていました)。あやれ(あれ)ハリフグみたよおな(のような)顔して言うて ぶっちょおざら(佛頂面)して言うて。

はりばて 【名詞】 1) 竹籠などに紙を張ったもの。(志(鶴方、神明、志島、国府)) 2) 外見だけで中身のないもの。[会話] ¹⁾ おおた しきし当ててハリボテん(に) しとられ(している)言うてなあ、つんで(縫いで)有るとなあ。²⁾ 運動会の球ころがしの球あれもハリボテ 外ばつか(ばかり)張つといて(ておいて) あんの(有るのを)。竹むいて張つといて(ておいて) あんのも(有るのも)ハリボテ言うて。**はりまあす** (はりまわす、はりまはず)。はります (張り回す) 【他サ五】 打つ。撲る。所きらわす撲る。平手で叩く。(志、北、尾) [会話] 頭ハリマシタンドオ(てやる)言うて、はりたおしたんどお言うて、びんざら(横顔)ハリマシタンドオ言うて、頭はる事ハリマアスとか(てやる)、撲る事やなあ(です)。

はりまなこ 【名詞】 大きく見開いて居る目。[会話] めえ(目)もなんもハリマナコ(に)して空ばつか(ばかり)見て男の子ら ちよお(とんぼ)狩つとよおった(狩って居ました)。

はりまわす (はりまはず) 【他サ五】 1) 打つ。撲る。平手で叩く。はりますと同義。(志(片田)北、尾) 2) 布、縄などを廻りに切れ目なく張る。

はりまんじゅう 【名詞】 平手打ち。平手で叩く事。

はりもん (張り物) 洗い張り、張り物、糊をつけた布や、染色した布を板張り、又は伸子張りにして乾燥させ、布の丈を伸ばし、巾を揃える事。[会話] ハリモン(物)言うと、張り板言うのな(が)有って、此の位(一尺、三十三種)広い、二間(三、六米)位の板な(が)有って それい(へ)皆ハリモンしいおったの(して居たのです)。畑い(へ)かかる迄ハリモンせな(しなければ)言うて、きもん(着物)ほどいて糊で板へ張り付けて たんもん(反物) みたよん(のように)して かこいおったの(しまつて居たのです)。ええもん(よい物)は伸子張りい(に)洗い張りい(へ) やってするけど(出します)が木綿のもん(物)は皆、家で張りおった(張つて居ました)。ええもんは伸子で しよおったけど

(して居ましたか)はぎつぎ すんのな (するのが) 伸子張り えらいんてや (大変なのです) はぬい すんのな (するのが) えらいもんで (大変なので) わりいもん (悪い物) は 皆 張り板い (へ) かけんの (かけるのです)。

はりもんいた【名詞】張物板。洗った布地に糊をつけ張って乾かす板。はりもん参照

はりもんし【名詞】張り物をする人。張物師。[会話] ハリモンシ 言うのは それ (洗い物) をする人。洗い張り屋 言うの (のです)。伸子張りする人を、洗い張り屋言うて。家で 皆 張り板はするけど (が) 伸子張りする人は 洗い張り屋言うて それい かけおった (伸子張りにしました)。其処い (へ) やると 又 なあ たんもん (反物) みたよおん (のように) じっばん (立派に) して おこしおった (よこしました)。

はりやい (張合)【名詞】1) 気持ち。はりあいの訛。はりあい参照 2) 楽しみ。[会話] 1) 今日は ハリヤイ な (が) よおて (よくて)、仕事よけ (沢山) したなあ言うて。うれし (嬉しい) 事な (が) 有ると、ハリヤイ なええ (よい) 言うの (のです)。今日は おおび (鮑) な、よけ (沢山) おって (居て) いたる 所ん (に) おおびな (が) めえん かか (て) (見つかって) ふそとたんかして (恵まれて居たのか) ハリヤイ な、よおて 言うて、そいな (そんな) 時ん (に) ハリヤイ なええ 言うの (のです)。気持ちが ええ 事を ハリヤイ なよおて 言うて。畑仕事でも 順調よお (よく)、体も健康で やった (した) 時は ハリヤイ なええ 程 仕事したわい (しました) 今日 は 言うて。そして 皆 大勢 集まって 賑やかん (に) しとんのおも (して居るのも)、今日は みんなな (皆が) 寄って来て ハリヤイ なええ なあ、嬉しな あ (嬉しい) 言うのを。

はりやいええ。**はりやいなええ** 気持ちがよい 張り合いがよい [会話] 楽しいな言うの ハリヤイ なええ ア 言うて、今日はまあ 大漁 で、ハリヤイ なヨカッタ ヨオ 言うて。嬉しい楽しい言うのを ハリヤイ なええ。

はりやいない。**はりやいなない** つまらない (三、桑郡、四) [会話] なあんも (少しも) はりやいも 糞も無い われ (です)。する 事な (が) 無いとなあ 楽しみな (が) 無い言う事 ハリヤイ なナイ ア。

はりやいぬけ【名詞】氣勢の削がれる事。気の抜ける事。

はりやう【自動五】競いあう。争う。はりあうと同じ

はりやま (針山)【名詞】使用しない針を刺して置くもの、はりさし参照

はりよ (はりよう、はりやう) (張様)【名詞】張る方法。張り方。[会話] ハリヨ な (が) わりわい (悪いです)、こや (これは) もっと びんとはれ、だるんどられ (弛んでいる) 言うのなあ。壁い (に) なんやかや (いろいろ) 貼っても ハリヨ な (が) わりきや (悪ければ) はざんしなあ (駄目だし)、皺な (が) よつとて こや (これは) はざんわれ (駄目だ)、此の貼り方、わりわれ (悪いです) 言うてなあ 貼り方の事を ハリヨ 言うて。

はりんなつとる 怒って居る。(志(布施田)) [用例] 怒って ハリ ン ナツトル。

はる【他ラ五】1) 張る。撲る。平手でうつ。はります参照 (津、一、久、松、多、阿、度、伊、北、南、熊) 2) 手に余る。3) 物の表面を一面に覆うようにする。木の根や枝が四方に大きく広がる。容器が一杯になって入れなくなった状態。布状、網状、紐状の物をゆるまないように広げて固定する。[会話] 1) 撲る のおを (撲るのを) ハル 言う のなあ (のです)。3) そして 肩な (が) ハッテ サロンパスはんのも (張るのも) ハル。昔 や (は) サロンパスあ (スは) 無いし、あざい 貼ったり、小麦と とんがらし (唐辛子) と くちなあし (梔子) と 混ぜ といて (ておいて) ハル と どいらい (大変) 気持ちな (が) よおて (よくて) そげん (そんなに) しいおったの (して居たのです)。小麦の こお (粉) こね て くちなあし 入れると あや (あれは) 熱とりや (です) くちなあし は、それい (へ) とんがらし 入れると とんがらしな (が) ひりひりして それも 又 熱な (が) 取れる。それやもん で (それで) とんがらし を、きぞて (刻んで) 貼りお ったの (貼って居たのです)。昔 や (は) 医者も無いし 薬も そんに (そんなに) 無いやんな (無いでしょう) そやよつて (だから) 皆 とりく さいで しいお ったね (して居たのです)。出来 もん (物) な (が) すると じゅうやく と とて 来て (取って来て) じゅうやく の 薬 なん 枚も 重ね といて (ておいて) きゅつきゅつ と 藁 で 巻 いて あつばい (熱灰) へ く べる (入れる) と 餅 みたよん (のように) やい こお (柔らかく) なって、粘 って こんだ (今度は) 藁さばい といて (取り除いて) 紙い (へ) 伸ば して 蛇の かあ (皮) を、真ん中 い 張 つといて しとくと (しておくと) 口 な ぼん と あき お った (あきました)。それや (それとか) なめく じ 取 って それい (それへ) さと (砂糖) 入 れた ると (てやると) なめく じ な (が) ほ つ そ お (細く) なって そん な (それが) なめ (粘液) ん (に) なって

それを紙い(へ)つけといて 出来もん(物)へ は
つとくと(張っておくと)口な(が)ぼんとあくの
(開くのです)。²⁾ 仕事な(が)一杯で 言うとき
ご(例えば)三時なら三時迄 きめたらんならんけど
(終らなければいけないのに) はかどらせんやんない
(終らないでしょう) その時ん(に)仕事な、ハル。
時間な(が)よけ(多く)掛って 居残りや(だ)言
うて、残業する時ん(に)仕事な(が)ハル。³⁾ いれ
もん(入れ物、容器)へ 一杯ん(に)なって、袋な
(が)はりさけた。袋なはつたれ(はつた)言うて、
はいらんで(入らなくて)はりさけて 皆 まけたた
れ(まけてしまった)言うて。はりさけてた(て行っ
た)きさけてた、袋な(が)きしゃけてて(裂けて行
って)袋な(が)破れてたら(て行ったら)、はつて
言うて。ひきさけてたれ、よけ(沢山)へしこんだや
(押し込んだら)言うて、元も子も失う時な(が)あ
んねやんかい(有るのです)はりさいたて(しまった)。

はる【自ラ五】筋肉の使用後、疲労して頓痛感がある。

肩がハル等。前項 はる参照

はるいそ(春磯)【名詞】春の時節に行われる海女作業。

一月から三月迄の海女作業 [会話] 正月から二、三
月頃迄な(が)ハルイソ。

はるいちばん【名詞】その年、最初に吹く強い南風 日

本海に低気圧の有る事を条件とする(度、尾) [会話]
しょんがつ(正月)な(が)過んでから、どいらい
(大変)まぜな(南風が)吹くやんない(でしょう)、
そいなのおを(そんなのを)ハルイチバンやなあ
(だ)こや(これは)言うて。雨つけて 時化 みた
よな(のような)のな(のが)するとなあ。

はるかんして 時間、年月が長く経って居る事。

はるのはて 最後に、有るが果て。[会話] ハルノハテ

に ハルノハテに来てまあ言うて、待つとでも、待つ
とでもこんで 来たや、ハルノハテンになったや、来て
言うて。おっそお来るとかなあ。待つて待つてしとて
も こんで、帰るよんかったや、来たのをなあ ハル
ノハテン 来てまあ 言うて。

はるのひとよぶき(春一夜吹)【俚諺】春に吹く強い風は
長続きしない。

はれ(晴)【名詞】世間体の立派さ。見栄えのする事。手柄

名誉 [会話] ハレ 晴れ着 おんばれやなあ
(だ)言うて。今日は 小母さんに此のきもん(着
物)こおて(買って)もおて(貰って)ハレしたよお
(しました)言うて。今日は なにそれで よけ(沢
山)人な(が)来て呉れて ハレン(に)なつたわい

(なりました)てやら(とか)。そおしきど(葬式の回
送者)な(が)よけ(沢山)有つて ハレン(に)な
つた、言うのも 有るし(有ります)。世間から見て
じつぱ(立派)ん(に)なつた、ハレン(に)なつた
言うて。オンパレ 言うな(のは)ハレン(に)なつ
た事を オンパレや(だ)言うのなあ(のです)。どい
らい(大変)ハレンなつたれ(なつた)言うのなあ
(です)、オンパレやなあ(だ)言うて。着るもん
(物)でも、ええの(よいのを)着て あんた(貴
女)すばらしの(のを)着とんねなあ(着て居るので
すね)言うて、すと(すると)オンパレやなあ(だ)
言うて。目出度い席でも うんと(沢山)いおて(祝
つて)呉れると、よんでくれると(招待してくれる
と)ハレン(に)なつたなあ 言うて。歌 唄う人な
(が)ねえのん(無いのに)歌、うとて(唄って)く
れると あんたな(が)歌 唄てくれて ハレン
(に)なつたわい(なりました)言うて、座敷な
(が)にぎよて(賑わつて)ハレン(に)なつたなあ
(なりました)言うて よかつたわい(です)言うて
喜ぶのなあ(喜ぶのです)。

はれ(腫)【名詞】水腫、浮腫など。むくみ、打ったり、

腫んだりして皮膚の部分が膨れあがること。[会話]
足な(が)ハレて来た 水な(が)貯つて言うて。か
ぶと(膝)な(が)ハレて来て いとおて(痛くて)、
死んでく(で行く)時ん(に)なると、足の甲な
(が)ハレて来る こや(これは)足の甲な(が)ハ
レやせんよつて(ないから)まだ 死んでかせんねな
あ(行かない)おもて(思つて)、足な(が)ハレて来
ると 長いもな(もので)ねえもんなあ(有りません)、
まあ 足な(が)ハレて来たか 見よまあ(見なさ
い)言うやんかい(言います)。大病人に 足の甲な
(が)ハレて来ると 水ぶくれた よんして(ように
して)。

はれがまし【形容詞】晴れの場所などへ出て来て、きま

り悪いような感じ。[会話] 派手なふう(格好)する
と、おおた ハレガマシ ふうして あやれ(あれ)
言うて、まあ みんな(皆)の前で 見せびらかすよ
おな ふうすんのをなあ(するのを)。

はれぎ【名詞】晴れの時に着る着物、いっちょろ参照

はれぼつたい【形容詞】腫れた様な感じ。少し腫れて居
る。

はれもん【名詞】1) 腫物。出来もの。炎症によって皮

膚の一部がはれて膿を持ったもの。2) すぐ怒る人
[会話] ²⁾ ハレモンえ(に)当るぐらいや(だ)言う

てなあ、じっкин (すぐに) 怒って来る。もの言うても ちょいとすると (少しすると) 怒って来るにげ (人間) を 昔や (は) ハレモンや (だ) 言うて、できもん (出来物) をなあ ちょいと (少し) 当っても 痛いもんでなあ (ので、じっкин怒って来たりするとあのにぎや (人間は) むつかしなあ。ハレモンえ さわるくらいやなあ (だ) 言うてなあ。1) ハレモン言うて できもんの事。昔や (は) よけ (沢山) 出来おつたやんかい (出来て居たで有りませんか) ひぶくれや (だ) 言うてなあ、水ぶくれてすんのな (するのが) 出来おつたなあ (居ました)。

はれやかす 腫れさせる。腫れている。

はれやまい (腫病) 【名詞】 体全体がはれて来る病氣。
[会話] 腎臓で、あおぶくれたよおな 人な (が) 有りおつたやんない (有ったでしょう)。あおぶくれて そいな (そんな) 病氣な (が) よけ (沢山) 有りおつたわい (有りました)。水ぶくれみたよん (のように) しとよおつたわい (していました) ハレヤマイや言つて (と言って)。

はれる 【自ラ下】 1) 腫れる。張れる。火傷や腫瘍打撲などで体の一部がふくれる。2) 転じて怒ると頬がふくれる事から、怒る事。[会話] 1) ハレル ふくれてくんの (来るのを) ハレル 言うし (言います)。ふくれてくんの、はれて来た 言うて、2) 怒つとる (て居る) 時も あや (あれ) ハレテ かんぶくろはつとられ (張って居る) 言うて。かんぶくろ (紙袋) 張って いたよお (行ってしまった) 言うて、怒って行くと あげん (あんなに) 言うたや (言ったら) ごおわかして (腹立てて)、かんぶくろはつて いたれ (行った) 言うて。

はろた 払つた。(桑郡、桑市) [用例] ぜん ハロタ (金を拂つた)。

はろたた 払つてやった。[用例] 代りん (に) おんな (俺が) ぜん (銭) ハロタタ。

はろたれ 1) 拂つてやれ [用例] 1) 代りん (に) ハロタレ。2) 拂いました

はろて 1) 払つて (阿、北) 2) 払ってください

はろどる 妊娠して居る [会話] 妊娠しとんのを (しているのを) ハロドル。ハロドンネテワレ (妊娠しているそうだ) 言うて。

ばわい 【名詞】 場合 その時 (松、尾)

はん (半) 【名詞】 半分。完全でないこと。なまじつかなこと。[会話] ハンにかかると とこ (所) 登ると、から白 (空白) 踏んで ひつくり返つたよお 言うの

(のです)。

ばん (番) 【名詞】 1) 順番 2) 見張り役 [会話] 2) たあ (田) のバンして。猫ん (に) 魚 喰われたらん (てやらない) よん (ように) バンしとれよお (して居なさい)。きんこ (芋の煮切干) バン しいんいけ (しに行け) 言うて、きんこを干すと だんがられや (とか) はやもちや言うてするとさいご (する時に)、鳥な (が) 皆 とてくもんで (取って行くので) 雀ん (に) つかれたらんよおん (てやらないように) バン、しとれよお言うて。1) わが (自分の) バンな (が) 来たよつてん (から) 言うて、医者屋い (へ) いて (行って) バン、取つてこいよお (来なさい) てやら (とか)、場所取れ言うのを、バン取つて来い言うの (のです)。留守番と順番やなあ (です) 見張り役も 有るし (有ります) バン するもん (もの) な (が) よけ (多く) 有つて、田のバン、せんならんし (しなればいけなしい)、きんこのバン せんならんし、ウチバン (留守番) はせんならんし。

ばん 1) 叩く事を言う幼児語。2) 二つに割る事を言う幼児語。[会話] 1) だれ (どれ) 頭 パンしたんドオ (してやるぞ) 言うて、こらんなあ (子供達に) 頭 叩く事を パンしたる (してやる)。

ばん 【名詞】 飯 食事 [会話] 一宿 イッパン 言うて、イッパンあんねてわれ (有るそうです) 言うて。一食よばれんの (招待されるのを) まあ 今日は イッパンあんね (有るのだ) 言うさけ (から) 夕飯食わんと (食わずに) 行こやんかれ (行きましょう) 言うてなあ。

ばんいた 【名詞】 まないた

はんおれ 中途半端、未完成の事。米などの搗きが半分の事。(貝)

はんがたわ 【名詞】 半片輪。半死半生。[会話] ハンガタワん (に) したろん (してやろう) 言うて、ごおなわくと (腹が立つと)、だれ (どれ) どずいて (撲つて) おのりや (おのれは、お前は) ハンガタワん (に) したんどお (してやるぞ) 言うて。ハンガタワん (に) 言うて どいらい (大変) ごおなわいとる (腹が立っている時) 時ん (に) 言う言葉やなあ (です)。ハンガタワん (に) おおた (会つた) 言うて、撲られると。撲られて ハンガタワんおおて (あつて) 来たよお (来ました) 言うて。

はんきり (半切) 【名詞】 半切り巻紙。杉原紙を横半分に切つた物。主に書状に用いる。又書簡用の縦が短く、横に長い和紙。はんきり。半切紙。半切紙の略 (方言

俗語語源辞典(鳥、松、上、阿、尾、津) [会話] 二巻(ひとまき)も書いて なあごお(長く)すると、なあごおて(長くて) おやま(女郎)のふみ(文)みたよおななあ(のようだ)言うて。あれを、ハンギリ言うんやんかな(言うのです)。朝鮮へ行くときや(時は)ハンギリもこおて(買って)封筒もこおて言うて、今しみたよん(今のように)便箋や(で)無いし、ハンギリい(へ)書きおったね(書いて居たのです)。てももち(手持ち)で書く言うて どいらい(大変)達筆の にげ(人間)や(で) なけな(なければ)手持ちではなかなかな よおかかんやんかな(書けません)。昔や(は) がっこ(学校)も、じい(字)いろは習うくらの程度や(です)。百年も百五十年も前の事やよつて(だから)、がっこも寺子屋ぐらいで。“七つ八つからいろはをなろて(習って)はの字忘れていろばかり”言うな(のが) それやわい(それです)。“七つ八つから へんずりかき(男性の自慰行為) なろて(習って)今は忘れて色ばかり”言うの(言うのです)。

はんぎり (半切) **【名詞】** 樽を半分に切つて用いた所から。たらい状の浅くて広い桶。半桶。半盤。ハンギリオケ(半切桶)の略(大言海)(志(鶴方)、度) [会話] 荒布 かざくの(ののです)ハンギリ。ハンギリや(とか) 盥や(だ)言うて。洗濯すんのん(するのに)昔や(は) 盥で 洗いおった(洗っていました)。遊ぶのん(に) 言いおったやんかい(言つて居たでは有りませんか)濡れた袂を 盥でさぶさぶ 言うて。昔や(は)嫁入りする時ん(に) 盥を持って “おまんこ洗いの 盥い迄 此れ程持たしてやるからにや” 言うて 昔は盥を 嫁入りする時ん(に) 持てきおった(持つて行きました)ハンギリは だいぶ(非常に) おっきいなあ(大きいです) 盥は 大、中、小は有るけど(が) 大の盥 言うな(のは) 此の位(一、五米位)も あんなあ(有ります)。そすと ちっさい(小さい) ちよいちよいたもん(少しの物) 此の位の ちっちゃいのおで(一米径の小さいのです)。大の盥もて来た(持つて来た) 言うて、こお(子供)もおけると(産むと) 湯あぶせんの(沐浴させるのに) その盥で あぶせおったやんない(でしょう)。そやもんで(それだから) 昔 それも 金持ちの家や(で) なけな(なければ) おまんこ洗い もてからつたねんなあ(持つて行きませんでした)。普通一般の家や(は) そげん(そんなに) よお持たしたらんの(持たせてやれないのです)。いっけん(一間) 位有つた さしわたし

(直径)ハンギリは。大と中と二つあつて 大のおな(大きいのは) 海女のわりなあ(悪い、下手なのは) おっきい(大きい) の(のを)持つても こまあし(小さく動かす事) よおせん(出来ません) やんない(でしょう) 海女のええ(上手な)人は おっきいのな(のが) ほしね(欲しいのです) じっきん(すぐに)一杯にしたるもんで(してやるので) いくかいり(何往復)でも ひとかざき(一回の作業時間) ん(に) 五杯六杯つ(ずつ) かざくやんない(でしょう) そすと ハンギリな(が) ちっさかつたら(小さかつたら) 来てばつか(ばかり) おらんならんやんない(居なければいけないでしょう)。そやけど(しかし) かいしよ(甲斐性) な(が) 無いもん(者)は おっきいの(のを)持つても よお こましせんの(出来ないのです)。一杯したると(してやると) きりきりまいも よおせんし(出来ないし) 稽古中のもん(者)は ちっちゃい(小さい) の(のを) 持ちおつた(持つて居ました)。

はんげえ **【名詞】** 半円真珠 半径

はんげんそ。**はんげんそお**(はんげんそう)(半夏生)

【名詞】 七十二候の一つ。夏至から十一日目、太陽の黄経が百度に達する時を言う。此の日、畑に出ると災が有ると言われて居る。半夏生の詛。[会話] ハンゲンソオ、ハンゲンソオ坊主な(が) 出たれ(出ました)。今日は ハンゲンソオやよつて(だから) 夏と秋とのきりめ(境界)に ハンゲンソオ その時ん(に) 畑い(へ) 行くと ハンゲンソオ坊主な(が) 出てくんど(くるぞ) 言うて、どいらい(大変) おとしがりおつたの(怖がつたのです)。ハンゲンソオな(が) 来ると あした(明日) ハンゲンソオや(だ) 言うて、豆いっこや(煎っておきましょう) あられ いっこや 言うて、ハンゲンソオのひい(日)に 煎りもん すると 火事な(が) おこる(出る) 言うて、煎りもん 昔は せらつたの(しなかったのです)。ハンゲンソオ 畑いいたや(行つたら) ハンゲンソオ坊主な(が) 出てくんど(くるぞ) 言うて、どいらい 畑行くの(のを) おとしがりおつた。あんで(あれで) ハンゲンソオ 言うて かざけて(かこつけて) 休みを 取りおつたやろなあ(取つて居たのです)。その日にいて(行つて) 大きな坊主な(が) 出て来て それ見て そんな(それが) おとしかつたもんで(怖がつたので) 病気ん(に) なつて、死んだ人な(が) あんねて わい(有るのだそうです)。豆畑い(へ) 入つたら はざん(いけない) 言うて、豆畑い入ると かぶれると

わるさ ん (に) なる 言うて。わるさんなる 言うな こせ (乾燥湿疹) ん (に) なる言う事やろなあ (でしょう)。その かぶれな (が) 治らんで (なくて) こせん (に) なってくの (行くのを) わるさ 言うんやかな (言うのかと) 思うね (思うのです)。胡瓜喰うな (食べるな) 言う日は てんのおさん (天王さん)、てんのおさんの御紋な (が) 三つ柏で 胡瓜切ったると (てやると) 紋 出来るやんない (でしょう) そやもんで (それで) 喰うたら (食べたら) はざん (いけない) 言う訳やわい (です)。佛さんへ 桃を供えるな 言うのは 桃の種な (が) 天神さんの紋や もんで (なので) 昔の人は天神さんの紋や (だ) 勿体ない 佛さんへ 供えんな (えるな) 言う。

はんげんそおぼおず 【名詞】半夏生の時に島に行くとき会うと言う妖怪。はんげんそお参照 (志 (布施田)) [会話] ハンゲンソボオズに おおた (逢った) 言うて言うやんない (言うでしょう)、はんげんそん (に) 畑行くと ハンゲンソボオズな (が) 出て来んど (来るぞ) 言うて、狸ななあ (が) 人の行かんのを (行かないのを) えてこいにして (よい事にして) 人な (が) ちよいと (ちよっと、少し) 行くと、脅して (驚かして) 坊主になって。ハンゲンソボオズな (が) 出た言うて 昔は言いおった (言って居た)。ハンゲンソボオズな (が) 出てまあ あのひた (人は) ハンゲンソボオズに おおたんでわい (逢ったそうだ) 言うて。狸な (が) 坊主になって その人ん (に) 見せて、どいらい (大変) 大きな坊主な (が) 出た言うて、そんで まあ (それで) やまい (病気) でて (になって) 死んだ 人も あんねて (有るそうです)。はんげんそで行くな言うの、いて (行って) ほいて (そうして) ハンゲンソボオズな (が) 出た言うてなあ、家 来たや (ら) 神経よおで (病んで) 病気になって、死んだ人な (が) あんね (有るのです)。そやもんで (それで) はんげんそ 畑 行くな言うて (言つて)。

はんこ 【名詞】袖無し半纏。(志 (鶴方、浜島、布施田、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (国椅、桃取、坂手、答志、鳥羽)、桑市、員、三、四、鈴市、安一、飯、松、多、上、阿、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] 上い (へ) 着とる (て居る) ハンコ。ハンコの袖振れ 言う。のおておって (無くて居て) 有るふり (格好) するやんない (でしょう)、あや (あれ) ハンコの袖振って 言うて のおておって有るふりして なんもかも ふっからかす (自慢する) やんない、すと (すると) ハンコの袖振って 言うて。

はんこ (判子) 【名詞】判。印。ハンコウ (版行) の転 (大言海) [会話] 印鑑の事 ハンコや (だ) 言うし なあ (言います)。

ばんこ 【名詞】赤ん坊。乳児。(志) [会話] バンコ。あかご (赤ん坊) を言うの (のです)。バンコ 抱かして (抱かして) くれえ (下さい) 言うて。あの家や (は) こお (子) もおけたんてわい (産んだそうだ) バンコ 抱かしてもおて (貰って) こおや (来ましよう) 言うて。バンコ抱かしてくれえ 言うて、そすと (すると) どいらい (大変) うれしね (嬉しいのです) 赤ん坊を 抱かして貰うと、バンコ抱かしてもおて (貰って) 来た 言うて。バンコ おぼしてくれえ (背負わせて下さい) 言うて。

ばんご 【名詞】鱈の幼いもの。めいたがれい。まこがれい カレイ科の海魚 (志 (鶴方、立神))

ばんごや (番小屋) 【名詞】見張小屋。番人の居る小屋。(志 (立神) 熊) [会話] たあ (田) の番 (見張) する、バンゴヤ言うて。とびき殺や粟殺で 立てよおったなあ (立てました)。

はんごろし (半殺) 【名詞】1) おはぎ。餡ころの米を完全に餅にせず、途中でやめた物。(南) 2) 半死半生。[会話] 1) ハンゴロシ なまごろし (生殺し)、餡ころを ハンゴロシん (に) しょおか (しましようか) 本殺しん (に) しょおか 言うて。宿屋い (へ) 泊ったら ほんごろしん (に) しましようか、ハンゴロシん (に) しましようか 言うたや (言ったら) おとして (怖くて) ほんごろしや、ハンゴロシや (だ) えらい (大変だ) 事や 思た。やじろ (米粒の残って居る餅) みたよな (のような) のおを (のを) ハンゴロシ 言うんなし (言うのですし) まもち (真餅、全部餅になっている) じっばん (立派に) 搗いたのおを (のを) 本殺しや (と) 言うて、みんな (皆) 餅にしたらんと (してやらずに) 粒々な (が) ちよいと (少し) あんのを (有るのを) ハンゴロシや (だ)。夕御飯 ハンゴロシん (に) しましようか、本殺しん (に) しましようか 言うもんで (ので)、こや (此れは) えらい (大変な) 宿屋い (へ) 泊ったおもて (思つて)。そんで (それで) 道具持て 逃げたね (のだ) 言うて。2) 半片輪も一緒に ハンゴロシん (に) どづき殺された (叩き殺された) 言うて。どづいたり (撲ったり) 蹴ったりして ハンゴロシん (に) おたねない (会ったのだ)。酒のおで (呑んで) よおて (酔つて) くだまいて 言うて。どいらい (大変な目) 目ん (に)、おおた時ん (会った時に) 虫の息で、ハンゴロシん (に)

おおた言うて。ハンゴロシンおおた、酒のみや(酒飲みは) そやけど (しかし) がいん (たいして) あんで (あれで) こたえやせんねんなあ (応えないのです)、ハンゴロシン、おおても、すらみたいん (のように) しとるやんかい (して居ます)。こたえやせんねんないなあ (応えないのでしょうか) よおとるもんで (酔って居るので)。すら 言うのは すらばこ すらばか (すらばこは) 言うて 知らん顔しとんのを (して居るのを) すらばこやてら (だとか)、すらしとる (して居る) とか 言うて。

はんさく (半作) 【名詞】 農作物の収穫高が平年の半分であること。[会話] ハンサクより 出来ざった (なかつた)。にひよ (二俵) 獲るとこ (所) でなあ、いっぴよ (一俵) より 獲れんなあ (ないと)、おおた 今年や (は) 風ん (に) 吹かれたて (てしまって) ハンサクも 行かせんわれ (行かない) 言うてなあ。はんぶ (半分) より 獲れんとまあ (ないと) ハンサクか、ハンサクも 行かん (行かない) 位やなあ (だ) 言うてなあ。さんびよ (三俵) 獲るとこ (所) いっぴよ (一俵) より 獲れんと (ないと) おおた今年や (は) がしん (飢饉) やなあ (だ) 言うてなあ。

はんしょ (半鐘) 【名詞】 はんしょう。釣鐘の小形のもの。昔は寺院などで合図に使用したが、後、火の見櫓の上などに取りつけ、火災などの警報に使用した。(三、鈴郡、鈴市、安、一、伊、張) [会話] 火事や (だ) 言うて、ハンショな (が) 鳴ってなあ。鐘のなんのを (鳴るのを) ハンショや (だ) 言うて、寺のハンショな (が) じゃんじゃん じゃんじゃん 鳴って。

はんじよ (はんじゃう) 【名詞】 【形容詞】 繁盛、にぎやかなこと。盛んなこと。

ばんする (番) 【他サ変】 番をする。見張る。警戒する。[会話] たあ (田) のばんに行かな (なければ)、雀ん (に) 皆 食われたんど (てしまうぞ) 言うて。じよ おっく (いつも) たあ (田) の ばんに行きおった (行って居ました)。とびきがらで 小屋 こさえてなあ (作って)。たあ (田) のばん、雀のばん、見張りや (です)。雨な (が) 降って来ても 家 行かれやせん し (行けないので) とびきがらで 小屋 建てて 粟殻 で 屋根 草 いて そすと (すると) いっくら、ほおほ お 言うても 雀な (が) 聞かせんねてや (ないので) す。そして 一斗鐘 を がんがん 言うて 叩いて なあ 鳴子 したり なあ 雀の バンシイん (に) 行く の (のは) おぞげ な (腹が) 立ち おった。きんこ (芋の煮切り干し) よけ (沢山) 炊 いて 鴉の バンシイん (し

に) いたり (行ったり)、はっと (鳩) や ほじろ (頬白) や言うて それを バンスん (するのに) がっ こ (学校) え 行かんならん (行かなければならない) 言うのん (に) 行け 言うて それを 行く と おそ なんのん (遅刻するのに) 言うて 泣き もて でも (ながらも) 行き おった (行って居ました)。

ばんする 【動詞】 1) 叩く。打つ。幼児語。2) 割る。(阿、張) [会話] 2) 二つん (に) する パンシテ 姉やん にも やれ 言うて。かしん (菓子) 一つ 貫う と パンシテ 兄も やらん かれ (あげなさい) 言うて なあ。1) パンシ タン ド オ (してやるぞ) 言うて 撲 った んのを ほ った (頬) 叩く のも パン スル 言うて なあ。

はんせん (半銭) 【名詞】 一銭の半分。五厘。[会話] ご り ぜん (五厘銭) 事 ハン セン、郵便 葉 書 いっ せん ご り (一銭五厘) で 間 崎 の 人 ら (は) 買 いん (に) 来 る と、ご り (五厘) の は あ (端数) ま け と け (負けておけ) 言うて、郵便 葉 書 こ ぎん な (値切るのは) 間 崎 だけ や わ い (だ) 言うて 局 で わ る わ れ と ん ね (叱られて居るのです)。に り ぜん (二厘銭) も 有 っ て に り (二厘) で 飴 が しん (菓子) も 買 い ん い き お っ た ねん なあ (に行ったのです)。

ばんせん (番線) 【名詞】 針金(熊) [会話] 針金の事を 工場 い (へ) 行く と バン セン で 吊 っ と け (ておけ) 言う け ど なあ (言います)

はんだ 1) 剥いだ。2) つぎはぎを当てる。[会話] 2) も つ ば み た よ な (のようだ) 言うて つ ん で (縫いで) ハン ダ (当てた) 着 物。

はんだい (飯台) 【名詞】 1) 食卓。(松、多、尾、南) 2) 飯櫃(志(片田、船越、浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥(坂手、浦村)) [会話] 1) ハン ダイ。食台 食 卓 の 事 ハン ダイ 言う し (言います)。2) 御 櫃 の 事 も ハン ダイ や (と) 言 い お っ た の (言って居たのです)。御 飯 入 れる 御 櫃 も そ や (それ) 其 処 の ハン ダイ も て 来 い (持って来なさい) 言うて。ハン ダイ に 一 杯 も 飯 移 して と か ハン ダイ に はん ぶ (半分) 喰 た た (喰ってしまった) て や ら (とか) 言うて、御 櫃 や (と) 言 わ ん と (言わずに) ハン ダイ。

はんだたみ 【名詞】 一畳の畳を縦半分にした畳 [会話] ハン ダ タ ミ 言う な (のは) 一 畳 の 畳 を 半 分 切 っ て あ ん の な (あるのです) 四 角 ん (に) せ ん と (せず) に 畳 を 長 に、そ い な の (そんなのを) こ さ え ん の (作るのです)

はんだら【名詞】半俵。一俵の半分量(志、南) [会話] ハンダラ こおて (買って) 来た、節季やけど (だが) いっぴよ (一俵) よお買わんし (買えないので) ハンダラ 米 こおて 来た。二斗買うと ハンダラや (だ) 言うて、いっぴよ (一俵) のはんぶ (半分) の事を いっぴよ は四斗やんかな (です) そやよ っ (だから) 二斗は ハンダラや (です)。

はんだる 1) 剥いてやる 2) 暴利をむきぼる 3) 強く叩く [会話] 2) はがれたまあ 言うて、ねえ (値) よお (よく) 取ってなあ 三銭でこおて (買って) 来たもん (物) 五銭も売っておこすと (よこすと)、あの家 いて (行って) はがれて来たよお 言うて 暴利むさぼられた 言うのなあ (です)。1) 何処やかや 貼って有るもん (物) を ハンダる、着物 ハンダるたら (とか) 言うてなあ、きもん (着物) 脱がしたんのも (てやるのも) ハンダる 言うてなあ。

はんだれ 1) 剥いてやれ 2) 暴利を取ってやれ 3) 叩いてやれ 4) 剥ぎました。5) 叩いてやった。 [会話] 1) きもん (着物) も ハンダレ言うね (言うのです)。脱がしたれ (てやれ) 言うのをなあ、かけ (借金) よお拂らわんで (拂えなくて) 羽織 はんだ たれ (てやった) 言うてなあ。壁ん (に) 貼って有 ても あの壁ん (に) 貼って有る紙 ハンダレ 言うしなあ

はんだろん 1) 強く撲ってやるぞ。2) 高値で売りつけてやるぞ。3) 剥いてやるぞ。

はんちく【名詞】【形容詞】中途半端

はんちや【名詞】船側よりの魚槽

はんつ【名詞】物の数の揃わないこと。半端。なまはんかなこと。完全でないこと。(阿、張、名) [会話] ハンツ 言うのは 半端な事を。半半にならんと (ならず) 四、六になつたり 七、三になつたりすんのを (するのを)。

はんつや (半通夜) 通夜の席に夜半迄居る事。朝まで居ない。(志、松)

ばんて (番手)【名詞】順番。

はんでん (半纏)【名詞】着物の上に羽織る労働着。(志 (畔名)、度) [会話] ハンテン 言うな (のは) 羽織は襟を ともにして ふたあつん (二つに) へし よって (折って) 後ろをするけど (けれど) ハンテン 言うな (のは) 下い (へ) 迄 襟んして はつぶい (法被) のたもと (袖) な (が) 角ん (に) なつとん の (なつて居るのを) ハンテン。袖ん せんと (せずつ) に ひろそで (広袖) ん (に) なつとん のを (なつ

てるのを) ハンテン 言うの (のです)。広袖言うな (のは) くりぐち せんと (せずつ) ひいろお (広く) 口あけつばなしん (に) したのおを 広袖。昔の人は 広袖な (が) 流行って 嫁よ ヒロソデバンテン やろこ (やろか) 言うて どびよおし (樽拍子) ん (に) 言いおつた (言っていました)。ヒロソデバンテや (だ) 言うて。

ばんてん【名詞】順番。ばんてに同じ。[会話] あんた な (貴方の) ばんや (だ) 言うのを、こんだ (今度は) あんた な バンテンやんなあ (です) 言うてなあ。バンテン な (が) 来る迄 ちよいと (少し) 遊びん (に) 行てこお (行ってこよう) 言うて わが (自分の) バンテン も 忘れたて (てしまって) 遊びん (に) のつとる (乗っている) 言うて。

ばんと【名詞】番頭。商家の雇人の頭。末尾母音の省略。 [会話] 番頭さん。店屋のバントサン 縞のきもん (着物) に 小倉帯言うて 歌いおつたねんなあ (歌って居たのです)。バントサンな (が) ふうな (格好が) 好き やつたやろなあ、(だったのでしょうか)。“わしのええ人見せましようか 算盤片手に 二、一 てんさくの五 縞のきもんに 小倉帯、セルの前掛け 粹な人” 言うて よお (よく) はやよおつたんなあ (はやって居ました)。

はんとき (半時)【名詞】少しの時間。わずかの時間。一時 (いっとき) の半分で現在の約一時間。 [会話] ハントキしたら 来いよお (来なさい) 言うて、いっと き (一刻) も ハントキも 待って おやよかい (居られない) 言うて、ちよつと の (少しの) 時間で来い よお 言うのを、ハントキしたら 来いよお 言うの (のです)。すりわり飯の炊き置きは いっとき すんだらばあらばら 言うて よお 言よおつたやんか。(よく言っていました)

はんどく 剥いておく。

はんどる 剥いている。 [会話] あしこん (あそこに) 貼り紙 な (が) して有つたや (ら)、あやれ ハンドン ナイ (でいる) 言うて。布団はんで 寝たら 風邪引くど (ぞ) 言うてなあ 布団、足で蹴つといてなあ (ておいて)。剥いておる (居る) 言うのを ハンドル。

はんなかだ 普通にものが言えなくて、要領の得め話し方をする人、又その話し方。 [会話] ハンナカダ 言うのは ちよいと (少し) もの言うのん (のに) あぜつたよおん (ように) しとんのおを (して居るのを) ハンナカダ言よおつたわい (言っていました)。ちゅう け (中風) の人な (が) もの言うとるやんない (言っ

て居るでしょう) ああ言うよおな 言い方。

はんなま (半生) 【名詞】 生煮え。半分煮えて半分煮えない状態。はんこえ。

はんこえ 【名詞】 生煮え (熊) [会話] 生煮えの事をハンニエ はんぶ (半分) 煮えて はんぶ (半分) 煮えやせんのを (ないのを)

はんにかからん 1) 手に負えない。2) 中途半端でない [会話] 2) はんにかかったよお 言うて、まあハンニカカラんと (ずに) あの時 死んできや (で行けば) よかったもん (のに) 言うて、ちゅうけ (中風) ん (に) なって しとると (していると) はんにかかってまあ 言うてなあ。

はんにかかる 中途半端である。はんにかからん参照 [会話] ハンニカカッテ 踏むと かたくと 言うて。

はんば (半端) 【名詞】 【形容詞】 完全な状態でないこと。全部そろっていないこと。あまっているもの。余分なもの。[会話] こや (これは) ハンパなもん (物) やれ (だ)、ハンパもんやよって (だから) 安うしとくわい (しておきます)。まとまらへん (まとまらない) もん をなあ、ハンパもん、まあ とおなら とお (十) に 満たんもん (ない物) そやまあ (それは) はあ (端数) やよってん、ハンパもん (物) やよって安うしとくわい、こおてけえ (買って行きなさい) 言うてなあ。

はんぱく。はんぱこ。はんぱこめし。(半麦) 【名詞】 米と麦と半々の御飯。(阿、多) [会話] ハンパコ 言うの (のです)。ハンパコメシ。麦な (が) はんぶ (半分) と 米な (が) はんぶして 飯 炊くやんない (でしょう)、ハンパコメシで 美味そおななあ (そうだ) 美味いなあ 言うて。ハンパコは どいらい (大変) 美味かりおった (美味かった) 米ばっか (ばかり) より 又 ハンパコは 美味いんてや (のです) ハンパコメシい (へ) めえ (若布) のとろろ かけて喰うと 幾らでも 入ってく (て行きます)。

はんぱくやろ 【名詞】 憎い者を言う。こいつ参照 [会話] 憎たらしよおなのおな (のが) バンパクヤロ やら (とか) 言うて

はんぱのひろ 場所の広い事を形容する語。はんぱは馬場の意 はんぱ (広い所) [会話] 今日 芝居 見いん (見に) 行たや (行ったら) お客な (が) のおて (無くて) バンパノヒロ やったよお (でした)。寝たり、ころだり (転んだり) しとたれ (していました) 言うてなあ。ひいろいと (広いと) バンパノヒロや (だ) 言うね (言うのです)。場所な ひいろ かった

(広かった) 言う事やろん (でしょう)

はんばもん 【名詞】 1) 全部揃っていない物。必要なだけ取った後の残り物。2) 一人前として扱えない者。馬鹿、愚鈍な人。[会話] 1) ハンパモン 言うな (のは)、纏まらんもん (物)。2) 十に つまんもん (ならない物) あやまあ (あれは) ハンパモンやれ (だ) 言うて、ちよいと (少し) あんごし (馬鹿) ななあ (のです) 七分みたよな (のような) のなあ。じっせん (十銭) に つません (致らない) もんで (ので) ハンパモンやあれ (だ) 言うて。1) 要るだけ 取ったて (てしまって) 残りも ハンパモン わがと (自分が) ほしだけ (欲しいだけ) 取って、残りやもんで (だので) あや (あれは) ハンパモンやれ (だ) 言うて。

ばんばら 【名詞】 斜面に草の生えている広場。[会話] 山のこんもりした 土堤 (斜面) みたよおん (のように) なつたところ (所) に 草な (が) はえとる (生えている) ところ (所) バンバラ。

はんはん 【名詞】 半分ずつ。[会話] 昔は 田植え な おつそいもんで (遅いもので) 二百十日頃ん (に) 丁度出た穂と 出やん (出ない) 穂と ハンハンみたよおん して (のようにして)。

ばんばん (万万) 【形容詞】 激しいさま (志)

ばんばん 【名詞】 1) 子供の玩具の一つ。円形、方形のボール紙に絵を書いた物。数人でこれを地面に叩きつけ、他人の札を裏返ししたり、下に入れた者が勝ちとなる遊び。(志 (立神、安乗)、桑郡、桑市) 2) 花札 (志) [会話] 1) バンバン 言うて 有りおったやんかい (有ったではありませんか) まるくたいの (丸いのが)。バンバン ちべた (地面) しとて (して居て) あおぎや (だ) 言うて、うつぶけ (俯け) ん (に) すんのなあ (するのです) よお (よく) しいおったやんかい (して居たで有りませか) どいらいのおで (大きいので) あおぎ しょおや (しましよ) 言うて。2) あおたん (青丹、花札) すんのも (するもの) バンバンや (だ) 言うて あやまあ (彼は) バンバンな (が) 過ぎてまあ 言うて。

ばんばんゆう 激しく自己の主張を述べる。

はんびよおにん (はんびやうにん) (半病人) 【名詞】 病人のように弱って居る人。

はんぶ 【名詞】 半分 (志、桑郡、桑市、員、三、鈴郡、鈴市、津、久、一、松、多、上、張、名、度、伊、北、尾、南) [会話] 半分の事を ハンブ、二つん (に) わんの (割るのを) ハンブ。ハンブこ (半分つ) しよ

おや (しましよ) 言うて、はんぷつ (半分つ) わけよや (分けましよう) 言うて、一つ有るもん (物) を はんぷつ (ずつ) 分けて喰おや (食べましよう) 言うて。

はんぶこ 半分づつ

はんぶずて (半分捨て) 【名詞】無駄にするさま。勿体ないさま。[会話] なんやかや (何、彼) 粗末ん (に) すると、はんぷズテン (に) すんなまあ (するな) 言うて、ほりさんぼん (放りばなし) して (に) だだくさん (に) する 言うて。物を粗末ん (に) すると はんぷズテン (に) すんなまあ (するな) 言うて。

はんぶつ 半分づつ [会話] はんぷつ せえ (しなさい) 言うて 割ったると (てやると) はんぷつ 言うんけど (言います)。

はんぶなとこ 半分だけ

はんぶはんぶ 半分づつ (熊) [会話] はんぷ はんぷん (に) しよおや (しましよ) 言うてな (が) 有るもんなあ (有ります)。真ん中から ばんと 割る事を なあまあ 二軒な (が) はんぶづつ (半分づつ) しよおやんかあ (しましよ) 言うてなあ。

はんぼ 【名詞】紙を幾重にも重ねて5 cm位の厚さにし、澁を塗ったもの。広さ約半畳位から新聞紙大。はんぼ (はん釧直) と関係有る語か。[会話] はんぼや (と) 言うて 新聞紙位のおっきさに (大きさに) 紙なん枚も張って それへ 澁ふいて (塗って)。こお (粉) ひく時の、ひきもん白 (挽き物白、石臼) 据えといて (ておいて) こお挽きおったの (挽いて居たのです)。はんぼ 言うのは 紙を何重も貼って それいしぶ (澁) ふくんで (塗って) すると はんぼや (と) 言うて、こお (粉) 挽くのも はんぼ敷いといて (ておいて) ひきもんうす (挽き物白、石臼) 据えて こおん (粉に) すんね (するのです)。はんぼを、やぶったて はんぼ はらな はざんわれ 言うて。きれ (布) でも つんであると (修繕してあると) おた、はんぼ みたよなあ (のようだ) 言うて、その上重ねて つぐと おた つんで (ついで) はんぼん (に) してあんない (してある) 言うて。澁ふいて (塗って) 紙 貼って すんのを (するのを) はんぼやてら (とか)、さいとやてら (とか) 言うて、籠のう ちやれとんのえ (壊れているのに) 紙 貼って 入れ物な (です) 今しみたよん (今のよう) プラスチックや何んや 言うて無いし 桶だけやもんで (なので) 籠な (が) うちやれてくと (壊れて行くと) ほつ

たんな もったいない (捨てるのは惜しい) もんで (ので) それい (それに) 紙を 何重も 貼って、澁 ふいて (塗って) さいとや (です) 籠の破れい (に) 紙貼んの さいとや (と) 言うて。

はんま (半間) 【形容詞】1) 食い違う事。(度、伊、多) 2) 約束を違わす。(多) [会話] ²⁾ はんまこか した。今日ほ おんな (俺が) こげんして (こんなにして) したるわ (してやる) 言うても、それ せんと (せずに) はんまこかして 言うしなあ (言います) 約束を すつばかすのを はんまこかして 言うて。

はんまい (飯米) 【名詞】食料 (志、桑市、員、四、鈴郡、鈴市、亀、安、津、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、南) [会話] 米やとか (だとか) 麦やとかえさ (食料、餌) を はんまいや (と) 言うて。はんまいも積んだか 言うて。鯉船や (とか) さいら (秋刀魚) 船な (が) 行くよおん (に) になると 米積んだか 言うのを、はんまい積んだか 言うて。

はんまくう 約束を破られた。[会話] はんまくウ 言う の (のは) 騙される 言うの。まあ 今日ほ あの人な (の) とこい (所へ) 行く言うたのん (言ったのに) 行からったや (行かなかつたら) はんまくワシテ 怒られるなあ 言うて。はんまコカシテ 言うて 騙す 事を、はんまくウ 言うのは 騙された はんまくワ 言うのは 騙す くわし として来た 言うのは 騙し として (ておいて) 来た 言う の (のを)。

はんまくわす。はんまこかす 約束を破る **はんまくう** 参照 [会話] はんまコカス 言うのも くわし として (ておいて) 来た言うのも 一緒や (だ) はんまくワシテ 来た言う時も有るし はんまコカス 言う時も有るし。

はんみち (半道) 【名詞】1) 一里の半分。約2 km。2) 全行程の半分。[会話] ¹⁾ 一里行くのを はんぶ (半分) 行くのを はんみち 言うねやろん (言うのでしょう)。²⁾ そして 目的のとこい (所へ) 行くの のはんぶ (半分) を はんみち。

ばんめし (晩飯) 【名詞】夕食 (上、阿) [会話] 夕飯 ゆうめし を バンメシ

ばんや (番屋) 【名詞】番人の居る小屋。(南) [会話] 番小屋 真珠の番小屋 言うたりなあ、番小屋 言うのを バンヤ。今しや (今は) こおるい (柑橘物) 山い (に) 番小屋 建てて おる人らな (が) 有るやんかい (有ります) こおるい 盗られたる (てしま) もんで (ので)。

ばんりゅう。ばんりょお 【名詞】魚を入れる籠。木箱。

(志) [会話] バンリュウ 言うな (のは) 海老網
(海老を採る人) な (が) 海老入れるやんない (でし
ょう) おつきい (大きい) ふっかい (深い) の あい
なの (あんなのを) バンリュウ 言うのなあ (のです)。
昔や (は) あんで (あれで) 蟹 運びおったね (運ん
で居たのです) バンリュウん (に) なん杯釣った て
やら (とか) 言うて。魚 入れる、なんでも (何で
も) 入れるけど (けれど)、めえ (若布) でも なんでも
も 入れるけど、魚 おもん (主に) 入れるわい (入
れます)。